

家計経済研究所パネル調査研究報告書 No.11

# 女性・労働・家計

## 消費生活に関するパネル調査(第23回調査)



# 女性・労働・家計

消費生活に関するパネル調査（第 23 回調査）

公益財団法人 家計経済研究所



## まえがき

公益財団法人家計経済研究所は、わが国で初めての本格的なパネル調査である「消費生活に関するパネル調査」を 1993 年から実施してきました。このたび、第 23 回調査の報告書（2016 年版）をここに刊行する運びとなりました。

本研究所のパネル調査は、第 1 回調査（1993 年実施）において全国の 24～34 歳の女性 1,500 人を対象に開始しました。その後、第 5 回調査（1997 年実施）で 24～27 歳の女性 500 人、第 11 回調査（2003 年実施）で 24～29 歳の女性 836 人、第 16 回調査（2008 年実施）で 24～28 歳の 636 人、第 21 回調査（2013 年実施）で 24～28 歳の 648 人の女性を対象者として新規に追加しています。第 23 回調査時点では 26～56 歳までの幅広い年齢層が調査対象になっており、女性とその家族の動態について多様な分析が可能となっています。

今回の報告書は「女性・労働・家計」をテーマとし、パネルデータの特性を生かしながら、女性の生き方や働き方の実態について、さまざまな角度から分析を試みています。現在と将来の女性や仕事のあり方に、何らかの示唆を与えるものになることを願っております。

最後に、調査対象者の皆様、実地調査担当の一般社団法人中央調査社および調査員の方々に対し、心から御礼を申し上げます。

2016 年 10 月

公益財団法人 家計経済研究所  
会 長 小峰 隆夫



## 目 次

### 本書について

#### 第Ⅰ部 第23回「消費生活に関するパネル調査」の分析…………… 1

##### 第1章 女性・労働・家計

——消費生活に関するパネル調査（第23回調査）について （久木元 真吾） …… 3

第2章 妻の相対収入と労働供給 （水谷 徳子） …… 8

第3章 人手不足期における夫婦の労働供給行動 （戸田 淳仁） …… 17

第4章 正規雇用に対する初職と学歴の効果 （浜田 浩児） …… 27

第5章 家族形成期の夫婦関係の「質」とその後の評価 （田中 慶子） …… 34

##### 第6章 調査への態度や考え方はどのように変わるのか

——「消費生活に関するパネル調査」若年対象者の事例より （坂口 尚文） …… 47

#### 第Ⅱ部 第23回「消費生活に関するパネル調査」の概要…………… 61

調査対象者について…………… 63

調査の方法…………… 65

第23回調査の回収状況…………… 81

調査対象者の基本情報…………… 88

その他の結果…………… 97

#### 執筆者紹介…………… 143





## 本書について

本書『女性・労働・家計』は、公益財団法人家計経済研究所の継続調査研究プロジェクト「消費生活に関するパネル調査」の第23回調査結果についての研究成果をまとめたものである。第Ⅰ部に収めた研究成果論文は、いずれも公益財団法人家計経済研究所の機関誌『季刊 家計経済研究』第112号（2016年10月刊行）に掲載されている。各論文は、本書には掲載時のままの形で転載している。そのため、内容が執筆・発表時点のものである点に注意されたい。

また、第23回の「消費生活に関するパネル調査」の概要に関する資料を第Ⅱ部に収録している。調査票については、公益財団法人家計経済研究所のウェブサイトを参照されたい。

2016年10月

公益財団法人 家計経済研究所



## 第 I 部

### 第 23 回「消費生活に関するパネル調査」の分析



## 第 1 章

# 女性・労働・家計 ——消費生活に関するパネル調査（第23回調査）について

久木元 真吾

（公益財団法人 家計経済研究所 次席研究員）

## 1. はじめに

公益財団法人家計経済研究所（以下、家計経済研究所）による「消費生活に関するパネル調査」は、1993年の開始以来毎年調査を実施しており、2015年の調査は第23回調査にあたる。家計経済研究所では、これまで毎年の調査のたびに報告書をまとめてきた。第1回から第12回調査までは報告書を国立印刷局（旧・大蔵省印刷局）から刊行してきたが、第13回調査以降は、家計経済研究所の機関誌『季刊 家計経済研究』の秋号において調査の分析結果を発表している<sup>1)</sup>。この『季刊 家計経済研究』第112号では、第23回の「消費生活に関するパネル調査」の結果に基づいた研究成果を、特集としてまとめて掲載している。

## 2. 消費生活に関するパネル調査について

「消費生活に関するパネル調査」は、女性とその家族の生活実態を、収入・支出・貯蓄、就業行動、家族関係などの諸側面から明らかにすることを目的としている。最大の特徴は、同一個人に対して長期にわたり継続的に調査を行う、パネル調査という方法を採用している点にある。通常の調査は、調査を実施するたびに異なる対象者に対して調査を実施することになるため、前回と今回の調査結果の間に違いがあっても、それは集団レベルの変動であって、個人レベルの変動をとらえたことには必ずしもならない。同一個人の変動をとらえる

ことは、同一個人を追跡するパネル調査を行うことによってはじめて可能になる。したがって「消費生活に関するパネル調査」は、女性とその家族の生活実態に関して個人レベルの変動をとらえることができるというメリットをもつものである。

対象者の抽出は、現在まで5回行われている。第1回調査（1993年実施）には、全国から無作為抽出された24～34歳の女性1,500人を対象として調査を開始した。その後、第5回調査（1997年実施）に全国の24～27歳の女性500人を、第11回調査（2003年実施）に全国の24～29歳の女性836人を、第16回調査（2008年実施）に全国の24～28歳の女性636人を、そして第21回調査（2013年実施）に全国の24～28歳の女性648人を、それぞれ無作為抽出して対象者に追加している。この結果、第23回調査（2015年実施）においては、対象者の女性は26～56歳という広い世代をカバーするに至っており、人数は全体で2,262人（うち有配偶者1,471人、無配偶者791人）となっている。

当初、この「消費生活に関するパネル調査」は、特に若年女性を調査対象として始まったものである。若年女性は、就職や転退職、結婚や出産・育児など、ライフスタイル上のさまざまな変動を経験する時期にあり、そうした変動を把握する上でパネル調査という方法は有効だと考えられた。やがて調査の継続を経て、この第23回では最も上の年齢の回答者は56歳に達している。「消費生活に関するパネル調査」は、もはや若年女性に限らず、現代日本社会に生きる女性の生活・人生の動

態を包括的にとらえるデータになりつつあるといえるだろう。

### 3. 女性・労働・家計への視角

今回収録した「消費生活に関するパネル調査」の分析結果は、「女性・労働・家計」をテーマとして執筆されたものである。

2016年9月時点で、女性・労働・家計のいずれにも大きく関わるトピックとして日本社会で注目されているものの一つに、所得税の「配偶者控除」の見直しがある。配偶者控除とは、年収103万円以下の配偶者がいる世帯に関して、課税対象の所得から一定の額（現在では38万円）を差し引くことで、所得税の負担を軽くするという制度である。

配偶者控除は、夫が働き妻が家事・育児に専念するというあり方の世帯を想定して設計されたものであるが、この制度が始まった1961年時点とは異なり、現在ではそうした世帯が必ずしも一般的なものではなくなっている。例えば、2015年の時点で、「男性雇用者と無業の妻から成る世帯数」は687万世帯であるのに対し、「夫婦共に雇用者の共働き世帯」は1,114万世帯と大きく上回っている。前者の世帯数を後者の世帯数が上回るのは、1997年以来一貫しており、しかもその差は広がりつつある<sup>2)</sup>。

また、年収103万円以下という基準があることから、それ以上の収入を得ることで控除の対象からはずれてしまうことを避けるために、パートなどで働く場合も仕事内容や勤務時間を調整して、あえて103万円以下の収入にとどめようとする人が出てくることになる（いわゆる「103万円の壁」）。共働きの世帯が多くなっているにもかかわらず、配偶者控除という制度が保持されていることで、共働きを限定的な範囲にとどめ、結果として片働き世帯が優遇されているともいえる状況になっている。

この配偶者控除に関して、政府税制調査会がこれを見直す議論を始め、2017年度の税制改正において、配偶者控除に代わり、配偶者の収入にかかわらず税負担を軽くする夫婦単位の控除（「夫婦

控除」）に移行することが検討されていた。この背景にはさまざまな要因があるが、現在の安倍政権が経済成長につなげるために働き手の増加を図り、女性が働きやすい環境整備を進める方針を打ち出す中で、「壁」を考慮して就業を調整せずに女性が就労できるようにするというねらいがあったのは確かであろう。

配偶者控除の見直しは、特に専業主婦や有配偶のパートの女性にとって、労働と家計の両方の面で大きく影響するものであり、そのため社会的な関心も集めていたと考えられる。見直しに伴う専業主婦世帯の税負担の増加を不安視する声もあるだろうが、見直し自体に対しては賛成の意見が多くみられており<sup>3)</sup>、共働きが一般化している中で、配偶者控除を見直すことの社会的な合意が形成されつつあるようにもみえる状況だったといえよう。

いうまでもなく、女性・労働・家計のトライアングルにおける諸課題が、配偶者控除の見直しだけではすべて解決するわけではない。賃金や労働時間など働き方の改革や、家事・育児負担のジェンダー平等など、さまざまな取り組みを並行して進めていくことが必須であろう。ただその上で、配偶者控除のように長い期間にわたって日本社会の中で続いてきた制度が見直されようとしていることは、女性・労働・家計が重なり合う課題の喫緊性や、そうした課題への対処が一つの重要な契機を迎えていることを示しているのではないだろうか。女性・労働・家計をめぐる、個々の女性や世帯にとっても、日本社会全体にとっても複雑で切実な問いが、さまざまな角度から探究されることが今求められていることを、配偶者控除の見直しへの動向に表れていると考えられる。

なお、2016年10月に入ると、政府・与党内の議論の風向きが変わり、2017年度税制改正では配偶者控除の見直しや「夫婦控除」の創設は見送られる方針となった。しかし、そのことによって諸課題の重要性・喫緊性が下がるわけでは決してないだろうし、たとえ今回見送りになったとしても、実情をふまえる限り、次の機会・さらに次の機会と、配偶者控除の見直しは議論のテーマとなり続けると予想される。女性・労働・家計が結びつく中で



生まれる諸課題に対して、引き続き真剣な探究が求められていることに変わりはないだろう。

以下に収録された各論文は、着眼やアプローチはさまざまであるが、いずれも、同一の回答者から継続的に回答を得て構成されたパネルデータの特性を生かしながら、上述した女性・労働・家計のトライアングルにおける諸課題について考察を試みたものである。以下の各論文が、アクチュアルかつ複雑な諸課題に少しでも光を照らすものとなっていれば幸いである。

#### 4. 各論文の内容

以上のような背景のもとに、本号では「女性・労働・家計」というテーマで、「消費生活に関するパネル調査」のデータをもとにいくつかの角度から分析を試みる。

まず、水谷徳子「妻の相対収入と労働供給」は、世帯内の妻の相対収入を概観し、妻の潜在的収入が夫の収入を上回る可能性が妻の労働供給を歪めているのかどうかを考察した。分析の結果、夫より妻の収入が多い夫婦の割合は非常に小さく、その割合は世帯収入に対する妻の収入の割合が0.5を超えると急落することがわかった。また、妻が潜在的に稼ぎ手となる可能性は、妻の市場労働参加に負の影響を与える一方、妻の潜在的収入と実際の収入のギャップには有意な影響を与えていないことがわかった。このことは、妻が家計の主な稼ぎ手となる状況を避けるために、自身の収入を減らすように労働供給を調整するというより、市場労働参加を控えている可能性を示唆している。

次に、戸田淳仁「人手不足期における夫婦の労働供給行動」は、日本の労働市場が人手不足と言われるほど逼迫している中で、ワーク・ライフ・バランスの進展などにより労働時間による調整も難しくなっているとして、そうした中で夫婦の労働供給はどうなっているかを考察した。夫の労働時間は減少しており、業種や企業規模によって異なる。労働時間削減などの動きによりこうした結果になっていると推察される。その中で妻の労働供給は、2011年以降就業率が高まっており、その

背景として夫の労働時間が短くなったので就業する傾向が見られた。また、すでに働いている妻が労働時間を長くする傾向は観察されなかった。このような結果から、夫婦の労働供給は同時決定とみなされていたが、別個に判断されている可能性も否定できない。

浜田浩児「正規雇用に対する初職と学歴の効果」は、正規雇用、賃金に対する初職と学歴の効果について比較を行った。大卒のほうが非大卒・初職正規雇用より賃金が有意に高いという分析結果が得られ、その賃金差は、大学の学費及び機会費用より大きいと考えられる。ただし、大卒でも正規雇用に就けなければ、同じく非正規雇用の非大卒との賃金差はほぼなく、大学の学費及び機会費用がまかなえないリスクがある。このため、仕事をしながら学べるよう、大学二部（休日・夜間）や通信制の充実、ワーク・ライフ・バランスの促進が必要である。これらにより、非大卒の正規雇用就業者が雇用を確保しながら大学に進学でき、大学卒業後に正規雇用には就けないリスクが減らせる。大学進学には、所得を増やすための教育投資の側面だけでなく、教養を高める等の非金銭的な効果もある点からも、こうした両立策は重要である。

田中慶子「家族形成期の夫婦関係の「質」とその後の評価」は、家族形成期の夫婦関係の「質」が、その後の夫婦関係にどのような差異をもたらすのか、初婚継続カップルを対象に家族形成期と15年後の2時点比較を行った。対象となる初婚継続グループの特徴を確認したところ、脱落グループとくらべて夫婦ともに学歴が高く、夫の家事貢献割合がやや高い傾向があるが、総じて基本属性や夫婦関係の「質」に違いはない。次に家族形成期の夫婦関係満足度の状態別に、夫婦関係の「質」を比較したところ、満足度の高いグループでは、夫の家事貢献割合が高い、コミュニケーションが多く、互いに表出的であり、「個人としての関係」に対して評価が高い。また15年後も満足度の差は維持され、平均より満足度の高いグループでは2時点とも夫の肯定的な評価が持続している人が多かった。

以上の4論文の他に、特集のテーマを必ずしも共有しているわけではないが、「消費生活に関するパネル調査」の回答者の動向について分析を行っている論文を、この特集に加えている。その論文は、坂口尚文「調査への態度や考え方はどのように変わるのか——「消費生活に関するパネル調査」若年対象者の事例より」である。この論文では、「消費生活に関するパネル調査」の最も後生の対象について、調査への態度や考え方を示す変数の動向を検討した。パネル調査の特性から、態度が同一個人でどのように変化していくか、また調査から脱落した対象に特徴的な傾向に注目している。初回調査に比べて複数回の調査後は、調査票の記入時間は平均値でみて減少し、他の家族に関する情報を当人に尋ねて記入する割合は減少していた。調査からの脱落に関しては、2回目の調査で脱落した無配偶の対象で特有の傾向を示している。脱落群は継続群に比べて、脱落前調査での記入時間が短く、家族に情報を尋ねずに調査票を記入した割合が多かった。無配偶については、脱落した調査回による回答の違いもみられている。

以上の各論文の分析が、「女性・労働・家計」というテーマについて、何らかの形で新しい角度から光を照らすものになっていれば幸いである。

## 5. 用語について

最後に、以下の分析で用いられる用語について簡単に整理しておく。

「消費生活に関するパネル調査」の略称として「JPSC」という表現を用いることがあるが、これは英語の調査名（Japanese Panel Survey of Consumers）に由来している。1993年に実施された「消費生活に関するパネル調査」の第1回調査を、以下では「パネル1」とよぶことがある。このよび方にしたがえば、2015年に実施された第23回調査は「パネル23」ということになる。

また、「消費生活に関するパネル調査」では、上述したように5度にわたり対象者の抽出を行っている。以下では、第1回（1993年）に抽出した対象者、第5回（1997年）から追加された対象者、

第11回（2003年）から追加された対象者、第16回（2008年）から追加された対象者、第21回（2013年）から追加された対象者を、それぞれ「コーホートA」「コーホートB」「コーホートC」「コーホートD」「コーホートE」とよぶ。ちなみに第23回調査の時点では、コーホートAは46～56歳、コーホートBは42～45歳、コーホートCは36～41歳、コーホートDは31～35歳、コーホートEは26～30歳になっている。

配偶状態に関しては、「有配偶」「無配偶」「新婚」という3つの用語を用いる。それぞれ、「配偶者がいる者」「未婚、あるいは離婚、死別により配偶者がいない者」「パネル22では無配偶であったが、パネル23では有配偶である者、もしくはこの1年の間に離婚と再婚があった者」という意味である。また、「〇〇継続」（例えば有配偶継続、同一企業継続、同居継続）とは、特に断りのない限りパネル22・パネル23の状態についての表現であり、それ以外の期間の状態を表すものではない。

なお、ここで「学歴」として用いるものは、原則として卒業あるいは修了した場合の最終学歴をさしている。たとえば「中学」は、中学卒業者と高校中退者をさしている<sup>4)</sup>。

### 注

- 1) 家計経済研究所では、『季刊 家計経済研究』の秋号に掲載した分析結果に加えて、調査実施の概要や対象者の基本属性に関する資料などをあわせて収録してまとめた「消費生活に関するパネル調査」の報告書を毎年刊行している。最近のものとしては、公益財団法人家計経済研究所編（2014; 2015）がある。それぞれ、『季刊 家計経済研究』第104号（2014年）および第108号（2015年）に掲載された分析結果が中心的内容である。
- 2) 以上は、内閣府男女共同参画局（2016: 47）による。
- 3) 一例として、2016年9月23～25日に日本経済新聞社とテレビ東京が実施した世論調査では、配偶者控除の廃止に「賛成」が53%、「反対」が32%だったと報道されている（日本経済新聞 2016）。
- 4) 学歴をこのような内容に定めたのは第3回調査の報告書以降であり、第2回調査の報告書では最終学歴に中退者も含めている。

### 文献

公益財団法人家計経済研究所編，2014，『女性と労働——消費生活に関するパネル調査（第21回調査）』公益財団法人家計経済研究所。



——編, 2015, 『女性のライフコース——消費生活に関するパネル調査（第22回調査）』公益財団法人家計経済研究所.

内閣府男女共同参画局, 2016, 『平成28年版 男女共同参画白書』.

日本経済新聞, 2016, 「配偶者控除廃止「賛成」53%」『日本経済新聞』2016年9月26日付朝刊1面.

くきもと・しんご 公益財団法人 家計経済研究所 次席研究員。社会学専攻。

## 第 2 章

## 妻の相対収入と労働供給

水谷 徳子

(公益財団法人 家計経済研究所 研究員)

本論文では、世帯内の妻の相対収入を概観し、妻の潜在的収入が夫の収入を上回る可能性が妻の労働供給を歪めているのかどうかを考察した。分析の結果、夫より妻の収入が多い夫婦の割合は非常に小さく、その割合は世帯収入に対する妻の収入の割合が0.5を超えると急落することがわかった。また、妻が潜在的に稼ぎ手となる可能性は、妻の市場労働参加に負の影響を与える一方、妻の潜在的収入と実際の収入のギャップには有意な影響を与えていないことがわかった。このことは、妻が家計の主な稼ぎ手となる状況を避けるために、自身の収入を減らすように労働供給を調整するというより、市場労働参加を控えている可能性を示唆している。

## 1. はじめに

15歳から64歳の女性の就業率は、2015年には64.6%であった。総務省統計局「労働力調査」によると、1968年には53.4%だった女性(15～64歳)の就業率は、1975年に48.8%まで低下したが、その後は上昇の一途をたどり、2010年には60%を超え、その後1968年以降過去最高を更新し続けている。このように女性の労働参加率は上昇傾向にあり、長期的には就業率の男女差は縮小傾向にあるといわれている。それにもかかわらず、就業率をはじめとして、賃金や管理職比率など労働市場における男女差が残っているのも事実である。

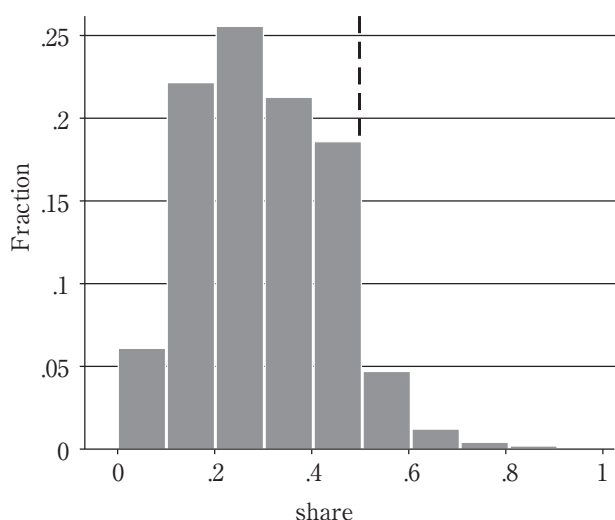
近年、労働市場における男女差の永続要因として、労働市場のアウトカムへの社会規範の影響に関心が向けられている<sup>1) 2)</sup>。例えば、Bertrand et al. (2015) は、“a man should earn more than his wife” という社会規範が世帯内の相対収入や結婚・離婚の傾向、家計生産などの社会経済的アウトカムにどのような影響を与えているのかをア

メリカのデータを用いて分析している。そして、妻は夫よりも多く稼ぐことを回避し、妻の潜在的収入が夫の収入を上回る可能性がある夫婦では、妻が市場労働をおこなわない、もしくは潜在的収入より少ない収入を稼ぐように行動していることを示している。

本論文は、Bertrand et al. (2015) の知見に基づき、(公財) 家計経済研究所の「消費生活に関するパネル調査」の個票データを用いて、日本の家計の世帯内の相対収入の分布を観察し、社会規範が潜在的に妻の労働供給や労働市場のアウトカムに歪みを生じさせているのかを検証することを目的とする。

以下、第2節では、使用するデータを紹介する。第3節で世帯内の妻の相対収入の分布を概観し、第4節で妻が潜在的に稼ぎ手となる可能性が妻の労働供給に与える影響についての推定結果を示す。最後に第5節で考察をまとめ、今後の課題を検討する。

図表-1 妻の相対収入の分布



## 2. データ

分析には、(公財)家計経済研究所による「消費生活に関するパネル調査」(以下、JPSC)の1993～2015年の調査結果を用いる。JPSCは調査開始時点の1993年に24歳から34歳までの女性1,500人(以下、「コーホートA」)を対象とし、現在に至るまで同一女性を追跡したパネル調査である。なお、その後、1997年に24歳から27歳の500人(以下、「コーホートB」)、2003年に24歳から29歳の836人(以下、「コーホートC」)、2008年に24歳から28歳の636人(以下、「コーホートD」)、2013年に24歳から28歳の648人(以下「コーホートE」)が調査の対象者に追加されている。

JPSCの調査対象は女性であるが、有配偶については家計全体に加え、夫についての詳細な調査項目があり、各家計の妻および夫の年齢や学歴等の個人属性だけでなく、就業状況等の情報を併せて把握することが可能である。ここでは、世帯収入(夫婦合計)に対する妻の収入の割合の影響を確認するため、分析の対象となるのは、有配偶女性のサンプルとなる。

## 3. 妻の相対収入

まず、妻の相対収入をJPSCで概観する。JPSCでは、夫と妻の収入を大きく分けて3通りで把握

することが可能である。一つ目は月給や時給などの賃金形態ごとの収入であり、二つ目は調査前年1年間に得た収入である。そして、三つ目は調査年の9月の手取り収入である。本論文では、夫と妻それぞれの9月の手取り収入を用いて分析する。

$t$ 年9月の夫婦 $i$ の夫の収入が $hinc_{it}$ 、妻の収入が $winc_{it}$ とすると、妻の相対収入 $share_{it}$ は、

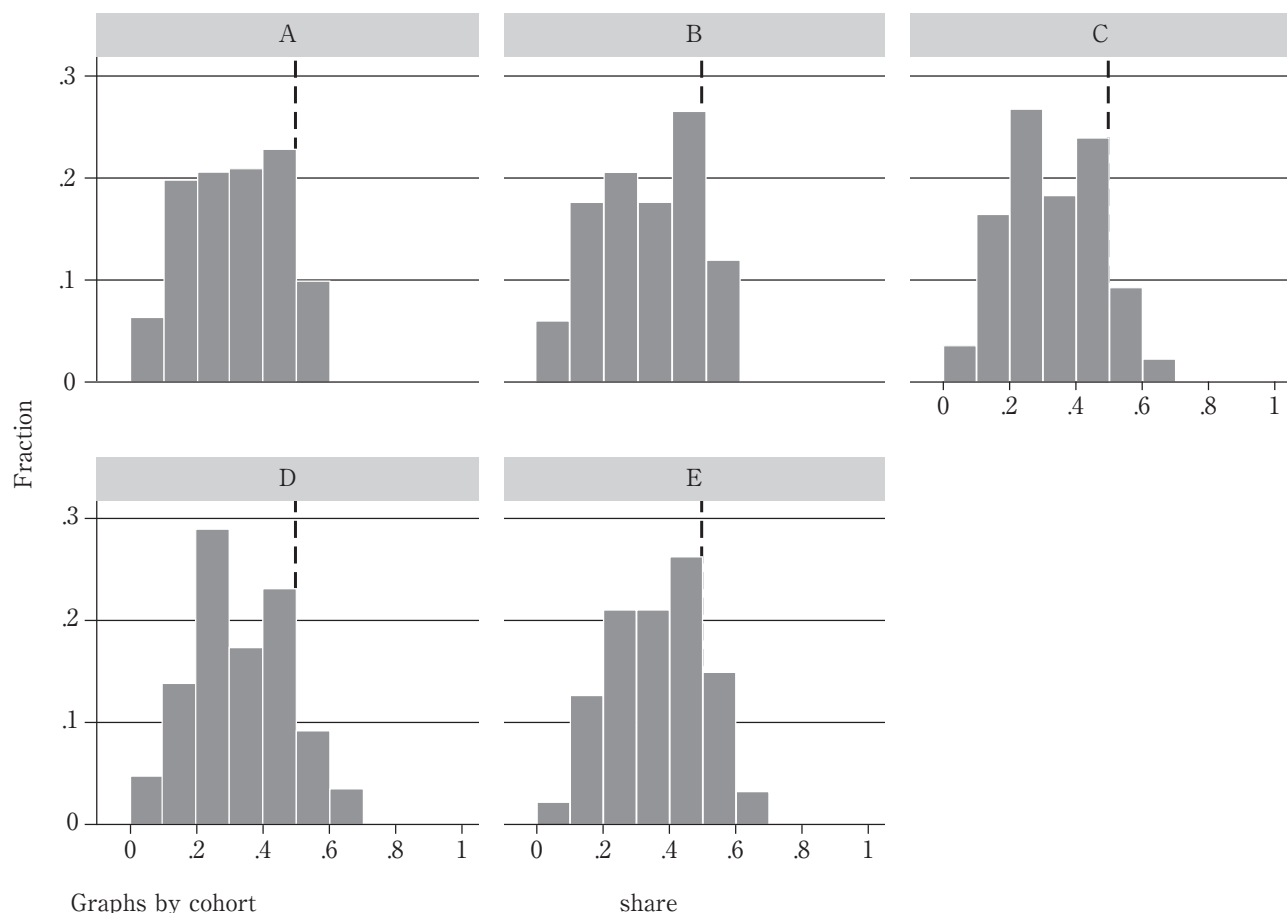
$$share_{it} = \frac{winc_{it}}{winc_{it} + hinc_{it}}$$

で表されるとする。 $share_{it}$ は0から1の値をとり、0.5以上の値をとるとき、妻の収入が夫のそれより多いことを意味する。

図表-1は、妻の相対収入の分布を示したものである<sup>3)</sup>。観測値の大部分において、妻の相対収入は0.5以下であることがわかる。これは、多くの夫婦の場合、妻は夫より収入が少ないことを意味する。実際、妻の収入が夫より多い夫婦は、全体の約6.4%である。また、妻の収入が夫の収入を超えるポイント、つまり0.5を超えると観測値の割合が急激に低くなっている。相対収入が0.4～0.5の階級で全体の20.25%を占めるのに対し、0.5～0.6の階級では4.46%のみとなる<sup>4)</sup>。以上から、Bertrand et al. (2015)等の先行研究と同様、JPSCにおいても妻の相対収入の分布は、0.5のポイントで急激な下落が観察される。

それでは、このような妻の相対収入の分布の傾向は、コーホートで異なるのだろうか。前述のとおり、JPSCではほぼ5年おきに、出生コーホートを調査に加えており、第23回調査では、5つのコーホートが含まれる。図表-2には、コーホート別の妻の相対収入を示す。ここでは、各コーホートの有配偶の回答者がJPSCに加わった初年度の回答結果のみを用いている。そのため、各コーホート、妻が24歳から30歳前後での妻の相対収入を示していることになる。図表-1で観察された傾向と同様に、どのコーホートにおいても、大部分の夫婦の妻の相対収入は0.5以下である。妻の相対収入が0.5以下の分布はコーホートでさまざまであるが、0.5を境に観測値が急激に下落していることはコーホートにかかわらず、観察される。

図表-2 コーホート別妻の相対収入の分布



#### 4. 妻の相対収入と労働供給

前節で観察された妻の相対収入の分布が0.5を境に急激に下落することの一つの原因は、妻が性別規範から逸脱しないようにするために、自身の労働供給を歪めている可能性である。例えば、夫よりも多くの収入を稼ぐであろう妻は、規範から逸脱しないように、労働供給をおこなわないことを選択するかもしれない。あるいは、妻が、労働時間を減らしたり、賃金の低いような仕事に就いたりすることで、労働供給を歪めているかもしれない。Bertrand et al. (2015) は、妻が夫より稼ぐ確率が10%ポイント高くなると、妻が市場労働に参加する確率が1.4%ポイント低くなること、妻の実際の収入と潜在的な収入のギャップが1%ポイント増えることを報告している。本節では、日本の妻の市場労働や労働市場のアウトカムにおけ

る潜在的な歪みについてJPSCを用いて分析する。

本節では、有配偶のうち、各調査時点で夫が有業であるサンプルに限定する。注目する変数は、妻が潜在的に稼ぎ手になるかどうか、 $wEarnMore_{it}$ であり、夫婦 $i$ の妻の潜在的収入 $wPotential_{it}$ が夫の収入 $hinc_{it}$ を上回るときに( $wPotential_{it} > hinc_{it}$ )、1をとる変数とする。妻の潜在的収入 $wPotential_{it}$ は、妻の潜在的収入の分布の中央値として定義する。具体的には、調査年ごとに、女性を年齢グループ・最高学歴・居住地域ブロックに基づいた属性グループに割り当て、各属性グループにおける有配偶かつ有業の女性の収入の中央値を計算している<sup>5)</sup>。 $wEarnMore_{it}$ は、妻の収入が妻の属性グループにおける有業女性の母集団から無作為に抽出されるとき、妻の収入が夫のそれを上回る確率を捉えている。本節の分析に使用する変数の記述統計を図表-3に示す。

図表-3 記述統計

|                                    | Mean    | Std. Dev. | Min    | Max    |
|------------------------------------|---------|-----------|--------|--------|
| 就業ダミー                              | 0.5591  | 0.4965    | 0      | 1      |
| 潜在的妻稼ぎ手ダミー                         | 0.0124  | 0.1107    | 0      | 1      |
| 潜在的妻稼ぎ手ダミー（妻：就業）（ $N=13,176$ ）     | 0.0276  | 0.1639    | 0      | 1      |
| 潜在的妻稼ぎ手ダミー（妻・夫：フルタイム）（ $N=4,433$ ） | 0.1182  | 0.3229    | 0      | 1      |
| 妻の潜在的収入                            | 7.3092  | 5.3897    | 0      | 40     |
| 妻の潜在的収入（妻：就業）（ $N=13,176$ ）        | 11.0932 | 4.3985    | 0      | 38     |
| 妻の潜在的収入（妻・夫：フルタイム）（ $N=4,433$ ）    | 18.6509 | 5.3602    | 0      | 49     |
| 夫の収入（対数値）                          | 3.3704  | 0.3528    | 0.6931 | 6.2596 |
| 子ども有                               | 0.6414  | 0.4796    | 0      | 1      |
| 妻の年齢                               | 36.4887 | 6.9628    | 24     | 56     |
| 妻の最高学歴                             |         |           |        |        |
| 中学校                                | 0.0372  | 0.1891    | 0      | 1      |
| 専門・専修（中卒）、高校                       | 0.4220  | 0.4939    | 0      | 1      |
| 専門・専修（高卒）、短大・高専                    | 0.3974  | 0.4894    | 0      | 1      |
| 大学・大学院                             | 0.1435  | 0.3506    | 0      | 1      |
| 夫の年齢                               | 38.9287 | 7.8226    | 20     | 70     |
| 夫の最高学歴                             |         |           |        |        |
| 中学校                                | 0.0795  | 0.2705    | 0      | 1      |
| 専門・専修（中卒）、高校                       | 0.4096  | 0.4918    | 0      | 1      |
| 専門・専修（高卒）、短大・高専                    | 0.1534  | 0.3604    | 0      | 1      |
| 大学・大学院                             | 0.3574  | 0.4793    | 0      | 1      |
| $N$                                | 25,085  |           |        |        |

### (1) 妻の就労への影響

まず、妻の潜在的収入が夫の収入を上回る可能性の妻の就労への影響を以下の式を用い、線形確率モデルで推定する。

$$wLFP_{it} = \beta_0 + \beta_1 wEarnMore_{it} + X'_{it} \gamma + \delta_p + \theta_t + \varepsilon_{it} \quad (1)$$

ここで、妻の就労を表す変数は  $wLFP_{it}$  であり、夫婦  $i$  の妻が  $t$  年において仕事に就いている場合に 1 をとり、それ以外は 0 をとるダミー変数である。 $X_{it}$  はその他の説明変数のベクトルであり、妻の潜在的収入、夫の収入（対数値）、妻と夫それぞれの年齢、最高学歴が含まれる。また、 $\delta_p$  と  $\theta_t$  はそれぞれ、都道府県固定効果と年固定効果を表す。

JPSC を用いて (1) 式を推定した結果を図表-4 に示している。潜在的妻稼ぎ手ダミー  $wEarnMore_{it}$  の係数をみると、 $-0.1184$  であり 1% 水準で統計的に有意な値をとっている ((1) 列)。これは、妻の潜在的収入が夫の収入を上回る可能性が 10% ポイント上昇すると、妻が市場労働に参加する確率が約 1.2% ポイント低下することを意味している。

しかしながら、この結果は、自身の潜在的収入

より収入が低い男性と結婚する女性は、市場労働をおこなわず、子育てを含めた家事労働をおこなう傾向にあるといった観察しえない属性を反映しているだけかもしれない。この点を考慮し、子どもの有無をコントロール変数として加えても ((2) 列)、潜在的妻稼ぎ手ダミーの係数はほとんど影響を受けていない。

また、Bertrand et al. (2015) に従い、(3) 列では、夫の収入と世帯収入の限界効用の関係が非線形である可能性を考慮して夫の収入（対数値）の 2 乗項を、(4) 列では、妻の潜在収入の労働供給に与える影響が、妻が稼ぎ手となる可能性とは別に夫の収入に関連している可能性を考慮して、潜在的稼ぎ手ダミーと夫の収入の交差項を加えている。潜在的妻稼ぎ手ダミーの係数は、図表-4 のどの特定化においても、負で統計的に有意である。妻の潜在的収入が夫の収入を上回る可能性が妻の就労に負の影響を与えるという図表-4 の結果は、妻が家計の主な稼ぎ手となる状況を避けるために市場労働参加を抑えている可能性を示唆している。



図表-4 妻の就労への影響

|                   | (1)                    | (2)                    | (3)                    | (4)                    |
|-------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 潜在的妻稼ぎ手ダミー        | -0.1184***<br>(0.0326) | -0.1167***<br>(0.0325) | -0.1251***<br>(0.0342) | -0.1513*<br>(0.0840)   |
| 妻の潜在的収入           | 0.0148***<br>(0.0011)  | 0.0146***<br>(0.0011)  | 0.0147***<br>(0.0011)  | 0.0146***<br>(0.0011)  |
| 夫の収入（対数値）         | -0.2056***<br>(0.0192) | -0.1992***<br>(0.0193) | -0.2642***<br>(0.1020) | -0.2768**<br>(0.1173)  |
| 夫の収入（対数値）2乗       |                        |                        | 0.0095<br>(0.0155)     | 0.0112<br>(0.0173)     |
| 子ども有              |                        | -0.0325**<br>(0.0152)  | -0.0322**<br>(0.0152)  | -0.0322**<br>(0.0152)  |
| 潜在的妻稼ぎ手ダミー × 夫の収入 |                        |                        |                        | 0.0016<br>(0.0052)     |
| 妻の年齢              | 0.0084***<br>(0.0023)  | 0.0089***<br>(0.0023)  | 0.0089***<br>(0.0023)  | 0.0089***<br>(0.0023)  |
| 妻の最高学歴<br>中学校     | -0.1167***<br>(0.0426) | -0.1166***<br>(0.0427) | -0.1166***<br>(0.0427) | -0.1166***<br>(0.0427) |
| 専門・専修（高卒）、短大・高専   | -0.0248<br>(0.0177)    | -0.0262<br>(0.0178)    | -0.0261<br>(0.0178)    | -0.0261<br>(0.0178)    |
| 大学・大学院            | -0.0111<br>(0.0269)    | -0.0163<br>(0.0270)    | -0.0163<br>(0.0270)    | -0.0164<br>(0.0270)    |
| 夫の年齢              | 0.0043**<br>(0.0020)   | 0.0045**<br>(0.0020)   | 0.0044**<br>(0.0020)   | 0.0045**<br>(0.0020)   |
| 夫の最高学歴<br>中学校     | 0.0617**<br>(0.0292)   | 0.0647**<br>(0.0292)   | 0.0643**<br>(0.0293)   | 0.0644**<br>(0.0293)   |
| 専門・専修（高卒）、短大・高専   | -0.0403*<br>(0.0223)   | -0.0402*<br>(0.0222)   | -0.0401*<br>(0.0223)   | -0.0401*<br>(0.0223)   |
| 大学・大学院            | -0.0807***<br>(0.0205) | -0.0824***<br>(0.0205) | -0.0824***<br>(0.0205) | -0.0823***<br>(0.0205) |
| 定数項               | 0.6313***<br>(0.0961)  | 0.6140***<br>(0.0963)  | 0.7243***<br>(0.1898)  | 0.7465***<br>(0.2167)  |
| R-Squared         | 0.1232                 | 0.1241                 | 0.1241                 | 0.1241                 |
| N                 | 25,085                 | 25,085                 | 25,085                 | 25,085                 |

注: \*, \*\*, \*\*\*は10%, 5%, 1%水準で統計的に有意であることを表す。カッコ内は、クラスター（個人）内相関について頑健な標準誤差。妻および夫の最高学歴のreferenceは、専門・専修（中卒）、高校。都道府県固定効果、調査年固定効果を含む

## (2) 妻の潜在的収入と実際の収入のギャップへの影響

前項では、妻の就労への影響をみたが、夫より収入が多くなる可能性がある妻は、市場労働をおこなわないことはコストがかかりすぎるため、夫が主な稼ぎ手となる水準まで妻自身の収入を単に減らすように調整して労働供給をおこなっているかもしれない。

本項では、市場労働参加を控えていない妻の収入の歪みを分析するために、有配偶のうち、各調査時点で夫と妻が有業であるサンプルに着目する。そして、以下のようなモデルを仮定し、妻が

潜在的に稼ぎ手になる可能性が、妻の潜在的収入と実際の収入のギャップに及ぼす影響を推定する。

$$Gap_{it} = \beta_0 + \beta_1 wEarnMore_{it} + X'_{it} \gamma + \delta_p + \theta_i + \varepsilon_{it} \quad (2)$$

ここで、被説明変数の  $Gap_{it}$  は、夫婦  $i$  の妻の潜在的収入と実際の収入のギャップを示す変数であり、 $Gap_{it} = \frac{winc_{it} - wPotential_{it}}{wPotential_{it}}$  で計算される<sup>6)</sup>。

(2) 式における説明変数は、 $wEarnMore_{it}$  含め (1) 式と同じである。

図表-5には、(2) 式の推定結果が示されている。(1) 列の潜在的妻稼ぎ手ダミーの係数をみて

図表-5 妻の潜在的収入と実際の収入のギャップへの影響

|                   | (1)                    | (2)                    | (3)                    | (4)                    |
|-------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 潜在的妻稼ぎ手ダミー        | 0.1064**<br>(0.0476)   | 0.1132**<br>(0.0479)   | 0.0749<br>(0.0456)     | 0.0490<br>(0.0562)     |
| 妻の潜在的収入           | -0.0382***<br>(0.0033) | -0.0391***<br>(0.0034) | -0.0387***<br>(0.0034) | -0.0389***<br>(0.0034) |
| 夫の収入（対数値）         | -0.0232<br>(0.0474)    | 0.0124<br>(0.0483)     | -0.3108<br>(0.2312)    | -0.3296<br>(0.2347)    |
| 夫の収入（対数値）2乗       |                        |                        | 0.0480<br>(0.0359)     | 0.0506<br>(0.0364)     |
| 子ども有              |                        | -0.1822***<br>(0.0387) | -0.1813***<br>(0.0387) | -0.1812***<br>(0.0387) |
| 潜在的妻稼ぎ手ダミー × 夫の収入 |                        |                        |                        | 0.0031<br>(0.0030)     |
| 妻の年齢              | 0.0085<br>(0.0054)     | 0.0118**<br>(0.0054)   | 0.0118**<br>(0.0054)   | 0.0118**<br>(0.0054)   |
| 妻の最高学歴<br>中学校     | -0.0972**<br>(0.0495)  | -0.0909*<br>(0.0505)   | -0.0904*<br>(0.0503)   | -0.0906*<br>(0.0503)   |
| 専門・専修（高卒）、短大・高専   | 0.1279***<br>(0.0419)  | 0.1231***<br>(0.0420)  | 0.1230***<br>(0.0420)  | 0.1232***<br>(0.0420)  |
| 大学・大学院            | 0.1968***<br>(0.0648)  | 0.1661***<br>(0.0642)  | 0.1658***<br>(0.0642)  | 0.1661***<br>(0.0643)  |
| 夫の年齢              | -0.0000<br>(0.0044)    | 0.0004<br>(0.0044)     | 0.0003<br>(0.0044)     | 0.0003<br>(0.0044)     |
| 夫の最高学歴<br>中学校     | 0.0185<br>(0.0474)     | 0.0404<br>(0.0474)     | 0.0392<br>(0.0473)     | 0.0392<br>(0.0473)     |
| 専門・専修（高卒）、短大・高専   | -0.0269<br>(0.0468)    | -0.0292<br>(0.0464)    | -0.0284<br>(0.0465)    | -0.0286<br>(0.0465)    |
| 大学・大学院            | 0.0384<br>(0.0484)     | 0.0295<br>(0.0485)     | 0.0284<br>(0.0485)     | 0.0283<br>(0.0485)     |
| 定数項               | 0.1985<br>(0.1780)     | 0.0945<br>(0.1752)     | 0.6323<br>(0.4023)     | 0.6656<br>(0.4090)     |
| R-Squared         | 0.0820                 | 0.0926                 | 0.0929                 | 0.0929                 |
| N                 | 13,176                 | 13,176                 | 13,176                 | 13,176                 |

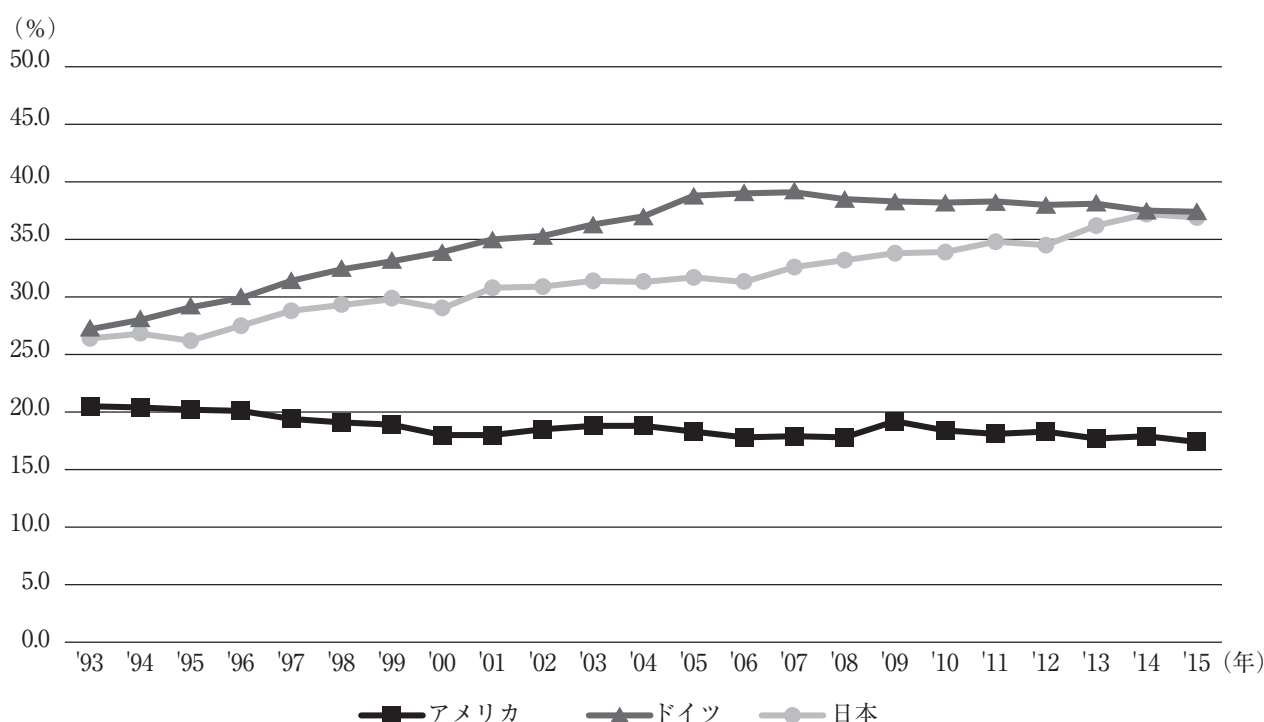
注: \*, \*\*, \*\*\*は10%, 5%, 1%水準で統計的に有意であることを表す。カッコ内は、クラスター(個人)内相関について頑健な標準誤差。妻および夫の最高学歴のreferenceは、専門・専修(中卒)、高校。都道府県固定効果、調査年固定効果を含む

みると、0.1064であり5%水準で統計的に有意である。潜在的妻稼ぎ手ダミーの係数の推定値が正であることは、自身の潜在的収入が夫の収入を上回る可能性が高い女性は、自身の収入を減らすように労働供給をおこなっているのではなく、潜在的収入より多く稼いでいることを意味する。この結果は、夫より収入が多くなる可能性がある妻は、夫が稼ぎ手となる水準まで妻自身の収入を減らすように労働供給をおこなうという想定と整合的なBertrand et al. (2015) の結果と異なる。

本項の結果がアメリカのデータを用いたBertrand et al. (2015) の推定結果とは異なる一つの理由

としては、日本とアメリカでは女性の労働に対する文化や労働市場の構造が異なっていることが考えられる。図表-6には、JPSCが調査を開始した1993年から2015年までのアメリカ・日本・ドイツのパートタイム労働者比率の推移を示している。2015年のパートタイム労働者比率をみると、比率の高い順にドイツで37.4%、日本で36.9%、アメリカで17.4%となっている。アメリカのパートタイム労働者比率は、ドイツや日本のその約2分の1である。長期的にみても、ドイツや日本のパートタイム労働者比率は、それぞれ平均的にアメリカの約2倍であり、どの年においてもアメリカのそ

図表-6 パートタイム労働者比率の推移



出典: OECD Employment and Labour Market Statistics

れを上回っている。

本論文の分析で焦点が置かれている潜在的妻稼ぎ手ダミー  $wEarnMore_{it}$  は、前述したように、年齢グループ・最高学歴・居住地域による属性グループにおける有配偶かつ有業のすべての女性の収入に基づいて算出されている。図表-6で確認したように、アメリカと比較して日本ではパートタイム等の非正規雇用労働に従事する女性の割合が大きい。また、一般的にフルタイムの正規雇用の仕事に対する潜在的収入は、パートタイムのそれよりも高いことが予想される。そのため、妻の属性グループにおける有業女性の収入の中央値として潜在的収入が定義される場合、フルタイムで働く妻の潜在的収入は、フルタイムの仕事で稼ぐことができるであろう潜在的収入より低くなり、実際の収入が潜在的収入より多く稼ぐように労働供給していることになるかもしれない。

実際、日本と同程度のパートタイム労働者比率であるドイツのデータを用いて分析している Wieber and Holst (2015) は、西ドイツにおいて妻の潜在的収入と実際の収入のギャップに対し

て妻の潜在的収入が夫の収入より多くなる可能性は正の影響を及ぼすが、夫婦ともにフルタイム労働者のサンプルに限定するとその影響は負に転じることを報告している。本稿でも、Wieber and Holst (2015) に従って、各調査時点で夫と妻がともにフルタイムの正規雇用で就業しているサンプルに限定し、(2) 式を推定する。そして、フルタイムの正規雇用で働く夫と同程度以上の潜在的収入を稼ぐ可能性があるフルタイムの正規雇用労働に従事する妻が、夫が主な稼ぎ手となる水準まで労働供給を歪めているのかを確認する。

推定に用いる変数は図表-5と同じものであり、記述統計を図表-3に示している。ただし、妻の潜在的収入は、妻の属性グループにおけるフルタイムの正規雇用の女性の収入の中央値で定義される。そのため、被説明変数の  $Gap_{it}$  は、妻の属性グループでのフルタイムの正規雇用の女性の収入の中央値と実際の収入のギャップを示していることになる。また、本論文で着目している変数である潜在的妻稼ぎ手ダミー  $wEarnMore_{it}$  は、妻の収入が彼女の属性グループにおけるフルタイム正規雇



図表-7 妻の潜在的収入と実際の収入のギャップへの影響(フルタイム正規雇用)

|                 | (1)                    | (2)                    | (3)                    |
|-----------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 潜在的妻稼ぎ手ダミー      | -0.0036<br>(0.0235)    | -0.0080<br>(0.0234)    | -0.0118<br>(0.0221)    |
| 妻の潜在的収入         | -0.0126***<br>(0.0023) | -0.0127***<br>(0.0023) | -0.0126***<br>(0.0023) |
| 夫の収入(対数値)       | 0.1168***<br>(0.0398)  | 0.1259***<br>(0.0404)  | 0.0387<br>(0.2614)     |
| 夫の収入(対数値) 2乗    |                        |                        | 0.0128<br>(0.0380)     |
| 子ども有            |                        | -0.0673***<br>(0.0258) | -0.0670***<br>(0.0259) |
| 妻の年齢            | 0.0074**<br>(0.0032)   | 0.0092***<br>(0.0032)  | 0.0092***<br>(0.0031)  |
| 妻の最高学歴<br>中学校   | -0.0556<br>(0.0428)    | -0.0518<br>(0.0457)    | -0.0514<br>(0.0458)    |
| 専門・専修(高卒)、短大・高専 | 0.0058<br>(0.0246)     | 0.0070<br>(0.0242)     | 0.0069<br>(0.0242)     |
| 大学・大学院          | 0.0560*<br>(0.0323)    | 0.0478<br>(0.0326)     | 0.0478<br>(0.0326)     |
| 夫の年齢            | -0.0048*<br>(0.0025)   | -0.0045*<br>(0.0025)   | -0.0045*<br>(0.0025)   |
| 夫の最高学歴<br>中学校   | -0.0983***<br>(0.0275) | -0.0881***<br>(0.0273) | -0.0880***<br>(0.0273) |
| 専門・専修(高卒)、短大・高専 | -0.0569**<br>(0.0286)  | -0.0578**<br>(0.0286)  | -0.0578**<br>(0.0287)  |
| 大学・大学院          | -0.0151<br>(0.0258)    | -0.0175<br>(0.0256)    | -0.0177<br>(0.0255)    |
| 定数項             | -0.3310*<br>(0.1806)   | -0.3893**<br>(0.1845)  | -0.2425<br>(0.4660)    |
| R-Squared       | 0.1052                 | 0.1125                 | 0.1126                 |
| N               | 4,433                  | 4,433                  | 4,433                  |

注: \*, \*\*, \*\*\*は10%, 5%, 1%水準で統計的に有意であることを表す。カッコ内は、クラスター(個人)内相関について頑健な標準誤差。妻および夫の最高学歴のreferenceは、専門・専修(中卒)、高校。都道府県固定効果、調査年固定効果を含む

用の女性の母集団から無作為に抽出されるとき、妻の収入が夫のそれを上回る確率を捉えていることになる。図表-3をみると、フルタイムの正規雇用で就業しているサンプルに限定するとサンプルサイズは小さくなるが、妻の潜在的稼ぎ手ダミーの平均値は、図表-4や図表-5で用いた指標の値よりも大きくなっている。また、潜在的収入も多くなっていることがわかる。

図表-7は、夫と妻がともにフルタイムの正規雇用で就業しているサンプルを用いて推定した結果である。潜在的妻稼ぎ手ダミーに着目すると、子どもの有無や夫の収入の二次式をコントロールすると((2)(3)列)、係数の大きさは(1)列の倍

以上になるが、予想通り係数の符号は、負である。しかし、図表-7のいずれにおいても、潜在的妻稼ぎ手ダミーの係数は、10%水準でも統計的に有意ではない。つまり、妻が潜在的に稼ぎ手になる可能性が、妻の潜在的収入と実際の収入のギャップに与える影響は有意ではない。夫より収入が多くなる可能性がある妻は、夫が主な稼ぎ手となる水準まで妻自身の収入を単に減らすように労働供給を調整しているわけではなさそうである。

## 5. おわりに

本論文では、世帯内の相対所得の分布と妻の労

働供給との関係を、Bertrand et al. (2015) に従って、JPSCの個票データを用いて考察した。まず、妻の収入が夫より多い夫婦は、全体の約6.4%と非常に割合が小さく、大部分の夫婦において妻の収入は夫より少ないことを確認した。そして、世帯収入に対する妻の収入の割合の分布は、妻の収入が夫の収入を上回る0.5を超えると、急激に下落することを示した。これらの傾向はコーホートに関係なく観察された。

以上のような観察された傾向の背景として、妻が性別規範から逸脱しないように自身の労働供給を調整しているという Bertrand et al. (2015) 等が提示する仮説を考慮し、潜在的に夫より収入が多くなる可能性をもつ妻が、労働供給を歪めているのかを検証した。分析の結果、妻の潜在的収入が夫の収入を上回る可能性は妻の市場労働参加に負の影響を与えることがわかった。これは、妻が家計の主な稼ぎ手となる状況を避けるために市場労働参加を控えている可能性を示唆している。また、妻が潜在的に稼ぎ手になる可能性は、妻の潜在的収入と実際の収入のギャップに有意な影響を与えていないことから、夫の収入を超えないようにするために妻が収入を調整するように労働供給しているというわけでないと考えられる。

しかし、本研究の分析からこのように主張するには、いくつかの限界がある。例えば、本稿では、妻の潜在的収入が夫の収入を上回る確率は、観察される労働市場でのアウトカムに基づいて計算されており、それが性別規範や制度のインセンティブ等によってすでに影響を受けている可能性がある。また、妻が稼ぎ手になる可能性の外生的な変化を用いて分析しているわけではない。相対収入の夫婦内の変化や妻が稼ぎ手になる可能性のより正確な指標を用いて、より深く分析する必要があるだろう。今後の研究課題としたい。

## 注

- 1) 女性の労働に関していえば、国や時代、夫婦による性別規範の違いがどのように女性の就業に影響を与えるのかについて議論がなされてきている (Fortin 2005; Bertrand 2010; Fernández 2011等)。
- 2) これらの研究のいくつかは、アイデンティティは社会的

カテゴリーを定義づけ、社会的カテゴリーに属する人々の行動規範からの乖離が効用を減少 (損失) させ、アイデンティティが意思決定に影響を与えるという Akerlof and Kranton (2010) のアイデンティティ経済学の枠組みに基づいている。

- 3) 夫の収入と妻の収入のどちらも正の値をとるサンプルに限定している。
- 4) 階級幅を0.05に変更した場合でも、妻の相対収入が0.45～0.50で全体の9.5%、0.50～0.55で2.9%となり、0.5で妻の相対収入の分布に下落がみられる。
- 5) 年齢グループは、「30歳未満」「30歳以上35歳未満」「35歳以上40歳未満」「40歳以上45歳未満」「45歳以上50歳未満」「50歳以上」の6つのカテゴリーである。居住地域ブロックは、「北海道」「東北」「関東」「中部」「近畿」「中国」「四国」「九州」の8ブロックである。
- 6)  $wPotential_i$ あるいは $winc_i$ は、前節や前項での定義と同様である。

## 文献

- 総務省統計局, 2016, 「労働力調査 長期時系列データ」 (<http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/03roudou.htm>)
- Akerlof, G. A. and R. E. Kranton, 2010, *Identity Economics: How Our Identities Shape Our Work, Wages, and Well-Being*, Princeton: Princeton University Press. (= 2011, 山形浩生・守岡桜訳『アイデンティティ経済学』東洋経済新報社。)
- Bertrand, M., 2010, “New Perspectives on Gender,” O. Ashenfelter and D. Card eds., *Handbook of Labor Economics* Vol. 4B, Amsterdam: Elsevier Science, 1545-1592.
- Bertrand, M., E. Kamenica and J. Pan, 2015, “Gender Identity and Relative Income within Households,” *Quarterly Journal of Economics*, 130 (2) : 571-614.
- Fernández, R., 2011, “Does Culture Matter?” J. Benhabib, A. Bisin, and M.O. Jackson eds., *Handbook of Social Economics*, Vol. 1A, Amsterdam: North-Holland, 481-510.
- Fortin, N., 2005, “Gender Role Attitude and the Labour Market Outcomes of Women across OECD Countries,” *Oxford Review of Economic Policy*, 21 (3) : 416-438.
- Wieber, A. and E. Holst, 2015, “Gender Identity and Women’s Supply of Labor and Non-Market Work: Panel Data Evidence for Germany,” Discussion Paper of DIW Berlin, 1517.

みずたに・のりこ 公益財団法人 家計経済研究所 研究員。主な論文に「自信過剰が男性を競争させる」(共著, 『行動経済学』2 (1), 2009)。応用経済学・応用計量経済学専攻。(mizutani@kakeiken.or.jp)

## 第 3 章

# 人手不足期における夫婦の労働供給行動<sup>1)</sup>

戸田 淳仁

(リクルートワークス研究所 主任研究員)

日本の労働市場が人手不足と言われるほど逼迫している中で、ワーク・ライフ・バランスの進展などにより労働時間による調整も難しくなっている。そうした中で夫婦の労働供給はどうなっているか考察した。夫の労働時間は減少しており、業種や企業規模によって異なる。労働時間削減などの動きによりこうした結果になっていると推察される。その中で妻の労働供給は、2011 年以降就業率が高まっており、その背景として夫の労働時間が短くなったので就業する傾向が見られた。また、すでに働いている妻が労働時間を長くする傾向は観察されなかった。このような結果から、夫婦の労働供給は同時決定とみなされていたが、別個に判断されている可能性も否定できない。

## 1. はじめに

昨今、完全失業率が3%前半という過去20年では低い水準を推移するようになり、需要不足失業ではなく構造的失業が主であると言われ、人手不足に陥っている企業が増えていると言われている。そうした人手不足期における日本の労働市場において、人々の労働供給行動はどうなっているだろうか。とりわけ夫婦の労働供給行動について、戸田（2011）の分析を最近のデータを用いて分析することで確認したい。

完全失業率が低い水準である中、日本の労働市場においていくつかの点が進行している<sup>2)</sup>。一つは人手不足に陥る企業の増加である。厚生労働省による2015年2月の「労働経済動向調査」によると、従業員が「不足している」と答えた事業所の割合から、「過剰」を引いた労働者過不足DIは正社員で2014年11月より9ポイント高い31となり、比較できる1999年2月以降で最高となった。景気回復を受け製造業、運送業、医療など幅広い業種が少

子化で細る人材を奪い合っている様子を示している。東日本大震災以降の景気回復により人材需要が高まり、労働市場が逼迫している。特に、非正規社員の需要に対して供給が追いついていないのが今回の好景気における人手不足の特徴である。

一方で、雇用の増加を見ると、総務省統計局「労働力調査」によると、特に2013年、2014年において雇用者数は増加しているがその大半が女性、非正規雇用であり、2015年になり正規雇用が前年より増加した。

第2に、上記のように労働市場が逼迫しているのに対し、賃金があまり上昇しているとは言えない。厚生労働省「毎月勤労統計調査」によると、実質の賃金上昇率は2013年、2014年とマイナスとなる月が多く、名目でも平均0.5%であった。2015年に名目と実質の乖離が見られなくなったが、1%弱のプラスである。

第3に、労働時間も増加している傾向が見られない。厚生労働省「毎月勤労統計調査」によると、総実労働時間の対前年伸び率は2013年－1.0%、



2014年－0.4%、2015年－0.3%と減少が続いている。この背景として、労働時間削減の意識が高まり、ノー残業デイを設ける、部下の労働時間を上司の評価項目の一つとして設定するなど、労働時間を削減しワーク・ライフ・バランスを充実させる動きが出てきたことがあると考えられる。

以上、近年の労働市場の動向を見てきたが、これまでの好景気における動向とはいくつか異なる。通常は労働時間の調整により企業の人員の調整を行っていたが、それがワーク・ライフ・バランス充実の名目のもと難しくなった。それと同時に人手不足が続いているにもかかわらず賃金があまり上昇しない。こうしたなかで人々の労働供給はどうなっているだろうか。

経済学では、不況期においては世帯主の残業が削減あるいは失職する確率が高まり、家計における所得が減少する。その中で消費を切り詰める、貯蓄を取り崩すなどの対応も考えられるが、配偶者が働きに出るということも考えられる。この効果は「追加的労働力効果（Added worker effect）」と名付けられているが、日本では、家計において世帯主が夫、その配偶者が妻という家計が一般的であり、夫婦の労働供給決定問題として扱われてきた。

先行研究を見ると、樋口・阿部（1999）や樋口（2001）では、夫の所得を恒常所得と一時所得に分けて、妻の新規就業に対する影響を調べた。その結果、恒常所得が妻の新規就業の意思決定に有意な影響を与え、一時所得には有意な効果はみられないことを発見した。また、Kohara（2010）は、夫の非自発的失業により妻の労働供給を促進させるかについて分析を行い、就業している妻も労働時間を増加させるだけでなく、非就業の妻が就業するようになることがわかり、追加的労働力効果が観察されると結論付けている<sup>3)</sup>。

今回の好況期、人手不足期における労働市場においてもあえて追加的に労働市場に参入する女性が増えたのではないかと。本稿では、上記の先行研究をふまえて、近年の人手不足期においても追加的労働力効果が確認されるかについて検討したい。第1に、非就業の妻にとって、近年の好況期

においてどれだけの確率で就業状態にシフトしたか、について分析を行う。第2に、すでに就業している妻にとって、夫の労働時間の変動に対応し、自身の労働供給を促進させたかについて分析を行う。

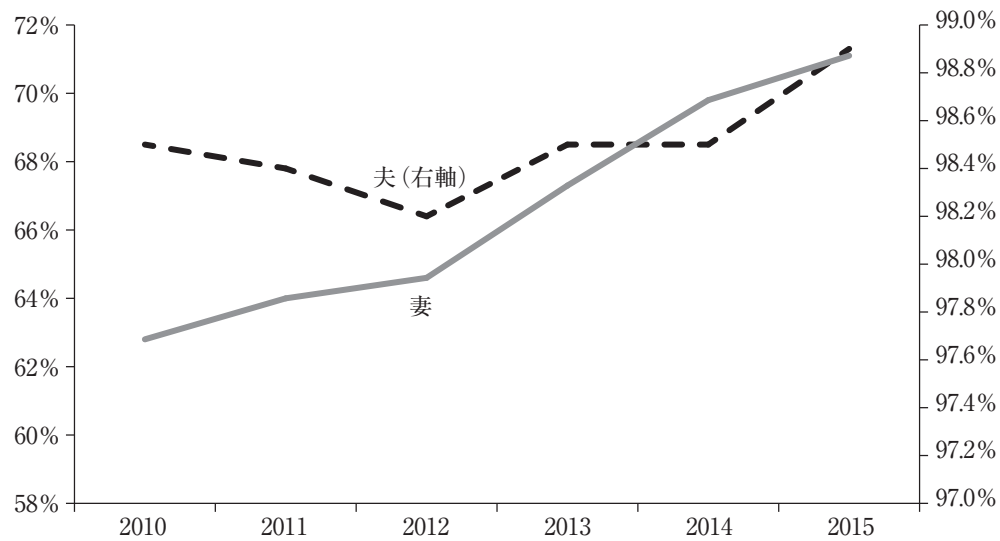
次節以降の構成は以下のとおりである。第2節では、本稿で用いたデータについて説明する。第3節では、本稿で考察したい分析を行う前に、夫の労働時間はどのような条件があれば減少するかについて分析する。第4節では、1番目の分析、つまり非就業の妻の追加的労働力効果について分析を行い、結果を紹介する。第5節では、2番目の分析、つまりすでに就業している妻の追加的労働力効果について分析を行い、結果を紹介する。最後の第6節では、分析結果を総括するとともに今後の課題を述べる。

## 2. データ

本稿では、「消費生活に関するパネル調査」（以下、JPSC）の2010年（第18回）～2015年（第23回）データを用い、女性が既婚者である家計に限定する<sup>4)</sup>。そのことにより、女性と配偶関係にある男性の情報も活用することができる。また、2010年を最初の時点と設定しているのは、景気回復期を見るためである。JPSCは本稿の執筆時点の最新年度は2015年（第23回）であり、2010年データにはコーホートA（1993年から調査開始、1993年時点で25～34歳）からコーホートD（2008年から調査開始、2008年時点で24～27歳）まで4つのコーホートが含まれている。直近に追加されたコーホートEは調査開始年が2013年であり分析期間の途中であるため、本稿の分析対象外とし、コーホートA、B、C、Dを分析対象とした。

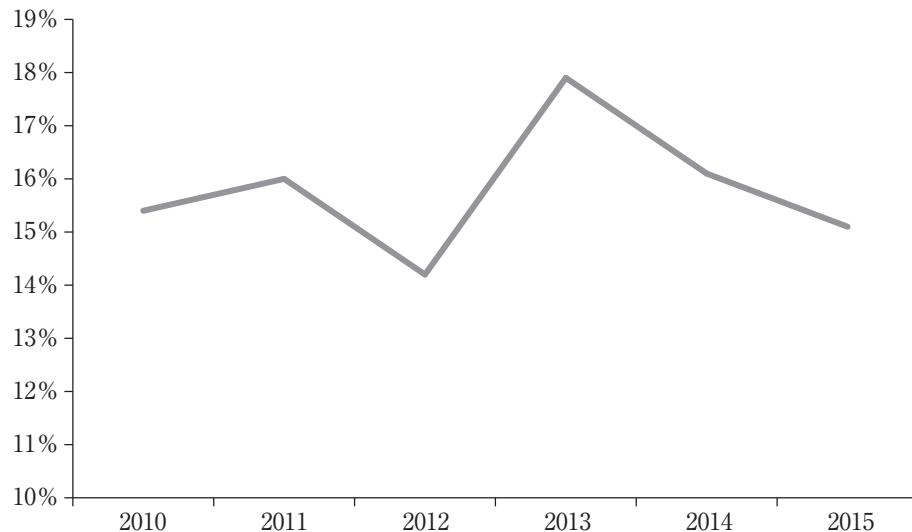
回帰分析の結果を紹介する前に、分析データの基本的な特徴を把握しておきたい。図表-1は夫婦における就業率の推移である。なお、JPSCでは就業状態を調査する質問項目の選択肢に、育児休業や疾病等の休業などによる休業中という選択肢がある。本稿では、休業中も就業する意思があると見なして就業している状態とした。

図表-1 夫婦別 就業率の推移



注: 休業者も就業者とみなして算出

図表-2 新規就業者の割合(妻)



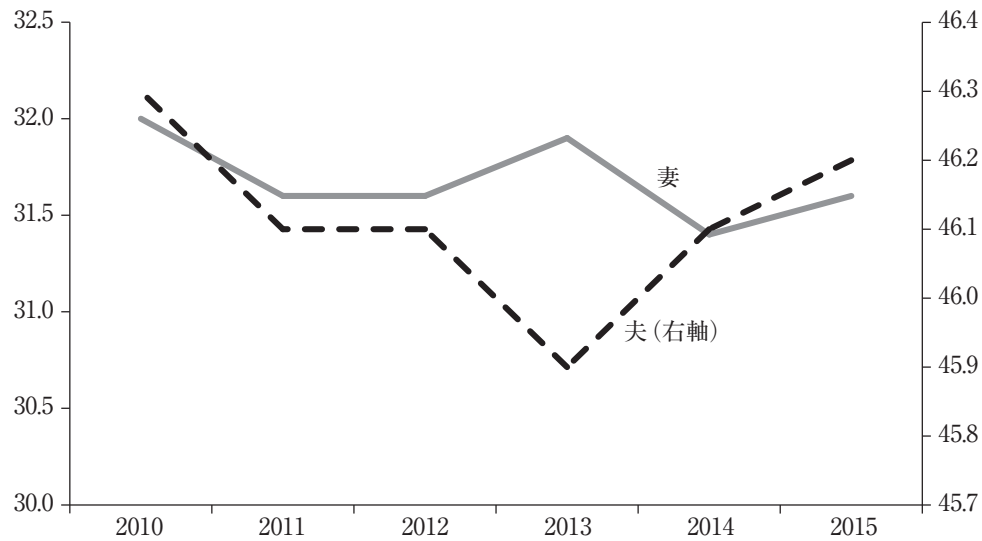
注: 新規就業者とは、t-1年に非就業である者に対して、t-1年は非就業だが、t年に就業している者の割合

図表-1を見ると、夫婦で就業率の推移が異なる。夫は、ほぼ98%台を推移しており、2012年以降は上昇していると見ることもできる。それに対し妻は2010年から2015年にかけて一貫して上昇傾向が見られ、6年間で約10%ポイントも上昇している。人材需要が増えた中で夫の就業率がわずかに増えている一方、妻の就業率が高まっていることがわかる。

本調査はパネル調査であるため、労働力のフ

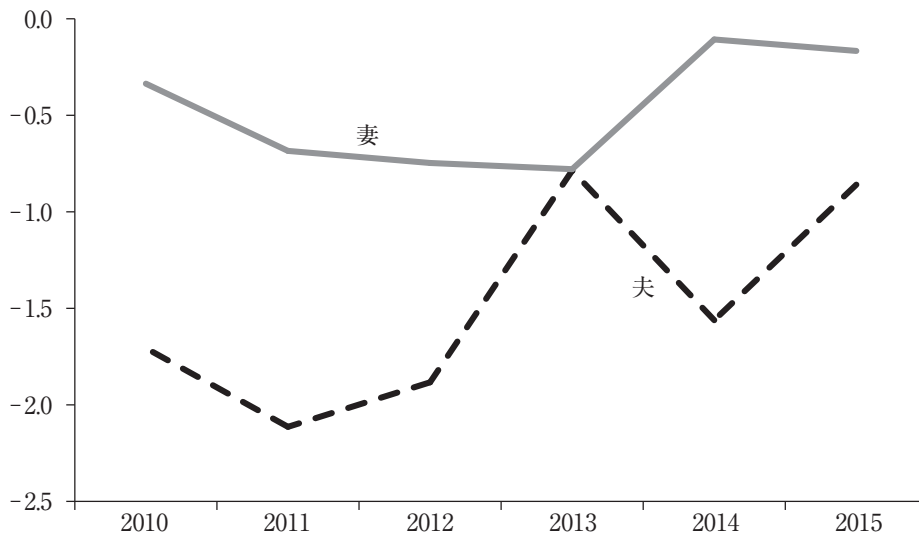
ローもわかるので、フローの観点からも見ておきたい。図表-2は、前年に非就業であった妻に対して、当年に就業状態移行した妻の割合を「新規就業者の割合」として推移をまとめたものである。不況期にこの割合が上昇すれば、夫の労働供給減少に伴い妻の労働供給が促進されている追加的労働力効果が見られる効果と矛盾しないだろう。図表-2を見ると年によって上下しているが、2013年では18%余りとほかの年に比べて高まっており、

図表-3 夫婦別 週当たり平均労働時間の推移



注: 平均労働時間の算出に当たり、非就業者は集計対象外。変数の作成方法は本文を参照

図表-4 夫婦別 週当たり労働時間差分の平均値 推移



注: 1年前に労働時間が1時間より大きい就業者に限定し、週当たり労働時間の差分を各個人に対して計算し、平均した数値が「労働時間差分の平均値」

フローの観点からも追加的労働力効果のような影響が出ていると考えられる。

以上は就業状態に注目したが、もう1つの重要な変数である労働時間に注目したい。JPSCでは労働時間を2通りで把握できる。1つは通常の週当たり労働時間であり、選択肢で回答する形式をとっている。もう1つは、生活行動の質問の一環として1日の仕事時間を調査している。本稿では、Kohara (2010) にならい、前者の労働時間を用

いる。追加的労働力効果を調べる際に、いわゆるサービス残業を除いた労働時間を用いるのが適切である。なぜなら、妻の労働時間におけるサービス残業は夫の所得低下の補償にはならないためである。以下では、総労働時間からサービス残業を除いた時間を労働時間とする<sup>5)</sup>。

図表-3は、週当たり平均労働時間の推移を見たものである。ただし、非就業者（と労働時間の観察されない者）については集計の対象外とした。

図表-5 回帰分析で使したサンプルの基本統計量

| (A)分析 1            |        | (B)分析 2                  |        |
|--------------------|--------|--------------------------|--------|
|                    | 平均     |                          | 平均     |
| 夫の労働時間差分           | -0.170 | 妻の新規就業者割合                | 0.159  |
| 夫の年齢               | 43.003 | 妻の年齢                     | 40.800 |
| 夫専門・専修学校、短大、高専ダミー  | 0.180  | 夫の労働時間差分( $\Delta h_t$ ) | -0.170 |
| 夫大卒・院卒ダミー          | 0.350  | 妻専門・専修学校、短大、高専ダミー        | 0.406  |
| 夫の職業(ベース：事務職)      |        | 妻大卒・院卒ダミー                | 0.171  |
| 自営業                | 0.133  | 末子の年齢6歳以下ダミー             | 0.313  |
| 自由業                | 0.017  | 家計の金融資産(単位：1000万円)       | 0.485  |
| 専門職・技術職・管理職        | 0.237  | 居住地：政令指定都市以外の市           | 0.636  |
| 技能職・作業職            | 0.311  | 居住地：町村                   | 0.082  |
| 販売サービス職            | 0.106  |                          |        |
| 夫の産業(ベース：サービス業)    |        |                          |        |
| 農林水産業              | 0.019  |                          |        |
| 製造業・建設業            | 0.381  |                          |        |
| 卸売業・小売業            | 0.136  |                          |        |
| 金融業                | 0.044  |                          |        |
| 企業規模(ベース：100人未満)   |        |                          |        |
| 100～999人           | 0.249  |                          |        |
| 1000人以上、官公庁        | 0.261  |                          |        |
| 夫非正規雇用ダミー          | 0.048  |                          |        |
| 末子の年齢6歳以下ダミー       | 0.313  |                          |        |
| 家計の金融資産(単位：1000万円) | 0.485  |                          |        |
| 居住地：政令指定都市以外の市     | 0.636  |                          |        |
| 居住地：町村             | 0.082  |                          |        |

妻については、31.5～32時間あたりでほぼ横ばいである。一方、夫については2013年まで減少した後、上昇傾向が見られる。

パネル調査の特徴を生かし、図表-4のように、同一個人の労働時間の差分を個人に関して集計する方法でもトレンドを見てみたい。夫婦ともに2010年から2015年にかけて差分の平均値はマイナスである。とくに、夫については2013年から2014年にかけてマイナス幅が大きくなっている。一方妻における2014年、2015年はそれほどマイナス幅が大きいとは言えない。素朴な観察では、特にすでに就業している妻の労働時間については追加的労働力効果が観察できるのか結論を出にくいといえる。

以上を踏まえ、次節以降では回帰分析によって追加的労働力効果について分析していきたい。以下の3つの分析を考える。1つ目の分析は分析2と3の予備的分析になっている。

分析1：どのような属性を持つ夫の労働時間が減少しているのか

分析2：無業の妻において、夫の労働時間の減少を契機に就業するようになっているのか

分析3：すでに就業している妻において、夫の労働時間の減少を契機にさらに労働時間を増加させているのか

なお、分析1と分析2で利用したサンプルの基本統計量は図表-5にある。

### 3. 夫の労働時間が減少する要因

妻の追加的労働力効果について考察する前に、そもそも近年の人手不足期の中で、どのような夫が労働時間を減少させているのだろうか。

図表-6はサンプルを各年で分けることで、どのような属性がどの年に有意に効くのかを把握できるようにした分析である。職業や産業に有意である変数が多い。職業については、事務職と比較して、専門職・技術職・管理職は2013年に労働時間を有意に減らしている。また、技能職・作業職は2013年までマイナスで有意となっている一方、



図表-6 夫の労働時間差分に関する分析

|                     | (1)<br>2011 年        | (2)<br>2012 年       | (3)<br>2013 年        | (4)<br>2014 年        | (5)<br>2015 年      |
|---------------------|----------------------|---------------------|----------------------|----------------------|--------------------|
| 夫の年齢                | -0.117*<br>(0.0617)  | -0.0404<br>(0.0560) | 0.0627<br>(0.0575)   | -0.009<br>(0.0596)   | -0.065<br>(0.0546) |
| 夫専門・専修学校、短大、高専ダミー   | 0.238<br>(1.122)     | -1.451<br>(1.081)   | 0.979<br>(1.111)     | 1.157<br>(1.209)     | -1.381<br>(1.012)  |
| 夫大卒・院卒ダミー           | -1.236<br>(1.135)    | -0.113<br>(1.073)   | 1.005<br>(1.098)     | 0.196<br>(1.123)     | -1.393<br>(1.000)  |
| 夫の職業（ベース：事務職）       |                      |                     |                      |                      |                    |
| 自営業                 | -1.915<br>(1.811)    | -3.027*<br>(1.754)  | -3.934**<br>(1.679)  | -3.068*<br>(1.801)   | -0.444<br>(1.556)  |
| 自由業                 | -0.925<br>(2.190)    | -0.419<br>(2.837)   | -6.047*<br>(3.623)   | -10.26**<br>(4.228)  | 6.456<br>(6.022)   |
| 専門職・技術職・管理職         | -1.732<br>(1.288)    | -0.624<br>(1.297)   | -4.522***<br>(1.380) | 1.104<br>(1.231)     | -0.821<br>(1.162)  |
| 技能職・作業職             | -3.377**<br>(1.492)  | -2.441*<br>(1.378)  | -4.673***<br>(1.450) | -0.281<br>(1.411)    | -1.721<br>(1.308)  |
| 販売サービス職             | -2.966*<br>(1.722)   | -0.784<br>(1.690)   | -2.469<br>(1.589)    | -1.159<br>(1.392)    | -1.107<br>(1.439)  |
| 夫の産業（ベース：サービス業）     |                      |                     |                      |                      |                    |
| 農林水産業               | 1.868<br>(3.456)     | 0.264<br>(2.807)    | -3.298<br>(3.226)    | 2.734<br>(2.949)     | -2.469<br>(4.060)  |
| 製造業・建設業             | -0.949<br>(0.895)    | -1.031<br>(0.908)   | -0.156<br>(0.936)    | -0.905<br>(0.996)    | -0.118<br>(0.866)  |
| 卸売業・小売業             | -2.249<br>(1.386)    | -1.667<br>(1.304)   | -2.789*<br>(1.478)   | 0.761<br>(1.314)     | -1.613<br>(1.085)  |
| 金融業                 | -2.936<br>(2.075)    | -4.285*<br>(2.462)  | 1.320<br>(2.158)     | -2.544<br>(1.602)    | -0.702<br>(2.116)  |
| 企業規模（ベース：100 人未満）   |                      |                     |                      |                      |                    |
| 100 ～ 999 人         | -3.459***<br>(1.089) | -1.328<br>(1.076)   | -1.418<br>(1.103)    | -2.045*<br>(1.073)   | -1.828*<br>(0.978) |
| 1000 人以上、官公庁        | -2.423**<br>(1.179)  | -0.821<br>(1.100)   | -2.174*<br>(1.193)   | -3.517***<br>(1.192) | -0.681<br>(1.076)  |
| 夫非正規雇用ダミー           | -4.249*<br>(2.463)   | -1.392<br>(2.115)   | -3.797**<br>(1.886)  | -1.740<br>(1.749)    | 2.143<br>(1.486)   |
| 末子の年齢 6 歳以下ダミー      | -1.348<br>(0.941)    | -1.543<br>(0.999)   | 0.325<br>(1.043)     | 0.847<br>(0.993)     | 0.128<br>(0.999)   |
| 家計の金融資産（単位：1000 万円） | 0.0984<br>(0.574)    | 0.109<br>(0.405)    | -0.587<br>(0.448)    | 0.575<br>(0.457)     | -0.492<br>(0.474)  |
| 居住地：政令指定都市以外の市      | -2.190**<br>(0.920)  | 1.327<br>(0.956)    | -0.245<br>(0.923)    | 0.970<br>(0.964)     | 0.444<br>(0.887)   |
| 居住地：町村              | -4.678***<br>(1.733) | 0.610<br>(1.651)    | 1.192<br>(1.837)     | 3.264*<br>(1.676)    | -1.501<br>(1.588)  |
| 定数項                 | 11.73***<br>(3.452)  | 3.877<br>(3.073)    | 1.892<br>(3.348)     | 1.138<br>(3.181)     | 5.332*<br>(3.074)  |
| サンプルサイズ             | 1,215                | 1,244               | 1,224                | 1,177                | 1,130              |
| 自由度修正済決定係数          | 0.039                | 0.015               | 0.029                | 0.026                | 0.022              |

注: 推定方法はOLS。被説明変数は夫の週当たり労働時間の差分。説明変数はすべて1年前の変数。

( )内の値は分散不均一に頑健な標準誤差。\*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1

図表-7 非就業の妻が就業に移行する確率に関する分析

|                                    | (1)                    | (2)                    | (3)                    | (4)                    |
|------------------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 妻の年齢                               | -0.0307***<br>(0.0109) | -0.0315***<br>(0.0110) | -0.0331***<br>(0.0113) | -0.0338***<br>(0.0113) |
| 夫の労働時間差分 ( $\Delta h_t$ )          | -0.000509<br>(0.00498) | 0.0172<br>(0.0161)     |                        | 0.0191<br>(0.0177)     |
| $\Delta h_t \times 2012$ 年ダミー      |                        | -0.0230<br>(0.0181)    |                        | -0.0233<br>(0.0196)    |
| $\Delta h_t \times 2013$ 年ダミー      |                        | -0.0114<br>(0.0193)    |                        | -0.00727<br>(0.0225)   |
| $\Delta h_t \times 2014$ 年ダミー      |                        | -0.00847<br>(0.0187)   |                        | -0.0262<br>(0.0212)    |
| $\Delta h_t \times 2015$ 年ダミー      |                        | -0.0472**<br>(0.0195)  |                        | -0.0517**<br>(0.0210)  |
| 夫の労働時間差分 1 期前 ( $\Delta h_{t-1}$ ) |                        |                        | -0.00438<br>(0.0174)   | 0.00398<br>(0.0176)    |
| $\Delta h_{t-1} \times 2011$ 年ダミー  |                        |                        | 0.00633<br>(0.0195)    | -0.00355<br>(0.0199)   |
| $\Delta h_{t-1} \times 2012$ 年ダミー  |                        |                        | 0.00660<br>(0.0199)    | 0.00439<br>(0.0207)    |
| $\Delta h_{t-1} \times 2013$ 年ダミー  |                        |                        | -0.0169<br>(0.0194)    | -0.0296<br>(0.0212)    |
| $\Delta h_{t-1} \times 2014$ 年ダミー  |                        |                        | 0.00366<br>(0.0200)    | -0.0144<br>(0.0217)    |
| 妻専門・専修学校、短大、高専ダミー                  | 0.218<br>(0.136)       | 0.216<br>(0.136)       | 0.240*<br>(0.137)      | 0.243*<br>(0.138)      |
| 妻大卒・院卒ダミー                          | -0.0350<br>(0.181)     | -0.0554<br>(0.183)     | -0.0393<br>(0.184)     | -0.0676<br>(0.186)     |
| 末子の年齢 6 歳以下ダミー                     | -0.302**<br>(0.153)    | -0.321**<br>(0.155)    | -0.334**<br>(0.158)    | -0.341**<br>(0.160)    |
| 家計の金融資産 (単位: 1000 万円)              | -0.102<br>(0.0966)     | -0.0906<br>(0.0959)    | -0.0967<br>(0.0977)    | -0.0840<br>(0.0958)    |
| 居住地: 政令指定都市以外の市                    | -0.212<br>(0.130)      | -0.206<br>(0.130)      | -0.220*<br>(0.131)     | -0.217*<br>(0.132)     |
| 居住地: 町村                            | -0.137<br>(0.247)      | -0.110<br>(0.249)      | -0.139<br>(0.250)      | -0.112<br>(0.252)      |
| 年ダミー 2012 年                        | 0.0182<br>(0.198)      | 0.0167<br>(0.199)      | -0.0178<br>(0.200)     | -0.0148<br>(0.202)     |
| 2013 年                             | -0.153<br>(0.203)      | -0.149<br>(0.205)      | -0.176<br>(0.205)      | -0.173<br>(0.207)      |
| 2014 年                             | 0.186<br>(0.194)       | 0.175<br>(0.197)       | 0.127<br>(0.197)       | 0.133<br>(0.199)       |
| 2015 年                             | 0.0291<br>(0.206)      | -0.0230<br>(0.212)     | 0.0249<br>(0.206)      | -0.0258<br>(0.212)     |
| 定数項                                | -0.236<br>(0.508)      | -0.207<br>(0.513)      | -0.107<br>(0.526)      | -0.0902<br>(0.527)     |
| サンプルサイズ                            | 2,092                  | 2,092                  | 2,051                  | 2,051                  |
| 疑似決定係数                             | 0.0179                 | 0.0218                 | 0.0222                 | 0.0257                 |

注: 被説明変数は、 $t-1$ 年は非就業、 $t$ 年は就業の妻であれば1、 $t-1$ 年と  $t$  年ともに非就業である妻は0を取るダミー変数。推計はロジットモデルに従う。2011～2015年データをプール。労働時間差分と年ダミー以外の説明変数は1年前のものを利用。

( ) 内の値は分散不均一に頑健な標準誤差。\*\*\*  $p < 0.01$ , \*\*  $p < 0.05$ , \*  $p < 0.1$

2014年と2015年において係数は有意ではない。また、産業については、サービス業をベースとしている。有意である年とそうでない年にばらつきがあるため、どの産業で平均的に労働時間を減らしているか確定的なことを言えない。

また、興味深いことにはほかの変数はあまり有意に効いていない。年齢は2011年以外は有意ではないし、その他でも企業規模で大企業において一部の年でマイナスで有意になる年がある。

結果をまとめると、産業や職業において労働時間を減少するところが部分的に見られるが、そのほかの属性について、ほとんど差異はないといえる。

#### 4. 非就業の妻の就業移行に関する分析

前節で見たように程度の差はあれ、近年の人手不足の中で夫の労働供給はあまり増えていないことがわかった。このような要因は妻の追加的労働力効果を識別する上で有効に活用できると考える。本節では、非就業の妻の追加的労働力効果が観察されるかについて分析したい。

図表-7はその分析結果である。被説明変数は、前年は非就業だが当年は就業している妻を1、前年当年ともに非就業である妻を0としたダミー変数である。前年が非就業である妻に限定した分析を行っている。説明変数には年齢、教育水準、末子の年齢、金融資産、居住地などをとっている。Kohara (2010) のように個人の固定効果もコントロールする推計を本来であれば行うべきであるが、ここでは試みの分析としてプーリングデータを用いている。また、夫の労働時間の差分と年ダミー以外はすべて1年前の変数を利用している。

図表-7における(1)式は、夫の労働時間の差分の平均的な効果を見ている。追加的労働力効果が存在するのであれば、この係数はプラス、つまり妻が就業に移行する確率を高めるという結果になる。しかし分析結果は、係数がマイナスで統計的に有意ではない。そこで、(2)式のように夫の労働時間の差分と年ダミーの交差項を説明変数に加え、夫の労働時間差分の効果の違いを見た。そ

の結果、2015年ダミーとの交差項が $-0.0472$ で有意という結果が得られた。2011年をベースとした時に、2015年は相対的に追加的就業効果が見られるといえる。ただし、(3)式・(4)式のように、労働時間の差分のラグを考えた場合、そもそもラグは有意ではないが、(4)式のようにラグ項も同時に入れた推定を行うと、2015年ダミーとの交差項は有意である。その意味で、2015年の結果は頑健な結果であるといえる。

その他の結果について見てみると、年齢や教育水準など有意な影響はない。また、末子の年齢が6歳以下であるとマイナスで統計的に有意である。また、居住地については政令指定都市をベースとして、政令指定都市以外の市に住んでいる妻は就業に移行しやすいという結果が得られた。

以上のように、2015年のみで夫の労働時間が減少したことにより妻の労働時間が増加した結果がみられるが、こうした効果は一部の年に見られるにすぎない。それ以外の年では夫の労働時間などに関係なく就業しやすい環境になっているために就業している可能性がある。では、すでに就業している妻に対してはどうだろうか。次節で検討する。

#### 5. すでに就業している妻の追加的労働力効果に関する分析

本節では、すでに就業している妻にとって、夫の労働時間減少に反応して労働供給を増やすことをしたのかについて検討する。分析方法は、基本的にKohara (2010) をベースとしているが、一部で異なる。第1に、個人の固定効果をコントロールしたモデルを採用しているが、本稿でのサンプル期間ではあまり転職をしたサンプルがないため、転職した事実を識別条件とする説明変数を加えられなかった。具体的には、産業、職業、従業員規模、雇用形態、居住地などといった変数である。もちろん、期間を通じて変化しない年齢や教育水準といった変数はコントロールしていない。第2に、サンプル期間が短いため、夫の労働時間差分の内生性はコントロールしていない<sup>6)</sup>。

図表-8すでに就業している妻の労働時間差分に関する分析

|                                    | (1)                  | (2)                  | (3)                  | (4)                  |
|------------------------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 夫の労働時間差分 ( $\Delta h_t$ )          | 0.0360**<br>(0.0151) | 0.0280<br>(0.0171)   | 0.0654*<br>(0.0335)  | 0.0420<br>(0.0315)   |
| $\Delta h_t \times 2012$ 年ダミー      |                      |                      | -0.0524<br>(0.0538)  | -0.0162<br>(0.0512)  |
| $\Delta h_t \times 2013$ 年ダミー      |                      |                      | -0.0299<br>(0.0440)  | -0.0163<br>(0.0423)  |
| $\Delta h_t \times 2014$ 年ダミー      |                      |                      | -0.0224<br>(0.0447)  | -0.0141<br>(0.0432)  |
| $\Delta h_t \times 2015$ 年ダミー      |                      |                      | -0.0477<br>(0.0486)  | -0.0248<br>(0.0465)  |
| 夫の労働時間差分 1 期前 ( $\Delta h_{t-1}$ ) |                      | -0.0189<br>(0.0160)  |                      | -0.0190<br>(0.0160)  |
| 年ダミー 2012 年                        | 0.274<br>(0.601)     | 0.571<br>(0.591)     | 0.261<br>(0.601)     | 0.570<br>(0.591)     |
| 2013 年                             | 1.350**<br>(0.565)   | 1.384**<br>(0.564)   | 1.344**<br>(0.564)   | 1.382**<br>(0.563)   |
| 2014 年                             | 0.524<br>(0.548)     | 0.714<br>(0.542)     | 0.515<br>(0.549)     | 0.714<br>(0.544)     |
| 2015 年                             | 1.230**<br>(0.570)   | 1.279**<br>(0.570)   | 1.235**<br>(0.569)   | 1.285**<br>(0.570)   |
| 定数項                                | -2.108***<br>(0.414) | -2.015***<br>(0.415) | -2.103***<br>(0.414) | -2.016***<br>(0.415) |
| サンプルサイズ                            | 4,156                | 4,041                | 4,156                | 4,041                |

注:被説明変数は、妻の週当たり労働時間の差分。推定はOLS。t-1年に就業している妻にサンプルを限定。推計は固定効果モデル。2011～2015年データをプール。

( )内の値は分散不均一に頑健な標準誤差。\*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1

図表-8に分析の結果がある。分析の結果、夫の労働時間差分の係数は(1)、(3)式においてプラスで有意となっている。追加的労働力効果が存在すれば、夫の労働時間が減少した分妻の労働時間は増加するはずなので、係数はマイナスになるはずである。図表-8の分析結果は追加的労働力効果と矛盾する結果である。図表-3や図表-4で見てきたように、妻と夫の労働時間の間に、追加的労働力効果を表す明確な関係は見られないが、回帰分析でも同様の結果が得られた。おそらく、景気が良い時は夫婦ともに労働時間を増加させ、不景気の時は夫の労働時間が減少するだけでなく、不景気の影響は妻にも影響し労働時間が削減せざるを得ない状況になっていると推察される。図表-7にならい、年ダミーとの交差項を調べても、交差項は有意にならない。ラグをとっても同様に有意な結果は見られなかった。

## 6. むすびにかえて

本稿では、人手不足期の夫婦の労働供給行動について検討してきた。その結果以下のことが分かった。

第1に、非就業の妻に関しては、2015年においてのみ、夫の労働時間が減少したため妻の労働時間が増える効果が見られた。夫の労働時間のラグ項でコントロールするとその効果が有意であったので、頑健な結果といえる。ただしほかの年ではこうした効果が見られず、夫の労働時間などには関係なく、就業しやすいために就業したと考えられる。

第2に、すでに就業している妻の追加的労働力効果を調べた結果、その効果は見られなかった。むしろ、夫も妻も両方が労働時間を減少しているというようすが見られた。

また、人手不足期の中で夫の労働時間への影響



は、全体的に押し下げる効果が見られるものの、産業や職種によってその影響度合いが大きいものがあるといえる。

以上の結果より、夫婦の労働供給のインタラクションは限定的で、ある程度の範囲で別個に決定されている可能性が高い。夫婦の労働供給は同時決定の場合が多いためこうした主張は慎重に行う必要があるが、この可能性についての検討は今後の課題としたい。また、すでに就業している妻に対しては、現職において労働時間を増加することが難しい場合、副業や内職を行うということも考えられる。副業や内職に関する意向も含めて分析することが必要だと考える。

また、内生性についての影響も検討しなくてはならない。JPSCを用いる場合、1年間の差があるため、その間の時間的因果関係が不明である。夫婦それぞれの1年間の労働時間の差をみているが、平均的な労働時間を減少するタイミングは夫婦でどちらが先にくるかわからないので内生性の問題は否定できない。内生性のコントロールは今後の課題としたい。

#### 注

- 1) 本章の内容は著者の個人的見解を表すものであり、筆者の所属機関の意見・立場を表すものではない。
- 2) ここで述べている内容は、著者が所属機関のウェブサイトに掲載したコラム（戸田 2016）にまとめている。
- 3) 夫の失業が家族生活にどのような影響を与えたかというテーマで村上（2010）が結果をまとめている。また、追加的労働力効果に対して、対となる就業意欲喪失効果については、日本でも多くの研究がなされている（佐藤 2010）。
- 4) JPSCはサンプリングの際に女性に焦点が当てられ、男性は既婚者のみ情報が入手できる形式になっている。以下の議論はその制約があることに注意されたい。

- 5) なお、総労働時間（通常週当たり、実際に勤務する労働時間）とサービス残業の時間は、選択肢で調査されている。本稿では、選択肢の中間値をとり、上限についてはその値をそのまま労働時間として、数値化して変数を作成した。
- 6) 操作変数を用いる場合、「労働時間差分」だけでなくその交差項もあるため、交差項も含めた変数の数に少なくとも等しい数の操作変数が必要になる。ここでは妥当な操作変数を見つけられなかったため、操作変数法の適用を断念している。

#### 文献

- 佐藤一磨, 2010, 「景気後退期の就業行動の変化」 瀬古美喜・照山博司・山本勲・樋口美雄・慶應－京大連携グローバルCOE編『日本の家計行動のダイナミズムVI 経済危機下の家計行動の変容』 慶應義塾大学出版会, 90-113.
- 戸田淳仁, 2011, 「リーマンショック後に「追加的労働力効果」は観察されたか」『季刊家計経済研究』 92: 22-31.
- , 2016, 「人手不足・採用難により、変質しつつある日本の労働市場」 (<http://www.works-i.com/column/works02/> 戸田淳仁 05/)
- 樋口美雄, 2001, 『雇用と失業の経済学』 日本経済新聞社.
- 樋口美雄・阿部正浩, 1999, 「経済変動と女性の結婚・出産・就業のタイミング——固定要因と変動要因の分析」 樋口美雄・岩田正美編『パネルデータからみた現代女性——結婚・出産・就業・消費・貯蓄』 東洋経済新報社, 25-65.
- 村上あかね, 2010, 「夫の「失業」にともなう家族生活の変化」『日本労働研究雑誌』 598: 38-47.
- Kohara, M., 2010, “The Response of Japanese Wives’ Labor Supply to Husband’s Job Loss,” *Journal Population Economics*, 23: 1133-1149.

とだ・あきひと リクルートワークス研究所 主任研究員、公益財団法人 家計経済研究所 嘱託研究員。主な論文に「有期労働契約の雇止め制限法理に関する実証分析」(『日本労働研究雑誌』 631, 2013)。労働経済学、応用計量経済学専攻。

## 第 4 章

# 正規雇用に対する初職と学歴の効果

浜田 浩児

(元 内閣府経済社会総合研究所 研究官)

正規雇用、賃金に対する初職と学歴の効果について比較を行ったところ、大卒のほうが非大卒・初職正規雇用より賃金が有意に高いという分析結果が得られ、その賃金差は、大学の学費及び機会費用より大きいと考えられる。ただし、大卒でも正規雇用に就けなければ、同じく非正規雇用の非大卒との賃金差はほぼなく、大学の学費及び機会費用がまかなえないリスクがある。このため、仕事をしながら学べるよう、大学二部(休日・夜間)や通信制の充実、ワーク・ライフ・バランスの促進が必要である。これらにより、非大卒の正規雇用就業者が雇用を確保しながら大学に進学でき、大学卒業後に正規雇用就けられないリスクが減らせる。大学進学には、所得を増やすための教育投資の側面だけでなく、教養を高める等の非金銭的な効果もある点からも、こうした両立策は重要である。

## 1. はじめに

Mincer (1974)、Kambayashi, Kawaguchi and Yokoyama (2008)、川口 (2011)、Yamada and Kawaguchi (2015) 等で述べられているように、大学等の学歴（人的資本投資）は賃金を高める効果がある。一方、黒澤・玄田 (2001)、近藤 (2008) 等で述べられているように、初職の影響も小さくない。

本稿では、公益財団法人家計経済研究所「消費生活に関するパネル調査」の個票に基づき、正規雇用、賃金に対する初職と学歴の効果について比較を行う。「消費生活に関するパネル調査」は、女性を対象に1993年以降毎年調査を行い、学歴等を尋ねており、2013年からの調査対象者に対しては、初職が正社員か否かも尋ねている<sup>1)</sup>。このため、これらの者については、現職の正規雇用該当の有無と賃金に対する初職と学歴の効果をみることができる。

以下、2.で、使用データである「消費生活に関するパネル調査」に基づく分析方法について述べる。3.で、同調査の個票に基づき、現職の正規雇用該当の有無と賃金に対する初職と学歴の効果について分析、比較を行う。4.で本稿の結論を述べる。

## 2. 使用データと分析方法

### (1) 使用データ

データは、公益財団法人家計経済研究所「消費生活に関するパネル調査」の個票による。本調査は、女性を対象に1993年以降毎年調査を行い、学歴等を尋ねており、2013年から調査対象者に追加した同年24～28歳の女性648人に対しては、初職が正社員か否かも尋ねている。このため、これらの者については、現職の正規雇用該当の有無と賃金に対する初職と学歴の効果をみることができる。

本稿では、2013～2015年の現職の正規雇用該



図表-1 現職の正規雇用該当率と初職、学歴

(%)

|             | 2013 年         | 2014 年         | 2015 年        |
|-------------|----------------|----------------|---------------|
| 全体          | 50.0<br>(2.4)  | 48.8<br>(2.4)  | 49.3<br>(2.4) |
| 非大卒・初職正規雇用  | 54.3<br>(4.3)  | 52.2<br>(4.3)  | 52.2<br>(4.3) |
| 大卒（大学院卒を含む） | 66.3<br>(3.5)  | 63.6<br>(3.5)  | 64.7<br>(3.5) |
| その他         | 12.4<br>(3.4)  | 15.5<br>(3.7)  | 15.5<br>(3.7) |
| 子ども無        | 59.6<br>(2.8)  | 58.4<br>(2.8)  | 61.3<br>(2.9) |
| 非大卒・初職正規雇用  | 67.7<br>(4.9)  | 67.0<br>(5.0)  | 70.4<br>(5.1) |
| 大卒（大学院卒を含む） | 70.9<br>(3.5)  | 67.5<br>(3.7)  | 71.5<br>(3.7) |
| その他         | 15.3<br>(4.7)  | 19.3<br>(5.3)  | 21.4<br>(5.5) |
| 子ども有        | 21.0<br>(4.0)  | 22.8<br>(4.1)  | 23.7<br>(3.7) |
| 非大卒・初職正規雇用  | 26.7<br>(6.7)  | 26.0<br>(6.3)  | 27.6<br>(5.9) |
| 大卒（大学院卒を含む） | 31.8<br>(10.2) | 37.5<br>(10.1) | 36.1<br>(7.2) |
| その他         | 7.9<br>(4.4)   | 10.0<br>(4.8)  | 7.3<br>(4.1)  |

注: 1) カッコ内は標準偏差  
2) 標本数は各年422

当の有無と賃金に対する初職と学歴の効果进行分析した。2015年において、上記調査対象者は26～30歳であり、育児の影響のない子ども無の女性については、職は一応固まっていると思われる。これらの対象者のうち、分析に必要な雇用形態、賃金、初職、学歴、年齢、子の有無等のデータが揃っているのは、422人である。

## (2) 分析方法

これら雇用形態、賃金、初職、学歴、年齢、子の有無等のデータについては、賃金は勤め先収入（年収）により、他のデータは、標本数が少ないことから、それぞれ2区分にまとめた。正規雇用該当の有無は、現職が正社員である場合に有とし、それ以外の雇用形態や無職である場合に無とした。なお、就学中の者は分析対象から除いた。初職についても同様に、正規雇用該当の有無を区分した。学歴については、大卒（大学院卒を含む）

図表-2 子ども有の割合

(%)

|             | 2013 年        | 2014 年        | 2015 年        |
|-------------|---------------|---------------|---------------|
| 全体          | 24.9<br>(2.1) | 27.0<br>(2.2) | 32.0<br>(2.3) |
| 非大卒・初職正規雇用  | 32.6<br>(4.0) | 36.2<br>(4.1) | 42.0<br>(4.2) |
| 大卒（大学院卒を含む） | 11.8<br>(2.4) | 12.8<br>(2.5) | 19.3<br>(2.9) |
| その他         | 39.2<br>(5.0) | 41.2<br>(5.0) | 42.3<br>(5.0) |

注: カッコ内は標準偏差

以下同じ）とそれ以外に区分した。さらに、初職と学歴の効果の重複を避けるため、初職の効果は大卒以外について見た。子の有無については、就業や雇用形態への影響を考えて、子ども有と子ども無とに区分した。

これらに基づき、各区分の間で現職の正規雇用該当率と賃金の比較を行った。また、現職の正規雇用該当の有無、賃金を被説明変数、初職の正規雇用該当の有無（非大卒）、大卒・大学院卒該当の有無のダミー変数を説明変数とする簡単な回帰分析を行った。

## 3. 分析結果

### (1) 正規雇用に対する初職と学歴の効果の比較

まず、現職の正規雇用該当率をみると、図表-1のようになっている。

正規雇用該当率は、非大卒・初職正規雇用で2013年54.3%、2014年52.2%、2015年52.2%、大卒で2013年66.3%、2014年63.6%、2015年64.7%である。ともに、それ以外（非大卒・初職非正規雇用）の2013年12.4%、2014年15.5%、2015年15.5%より正規雇用該当率が有意に高くなっており、正規雇用に対する初職と学歴の効果がうかがえる。

両者を比較すると、大卒の正規雇用該当率は、非大卒・初職正規雇用より有意に高い。しかし、これには、図表-2のように、大卒のほうが子ども有の割合が20%ポイント余り小さいことの影響が考えられる。

図表-3 現職の正規雇用該当に対する初職、学歴の影響

|                 | 2013 年            | 2014 年            | 2015 年            |
|-----------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 全体              |                   |                   |                   |
| 初職（非大卒・正規雇用ダミー） | 0.420<br>(0.060)  | 0.367<br>(0.062)  | 0.367<br>(0.061)  |
| 学歴（大卒ダミー）       | 0.539<br>(0.057)  | 0.482<br>(0.058)  | 0.492<br>(0.058)  |
| 定数項             | 0.124<br>(0.046)  | 0.155<br>(0.047)  | 0.155<br>(0.047)  |
| 全体              |                   |                   |                   |
| 初職（非大卒・正規雇用ダミー） | 0.400<br>(0.058)  | 0.353<br>(0.060)  | 0.366<br>(0.058)  |
| 学歴（大卒ダミー）       | 0.458<br>(0.057)  | 0.402<br>(0.058)  | 0.418<br>(0.056)  |
| 子ども有ダミー         | -0.298<br>(0.051) | -0.282<br>(0.051) | -0.323<br>(0.047) |
| 定数項             | 0.241<br>(0.049)  | 0.271<br>(0.050)  | 0.291<br>(0.049)  |
| 子ども無            |                   |                   |                   |
| 初職（非大卒・正規雇用ダミー） | 0.525<br>(0.074)  | 0.477<br>(0.078)  | 0.486<br>(0.078)  |
| 学歴（大卒ダミー）       | 0.557<br>(0.067)  | 0.482<br>(0.071)  | 0.501<br>(0.070)  |
| 定数項             | 0.153<br>(0.058)  | 0.193<br>(0.061)  | 0.214<br>(0.060)  |
| 子ども有            |                   |                   |                   |
| 初職（非大卒・正規雇用ダミー） | 0.188<br>(0.088)  | 0.160<br>(0.087)  | 0.203<br>(0.085)  |
| 学歴（大卒ダミー）       | 0.239<br>(0.107)  | 0.275<br>(0.106)  | 0.288<br>(0.095)  |
| 定数項             | 0.079<br>(0.065)  | 0.100<br>(0.065)  | 0.073<br>(0.065)  |

注:1) かつこ内は標準誤差

2) 全体及び子ども無のF値は1%水準で有意、子ども有のF値は5%水準で有意である

3) 標本数は各年422

そこで、図表-1で、子ども無の者について現職の正規雇用該当率を比較すると、非大卒・初職正規雇用で2013年67.7%、2014年67.0%、2015年70.4%、大卒で2013年70.9%、2014年67.5%、2015年71.5%と、ほぼ同様である。ただし、子ども有の者について現職の正規雇用該当率を比較すると、非大卒・初職正規雇用で2013年26.7%、2014年26.0%、2015年27.6%、大卒で2013年31.8%、2014年37.5%、2015年36.1%と、有意な差ではないものの、大卒のほうがやや高い。非大卒は初職で正規雇用に就けても、子育てとの両立が難しい労働条件の正規雇用が多いのかもしれない。

また、現職の正規雇用該当の初職（非大卒・正規雇用ダミー）と学歴（大卒ダミー）への回帰分

図表-4 現職の正規雇用該当率と大学卒業時の雇用環境 (%)

|                         |               |
|-------------------------|---------------|
| 全体                      |               |
| 2007、2008 年大卒（2013 年時点） | 73.1<br>(6.2) |
| 2009、2010 年大卒（2015 年時点） | 51.4<br>(8.3) |
| 子ども無                    |               |
| 2007、2008 年大卒（2013 年時点） | 82.5<br>(6.1) |
| 2009、2010 年大卒（2015 年時点） | 62.1<br>(9.2) |

注: 1) かつこ内は標準偏差

2) 標本数は、2007、2008年大卒52。2009、2010年大卒37

析結果を見ると、図表-3のように、非大卒・初職正規雇用、大卒とも係数が正で有意となっており、正規雇用に対する初職と学歴の効果があるといえる。

両者を比較すると、大卒の係数は2013年0.539、2014年0.482、2015年0.492であり、非大卒・初職正規雇用の係数の2013年0.420、2014年0.367、2015年0.367より有意に大きい。しかし、図表-1と同じく、これには、図表-2のように大卒のほうが子ども有の割合が小さいことの影響が考えられる。そこで、子ども有のダミー変数を加えて回帰分析を行った結果を見ると、大卒の係数（2013年0.458、2014年0.402、2015年0.418）が非大卒・初職正規雇用の係数（2013年0.400、2014年0.353、2015年0.366）より大きいものの、有意な差はない。

さらに、子ども無の者について現職の正規雇用該当の初職と学歴への回帰分析を行った結果を見ると、大卒の係数（2013年0.557、2014年0.482、2015年0.501）と非大卒・初職正規雇用の係数（2013年0.525、2014年0.477、2015年0.486）は近いものになっている。ただし、子ども有の者についての回帰分析結果では、大卒の係数は2013年0.239、2014年0.275、2015年0.288、非大卒・初職正規雇用の係数は2013年0.188、2014年0.160、2015年0.203であり、有意な差ではないものの、大卒のほうがやや大きい。図表-1からもうかがえるように、非大卒は初職で正規雇用に就けても、子育てとの両立が難しい労働条件の正規雇用が多いのかもしれない。

図表-5 賃金(年収)と初職、学歴

(万円)

|             | 2013 年          | 2014 年          | 2015 年          |
|-------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 全体          | 200.5<br>(6.6)  | 203.4<br>(7.0)  | 207.2<br>(7.5)  |
| 非大卒・初職正規雇用  | 197.6<br>(11.2) | 190.3<br>(11.6) | 187.0<br>(12.1) |
| 大卒（大学院卒を含む） | 248.3<br>(9.8)  | 263.6<br>(10.3) | 268.8<br>(11.7) |
| その他         | 112.6<br>(9.5)  | 106.1<br>(9.1)  | 117.3<br>(10.0) |
| 子ども無        | 233.5<br>(6.7)  | 247.1<br>(7.2)  | 259.7<br>(8.1)  |
| 非大卒・初職正規雇用  | 244.8<br>(11.0) | 247.9<br>(12.2) | 257.5<br>(12.3) |
| 大卒（大学院卒を含む） | 258.8<br>(9.6)  | 284.4<br>(9.8)  | 303.0<br>(11.2) |
| その他         | 145.0<br>(11.4) | 139.0<br>(11.2) | 146.1<br>(12.9) |
| 子ども有        | 100.8<br>(12.8) | 85.4<br>(11.2)  | 95.5<br>(11.0)  |
| 非大卒・初職正規雇用  | 100.0<br>(19.0) | 89.0<br>(15.9)  | 89.4<br>(15.8)  |
| 大卒（大学院卒を含む） | 169.0<br>(38.1) | 121.7<br>(32.5) | 125.4<br>(28.2) |
| その他         | 62.3<br>(13.0)  | 59.1<br>(11.8)  | 77.9<br>(13.5)  |

注: 1) かつこ内は標準偏差

2) 標本数は各年422

## (2) 大学卒業時の雇用環境の影響

(1) で述べた大卒の正規雇用該当率には、大学卒業時の雇用環境が影響を及ぼしている<sup>2)</sup>。

図表-4は、リーマンショック前に卒業の2007、2008年大卒の女性と、リーマンショック後に卒業の2009、2010年大卒の女性について、現職の正規雇用該当率を比較したものである。同じ卒後年数で比較するために、2007、2008年大卒は2013年時点、2009、2010年大卒は2015年時点の現職の正規雇用該当率によっている。

2009、2010年大卒の女性の現職の正規雇用該当率は51.4%であり、2007、2008年大卒の女性の73.1%より有意に低い。子どもの有無の影響を除くために、子ども無の者について比較しても、2009、2010年大卒の女性の現職の正規雇用該当率は62.1%であり、2007、2008年大卒の女性の82.5%より、やはり有意に低くなっている。

これについては、リーマンショック後に卒業の

2009、2010年大卒の女性では初職の正規雇用該当率が73.0%であり、リーマンショック前に卒業の2007、2008年大卒の女性の80.8%より低かったことが一因と考えられる。

## (3) 賃金に対する初職と学歴の効果の比較

まず、現在の賃金（年収）をみると、図表-5のようになっている。

賃金は、非大卒・初職正規雇用で2013年197.6万円、2014年190.3万円、2015年187.0万円、大卒で2013年248.3万円、2014年263.6万円、2015年268.8万円である。ともに、それ以外（非大卒・初職非正規雇用）の2013年112.6万円、2014年106.1万円、2015年117.3万円より有意に高くなっており、賃金に対する初職と学歴の効果がうかがえる。

両者を比較すると、大卒の賃金は、非大卒・初職正規雇用より有意に高い。しかし、これには、図表-2のように、大卒のほう子ども有の割合が小さいことの影響が考えられる。

そこで、子ども無の者について現在の賃金を比較すると、非大卒・初職正規雇用で2013年244.8万円、2014年247.9万円、2015年257.5万円、大卒で2013年258.8万円、2014年284.4万円、2015年303.0万円であり、2014、2015年は大卒のほう有意に高く、2013年も有意性は低いものの大卒のほうが高い。また、子ども有の者について現在の賃金を比較しても、非大卒・初職正規雇用で2013年100.0万円、2014年89.0万円、2015年89.4万円、大卒で2013年169.0万円、2014年121.7万円、2015年125.4万円と、有意な差ではないものの、大卒のほうが高い。

また、現在の賃金の初職（非大卒・正規雇用ダミー）と学歴（大卒ダミー）への回帰分析結果を見ると、図表-6のとおりである。

非大卒・初職正規雇用、大卒とも係数が正で有意となっており、賃金に対する初職と学歴の効果があるといえる。

両者を比較すると、大卒の係数は2013年135.7、2014年157.5、2015年151.5であり、非大卒・初職正規雇用の係数の2013年85.0、2014年84.3、2015



図表-6 賃金(年収)に対する初職、学歴の影響

|                  | 2013 年           | 2014 年           | 2015 年           |
|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 全体               |                  |                  |                  |
| 初職 (非大卒・正規雇用ダミー) | 85.0<br>(16.6)   | 84.3<br>(17.1)   | 69.7<br>(18.8)   |
| 学歴 (大卒ダミー)       | 135.7<br>(15.6)  | 157.5<br>(16.2)  | 151.5<br>(17.7)  |
| 定数項              | 112.6<br>(12.7)  | 106.1<br>(13.1)  | 117.3<br>(14.4)  |
| 全体               |                  |                  |                  |
| 初職 (非大卒・正規雇用ダミー) | 77.7<br>(15.4)   | 77.5<br>(15.3)   | 69.4<br>(16.7)   |
| 学歴 (大卒ダミー)       | 105.4<br>(15.0)  | 119.0<br>(14.9)  | 118.4<br>(16.1)  |
| 子ども有ダミー          | -110.5<br>(13.6) | -135.6<br>(13.2) | -144.0<br>(13.6) |
| 定数項              | 155.9<br>(13.0)  | 162.0<br>(12.9)  | 178.1<br>(14.0)  |
| 子ども無             |                  |                  |                  |
| 初職 (非大卒・正規雇用ダミー) | 99.8<br>(18.7)   | 108.8<br>(19.6)  | 111.6<br>(21.5)  |
| 学歴 (大卒ダミー)       | 113.8<br>(17.1)  | 145.4<br>(17.7)  | 156.9<br>(19.3)  |
| 定数項              | 145.0<br>(14.6)  | 139.0<br>(15.3)  | 146.1<br>(16.5)  |
| 子ども有             |                  |                  |                  |
| 初職 (非大卒・正規雇用ダミー) | 37.7<br>(27.8)   | 30.0<br>(24.0)   | 11.6<br>(25.9)   |
| 学歴 (大卒ダミー)       | 106.7<br>(33.8)  | 62.6<br>(29.2)   | 47.5<br>(29.0)   |
| 定数項              | 62.3<br>(20.5)   | 59.1<br>(17.9)   | 77.9<br>(19.8)   |

注: 1) かっこ内は標準誤差

2) 全体及び子ども無のF値は、1%水準で有意である

3) 標本数は各年422

年69.7より有意に大きい。しかし、図表-5と同じく、これには、図表-2のように、大卒のほうに子ども有の割合が小さいことの影響が考えられる。そこで、子どもの有無のダミー変数を加えて回帰分析を行った結果を見ると、やはり、大卒の係数（2013年105.4、2014年119.0、2015年118.4）が非大卒・初職正規雇用の係数（2013年77.7、2014年77.5、2015年69.4）より有意に大きい。

さらに、子ども無の者について現在の賃金の初職と学歴への回帰分析を行った結果を見ると、大卒の係数（2013年113.8、2014年145.4、2015年156.9）は非大卒・初職正規雇用の係数（2013年99.8、2014年108.8、2015年111.6）に比べ、2014年、2015年は大卒のほうに有意に大きく、2013年も有

意性は低いものの大卒のほうに大きい。子ども有の者についての回帰分析結果でも、大卒の係数は2013年106.7、2014年62.6、2015年47.5、非大卒・初職正規雇用の係数は2013年37.7、2014年30.0、2015年11.6であり、有意な差ではないものの、大卒のほうに大きい。

#### (4) 賃金差と費用の比較

上記のとおり大卒の賃金は非大卒・初職正規雇用より有意に高いが、大卒の側には大学の学費及び機会費用がかかる。大学4年間の学費は300万～400万円程度、その間の機会費用（大学に行かずに就職すれば得られたはずの賃金）は1000万円程度（非大卒・初職正規雇用のため、高卒正社員の20歳前後の賃金で計算）である。単純な試算であるが、大卒の就業年数を40年程度としてこれらの費用に見合うには、1年当たり30万円強の賃金差を要する。

図表-5のように、大卒と非大卒・初職正規雇用の賃金の差は、子どもの影響を除いた子ども無で2013年14.0万円、2014年36.5万円、2015年45.5万円となっている。賃金差は、3年平均では30万円程度であり、大学の学費及び機会費用より大きいとは言えないが、年々拡大しており、2015年の45.5万円は、大学の学費及び機会費用より大きい。正規雇用の大卒、非大卒の賃金差は年齢とともに拡大するため、上記の拡大傾向は続き、生涯で見た年平均賃金の差は、この単純な試算を上回り、大学の学費及び機会費用より大きいであろう<sup>3)</sup>。

ただし、大卒でも正規雇用には就けなければ、同じく非正規雇用の非大卒との賃金差はほぼなく、大学の学費及び機会費用がまかなえないリスクがある。子ども無の者について現職が正規雇用非該当の賃金を比較すると、非大卒・初職正規雇用で2013年166.2万円、2014年170.1万円、2015年164.6万円、大卒で2013年149.8万円、2014年168.2万円、2015年171.3万円であり、両者の差は小さい。さらに、(2)で述べたように、大卒の正規雇用該当率は大学卒業時の雇用環境の影響を受け、リスクの確率自体が変動する。

## 4. 結論と留意点

大学卒等の学歴は賃金を高める効果がある一方、初職で正規雇用になれるか否かの影響も小さい。

本稿では、公益財団法人家計経済研究所「消費生活に関するパネル調査」の個票に基づき、正規雇用、賃金に対する初職と学歴の効果について比較を行った。「消費生活に関するパネル調査」は、女性を対象に1993年以降毎年調査を行い、学歴等を尋ねており、2013年からの調査対象者に対しては、初職が正社員か否かも尋ねている。このため、これらの者については、現職の正規雇用該当の有無と賃金に対する初職と学歴の効果をみることができる。

分析結果をみると、大卒（大学院卒を含む）、非大卒・初職正規雇用とも、それ以外（非大卒・初職非正規雇用）より現職の正規雇用該当率が有意に高く、回帰分析結果でもともに係数が正で有意となっており、正規雇用に対する初職と学歴の効果があるといえる。

両者を比較すると、子どもの有無の影響を除けば、現職の正規雇用該当率はほぼ同様であり、回帰分析結果でも係数に有意な差はない。

また、大卒、非大卒・初職正規雇用とも、それ以外より現在の賃金が有意に高く、回帰分析結果を見てもともに係数が正で有意となっており、賃金に対する初職と学歴の効果があるといえる。

両者を比較すると、子どもの有無の影響を除いても、大卒のほうが非大卒・初職正規雇用より、現在の賃金が有意に高く、回帰分析結果でも係数が有意に大きい。この両者の賃金の差は、生涯賃金で見て、大学の学費及び機会費用（大学に行かずに就職すれば在学期間で得られたはずの賃金）より大きいと考えられる。ただし、大卒でも正規雇用になければ、同じく非正規雇用の非大卒との賃金差はほぼなく、大学の学費及び機会費用がまかなえないリスクがある。

したがって、非大卒で正規雇用になれるのに就職せず、大学に進学するのは、平均的には純利益が得られるものの、大学卒業後に正規雇用につ

づ、費用（学費及び機会費用）に見合う所得増につながらないリスクを伴う。

こうしたリスクに対しては、仕事をしながら学べるよう、大学二部（休日・夜間）や通信制の充実、ワーク・ライフ・バランスの促進が必要である。これらにより、非大卒の正規雇用就業者が雇用を確保しながら大学に進学でき、大学卒業後に正規雇用につけないリスクが減らせる。大学進学には、所得を増やすための教育投資の側面だけでなく、教養を高める等の非金銭的な効果もある点からも、こうした両立策は重要である。

なお、非大卒で正規雇用になれる者の大学進学が所得増につながる一方、正規雇用につけないリスクを伴うという本稿の分析結果は、大学の平均について見たものであり、平均より上の大学ほど、進学が所得増につながり、正規雇用につけないリスクも小さいと考えられる<sup>4)</sup>。一方、非大卒・初職正規雇用の者についても、大企業等のより条件のよい就職先であれば、所得が高く、正規雇用でなくなるリスクも小さいと考えられる<sup>5)</sup>。

また、大卒と非大卒・初職正規雇用では生まれつきの才能が異なる可能性も考えられ、その場合には非大卒が大学に進学しても、今の大卒と同じ就職状況になるとはいえない。この点については、高卒では職がないから大学に行くという動機の者もいるようではあるが、一般には大卒が非大卒・初職正規雇用より才能があるとすれば、両者の賃金差の一部は才能の差によるところとなり、本稿の分析よりも、大学進学のエデュケーション投資効果は小さいということになる。

### 注

- 1) 「消費生活に関するパネル調査」は、2012年以前から継続する調査対象者については、初職が常勤か否かを尋ねているが、常勤の中には非正社員が含まれるため、2013年からの調査対象者のような初職が正社員か否かの区分とは異なる。浜田（2016）では、男性についてはあるが一般労働者（常勤に対応すると考えられる）を対象として、「賃金構造基本統計調査」により推定した2005～2013各年の賃金関数に基づき、一般労働者でも非正社員の賃金は正社員より有意に低く、その格差は拡大しているという分析結果が得られた。
- 2) 黒澤・玄田（2001）では、卒業時の失業率が高いと、正社員就職確率が低いほか、正社員就職後の離職率

が高まるという分析結果が示されている。また、近藤(2008)では、卒業時の雇用環境がその後の就業率や賃金に影響を及ぼすという分析結果が示されている。

- 3) 労働政策研究・研修機構(2015)によれば、正規雇用の大卒、非大卒の女性の生涯賃金の差は、2013年で5000万円程度である。これに、図表-1の正規雇用該当率(大卒、非大卒・初職正規雇用とも、子ども無で3分の2程度)を乗じると、大卒、非大卒・初職正規雇用の生涯賃金の差は3000万円強となり、大学の費用より大きい。
- 4) 梅崎・田澤(2012)では、難関大学は大企業就職に有利という分析結果が得られている。
- 5) 労働政策研究・研修機構(2015)によれば、従業員1000人以上の企業の正規雇用の非大卒の女性の生涯賃金は、従業員10～99人の企業の正規雇用の大卒の生涯賃金より多い。

#### 文献

- 梅崎修・田澤実, 2012, 「大学教育と初期キャリアの関連性——全国大学4年次と卒業後2年目の継続調査」『日本労働研究雑誌』619: 64-76.
- 川口大司, 2011, 「ミンサー型賃金関数の日本の労働市場への適用」RIETI Discussion Paper Series 11-J-026.
- 黒澤昌子・玄田有史, 2001, 「学校から職場へ——「七・五・三」転職の背景」『日本労働研究雑誌』490: 4-18.
- 近藤絢子, 2008, 「労働市場参入時の不況の長期的影響——日米女性の比較分析」『季刊家計経済研究』77: 73-80.
- 浜田浩児, 2016, 「近年の賃金格差の要因分解——雇用形態、学歴、経験年数、勤続年数の寄与」『生活経済学研究』43: 43-52.
- 労働政策研究・研修機構, 2015, 『ユースフル労働統計2015——労働統計加工指標集』.
- Kambayashi, R., D. Kawaguchi and I. Yokoyama, 2008, “Wage Distribution in Japan: 1989-2003,” *Canadian Journal of Economics*, 41 (4) : 1329-1350.
- Mincer, J. A., 1974, *Schooling, Experience, and Earnings*, New York: National Bureau of Economic Research.
- Yamada, K. and D. Kawaguchi, 2015, “The Changing and Unchanged Nature of Inequality and Seniority in Japan,” *Journal of Economic Inequality*, 13 (1) : 129-153.

はまだ・こうじ 元 内閣府経済社会総合研究所 研究官。主な著書に『高齢者雇用の現状と課題』(共著, 労働政策研究・研修機構, 2012)。社会保障論・経済統計専攻。



## 第 5 章

# 家族形成期の夫婦関係の「質」とその後の評価

田中 慶子

(公益財団法人 家計経済研究所 次席研究員)

家族形成期の夫婦関係の「質」が、その後の夫婦関係にどのような差異をもたらすのか、初婚継続カップルを対象に家族形成期と15年後の2時点比較を行った。対象となる初婚継続グループの特徴を確認したところ、脱落グループとくらべて夫婦ともに学歴が高く、夫の家事貢献割合がやや高い傾向があるが、総じて基本属性や夫婦関係の「質」に違いはない。次に家族形成期の夫婦関係満足度の状態別に、夫婦関係の「質」を比較したところ、満足度の高いグループでは、夫の家事貢献割合が高い、コミュニケーションが多く、互いに表出的であり、「個人としての関係」に対して評価が高い。また15年後も満足度の差は維持され、平均より満足度の高いグループでは2時点とも夫の肯定的な評価が持続している人が多かった。

## 1. はじめに

家族形成期の夫婦関係の「質」が、その後の夫婦関係にどのような差異をもたらすのか。本稿では、初婚継続カップルの15年後の状況について記述的な分析を行う。近年、離婚率が上昇傾向にあることや、未婚化、非婚化の進行、女性の就業率の高まりなどを背景として、個人にとって結婚がもつ意味や、夫婦関係のあり方への関心が高まっている。恋愛結婚の普及により愛情を基盤とした結婚が増加した一方で、「夫源病」(石蔵 2012)や「家庭内別居」などの現象にみるように、不和や葛藤の多い夫婦関係の問題も指摘されている。日本では欧米ほど離婚率は高くないことから、夫婦関係の不和がただちに夫婦関係の解消につながるわけではない。しかし離婚に至る夫婦関係も含め、潜在的に緊張の高い夫婦関係が個人の心身の状態や主観的 well-being に及ぼす影響や、家族関係、とくに夫婦関係が子どもの発達に及ぼす(中

長期的な) 影響が関心を集めている。欧米とは様相がやや異なるものの、日本においても良好な夫婦関係が持続する条件や、結婚や夫婦関係が個人にもたらす幸せや葛藤に表される、夫婦関係の「質」が問われるようになってきている。

「消費生活に関するパネル調査」(JPSC) では、夫婦関係に関する項目として、夫と妻の家計貢献や家事・育児の状況だけではなく、夫婦関係の「質」ともいべき夫婦間のコミュニケーションや配偶者についての評価など多面的な測定を行っている。残念なことに後者の質問は、1990年代実施の調査に多く、必ずしも同一項目が、毎年調査されているわけではないため1年ごとの変化をたどることはできないが、同一の夫婦関係を対象として10年以上の間隔をあけた中長期的な推移を観察することが可能なデータセットである。本稿では、その強みを生かして第7回調査(1999年)時点で有配偶だった者を対象として、その時点の夫婦関係の「質」によって3つのグループに分け、それ

ぞれ最新調査（第23回、2015年9月実施）において、夫婦関係の「質」がどのような差異となっており、あらわれているのかを検討する。

## 2. 先行研究

### (1) 夫婦関係の「質」の測定

家族社会学において、夫婦関係や結婚の「質」に対する関心は以前から高く、家族・夫婦の情緒構造や勢力構造として研究が行われてきた。ここで夫婦関係の質とは「夫婦関係の満足、幸福、統合、調整、役割緊張と葛藤、コミュニケーションなどの、夫婦間の相互作用と営為の質に関する諸概念を、それらが共通に夫婦関係の質的な諸次元および評価を表象する点、また密接に相互関連する点から、ひとまとめにした一般概念である」と定義される（上子 1993）。結婚の質の捉え方には、大きく2つの方法があり、1つは満足度のような主観的な判断を問うものであり、もう1つは結婚生活における行動や認知といった実際の行動、実態を問うものである（筒井・永井 2016）。かつての勢力構造のアプローチにおいては、アメリカの研究などを参考に、カップル間のコミュニケーションや、同伴行動の多さにみられる伴侶性、高額の買い物などの際の夫婦の意思決定、価値観の一致などが測定されていた。しかし夫婦の勢力構造の研究は、特定の行動や状況を前提としておりアメリカとカップル文化の違う日本では、夫婦間での相互行為の持つ意味が異なっているため満足度との関連も十分に説明できないし、どのような状態を平等・対等と捉えるか、など測定の方法論的な問題も指摘されている。何よりも、夫婦関係や結婚の「質」という概念が曖昧であり、その対象も不確定である。

これらの課題はあるものの、先行研究においては、結婚満足度や夫婦関係満足度などを指標とし、実態というよりも期待や希望との相対的な評価である満足度によって夫婦関係の「質」を評価する研究が多い。満足度の規定要因や、夫婦（家族）関係の発達に伴う満足度の変化が注目されてきた。満足度の規定要因研究では、社会・経済的

属性による差異や、夫婦関係の実態、とりわけ家事・育児（分担）や夫婦間の情緒的サポートとの関連が注目されてきた。また夫婦関係満足度は結婚当初はハネムーン効果により満足度が高く、子どもの誕生や家事・育児の負担で時間の経過とともに満足度は低下し、空の巣期には再び回復するというU字カーブを描く。大規模な横断調査では、夫婦関係満足度はU字カーブを描くことがくり返し確認されてきた（岩井・佐藤 2002; 稲葉 2004, 2011; 筒井・永井 2016）。だがパネルデータによる分析では必ずしもU字カーブを描かず、右肩下がりとなっている（永井 2011; 田中 2012）。結婚年数の経過に伴う夫婦関係満足度の変化のメカニズムをより詳細に明らかにすることが必要である。また結婚満足度の評価には夫婦間で差があり、妻に比べ夫の方が、夫婦関係を良好なものと評価する傾向もほぼ一貫している（稲葉 2011; 筒井・永井 2016）。なぜ夫婦関係の「質」は非対称となるのか、なぜ妻の満足度が低くても多くの夫婦では関係が維持されるのかを明らかにすることが求められている。

### (2) 夫婦関係満足度と関係の「質」

本稿では、夫婦関係が維持される基盤について、家事・育児以外の要素に再び注目したい。心理学の立場から夫婦関係満足度の研究をレビューした伊藤ら（2014）は、日本の夫婦関係の維持基盤について考える場合、2つの側面を考慮する必要があると指摘する。1つは「役割としての関係」で、結婚生活において、配偶者が役割分担者として重要であるかどうかである。具体的には子どもの親であること、家事・育児の担い手、家計の担い手という指標を示している。もう1つは「個人としての関係」で、道具的な役割を超えた個人としての配偶者が重要であるかどうかに関わる。具体的には性的パートナーと自分の理解者・支え手という指標である。「役割としての関係」の成立が夫婦関係維持の基礎的枠組みであり、「個人としての関係」の質が満足度の高低を規定すると捉えている（伊藤ほか 2014: 110）。この整理に従えば、これまでの夫婦関係満足度の研究は配偶者との「役

割としての関係」と夫婦関係満足度との関連をみているが、「個人としての関係」に該当する内容についても考慮する必要があるだろう。夫婦関係維持の基盤となる親密性、とくに個人にとって配偶者が重要で代替不可能な存在であるかなど、主観的な認知レベルやコミュニケーションなどとしてどのように表れているか、特定のモデルを前提とせずに改めて検討する必要がある。伊藤ら(2014)は、カップルデータの分析から、満足度の低い妻は夫との関係を「役割としての関係」に限定すること、また夫の満足度を実際より過小評価して自分の満足度に近づけ、夫の満足度との均衡を図ろうとすることを明らかにした。横断データから結婚年数によって夫婦間のコミュニケーションや態度も異なることが示されており(粕井 2014)、「個人としての関係」は結婚年数によってどのように変容していくのか、そしてそれが満足度にどのような影響があるのかを検討することが必要である。

### 3. 方法

JPSCでは、調査初期(第9回調査までの隔年)には夫婦の勢力関係に関する質問を設けていた。もちろん測定方法やその背後にある理論には検討課題も多いが、「個人としての関係」を測定している貴重なデータである。そこで本稿では、夫婦の勢力関係に関する質問がある調査回のうち回答者数が多い第7回調査(1999年)を起点として、直近の第23回調査(2015年実施)との両時点ともに有配偶で調査途中で離死別の経験がない、すなわち初婚継続者を主たる分析対象とする(以下では継続グループとする)。ただし、パネル調査であるため分析対象とする継続グループには偏りがあることが懸念される。第7回時点でも回答を継続し(コーホートAでは7回目、コーホートBでは3回目の調査にあたる)、初婚を継続したまま、第23回調査までも継続して回答しているという者に何らかの特徴があるのか確認することが必要である。最初に継続グループと、第7回時点で有配偶であったが、第22回調査までに調査から離脱した脱落グループとの違いを確認する。次に、第7回

調査時点の夫婦関係満足度を基準に、継続グループの結婚年数ごとの平均を算出し、各年の平均よりも夫婦関係満足度が低いグループ、平均とほぼ同じ程度のグループ、平均よりも満足度が高いグループの3つに分けて、グループ間の基本属性および夫婦関係の「質」の状況を比較する。最後に、第7回調査から第23回調査の15年間の夫婦関係の「質」の変化を3グループごとに確認する。

分析に使用する変数は、以下の通りである。

#### (1) 夫婦関係の「質」に関する変数

##### 夫婦関係満足度：

第7回、23回ともに、「あなたは現在の夫婦関係に満足していますか」という質問で、「非常に満足している」～「ふつう」～「まったく満足していない」の5段階で尋ねた。満足しているほど得点が高くなるように5～1点に変換した。

また、主観的指標の参考に、幸福度と生活満足度についても検討する。こちらも第7回、23回ともに尋ねており、それぞれ幸福や満足なほど得点が高くなるよう5～1点に変換した。

##### 家事分担に占める夫の貢献：

第7回調査では「お宅では、次にあげる家事を、どなたがどの程度なさっていますか。合わせて100%になるように数値を記入して下さい」という質問に対して、7つの家事の内容それぞれについて、「あなた」「ご主人」「その他の人」という3つの回答欄が設けられ、3つの合計が100%になるように数字を記入してもらった。家事の内容は、①食事のしたく、②食事の後片付け、③部屋の掃除、④子どもの登校(園)の送り迎え、⑤家庭での子どもの世話、⑥日常的な買い物、⑦家具・家電製品の修理、大工仕事など、の7つである。④子どもの登校(園)の送り迎え、⑤家庭での子どもの世話、⑦家具・家電製品の修理、大工仕事などの3つについては「していない」「子どもはいない」という非該当の選択肢を提示しているため、それらを除外した4つの家事について「あなた」と「ご主人」2つの合計を100%として、そのうちの夫の分担割合を算出した。さらに4つの夫の分担割合の累積合計も算出した。



### 大切にしている時間：

第7回調査では、「次のような1日の時間のうち、あなたがご主人と一緒に過ごすために大切にしている時間はありますか。それは合計すると1日に何時間くらいになりますか」という質問に対し「食事の時間」や「くつろぎの時間」など家庭生活の状況について多くの選択肢が提示され、本人および配偶者の平日・休日別にその有無を尋ね、一緒に過ごすために大切にしている時間の合計を尋ねている。ここでは、本人も配偶者も仕事がない日(休日)の回答を用いる。

### 会話時間：

第7回調査では「あなたとご主人の会話は1日に合計すると何時間くらいになりますか」という質問に対し、本人および配偶者の平日・休日別に時間の記入を求めている。ここでは、「大切にしている時間」と同様に、本人も配偶者も仕事がない日の回答を用いる。

### 会話内容：

第7回調査では「ご主人との会話の内容についてお尋ねします」として、以下の3つの状況を尋ねている。①「あなたは、ご主人に心の悩みや楽しい体験などを話しますか」(妻→夫)。②「では、ご主人はあなたに心の悩みや楽しい体験などを話しますか」(夫→妻)。③「ご主人とは、視野が広がり刺激を受けるような話をしますか」である。選択肢は「よく話す／する」～「ほとんど話さない／しない」の4段階である。

### 夫のイメージ：

第7回調査では「あなたは、ご主人のことを、どの程度信頼していますか」という質問に対して、①経済力のある人、②社会人として常識のある人、③社会人として倫理感のある人、④子育てや人生に共に立ち向かえる人、⑤あなたのことを大切に考えている人、⑥心の支えになる人、という6領域について尋ねている。選択肢は「非常に信頼できる」～「ふつう」～「まったく信頼できない」までの5段階(0～4点)で、ここでは得点が高いほど信頼しているように変換して用いた。

一方、第23回調査では「あなたにとって、今のご主人はどのような存在ですか。以下のイメージ

についてあなたのお考えを選んでください」という質問に対して、16種類の夫のイメージを挙げ、そう思う～そう思わないまでの4段階でそれぞれについて回答してもらった。そのうえで、「あなたのご主人に最も近いイメージはどれですか」と尋ねて16種類のイメージの中から1つを選択する質問である。

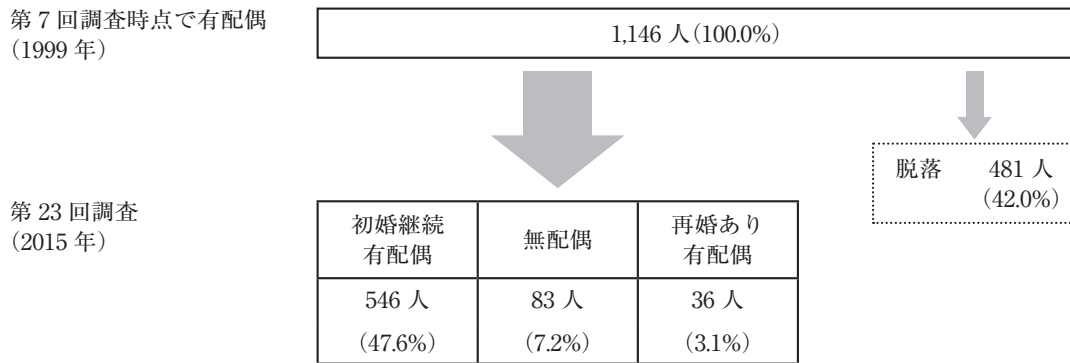
本稿では、16種類すべてをみることは煩雑になるので、第7回調査の質問内容と類似の「経済的に頼りになる人」「人生に共に立ち向かう人」「心の支えになる人」、さらに全体で最も近いイメージの上位に選ばれる「一心同体の人」「空気のような存在」「家事や育児に協力的な人」、またネガティブな側面を測定している「自由を束縛する人」「経済的に頼りない人」「そりがあわない」という項目の合計9つを取り上げる。

なお、第7回調査では夫が信頼できるかという質問であり、第23回調査では同意の度合いを回答してもらっており、測定している内容が異なっていることに留意が必要である。そのため2時点の比較という点では、選択肢として示している「経済的に頼りになる人」「人生に共に立ち向かう人」「心の支えになる人」という3つのイメージに対して肯定的に評価しているか、否定的に評価しているかという分類の移動をみるにすぎないが、選択肢の内容はほぼ同一であり、どのような態度の変化があるのかを比較する意味はあると考えている。

### 意思決定：

第7回調査では「次の①から⑦の項目について、最終的にお決めになるのはご夫婦のどちらですか」という質問をした。具体的な項目としては、①貯蓄方法・貯蓄額、②値段のはる大きな買い物、③夫婦の性生活、④家族のレクリエーション、⑤子どものお稽古事・しつけ、⑥親戚づきあい、⑦あなたの仕事・生活設計、である。これらの内容について、以下の5つの選択肢を提示している。あなただけで決める、夫に相談してあなたが決める、夫とあなたが相談して決める、あなたに相談して夫が決める、夫だけで決める。このうち、夫婦間での双方向的なコミュニケーションである「夫

図表-1 第7回調査で有配偶の対象者の遷移



とあなたが相談して決める」の割合に注目する。

#### 離婚に対する考え：

第7回調査では、離婚に対する考えとして以下のような質問をしている。「近年、離婚が増加してきましたが、あなたはそれについてどうお考えになりますか。あなたのお考えに最も近いものを1つお答えください」。選択肢は、「問題のある結婚生活なら解消したほうがよい」、「自分の生き方や気持ちを大切にするのは悪いことではない」、「離婚を悪いことだとする考えが減ったので、仕方ない」、「子どもが犠牲になるので、よくない」、「どんなことがあっても、結婚生活はまっとうすべきだ」の5つである。

#### (2) 基本属性

継続グループと脱落グループの比較のために、脱落に関する先行研究を参考に、以下の回答者の基本属性を検討した。

①居住地：第7回調査時点での居住地を、都区および政令市、その他市、町村、海外その他に分類した。②住宅：持ち家か借家かの2区分で比較した。③世帯類型：夫婦のみ、夫婦と子、夫婦と親、夫婦と子と親の4つに分類した。④妻と夫の年齢。⑤結婚年数：結婚年齢をもとに作成した。⑥子ども数および末子のステージ：人数は、第7回調査時に世帯票に記入のあった人数を用いる。末子のステージは、0歳、1～3歳、4歳～入学前、小学1～3年、小学4～6年、中学、高校以上、子どもなしに区分した。⑦妻と夫の学歴。⑧妻の就業状態：第7回調査時点の妻の就業状態を、有職（休

業中も含む）、専業主婦、その他の3区分とした。

## 4. 結果

最初に、第7回調査と第23回調査の2時点での遷移を確認する。図表-1に示すように、第7回調査時点で有配偶は1,146人であった。そのうち、第23回調査には回答がない、調査途中での脱落グループは481人（42.0%）である。第23回までの調査継続者のうち、この間に無配偶に変化していたのは83人（7.2%）、調査期間中に途中で無配偶に変化し、再び有配偶となっているのは36人（3.1%）であった<sup>1)</sup>。

#### (1) 継続グループと脱落グループの比較

では、継続グループと脱落グループでは、基本属性や、第7回調査時点での夫婦関係の「質」に何か違いがあるのだろうか。関係の悪いカップルは別居や離婚等で、調査から脱落、あるいは非該当になるため、第23回調査まで回答が継続している継続グループは、安定的な夫婦関係の人々に偏ってしまっている可能性がある。脱落以前の状態で両者に違いはあるのか、継続グループと脱落グループの基本属性の比較を図表-2にまとめて示す。先述の基本属性についてみると、2つのグループで第7回調査時点での居住地、住宅、世帯類型、妻の年齢、夫の年齢、結婚年数、子ども数、妻の就業状態には違いはなかったが、末子のステージおよび妻と夫の学歴はグループ間で差があった。末子ステージについて、脱落グループにくらべ継



図表-2 継続グループと脱落グループの第7回調査時点での属性

|        |            | 有配偶継続 | 脱落    |                   |
|--------|------------|-------|-------|-------------------|
| 居住地    | 都区・政令市     | 21.6% | 21.0% | n.s               |
|        | その他市       | 58.1% | 55.9% |                   |
|        | 町村         | 19.8% | 23.1% |                   |
|        | 海外         | 0.5%  | 0.0%  |                   |
| 住宅     | 持ち家        | 66.2% | 64.4% | n.s               |
|        | 借家         | 33.8% | 35.6% |                   |
| 世帯類型   | 夫婦のみ       | 11.8% | 10.4% | n.s               |
|        | 夫婦と子       | 50.5% | 56.5% |                   |
|        | 夫婦と親       | 3.1%  | 2.5%  |                   |
|        | 夫婦と子と親     | 34.6% | 30.6% |                   |
| 妻の平均年齢 |            | 33.7  | 33.9  | n.s               |
| 夫の平均年齢 |            | 36.3  | 37.0  | n.s               |
| 結婚年数   |            | 8.9   | 9.4   | n.s               |
| 子ども数平均 |            | 1.73  | 1.75  | n.s               |
| 末子ステージ | 0 歳        | 9.2%  | 8.3%  | $\chi^2 = 14.2^*$ |
|        | 1 ～ 3 歳    | 25.3% | 27.2% |                   |
|        | 入学前        | 16.3% | 17.7% |                   |
|        | 小学 1 ～ 3 年 | 19.8% | 14.8% |                   |
|        | 小学 4 ～ 6 年 | 10.6% | 12.3% |                   |
|        | 中学         | 3.1%  | 6.7%  |                   |
|        | 高校以上       | 0.7%  | 0%    |                   |
|        | 子どもなし      | 15.0% | 12.9% |                   |
| 妻の学歴   | 中学など       | 3.8%  | 6.2%  | $\chi^2 = 8.41^*$ |
|        | 高校         | 43.0% | 48.6% |                   |
|        | 専門・短大      | 40.8% | 35.8% |                   |
|        | 大学・大学院     | 12.3% | 9.4%  |                   |
| 夫の学歴   | 中学など       | 9.9%  | 11.4% | $\chi^2 = 7.93^*$ |
|        | 高校         | 38.1% | 44.3% |                   |
|        | 専門・短大      | 16.8% | 11.9% |                   |
|        | 大学・大学院     | 35.2% | 32.4% |                   |
| 妻の就業状態 | 有職（休業中）    | 49.8% | 52.4% | n.s               |
|        | 専業主婦       | 49.5% | 47.0% |                   |
|        | 学生・その他     | 0.8%  | 0.6%  |                   |
|        | 有職のうち正規の割合 | 40.8% | 39.6% |                   |

注: \*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001

継続グループの方が子どものいない人がやや多い。一方で（結婚年数に違いはないが）末子の学齢が高い、すなわち相対的に出産のタイミングが早い傾向がみられる。また、学歴については夫も妻も、継続グループの方が大学・大学院卒が多く、脱落グループでは高校以下の割合が多くなっている。

次に、夫婦関係の「質」の各項目について、両グループを比較したのが図表-3である。第7回時点での夫婦関係満足度、生活満足度には差がない

が、幸福感は継続グループの方が高い傾向がみられる。統計的に有意な差があったのは、家事分担に占める夫の貢献の5項目のうち「食事のしたく」、会話内容のうち「刺激を受けるような話」の2つであった。「食事のしたく」について、脱落グループよりも継続グループの方が夫の貢献比率がわずかながら高い。また夫と「視野が広がり刺激を受けるような話」をする頻度については、する／しないの2区分でみると脱落グループの方が刺激を

図表-3 継続グループと脱落グループの第7回調査時点での夫婦関係の状況

|                      |             | 有配偶継続 | 脱落    |                      |
|----------------------|-------------|-------|-------|----------------------|
| 夫婦関係満足度              | 平均          | 3.74  | 3.65  | n.s.                 |
|                      | 1 点         | 1.8%  | 2.7%  |                      |
|                      | 2 点         | 7.9%  | 9.4%  |                      |
|                      | 3 点         | 26.5% | 27.1% |                      |
|                      | 4 点         | 41.5% | 42.0% |                      |
|                      | 5 点         | 22.2% | 18.8% |                      |
| 幸福感 (1 ～ 5 点)        | 平均          | 4.09  | 3.97  | F=5.6*               |
| 生活満足度 (1 ～ 5 点)      | 平均          | 3.62  | 3.52  | n.s.                 |
| 家事分担に占める夫の貢献         | 食事のしたく      | 4.4   | 2.9   | F=5.3*               |
|                      | 食事の後片付け     | 5.9   | 4.8   | n.s.                 |
|                      | 部屋の掃除       | 7.2   | 6.7   | n.s.                 |
|                      | 日常の買い物      | 9.8   | 8.6   | n.s.                 |
|                      | 4 項目合計      | 27.4  | 23.0  | n.s.                 |
| 大切にしている時間 (休日)       | (平均・分)      | 361.3 | 347.6 | n.s.                 |
|                      |             | 6:01  | 5:47  |                      |
| 会話時間 (休日)            | (平均・分)      | 241.1 | 231.2 | n.s.                 |
|                      |             | 4:01  | 3:51  |                      |
| 悩みや楽しい体験を話す<br>(妻→夫) | ほとんど話さない    | 5.1%  | 5.4%  | n.s.                 |
|                      | あまり話さない     | 9.7%  | 12.7% |                      |
|                      | 時々話す        | 30.6% | 34.6% |                      |
|                      | よく話す        | 54.5% | 47.3% |                      |
| 悩みや楽しい体験を話す<br>(夫→妻) | ほとんど話さない    | 6.4%  | 9.8%  | n.s.                 |
|                      | あまり話さない     | 18.3% | 14.4% |                      |
|                      | 時々話す        | 40.9% | 40.8% |                      |
|                      | よく話す        | 34.3% | 35.0% |                      |
| 刺激を受けるような話           | ほとんどしない     | 7.9%  | 12.5% | $\chi^2 = 13.8^{**}$ |
|                      | あまりしない      | 31.0% | 23.4% |                      |
|                      | 時々する        | 46.6% | 52.2% |                      |
|                      | よくする        | 14.5% | 11.9% |                      |
| 夫のイメージ(0 ～ 4 点・平均)   | 経済力         | 2.72  | 2.68  | n.s.                 |
|                      | 常識          | 2.89  | 2.83  | n.s.                 |
|                      | 倫理観         | 2.88  | 2.77  | n.s.                 |
|                      | 共に立ち向かう     | 2.75  | 2.67  | n.s.                 |
|                      | 大切に考える      | 2.91  | 2.87  | n.s.                 |
|                      | 心の支え        | 2.93  | 2.86  | n.s.                 |
| 意思決定・「相談で決める」の割合     | 貯蓄方法・貯蓄額    | 31.1% | 32.0% |                      |
|                      | 大きな買い物      | 64.5% | 63.0% |                      |
|                      | 夫婦の性生活      | 59.5% | 61.5% |                      |
|                      | 家族のレクリエーション | 62.6% | 61.7% |                      |
|                      | 親戚づきあい      | 63.2% | 65.3% |                      |
|                      | 妻の仕事・生活設計   | 37.4% | 35.8% |                      |
| 離婚に対する考え             | 問題あれば解消     | 63.7% | 56.8% |                      |
|                      | 生き方や気持ち     | 17.7% | 23.4% |                      |
|                      | 仕方がない       | 1.7%  | 2.5%  |                      |
|                      | 子どもが犠牲      | 16.4% | 14.9% |                      |
|                      | まっとうすべき     | 0.6%  | 2.3%  |                      |

注: \*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001

図表-4 夫婦関係満足度のグループ別 回答者の基本属性

|           |            | 第7回調査時点の夫婦関係満足度 |       |        |                   |
|-----------|------------|-----------------|-------|--------|-------------------|
|           |            | 平均より低い          | 平均的   | 平均より高い |                   |
| 妻の年齢（平均）  |            | 34.1            | 33.4  | 33.7   | n.s.              |
| 夫の年齢（平均）  |            | 36.8            | 35.9  | 36.5   | n.s.              |
| 結婚年数（平均）  |            | 9.4             | 8.5   | 8.8    | n.s.              |
| 子ども数（平均）  |            | 1.85            | 1.61  | 1.76   | n.s.              |
| 末子ステージ    | 0歳         | 10.3%           | 9.5%  | 8.0%   | $\chi^2 = 24.6^*$ |
|           | 1～3歳       | 24.5%           | 28.4% | 22.9%  |                   |
|           | 入学前        | 15.5%           | 14.4% | 19.1%  |                   |
|           | 小学1～3年     | 27.1%           | 12.4% | 21.3%  |                   |
|           | 小学4～6年     | 11.6%           | 13.4% | 6.9%   |                   |
|           | 中学         | 1.9%            | 3.5%  | 3.7%   |                   |
|           | 高校以上       | 0.6%            | 1.0%  | 0.5%   |                   |
|           | 子どもなし      | 8.4%            | 17.4% | 17.6%  |                   |
| 妻の学歴      | 中学など       | 5.2%            | 3.0%  | 3.7%   | $\chi^2 = 15.6^*$ |
|           | 高校         | 49.7%           | 43.8% | 37.2%  |                   |
|           | 専門・短大      | 38.7%           | 42.8% | 40.4%  |                   |
|           | 大学・大学院     | 6.5%            | 10.4% | 18.6%  |                   |
| 夫の学歴      | 中学など       | 12.3%           | 10.0% | 8.0%   | n.s.              |
|           | 高校         | 37.4%           | 39.3% | 37.8%  |                   |
|           | 専門・短大      | 20.0%           | 15.4% | 14.9%  |                   |
|           | 大学・大学院     | 30.3%           | 35.3% | 39.4%  |                   |
| 妻の就業状態    | 有職（休業中）    | 47.1%           | 50.7% | 50.5%  | n.s.              |
|           | 専業主婦       | 52.3%           | 49.3% | 47.9%  |                   |
|           | 学生・その他     | 0.6%            | 0.0%  | 1.6%   |                   |
|           | 有職のうち正規の割合 | 32.2%           | 46.8% | 40.0%  |                   |
| 結婚までの交際期間 | 半年未満       | 13.0%           | 6.5%  | 10.1%  |                   |
|           | 1年以内       | 15.6%           | 22.9% | 32.4%  |                   |
|           | 2年以内       | 27.9%           | 28.9% | 21.3%  |                   |
|           | 3年以内       | 14.9%           | 11.9% | 11.7%  |                   |
|           | 3～5年       | 15.6%           | 16.4% | 11.2%  |                   |
|           | 5年以上       | 13.0%           | 13.4% | 13.3%  |                   |

注: \*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001

受けるような話を「する」が多くなるが(脱落グループ:時々する52.2%+よくする11.9%=64.1%、継続グループ:同46.6%+14.5%=61.1%)、脱落グループでは「ほとんどしない」が多く、両者では内訳の構成がやや異なる。全体の傾向としては第7回調査時点での夫婦関係の「質」は、脱落グループの方が顕著に夫婦関係が悪いとは言えないものの、継続グループの方が夫の家事貢献がやや高い、休日の会話時間が長いなどの傾向がみられ、夫婦の伴侶性や同伴行動といわれる側面での差がみら

れる。また継続グループでは、離婚について「問題のある結婚生活なら解消したほうがよい」という意見がやや多くなっており、夫婦関係に対する基本的な考え方がやや異なっている可能性も示唆される。

## (2) 家族形成期の夫婦関係満足度

次に、第23回調査まで継続している対象者に限定して、第7回調査時点での夫婦関係満足度によって、その後の夫の評価や夫婦関係がどのように異

図表-5 夫婦関係満足度のグループ別 第7回調査時点の夫婦関係の「質」

|                      |             | 第7回調査時点の夫婦関係満足度 |       |        |                        |
|----------------------|-------------|-----------------|-------|--------|------------------------|
|                      |             | 平均より低い          | 平均的   | 平均より高い |                        |
| 夫婦関係満足度              | 平均          | 2.59            | 3.79  | 4.64   | F=723.6***             |
| 幸福感（1～5点）            | 平均          | 3.54            | 4.09  | 4.54   | F=115.0***             |
| 生活満足度（1～5点）          | 平均          | 2.99            | 3.64  | 4.11   | F=93.1***              |
| 家事分担に占める夫の貢献         | 食事のしたく      | 3.2             | 4.1   | 5.7    | n.s.                   |
|                      | 食事の後片付け     | 3.1             | 5.8   | 8.2    | F=5.43**               |
|                      | 部屋の掃除       | 4.7             | 7.8   | 8.5    | n.s.                   |
|                      | 日常の買い物      | 6.8             | 11.4  | 10.7   | F=4.23*                |
|                      | 4項目合計       | 17.8            | 29.4  | 33.1   | F=5.60**               |
|                      |             |                 |       |        |                        |
| 大切にしている時間（休日）        | （平均・分）      | 244.1           | 385.0 | 436.2  | F=23.5***              |
|                      |             | 4:04            | 6:24  | 7:16   |                        |
| 会話時間（休日）             | （平均・分）      | 159.1           | 239.8 | 307.1  | F=19.6***              |
|                      |             | 2:39            | 3:59  | 5:07   |                        |
| 悩みや楽しい体験を話す<br>（妻→夫） | ほとんど話さない    | 14.8%           | 1.5%  | 1.1%   | $\chi^2 = 134.7^{***}$ |
|                      | あまり話さない     | 24.5%           | 5.0%  | 2.7%   |                        |
|                      | 時々話す        | 37.4%           | 31.3% | 23.9%  |                        |
|                      | よく話す        | 23.2%           | 62.2% | 72.3%  |                        |
| 悩みや楽しい体験を話す<br>（夫→妻） | ほとんど話さない    | 17.4%           | 2.0%  | 2.1%   | $\chi^2 = 86.7^{***}$  |
|                      | あまり話さない     | 29.7%           | 15.9% | 11.7%  |                        |
|                      | 時々話す        | 38.7%           | 44.8% | 38.3%  |                        |
|                      | よく話す        | 14.2%           | 37.3% | 47.9%  |                        |
| 刺激を受けるような話           | ほとんどしない     | 21.9%           | 3.0%  | 1.6%   | $\chi^2 = 129.1^{***}$ |
|                      | あまりしない      | 47.1%           | 29.4% | 19.1%  |                        |
|                      | 時々する        | 26.5%           | 57.2% | 52.1%  |                        |
|                      | よくする        | 4.5%            | 10.4% | 27.1%  |                        |
| 夫の信頼（0～4点・平均）        | 経済力         | 2.16            | 2.74  | 3.16   | F=56.93***             |
|                      | 常識          | 2.27            | 2.91  | 3.37   | F=72.23***             |
|                      | 倫理観         | 2.34            | 2.86  | 3.34   | F=58.23***             |
|                      | 共に立ち向かう     | 1.88            | 2.82  | 3.37   | F=137.4***             |
|                      | 大切に考える      | 2.01            | 3.00  | 3.54   | F=154.6***             |
|                      | 心の支え        | 1.94            | 3.08  | 3.58   | F=173.4***             |
| 意思決定・「相談で決める」の割合     | 貯蓄方法・貯蓄額    | 18.7%           | 36.8% | 35.6%  |                        |
|                      | 大きな買い物      | 54.2%           | 66.7% | 70.7%  |                        |
|                      | 夫婦の性生活      | 49.7%           | 63.7% | 63.3%  |                        |
|                      | 家族のレクリエーション | 51.6%           | 64.7% | 69.7%  |                        |
|                      | 親戚づきあい      | 52.3%           | 66.7% | 69.1%  |                        |
|                      | 妻の仕事・生活設計   | 31.6%           | 35.8% | 44.1%  |                        |
| 離婚に対する考え             | 問題あれば解消     | 61.3%           | 65.8% | 63.3%  | n.s.                   |
|                      | 生き方や気持ち     | 20.6%           | 19.1% | 13.8%  |                        |
|                      | 仕方がない       | 3.2%            | 0.0%  | 2.1%   |                        |
|                      | 子どもが犠牲      | 13.5%           | 15.1% | 20.2%  |                        |
|                      | まっとうすべき     | 1.3%            | 0.0%  | 0.5%   |                        |

注: \*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001

図表-6 第7回と第23回時点 主観的指標の結果 全体(対応のある t 検定)

|         | 第 7 回 (平均) | 第 23 回 (平均) | 相関係数 | t 検定     |
|---------|------------|-------------|------|----------|
| 夫婦関係満足度 | 3.75       | 3.19        | 0.42 | 12.75*** |
| 幸福感     | 4.09       | 3.67        | 0.36 | 11.65*** |
| 生活満足度   | 3.62       | 3.39        | 0.33 | 5.179*** |

注: \*\*\*p<.001

なるのかを観察する。

分析に先立ち、第7回調査時点での基本属性や夫婦関係の「質」と夫婦関係満足度との関連を確認しておこう。先述の通り、夫婦関係満足度は、結婚経過年数によって変化する。継続グループは第7回調査時点では妻年齢は26～40歳の範囲であるが、結婚年数は、0年（新婚）～21年までと幅広く、調査時点の夫婦関係満足度の水準は結婚年数の影響を受けてしまう。そのため、ここでは、継続グループの結婚年数別の夫婦関係満足度の平均値を算出して、各回答者の回答との差分を計算し、結婚年数別の平均値より低い／ほぼ平均／平均値より高い、という3つのグループに分ける。これにより、同様の結婚経過年数の中で、各個人の夫婦関係の相対的な評価を捉えられる<sup>2)</sup>。

図表-4に3つのグループごとに回答者の基本属性を比較した結果をまとめている。基本属性について妻と夫の年齢、結婚年数、子ども数に違いはない。統計的に有意な差があったのは、末子ステージ、妻の学歴であった。末子ステージは、グループ間で異なり、夫婦関係満足度がほぼ平均、あるいは平均より高いグループでは、子どもなしが2割近くと多くなっている。妻の学歴構成は夫婦関係満足度が平均より高いグループでは大学卒が多く、低いグループでは高卒までの割合が多くなっている。ただし、夫の学歴構成には違いがなかった。また、妻の就業状態や、結婚までの交際期間(第19回調査で質問)による違いもみられなかった。

図表-5には、3つのグループ別に、第7回調査時点での夫婦関係の「質」の状況を比較した。最初に第7回調査時点での夫婦関係満足度は、平均値より低い／ほぼ平均／平均値より高いグループの順に、2.59、3.79、4.64であった。幸福感、生活満足度についても第7回調査時点の夫婦関係満

足度が平均より高いグループが最も高く、順にほぼ平均、平均より低いグループである。夫の家事貢献については、食事の後片付け、日常の買い物ではグループ間に違いがあり、ほぼ平均、平均より高いグループほど夫の家事貢献比率が高い。大切にしている時間や休日の会話時間においても差があり、悩みや楽しい体験を話す頻度も異なっている。夫婦関係満足度が平均より低いグループでは、他の2グループに比べて夫とのコミュニケーション量が少なく、悩みや楽しい体験を話すという表出的なコミュニケーションも少ない<sup>3)</sup>。夫のイメージ（信頼）についても3グループで差があり、いずれの項目でも夫婦関係満足度が平均より高いグループでは肯定的な評価で、平均より低いグループでは否定的な評価であった。「経済力のある人」や「社会人としての常識」での差は大きくないが、「心の支えになる人」「あなたのことを大切に考えている人」といった項目での差は大きく、夫婦関係のうち「役割としての関係」よりも「個人としての関係」の質の評価の差が、満足度と関わっていることが推察される。

### (3) 家族形成期の夫婦関係満足度とその後の夫婦関係の「質」

最後に、先述の第7回調査での夫婦関係満足度の3グループ別に、15年間隔があいた第23回調査時点での夫婦関係の「質」をみてみよう。分析に先立ち、継続グループの2時点での夫婦関係満足度の平均をみると(図表-6)、第7回(結婚年数の平均8.9年)では3.75点であったが第23回では3.19点と低下している。これは先行研究が示すように結婚年数の経過に伴う低下によるものと考えられる。参考までに幸福感と生活満足度についても平均は低下しており、加齢に伴う否定的な評価への

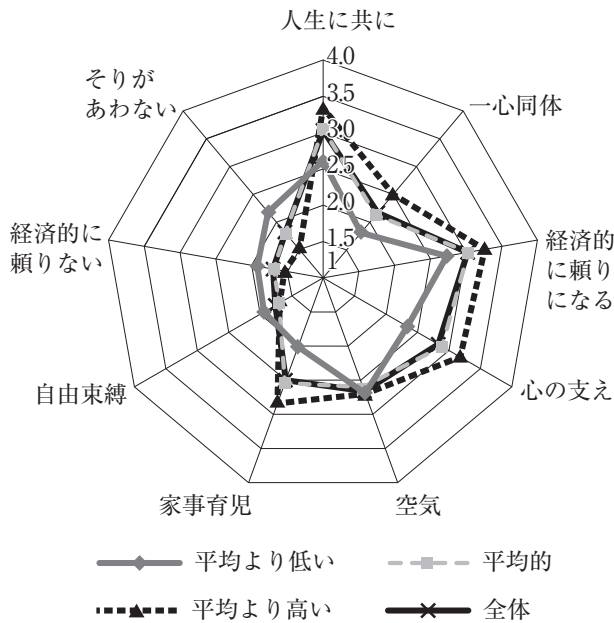


図表-7 夫婦関係満足度のグループ別 2時点の主観的指標の変化

|         |        | 第7回調査時点の夫婦関係満足度 |       |        |           |
|---------|--------|-----------------|-------|--------|-----------|
|         |        | 平均より低い          | 平均的   | 平均より高い |           |
| 夫婦関係満足度 | 第23回時点 | 2.68            | 3.21  | 3.57   | F=41.5*** |
|         | 23回-7回 | 0.09            | -0.58 | -1.07  | F=66.3*** |
| 幸福感     | 第23回時点 | 3.35            | 3.71  | 3.89   | F=23.8*** |
|         | 23回-7回 | -0.19           | -0.38 | -0.64  | F=13.0*** |
| 生活満足度   | 第23回時点 | 3.09            | 3.39  | 3.64   | F=17.4*** |
|         | 23回-7回 | 0.11            | -0.25 | -0.47  | F=14.0*** |

注: \*\*\*p<.001

図表-8 夫のイメージのグループ間比較



変化を確認できる。

先ほど用いた第7回調査時点の夫婦関係満足度による3つのグループ別の結果を図表-7にまとめている。第7回時点で平均より高かったグループでは15年経過しても夫婦関係満足度は最も高く3.57、ほぼ平均のグループは3.21、平均より低いグループでは2.68である。2時点の差の平均をみると、平均より低いグループではプラスになるが、他の2グループはマイナスとなっている。幸福感と生活満足度についても確認しておくと、幸福感はいずれのグループもマイナスとなったが、生活満足度は夫婦関係満足度と同様に水準が最も低いが、2時点の差は平均より低いグループのみプラスになり、肯定的な方向への移動が多いことを示している。

夫のイメージについて比較すると（図表-8）、いずれの項目でも夫婦関係満足度が平均より高かったグループでは、「人生に共に立ち向かう人」「一心同体の人」「経済的に頼りになる人」「心の支えになる人」「家事や育児に協力的な人」という、良い夫のイメージの項目では、「そう思う」と肯定する人が多く、またネガティブな側面を測定している「自由を束縛する人」「経済的に頼りない人」「そりがあわない」という項目では「そう思わない」という否定する人が多かった。ただし「空気のような存在」のみ、グループ間での差がない。夫のイメージに最も近いものを1つ選択する質問で、上位3つの回答は、平均より高いグループとほぼ平均のグループでは同じになり、第1位「人生に共に立ち向かう人」（高いグループ：29.3%、平均グループ：27.9%）、第2位「心の支え」（高いグループ：21.3%、平均グループ：14.9%）、第3位「空気のような存在」（高いグループ：11.2%、平均グループ：12.4%）であった。一方、低いグループでは第1位は「空気のような存在」（22.6%）、第2位「人生に共に立ち向かう人」（15.5%）、第3位「そりがあわない」（12.9%）の順となっている。「人生に共に立ち向かう人」と「空気のような存在」が選択されるという点では3グループ共通だが、その出現比が異なる。また第7回調査時点で夫婦関係満足度が低かったグループでは、15年後のイメージでも否定的な項目が上位にある。（関係満足度の水準自体はやや回復していても）夫婦関係の潜在的な緊張や不和が存在しているのか、あるいは他のグループとは関係性を表出するスタイルや回答態度が異なっている可能性を示唆している。

図表-9-1 夫のイメージ「経済力のある人」の移動(全体%)

|             | 第7回調査時点の夫婦関係満足度 |       |        |
|-------------|-----------------|-------|--------|
|             | 平均より低い          | 平均的   | 平均より高い |
| 信頼できない→思わない | 12.4%           | 3.0%  | 0.5%   |
| 信頼できない→思う   | 7.2%            | 1.0%  | 0.5%   |
| ふつう→思わない    | 16.3%           | 10.0% | 4.8%   |
| ふつう→思う      | 35.3%           | 24.4% | 18.2%  |
| 信頼できる→思わない  | 4.6%            | 10.9% | 8.6%   |
| 信頼できる→思う    | 24.2%           | 50.7% | 67.4%  |

図表-9-2 夫のイメージ「人生に共に立ち向かう人」の移動(全体%)

|             | 第7回調査時点の夫婦関係満足度 |       |        |
|-------------|-----------------|-------|--------|
|             | 平均より低い          | 平均的   | 平均より高い |
| 信頼できない→思わない | 17.0%           | 1.5%  | 0.0%   |
| 信頼できない→思う   | 15.7%           | 2.5%  | 0.0%   |
| ふつう→思わない    | 16.3%           | 7.0%  | 4.3%   |
| ふつう→思う      | 30.1%           | 24.9% | 9.7%   |
| 信頼できる→思わない  | 3.3%            | 9.5%  | 8.6%   |
| 信頼できる→思う    | 17.6%           | 54.7% | 77.4%  |

図表-9-3 夫のイメージ「心の支えになる人」の移動(全体%)

|             | 第7回調査時点の夫婦関係満足度 |       |        |
|-------------|-----------------|-------|--------|
|             | 平均より低い          | 平均的   | 平均より高い |
| 信頼できない→思わない | 20.8%           | 1.0%  | 0.0%   |
| 信頼できない→思う   | 8.4%            | 1.0%  | 0.0%   |
| ふつう→思わない    | 21.4%           | 10.4% | 3.7%   |
| ふつう→思う      | 25.3%           | 10.4% | 5.3%   |
| 信頼できる→思わない  | 7.8%            | 16.9% | 15.0%  |
| 信頼できる→思う    | 16.2%           | 60.2% | 75.9%  |

第7回調査で尋ねている「経済力のある人」「人生に共に立ち向かう人」「心の支えになる人」3項目について2時点間での評価の遷移をみてみよう。ここでは、第7回調査の5つの選択肢を「信頼できない」「ふつう」「信頼できる」の3つに再区分し、第23回調査の方も4つの選択肢を「思わない」「思う」の2区分として、2時点の回答の組み合わせを図表-9-1～3に示す。いずれの項目においても夫婦関係満足度が平均より低いグループでは、信頼できない・思わないという否定的な評価のままという人が多い。他方、残りの2つのグループで「信頼できる・思う」という肯定的な評価のままという人が半数以上を占めており、満足度が平均以下のグループの2割前後と比べて差がある。一方で、第7回調査時点よりイメージが悪い方に遷移している人（信頼できる・思わない、

ふつう・思わないの組み合わせ）や、良い方に遷移している人（信頼できない・思う、など）はいずれのグループでも一定数おり、経年により夫のイメージが変化している人と、15年を経ても夫への評価が変わらない人がいることを確認できる。全体として第7回時点で夫婦関係満足度が平均より高いグループでは、いずれの項目でも「信頼できる・思う」で変化なしという人が顕著に多く、「個人としての関係」に対する評価が高く、安定的であることが、夫婦関係満足度の高さに影響していると思われる。

## 5. まとめと今後の課題

本稿では家族形成期の夫婦関係の「質」が、その後の夫婦関係にどのような差異をもたらすのか、

JPSCの初婚継続カップルの15年後の状況について記述的な分析を行った。まず継続グループの特徴を確認したところ、脱落グループとくらべて夫婦ともに学歴が高く、夫の家事貢献割合がやや高いといった傾向がみられたが、全体としては学歴を除き基本属性や夫婦関係の「質」に違いはない。次に家族形成期の夫婦関係満足度の状態別に、夫婦関係の「質」を比較したところ、満足度の高いグループでは、夫の家事貢献割合が高い、休日の夫婦でのコミュニケーションが多く、互いに表出的なコミュニケーションであり、夫のイメージも信頼が高いが、とくに「役割としての関係」よりも「個人としての関係」についての信頼が高いことが明らかとなった。また夫婦関係満足度の違いは15年間の間隔をあけても維持されており、平均より満足度の高いグループでは2時点でも肯定的な評価が持続している人が多かった。

本稿の分析は2時点の比較であり、また両時点では夫婦関係の「質」（夫のイメージについて）の測定方法が少し異なっていることから、結果の解釈には留意が必要であるが、家族形成期の夫婦関係満足度にもみる夫婦関係の状態が15年間という期間を経ても持続していること、そして家族形成期における夫婦関係満足度と、15年後の夫に対するイメージの評価とは関連がみられるが、唯一「空気のような存在」という項目だけは、差がなかった。「空気のような存在」というイメージは、語意にあるネガティブなものではなく、満足ゆえの心地よい関係性や、空気のように自然で常に存在しているといったポジティブな評価の選択肢として理解されているのかもしれない。測定内容の信頼性や妥当性の確認、そして「個人としての関係」はどのような領域・項目から構成されるのか、理論的な議論も必要であろう。パネル調査ゆえ、調査当初に設定した質問項目を変更すること、あるいは新規に追加することは容易ではなく、新しい研究課題に応えるには制約が大きい。パネルデータだからこそ夫婦関係の「質」の変化を詳細に観察できるメリットをより生かした分析を今後も試みてみたい。

## 注

- 1) 第7回調査の有配偶のうち、10.3%が離死別を経験していることになる。脱落の理由に、離死別やそれに伴う転居なども含むことを考慮すると、JPSCは全体の動向に比べやや離死別発生率が高い傾向がある。この理由については、改めて検討したい。
- 2) ただし、夫婦関係満足度は初期値（ここでは第7回調査時点）が低い場合は、その後、高低の両方向に移動が可能であるが、初期値が最も高い場合はその後の推移は維持か、低下のみとなるため注意が必要である。
- 3) もちろん妻の夫婦関係満足度と夫婦間のコミュニケーションの因果、そして夫婦間のコミュニケーションのあり方は双方向的規定されるので、一方向的な解釈であり留意が必要である。

## 文献

- 石蔵文信, 2012, 『妻の病気の9割は夫がつくる——医師が教える「夫源病」の治し方』マキノ出版。
- 伊藤裕子・池田政子・相良順子, 2014, 『夫婦関係と心理的健康——子育て期から高齢期まで』ナカニシヤ出版。
- 稲葉昭英, 2004, 「夫婦関係のパターンと変化」渡辺秀樹・嶋崎尚子・稲葉昭英編『現代家族の構造と変容——全国家族調査[NFRJ98]による計量分析』東京大学出版会, 261-275。
- , 2011, 「NFRJ98/03/08から見た日本の家族の現状と変化」『家族社会学研究』23 (1) : 43-52。
- 岩井紀子・佐藤博樹編, 2002, 『日本人の姿——JGSSにみる意識と行動』有斐閣。
- 粕井みづほ, 2014, 「夫婦間コミュニケーションの特徴と結婚年数による違い」『日本家政学会誌』65 (2) : 50-56。
- 上子武次, 1993, 「結婚満足度の研究」森岡清美監修『家族社会学の展開』培風館, 289-302。
- 永井暁子, 2005, 「結婚生活の経過による妻の夫婦関係満足度の変化」『季刊家計経済研究』66: 76-81。
- , 2011, 「結婚生活の経過による妻の夫婦関係満足度の変化」『社会福祉』52: 123-131。
- 田中慶子, 2012, 「『出合い』とその後の妻の夫婦関係満足度の推移」『季刊家計経済研究』96: 58-67。
- 筒井淳也・永井暁子, 2016, 「夫婦の情緒関係——結婚満足度の分析から」稲葉昭英・保田時男・田渕六郎・田中重人編『日本の家族1999-2009——全国家族調査[NFRJ]による計量社会学』東京大学出版会, 23-45。

たなか・けいこ 公益財団法人 家計経済研究所 次席研究員。主な論文に「『友人力』と結婚」（佐藤博樹・永井暁子・三輪哲編『結婚の壁——非婚・晩婚の構造』勁草書房, 2010）。家族社会学専攻。  
(tanaka@kakeiken.or.jp)



## 第 6 章

# 調査への態度や考え方はどのように変わるのか ——「消費生活に関するパネル調査」若年対象者の事例より

坂口 尚文

(公益財団法人 家計経済研究所 次席研究員)

「消費生活に関するパネル調査」の新規対象について、調査への態度や考え方を示す変数の動向を検討した。パネル調査の特性から、態度が同一個人でどのように変化していくか、また調査から脱落した対象に特徴的な傾向に注目している。初回調査に比べて複数回の調査後は、調査票の記入時間は平均値でみて減少し、他の家族に関する情報を当人に尋ねて記入する割合は減少していた。調査からの脱落に関しては、2回目の調査で脱落した無配偶の対象で特有の傾向を示している。脱落群は継続群に比べて、脱落前調査での記入時間が短く、家族に情報を尋ねずに調査票を記入した割合が多かった。無配偶については、脱落した調査回による回答の違いもみられている。

## 1. はじめに

公的統計をはじめ、近年、社会調査をとりまく環境の悪化が指摘されている。実査の上で、調査環境の悪化が端的な形として表れるのは回収率の低下である。「消費生活に関するパネル調査(JPSC)」は、調査プロジェクト開始時以来、それぞれ出生年の異なる対象を順次、5回追加してきた。回収率は調査プロジェクトの開始時の追跡集団に比べ、それ以降に順次追加してきた集団では低下傾向にあり、回収率が復調する兆しはない。調査プロジェクト開始時の追跡集団であるコーホートAでは、初回の調査応諾率は41.4%、最初の追跡調査(対象にとって2回目の調査)時の回収率は94.8%であった。一方で、2013年に追加したコーホートEの初回応諾率<sup>1)</sup>は27.3%、初回追跡時の回収率は86.0%と、いずれの数値もコーホートAに比べて大幅に落ちている。今後も高い回収率が望めないことを前提とすれば、得られたデータの質をどのように評価、担保していくかに一層

注力することが求められる。

JPSCでは得られたデータの質を評価する試みの1つとして、対象者がどのように調査票を回答しているかに特化した質問を2013年より追加している。具体的には、「調査票の記入にかかった時間」、「調査票をどのように記入したか」、「調査に協力した理由」の3つである。JPSCでは対象者本人の情報だけでなく、世帯、家族についての情報も対象者を通して収集している。「調査票をどのように記入したか」は、調査票を自分ひとりで記入したか、それとも他の家族の協力を得ながら記入したかを尋ねたものである。これら3つの調査項目は、調査参加に対する動機の違いや調査に対する取り組み方の差異を表したものである。本稿では土屋(2006)にならい、これら対象が調査に向き合う態度や考え方を「調査への指向性」と呼ぶことにする<sup>2)</sup>。

対象者の調査への指向性は、JPSCという「調査」自体の回答者の性質を測ったものであり、収入や支出などの主要調査項目は異なり、その集計結果

自体が社会的、学術的に大きな意味があるものではない。ただし、それらを回答の無記入や回答の丸めの多さといった、当該対象者の回答傾向に関連づけることが可能であれば、主要項目の信頼性を集約した情報として活用できる。加えて、パネル調査では対象の調査からの脱落が避けられない。調査からの脱落が一定の指向性を持つ対象に偏っていた場合、摩耗したサンプルの集計値はバイアスを持つことになる。仮に偏りが生じていた場合、主要調査項目の集計値にも偏りが生じている可能性があり、主要項目を補正する際の補助情報として指向性変数を用いることが期待できる<sup>3)</sup>。さらに統計処理の側面だけにとどまらず、回答者の負担減等の観点から、調査実施方法の改善へつなげることも意図している。パネル調査のような継続調査においては、当該対象の無記入 (Item Nonresponse) の多さと、その後の未回収 (Unit Nonresponse) の間にも関連性が指摘されている (Rizzo, Kalton and Brick 1996; 土屋 2005)。よって対象の一部については、二重の意味で情報を得られない可能性があり、対象のモチベーションの維持、向上は極めて重要である。無記入と未回収に関連づける指向性を特定することができれば、どの層にアプローチすればよいか明確になるため、実査の改善策を効果的に決定することができる。

さて、本稿の目的はJPSCにおける対象の指向性についての情報収集とその開示である。調査の指向性の各調査年の集計結果と調査回間での回答の変化、および調査に継続している対象と脱落した対象との回答傾向の違いを中心に述べる。紙幅の都合により、回答無記入や回答の正確性と調査の指向性の関連については、稿を改めて論じることとする。なお、調査の指向性についての質問を追加したのは、2013年に実施した第21回調査からである。今回報告をとりまとめる第23回調査では3回分の調査結果が蓄積されている。第21回調査は、先に述べたコーホートEと呼ばれる対象群の調査を開始した調査回でもある。コーホートEについては、対象の調査からの脱落がない原サンプルからの情報を引き出すことが可能である<sup>4)</sup>。

本稿では、このコーホートEの集計結果に関心を絞り、結果を提示する。

## 2. 対象者の「調査への指向性」の調査項目について

冒頭で述べたように、JPSCで対象者の「調査への指向性」を測ることに特化した質問は「調査票の記入にかかった時間」、「調査票をどのように記入したか」、「調査に協力した理由」の3つである。以下では、各質問の内容と質問として追加した背景について述べる。

### (1) 「調査票の記入にかかった時間」

「調査票の記入にかかった時間」は、途中で中断した時間を差し引いて、記入にかかった正味の総時間を尋ねたものである。記入時間の長さ、無回答率の高さといった回答傾向、あるいは回答数値の丸めの多さなど回答の正確性との関連性を捕捉することを意図して調査している。調査票のページ数と無記入率の高さの関連は、いくつかの研究で指摘されている (Heberlein and Baumgartner 1978; Goyder 1985)。そのような結果を踏まえ、調査実施上の観点からは、個々の対象者にどの程度の負担をかけているかを測り、調査票の分量調整に役立てる目的もある。なお、回答の数字は時計を用いて客観的に測ったわけではなく、調査票記入後に自己申告で書き込んでもらった数値であるため、正確性に欠け、記入時間の回答自体が対象者の性格に依存するところはある。

記入時間は、同一個人であっても調査時点間で差異が生じる。1つの大きな要因は、結婚や離婚、出産などのライフイベントが発生すれば、それに付随する質問に答える必要が出るので単純に記入量が多くなるためである。もう1つの要因は、対象者の調査慣れである。同一個人を追跡するパネル調査の特性上、調査回数を経るに従って対象者は同一の質問を何度も聞かれることになる。数回の調査を経た後は、初回調査時に比べ何を聞かれているかを早く理解し、記入の効率化が図れ



ている可能性がある。一方で、度重なる調査を受けていると調査に対する倦怠感が増し、すべての質問に真面目に回答するモチベーションが低下する恐れもある（Goyder 1985）。結果として、答えるべき質問の大幅スキップや内容を粗雑に書くことで、記入時間が短くなることも考えられる。

なお、JPSCにおいて、対象個々の記入時間を比較、評価するにあたっては、対象の条件の違いを考慮する必要がある。考慮すべき点の1つは対象者の属性や家族構成によって答えるべき調査項目が異なり、対象個々人で回答する分量が異なることである。回答の総量を最も大きく左右するのは、対象の配偶状況である。JPSCの調査票は有配偶票と無配偶票の2種類がある。第23回調査では、結婚している対象者が回答する有配偶の調査票は70ページ、無配偶票では58ページの分量である。対象者の夫の情報まで詳細に聞いている分、すべての調査回において有配偶票の方が分量は多くなっている。また調査期間中に結婚した対象者については、結婚後最初の調査で新婚票と呼ばれる別票を配布する。主に配偶者の情報（例えば学歴や初職の状況）や結婚に際してかかった費用について尋ねている。分量は10ページ程度である。自分自身のことではなく配偶者についての情報を書かなければならないため、対象者にとっての負担は大きいことが予想される。

考慮すべきもう1つの点は、調査回間での調査票の分量、形式の違いである。質問の継続性や一貫性が重要であるパネル調査の特性上、JPSCでも毎年ほぼ同じ質問を踏襲しているが、質問の新規追加や統廃合により、調査年ごとに分量が変動している。対象者が初めて調査に参加した年は、対象者の初職や居住履歴など調査に参加するまでの情報を尋ねているため、回答する分量自体も多い。また、それらは回顧質問であるため、記入の負担は現状を尋ねる質問より大きいと思われる。これらのことを踏まえ、結果の提示にあたっては、配偶状況別、調査回別に集計を行う。

## (2) 「調査票をどのように記入したか」

「調査票をどのように記入したか」の調査項目

は、家計支出の総額など世帯全体にかかわる情報や、夫や親の収入など他の世帯員の情報を回答するにあたって、自分ひとりで回答したか、あるいは家族に聞いたかを尋ねたものである。親の収入を尋ねる質問もあるため、無配偶の単独世帯でも家族から情報を収集する場面は想定できる。質問文は「この調査票の記入は、どのようにされましたか」であり、「すべてを自分ひとりで記入した」、「家族に聞かないとわからない内容は、ほとんどその人に確認して記入した」、「家族に聞かないとわからない内容は、聞ける範囲でその人に確認して記入した」、「家族と一緒に記入した」、「その他」の5つの選択肢から1つを選んでもらっている。

JPSCが対象を女性に限定した積極的な理由の1つとして、限られたサンプルサイズで家計の情報を効率的に収集する目的があった。日本では妻が家計を差配していることが多く、夫よりもその世帯の家計を把握していると考えたためである。ただ、調査の開始から四半世紀近くが経ち、世帯をとりまく環境は大きく変化してきた。対象女性が当該世帯の情報を把握しているという前提は、成り立ちにくくなっている。大きな変化の1つは、共働き世帯の割合の大幅な増加である。妻の経済力も相対的に増したため、お互いの収入を全て開示していない夫婦や支出を別会計としている夫婦も多くなっている。また非婚化、晩婚化の影響もあり、一定の収入を持ちながら親と同居している女性が全体に占める割合も年々増加している。このような対象は収入や支出を親と完全に同一にしているとは限らず、また若い対象であれば世帯の収支を管理していることは考えづらい。

このような状況下では、家族に情報を求めていることで無記入率の低さや、より正確な情報が得られていることが期待でき、情報を求める行為そのものが対象者の調査に対する取り組みの姿勢を示しているともいえる。ただ、調査脱落の観点からは、家族に情報を求める行為がその後の脱落抑制に働くか否かは先験的には分からず、管見の限り先行研究もほとんどない。この質問項目から家族に調査の存在を伝えているかまでは分からないが、オープンにしている場合は家族から調査に対

して一定の理解が得られていると考えられる。他方で、家族というアクターが増えるため、対象者本人の一存で調査への参加を決定しづらくなる側面や、毎回情報を聞くことに対する心理的負担の増大も考えられる。

### (3) 「調査に協力した理由」

「調査に協力した理由」の質問は、調査を引き受けた理由や動機を直接的に尋ねたものである。「調査にご協力いただいた理由はどのようなことでしょうか」という質問に対し、「回答することが社会のためになる気がするので」、「家計や自分の生活を振り返る機会になると思うから」、「回答したら謝礼をもらえるから」、「特に断る理由もないから」、「その他」の5つの選択肢から、最も当てはまるもの1つを選んでもらっている。参加動機が回答傾向や今後の調査への継続参加とどのように関連しているかを測る目的で採録している。前2者の選択肢は、対象者がJPSCの調査に対して何らかの意味を見いだし、調査が社会的、個人的に価値のあるものとして捉えている。いくつかの先行研究では、当該調査やその調査分野に意義や関心を見いだしている対象は、その調査に参加する傾向があるとの指摘（例えば、Couper 1997; Rogelberg et al. 2001）が多くみられる一方で、調査の（継続）参加には関連性がみられないとする報告もある（Hox et al. 1995）。謝礼の回答については、各選択肢の概念は排他的な関係になっていないものの、選択されれば前2者よりも調査受諾について金銭的なインセンティブが強いと言える。JPSCでは、各回とも後渡しで数千円の謝礼を回答者に払っている。具体的な額は公表していないが、長期にわたる継続調査を念頭においているため、対象者の調査からの脱落防止や回答負担を考え一般の社会調査に比べて高額なものであり、他のパネル調査に比べても相対的に高い額の謝礼である。謝礼はどの対象者に対しても同じ額であり、1993年の調査プロジェクト開始以来、謝礼額の変化はない<sup>5)</sup>。

## 3. 調査の指向性項目の集計結果

### (1) 集計の方針

本節では調査の指向性項目についての基礎集計を提示する。集計の対象はコーホートEに限定する。調査の開始時期がコーホートEに先行する他の追跡集団では、当該項目の調査採録時の2013年には調査参加から時間が経っている。指向性と調査からの脱落に何らかの関連があれば、2013年時点で、ある特定の指向性を持った対象が相対的に多く調査に残存している可能性を否定できない。その点において、コーホートEは抽出時の原サンプルからの変化を追える。コーホートEのプロフィールを簡単に述べると、1984年10月から1988年9月に生まれた女性648人を対象にしている。本報告で取りまとめる第23回調査までに、3回の調査が実施されている。初回調査の応諾率は27.3%、2回目調査の回収率が86.0%、3回目調査の回収率が89.1%である。

各項目の集計結果は原則、配偶状況別に提示する。ただし、有配偶のグループについては22回調査の結果から新婚、すなわち無配偶から有配偶に変わった対象を除外して、別グループとしてまとめている。結婚することにより、家計の構成や本人をとりまく人間関係が大きく変わる。それに付随して、前節で述べたように、調査で聞かれる内容も大きく変わることになる。特に、結婚はJPSCのデータを用いる際、主要な分析テーマの一つであるため、新婚の動きについては別途提示することにする。

### (2) 「調査票の記入にかかった時間」

図表-1は、記入時間の平均値をまとめたものである。調査回を均してみると、有配偶の平均は120分前後、無配偶は70～90分、新婚では90分台である。有配偶と無配偶では、30分近く有配偶の方が記入時間は長くなっている。記入時間という観点からみると、有配偶の対象の方が総じて負担は大きいことが分かる。新婚は無配偶に比べると記入時間は長く、結婚したことで15～20分程度、負担が増加するようである。一方で、新婚の記入

図表-1 配偶状況別、調査票の記入時間

|            | 21 回調査 | 22 回調査 | 23 回調査 |
|------------|--------|--------|--------|
| 有配偶 平均 (分) | 124.8  | 128.9  | 113.2  |
| 標準偏差       | (68.6) | (83.4) | (68.8) |
| 調査票ページ数    | 72     | 70     | 70     |
| ケース数       | 201    | 180    | 186    |
| 無配偶 平均 (分) | 93.2   | 83.4   | 76.6   |
| 標準偏差       | (55.1) | (50.4) | (42.3) |
| 調査票ページ数    | 64     | 58     | 58     |
| ケース数       | 447    | 356    | 287    |
| 新婚 平均 (分)  | -      | 99.4   | 93.9   |
| 標準偏差       | -      | (56.7) | (45.2) |
| 調査票ページ数    | -      | 79     | 79     |
| ケース数       | -      | 31     | 32     |

時間は有配偶の平均よりは短くなっている。配布される調査票の分量自体は新婚が最も多い。ただ、新婚の対象ではまだ子どもがいないケースが多く、住宅ローン等の多額の借り入れもしていないケースがほとんどである。支出の構造が相対的にシンプルであり、子どもに関する質問（在学情報や教育費の詳細等）も回答する必要がないケースが多いことから、有配偶の平均値より記入時間が短くなっていることが予想される。記入時間の分布は、配偶状況、すなわち配られた調査票で二分されるのではなく、対象のライフステージが上がっていくにつれ段階的に増加していくようである。

視点を各調査回間の差に移すと、全体的な傾向として調査回数を経るごとに平均記入時間は若干短くなっている。ページの分量は初回調査が多いが、続く2回の調査とは2ページの差である。図表-1の値はその調査回ごとに回答したすべての人の平均値であるため、図表-2には、個人の変化を示した。連続2カ年継続して調査に参加している対象について、調査回間の記入時間の変化を個々人で算出し、その平均をとった値である。有配偶では21回から22回調査にかけてはほぼ変化しておらず、22回から23回調査にかけて12.5分減少している。一方の無配偶では、調査回数を経るごとにコンスタントに減少している。21回から22回調査にかけて13.9分、22回から23回調査にかけては7.3分の減少である。単純な累積で考えると、3回の調査を経て有配偶では10分程度、無配偶では20分強、記入時間が減少していることになる。個々人でみ

図表-2 配偶状況別、調査票記入時間の調査回間変化

|            | 21-22 回調査 | 22-23 回調査 |
|------------|-----------|-----------|
| 有配偶 平均 (分) | 2.2       | -12.5     |
| 標準偏差       | (76.7)    | (63.9)    |
| ケース数       | 180       | 186       |
| 無配偶 平均 (分) | -13.9     | -7.3      |
| 標準偏差       | (56.4)    | (46.9)    |
| ケース数       | 356       | 287       |
| 新婚 平均 (分)  | 18.7      | 20.9      |
| 標準偏差       | (56.5)    | (41.0)    |
| ケース数       | 31        | 32        |

た時間の変化も、図表-1でみた全体の水準の動きとほぼ一致している。新婚については、各調査間とも20分程度増加している。この増加分は、図表-1でみた無配偶と新婚の差とほぼ同じ結果である。

### (3)「調査票をどのように記入したか」

図表-3には、「調査票をどのように記入したか」について各調査年の回答割合を示した。まず、有配偶の状況からみってみる。初年度の第21回調査では、「家族に聞ける範囲で確認した」の割合が42%と最も多く、次いで「ひとりで記入した」の32%、「家族にほとんど確認した」の19%の順となっている。22回、23回調査では順番に変動があり、「ひとりで記入した」の占める割合が22回調査で41%、23回調査で45%と最も多くを占めており、代わりに「聞ける範囲で確認した」の割合は、22回、23回とも30%前後と初回の21回調査に比べて10ポイントほど低下している。「家族にほとんど確認した」の割合は3カ年を通して20%前後の値で安定している。家族になんらかの情報を尋ねたか、ひとりで記入したかに二分して考えると、いずれの調査回とも家族に尋ねた割合の方が多い。ただし、初回調査では7割近くが家族に情報を求めているが、3回目の23回調査ではその割合が5割強まで落ちている。

次に、無配偶の状況をみってみる。無配偶は単独世帯が含まれる点は考慮する必要があるが、初年度の21回調査から「ひとりで記入した」の割合が最も多くなっている。「ひとりで記入した」の割



図表-3 配偶状況別、記入方法の回答割合

|     |        | ひとりで記入した | 家族にほとんど確認した | 家族に聞ける範囲で確認した | 家族と一緒に記入した | その他・無回答 | 計          |
|-----|--------|----------|-------------|---------------|------------|---------|------------|
| 有配偶 | 21 回調査 | 32%      | 19%         | 42%           | 6%         | 0%      | 100% (201) |
|     | 22 回調査 | 41%      | 22%         | 31%           | 4%         | 1%      | 100% (180) |
|     | 23 回調査 | 45%      | 22%         | 29%           | 3%         | 1%      | 100% (186) |
| 無配偶 | 21 回調査 | 39%      | 23%         | 33%           | 4%         | 0%      | 100% (447) |
|     | 22 回調査 | 45%      | 22%         | 29%           | 3%         | 1%      | 100% (356) |
|     | 23 回調査 | 49%      | 27%         | 27%           | 3%         | 0%      | 100% (287) |
| 新婚  | 22 回調査 | 13%      | 6%          | 35%           | 45%        | -       | 100% (31)  |
|     | 23 回調査 | 13%      | 9%          | 38%           | 41%        | -       | 100% (32)  |

図表-4 配偶状況別、記入方法の調査回間変化

| 前回調査の回答       | 当該調査の回答       | 有配偶       |           | 無配偶        |            |
|---------------|---------------|-----------|-----------|------------|------------|
|               |               | 21-22 回調査 | 22-23 回調査 | 21-22 回調査  | 22-23 回調査  |
| ひとりで記入した      | ひとりで記入した      | 75%       | 77%       | 76%        | 73%        |
|               | 家族にほとんど確認した   | 7%        | 7%        | 6%         | 14%        |
|               | 家族に聞ける範囲で確認した | 18%       | 16%       | 18%        | 13%        |
|               |               | 100% (55) | 100% (73) | 100% (124) | 100% (126) |
| 家族にほとんど確認した   | ひとりで記入した      | 14%       | 12%       | 21%        | 12%        |
|               | 家族にほとんど確認した   | 47%       | 60%       | 52%        | 60%        |
|               | 家族に聞ける範囲で確認した | 39%       | 28%       | 27%        | 28%        |
|               |               | 100% (36) | 100% (43) | 100% (86)  | 100% (60)  |
| 家族に聞ける範囲で確認した | ひとりで記入した      | 35%       | 19%       | 36%        | 26%        |
|               | 家族にほとんど確認した   | 21%       | 25%       | 19%        | 24%        |
|               | 家族に聞ける範囲で確認した | 44%       | 57%       | 46%        | 51%        |
|               |               | 100% (71) | 100% (53) | 100% (118) | 100% (85)  |

合は回を重ねるごとに増加しており、21回調査の39%から、23回調査では10ポイント上昇し半数近くの49%が「ひとりで記入した」と回答している。初回調査の21回調査で、有配偶では最も多くの割合を占めていた「家族に聞ける範囲で確認」の割合は33%である。「ひとりで記入した」と大きな差はないものの、23回調査では20ポイント以上開いている。「家族にほとんど確認した」の割合は、3カ年を通して先の2つの選択肢よりは低いものの、若干増加傾向にある。なお、「家族と一緒に記入」したは、有配偶、無配偶とも、調査3カ年を通して低い値となっている。

図表-4は、同一対象の回答が調査回間でどのように変化したかを示したものである。前年の選択肢ごとに、次の年にどの選択肢に変化したか、その割合をまとめた。網掛けをしている部分は前回

と当該の調査回で回答が変わらなかった対象者の割合である。「家族と一緒に記入した」の全体に占める回答割合は少ないため、表記載の3つの選択肢間の推移だけに焦点を絞ることにする。新婚は2回分の変化をまとめても、各選択肢に該当する数はほとんど30に満たない。そのため、新婚の結果は割愛する。

まず、調査票を「ひとりで記入した」からの推移をみると、配偶状況間、各調査回間ともに結果はほぼ似たような値を示している。調査票を「ひとりで記入」していた人の75%前後は、有配偶、無配偶とも、またいずれの調査年の間でも、次の年も「ひとりで記入」したと回答している。「ひとりで記入した」から他の選択肢への推移をみると、「聞ける範囲で確認」が「ほとんど確認」の割合よりも多くなっている。

図表-5 配偶状況別、調査への参加理由

|     |        | 社会の<br>ためになる | 生活を<br>振り返る機会 | 謝礼が<br>もらえる | 特に断る<br>理由がない | その他・無回答 | 計          |
|-----|--------|--------------|---------------|-------------|---------------|---------|------------|
| 有配偶 | 21 回調査 | 9%           | 9%            | 24%         | 53%           | 4%      | 100% (201) |
|     | 22 回調査 | 9%           | 11%           | 31%         | 44%           | 1%      | 100% (180) |
|     | 23 回調査 | 8%           | 12%           | 42%         | 34%           | 4%      | 100% (186) |
| 無配偶 | 21 回調査 | 12%          | 10%           | 26%         | 48%           | 4%      | 100% (447) |
|     | 22 回調査 | 14%          | 13%           | 30%         | 40%           | 3%      | 100% (356) |
|     | 23 回調査 | 15%          | 13%           | 29%         | 40%           | 3%      | 100% (287) |
| 新婚  | 22 回調査 | 13%          | 6%            | 35%         | 45%           | -       | 100% (31)  |
|     | 23 回調査 | 13%          | 9%            | 38%         | 41%           | -       | 100% (32)  |

次いで、「ほとんど確認」の選択肢からの推移をみると、次の年も「ほとんど確認した」と回答した割合が配偶状況、調査年によらず最も多い。有配偶、無配偶とも21－22回調査より22－23回調査の方が同じ回答をする割合が増えている。「ほとんど確認」からは、「聞ける範囲で確認」に変化する割合も相対的に多い。有配偶の21－22回調査では39%が、ほかのセルでは30%弱の割合が「ほとんど確認」から「聞ける範囲で確認」に回答が変化している。

最後に「聞ける範囲で確認」からの推移をみると、いずれのセルとも「聞ける範囲で確認」への推移が多い。「ほとんど確認」の結果と同様、有配偶、無配偶とも21－22回調査より22－23回調査の方が同じ回答をする割合が増えている。他への変化をみると21－22回調査では、有配偶、無配偶ともに「ひとりで記入した」へ推移している割合が多い。

初回調査時に家族に情報を求めていた対象は、調査を複数回経験し、そのままスタンスを変えずに家族に尋ね続ける層と、まったく尋ねないケースを含めて程度を落とす層に分かれていくようである。特に2回目の調査で、大きなふり分けがなされているようである。「ひとりで記入した」対象が家族に情報を尋ねるようになる動きは一定数あるものの、全体としては調査の継続に伴い情報収集が簡略化される結果となっている。

#### (4) 「調査に協力した理由」

図表-5は、「調査に協力した理由」について、

各調査回の回答の構成割合を配偶状況別に集計したものである。有配偶の結果をみてみると、初回の21回調査では「特に断る理由がない」が53%で最も多くを占めている。次いで「謝礼がもらえる」の24%、「社会のためになる」、「生活を振り返る機会」がそれぞれ9%の順となっている。22回調査では21回調査から順位に変化はないものの、「特に断る理由がない」の割合が10ポイント減って44%、「謝礼がもらえる」は7ポイント増えて31%となっている。23回調査では先2回とは順位に変化があり、「謝礼がもらえる」の回答割合が最も多く42%、「特に断る理由がない」が34%となっている。3カ年を通して、「特に断る理由がない」の回答割合は単調に減少し、代わりに「謝礼がもらえる」の割合が増加している。「社会のためになる」、「生活を振り返る機会」の2つの回答の割合は、3カ年を通しほぼ同じ水準で推移している。

次に無配偶の結果をみてみる。初回の21回調査では「特に断る理由がない」が48%で最も多くの割合を占めている。次いで「謝礼がもらえる」が26%、「社会のためになる」が12%、「生活を振り返る機会」が10%の順となっている。初回の21回調査の結果は、無配偶と有配偶とで類似した構成割合と言える。22回調査でも回答割合の順位は変わらないが、「特に断る理由がない」は8ポイント減少して40%、「謝礼がもらえる」は4ポイント増えて30%となっている。23回調査は22回調査とほぼ同じ回答割合となっている。無配偶も有配偶と同様、「謝礼がもらえる」の回答割合は初回の21回調査からそれ以降の調査では高くなっている



図表-6 配偶状況別、記入方法の調査回間変化

| 前回調査の回答   | 当該調査の回答   | 有配偶       |           | 無配偶        |            |
|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|------------|
|           |           | 21-22 回調査 | 22-23 回調査 | 21-22 回調査  | 22-23 回調査  |
| 謝礼がもらえるから | 社会のためになる  | 5%        | 3%        | 2%         | 5%         |
|           | 生活を振り返る機会 | 2%        | 3%        | 6%         | 7%         |
|           | 謝礼がもらえる   | 68%       | 84%       | 70%        | 59%        |
|           | 特に断る理由がない | 24%       | 9%        | 22%        | 29%        |
|           |           | 100% (41) | 100% (58) | 100% (89)  | 100% (86)  |
| 特に断る理由がない | 社会のためになる  | 4%        | 6%        | 9%         | 9%         |
|           | 生活を振り返る機会 | 11%       | 10%       | 14%        | 8%         |
|           | 謝礼がもらえる   | 20%       | 24%       | 19%        | 16%        |
|           | 特に断る理由がない | 65%       | 60%       | 58%        | 67%        |
|           |           | 100% (94) | 100% (82) | 100% (169) | 100% (109) |

が、無配偶では有配偶ほどの増加傾向にないようである。

最後に新婚の回答割合は、22回調査で「特に断る理由がない」が最も多く45%の値を示しており、次いで「謝礼がもらえる」が35%となっている。23回調査の回答割合も22回調査と概ね同じで、「特に断る理由がない」、「謝礼がもらえる」の順である。結婚した人（無配偶→有配偶）の回答傾向は、調査年によらず似ていることがうかがえる。配偶状況の変化という観点からみれば、新婚では無配偶のまま継続していた対象より「謝礼がもらえる」の回答割合が22回、23回ともに多い点が特徴的である。調査対象の構成が出生年をほぼ同じにすることから、この時期に結婚したのは比較的若い年齢で結婚した層であることに注意する必要がある。

同一個人の調査回間での回答の変化に視点を移そう。図表-6は、参加理由の回答の変化を示したものである。図表-4の記入方法の変化と同様に、前年の選択肢ごとに次の年にどのように変化したか、その割合をまとめている。いずれの配偶状況ともケース数が40を超えている、「謝礼がもらえる」と「特に断る理由がない」の選択肢からの変化のみを記載した。新婚は選択肢ごとに分割すると該当するケース数が少なくなるため、結果の記載は省略した。網掛けをした部分は、2期間を通じて回答が同じであることを示しており、「謝礼がもらえるから」、「特に断る理由がない」ともに、同じ回答を続ける割合が、いずれの期間、配偶状況で

も多くなっている。

「謝礼がもらえるから」の結果をみると、有配偶では21回から22回調査でともに「謝礼がもらえるから」を回答した割合は68%である。この割合は、次の22回から23回にかけては84%と16ポイント上昇している。一方、無配偶では両年ともに「謝礼がもらえるから」を回答した割合は、21回から22回調査では70%と有配偶と同じ割合を示しているが、22回から23回にかけては59%と11ポイント低下している。図表-5の結果とあわせて考えると、有配偶では謝礼を継続参加のモチベーションとして捉える層が調査回を経るごとに固定化されていくが、無配偶では謝礼に対する参加動機は有配偶に比べると個人内でも移ろいやすい傾向がある。

## 4. 調査の指向性と調査からの脱落の関係

### (1) 「調査票の記入にかかった時間」

図表-7は、記入時間と調査からの脱落の関係をみるため、次の期に継続して参加していた対象と脱落した対象の間で、当該期の記入時間の平均を比較したものである。例えば、表の21回調査の数値は、22回も継続参加している対象と22回に脱落した対象、それぞれの21回調査の記入時間の平均値である。概ね、いずれの配偶状況、調査とも、脱落した対象の時間が短くはなっている。継続と脱落それぞれの記入時間の平均値の差について、t検定を行い統計的に有意な結果が得られた

図表-7 調査継続対象と脱落対象の調査票記入時間

|            | 有配偶    |       |        |       | 無配偶    |      |        |      | 新婚     |      |
|------------|--------|-------|--------|-------|--------|------|--------|------|--------|------|
|            | 21 回調査 |       | 22 回調査 |       | 21 回調査 |      | 22 回調査 |      | 22 回調査 |      |
|            | 継続     | 脱落    | 継続     | 脱落    | 継続     | 脱落   | 継続     | 脱落   | 継続     | 脱落   |
| 平均値 (分)    | 125.5  | 118.5 | 129.1  | 126.0 | 95.4   | 78.6 | 82.7   | 89.0 | 108.8  | 60.0 |
| データの数      | 180    | 21    | 165    | 15    | 387    | 60   | 319    | 37   | 25     | 6    |
| <i>t</i> 値 | 0.46   |       | 0.14   |       | 2.84   |      | -0.64  |      | 3.71   |      |
| <i>p</i> 値 | 0.65   |       | 0.89   |       | 0.01   |      | 0.53   |      | 0.00   |      |

図表-8 調査継続対象と脱落した対象の記入方法

| 有配偶    |                 |             |               |            |
|--------|-----------------|-------------|---------------|------------|
|        | ひとりで記入した        | 家族にほとんど確認した | 家族に聞ける範囲で確認した | 計          |
| 21 回調査 |                 |             |               |            |
| 継続     | 34%             | 22%         | 44%           | 100% (170) |
| 脱落     | 33%             | 11%         | 56%           | 100% (18)  |
|        | $\chi^2 = 1.36$ | $p = 0.51$  |               |            |
| 22 回調査 |                 |             |               |            |
| 継続     | 44%             | 24%         | 32%           | 100% (155) |
| 脱落     | 47%             | 20%         | 33%           | 100% (18)  |
|        | $\chi^2 = 0.12$ | $p = 0.94$  |               |            |
| 無配偶    |                 |             |               |            |
|        | ひとりで記入した        | 家族にほとんど確認した | 家族に聞ける範囲で確認した | 計          |
| 21 回調査 |                 |             |               |            |
| 継続     | 38%             | 26%         | 36%           | 100% (368) |
| 脱落     | 57%             | 18%         | 25%           | 100% (60)  |
|        | $\chi^2 = 7.42$ | $p = 0.02$  |               |            |
| 22 回調査 |                 |             |               |            |
| 継続     | 46%             | 24%         | 30%           | 100% (310) |
| 脱落     | 59%             | 16%         | 25%           | 100% (32)  |
|        | $\chi^2 = 2.26$ | $p = 0.32$  |               |            |

のは、無配偶の21回調査と、新婚の22回調査であった。

無配偶の21回調査では、脱落した対象は継続して参加している対象より記入時間が16.8分短くなっている。逆に22回調査では脱落した対象の方が記入時間は長くなっている。22回の結果は有意な差ではないものの、少なくとも記入時間が回を追うごとに短くなってはいないと言える。記入時間の長さや調査継続のモチベーションに関連があるとすれば、無配偶では最初の追跡調査を依頼する22回調査で対象の選別がかかっている可能性がある。つまり、継続調査に一度も応じなかった対象は、初回調査の段階から記入時間が短くなっている。

新婚の結果に目を移すと、記載している22回調査の結果は、21回から22回にかけて結婚した人たちが対象である。次の23回調査での脱落の有無で対象を分けている。記入の値は有配偶票の記入時間になる。新婚は提示した配偶状況の中で継続と脱落の差が大きく、両方で48.8分の差がある。考えられる要因の1つには、対象者の出産が関係していると考えられる。調査員の聞き取りの結果によると、出産は調査拒否の理由として一定の割合を占めている（村上 2003）。当該調査年度は出産を間近に控えていたため調査票を記入する十分な時間が

とれず、次年度は子どもが生まれたため調査を拒否するパターンが考えられる。ただし、脱落した対象は6ケースであるため、脱落した対象で記入時間が短くなることが安定的な結果であるかどうかは、コーホートEの動向や今後の新規追加コーホートの結果を注視する必要がある。

## (2) 「調査票をどのように記入したか」

次に記入方法と脱落の関係を検討する。図表-8は、調査継続の有無で、対象の記入方法の回答割合を比較したものである。調査回別、配偶状況別に集計している。脱落の有無は、記入時間のときと同様、次の調査回での発生事象である。選択肢「家族と一緒に記入した」、「その他」への回答は、

図表-9 調査継続対象と脱落対象の調査への参加理由

有配偶

|        | 社会の<br>ためになる    | 生活を振り返る<br>機会 | 謝礼がもらえる | 特に断る<br>理由がない | その他 | 計          |
|--------|-----------------|---------------|---------|---------------|-----|------------|
| 21 回調査 |                 |               |         |               |     |            |
| 継続     | 10%             | 8%            | 24%     | 56%           | 3%  | 100% (178) |
| 脱落     | 5%              | 24%           | 29%     | 33%           | 10% | 100% (21)  |
|        | $\chi^2 = 9.91$ | $p = 0.04$    |         |               |     |            |
| 22 回調査 |                 |               |         |               |     |            |
| 継続     | 10%             | 10%           | 31%     | 46%           | 2%  | 100% (163) |
| 脱落     | 7%              | 20%           | 33%     | 33%           | 7%  | 100% (15)  |
|        | $\chi^2 = 5.50$ | $p = 0.24$    |         |               |     |            |

無配偶

|        | 社会の<br>ためになる     | 生活を振り返る<br>機会 | 謝礼がもらえる | 特に断る<br>理由がない | その他 | 計          |
|--------|------------------|---------------|---------|---------------|-----|------------|
| 21 回調査 |                  |               |         |               |     |            |
| 継続     | 12%              | 10%           | 27%     | 48%           | 3%  | 100% (385) |
| 脱落     | 15%              | 8%            | 15%     | 54%           | 7%  | 100% (59)  |
|        | $\chi^2 = 2.63$  | $p = 0.62$    |         |               |     |            |
| 22 回調査 |                  |               |         |               |     |            |
| 継続     | 15%              | 13%           | 30%     | 41%           | 1%  | 100% (315) |
| 脱落     | 8%               | 14%           | 36%     | 31%           | 11% | 100% (36)  |
|        | $\chi^2 = 19.03$ | $p = 0.00$    |         |               |     |            |

全体として該当数も少なく、まったく対象が含まれない集計セルも多く現れる。そのため集計からは除外し、表記載の3つの選択肢の回答割合の違いに着目する。また、新婚は脱落したケースの絶対数が少ないため、結果の報告は割愛する。

図表-8をみると、3つの集計結果に共通する明確な傾向はみられない。独立性の検定を行った結果、5%水準で継続か脱落かの違いが回答に関連しているという仮説が採択されたのは無配偶の21回調査の結果のみである。脱落した対象では「ひとりで記入した」の回答割合が相対的に高くなっている。「ひとりで記入した」の割合は、同年の有配偶の結果が継続と脱落でほとんど差はないのに対し、無配偶では脱落が継続より20ポイント近く高い値になっている。無配偶の脱落については、22回調査の各選択肢の回答割合も21回調査とほぼ同じ値を示している。一方、無配偶の継続は、22回調査は「ひとりで記入した」の割合が21回に比べて高くなっており、22回調査では継続と脱落の回答の違いが明確なものではなくなっている。ただし、無配偶には単独世帯が含まれることは留意

しなければならない。

有配偶については継続と脱落の対象で回答傾向に差がみられない。初回の21回調査では、継続、脱落とも、その3分の2が回答するにあたって家族に何らかの確認をしており、「ひとりで記入した」割合は両者とも3分の1である。2回目の22回調査では、「ひとりで記入した」の割合が継続、脱落ともに上昇しており、結果的に家族に確認した割合は減少している。有配偶では、調査票の記入にあたって家族の協力を得るかどうかの調査の継続参加に大きく関係していない結果となっている。

### (3) 「調査に協力した理由」

最後に、参加理由と脱落の関係を提示する。図表-9は調査に継続参加している対象と脱落した対象について、記入方法の回答割合を調査回別、配偶状況別に集計した。新婚の結果は脱落の該当数が少ないため、ここでも省略している。独立性の検定を行った結果、5%水準で継続か脱落かの違いが回答に関連しているという仮説が採択されたのは21回調査の有配偶と無配偶の22回調査の結



果である。有配偶の脱落はケース数が少ないため対象1人の占めるウエイトは大きくはなる。ただ、21回、22回調査でも回答の分布がほぼ同様であるため、少なくともこの2回の調査からは脱落群に共通の回答傾向があるように判断できる。有配偶の21回調査をみると、脱落の回答に占める割合が多いのは、「特に断る理由がない」の33%である。脱落した人の3人に1人は初回調査を引き受けた際に明確なモチベーションを持っていなかったことになるが、この「特に断る理由がない」の割合は継続でも多く、継続では半数以上の56%を占める。すなわち、モチベーションの有無が必ずしもその後の脱落につながっているわけではない。むしろ、「生活を振り返る機会」のような積極的な理由をあげていた対象の割合は、脱落の方が継続より多くなっている。

継続と脱落の回答で有意差があった無配偶の22回調査も、「特に断る理由がない」の回答割合が脱落の方で少ない値を示している。ただ、この結果は対象にとって3回目の23回調査での脱落の有無を基準にしたものである。追跡調査に1回は応諾した対象の行動であり、条件付けの事象であるため解釈は難しい。視点を変えると、無配偶の回答は21回調査と22回調査のそれぞれで脱落した対象の回答傾向にもやや差異がみられる。図表は省略するが、2つの調査の脱落群同士で独立性の検定を行うと10%水準で有意な結果が得られた( $\chi^2=8.94, p$ 値=0.06)。21回から22回にかけて、「謝礼がもらえるから」の割合が上昇し、「特に断る理由がない」の割合が低下している点が特徴的である。謝礼を理由に当年の調査を引き受けても、次の期の調査では拒否するケースが相対的に上昇したことになる。裏を返せば、2回目の調査継続までは謝礼がいくぶん効果的に働いていたといえる。

## 5. おわりに

本稿では、JPSCの最も後生の調査対象（コーホートE）について、彼女らがどのように調査に取り組んでいるかを示す、調査の指向性の変数の集計結果を提示した。取り上げた調査項目は、調

査票の記入時間、記入の際に家族に情報をもとめたか（記入方法）、調査に参加した理由の3つである。回答割合を配偶状況別、調査回別に求めた結果、集計単位別の相違がみられた。記入時間のおおよその平均は、有配偶で120分、無配偶で90分であった。記入時間は対象が調査を経験するごとに減少する傾向があり、有配偶で10分、無配偶で20分ほど減少していた。記入方法は、家族に情報を聞かずひとりで記入した割合が有配偶では3割強、有配偶では4割弱であった。3回目の調査では、この割合が有配偶で4割弱、無配偶で5割弱に上昇している。調査への参加理由は、「特に断る理由がない」という回答の割合が最も多く、初回調査では有配偶、無配偶とも5割近くがそのように回答している。何らかの積極的な理由として回答の割合が多かったのは、「謝礼がもらえるから」で、有配偶、無配偶とも4分の1が理由にあげている。有配偶では、調査を経験するごとに「謝礼がもらえる」の割合がコンスタントに増えていて、3回目の調査では4割にまで達している。一方の無配偶では、謝礼の回答について有配偶ほどの上昇は見られていない。

本稿では対象の調査への指向性と継続参加の関連をみるため、継続して調査に参加している対象と脱落した対象との間で、指向性の回答傾向にどのような違いがあるかにも着目した。両群の平均記入時間に統計的に有意な差があったのは、無配偶の初回調査の結果であった。2回目の調査を拒否した対象では、初回調査の記入時間が継続の対象より20分弱短い結果となっていた。記入方法についても、無配偶の初回調査のみが両群の回答傾向に有意な差が得られていた。このケースでは、脱落した対象が調査票を「ひとりで記入した」割合が多い点が特徴的であった。

参加理由については、有配偶の初回調査で有意な結果が得られている。脱落の回答の方が、「特に断る理由がない」と回答している割合が多い。初回調査の有配偶では、調査参加に対して明確な動機があることが、必ずしも次の年の継続参加につながっていなかったようである。無配偶については、継続と脱落のグループの間で明確な回答傾

向の差異は確認できなかったものの、2回目の調査で脱落したグループと3回目の調査で脱落したグループの間に差異がある可能性が示唆された。すなわち、最初の継続調査である2回目の調査で早々に脱落した対象は、それ以降の調査で脱落する対象とは性格が異なる可能性が示唆される。注目すべき結果としては、2回目調査で脱落したグループでは3回目に比べて、「謝礼がもらえる」を参加理由に選択した割合が小さい点があげられる。

今後の課題としては、これら対象の指向性についての結果が、所得や支出などの関心ある変数の回答パターンとどのように関連しているかを明らかにしていく必要がある。おしなべてみれば、調査回を経るごとに、対象は調査票を自分ひとりで記入するようになり、記入に要する時間も短くなっている。2回目以降の調査では、自分が何を聞かれているかの把握が容易になり記入が効率的になっているのか、それとも悪い意味での調査慣れが生じて回答を粗雑に書く、あるいは無記入の回答が増えているのかは厳然と区別しなければならない。ただ、先に述べたように、女性のライフスタイルや置かれている立場が多様化している昨今、収入や支出など回答にぶれが生じやすい項目で、全員が対象者として該当し、個々の対象者にとって同じ文脈をもつ項目はほとんどないのが現状である。他調査との比較も念頭に置きつつ、JPSCの調査内容や形式に沿った形で、対象の回答の正確性を評価する指標作りが求められる。なお記入時間については、30分単位の丸めが散見されるため、データを個別にみると多くの対象では回答が変わっていない。つまり、全体的に記入時間短くなったのではなく、大幅に減らした人たちの存在が大きいことも指摘しておく。仮に記入時間の短縮が回答の正確性の低下につながっているとすれば、各調査回間で集計値の正確性が低下しているだけではなく、同一調査内でも対象者間で回答の不正確性が増大していることになる。パネル調査であるがゆえに、変化についての個体差も考慮しながらの評価が必要である。

また今回の指向性の結果からは、脱落した対象

の傾向もある程度読み取ることができた。サンプルの摩耗を補正する際の情報として活用が期待できる。ただ、ここで気をつけなければならないのは、今回の結果は群間の回答傾向の違いをみたものであり、ある特定の指向性を持った対象が脱落することを必ずしも意味しない点である。JPSCの回収率は80%後半から90%台を推移しているため、いずれの回答、属性についてもほとんどの人は脱落していない。10年～20年といった長期のスパンの累積では指向性の回答間で脱落率の違いが明白に出る可能性はあるが、オンゴーイングで進む各年の微細な結果をどのように補正していくかは難しい問題である。特に、今回の指向性のような対象者の考え方や性格といえるようなものでも、回答が調査回ごとに変化することが分かった。本稿では、データが取れる調査拒否前の調査回の結果で集計を行ったが、調査拒否時点では対象者の心境がさらに変化している可能性もある。脱落時の情報の捕捉も含め、時間への依存性をどのようにモデルに取り込むかは特に重要な課題である。

#### 注

- 1) JPSCでは標本抽出の際、予備の対象を配して目的とする数がそろうまで依頼を行う。ここでの応諾率の分母は、事前に調査依頼状を配布した数になる。
- 2) このうち、「調査票の記入時間」は対象者の指向性そのものというよりも、回答の丁寧さや理解度など指向性が反映された指標の1つといえるが、ここでは広義に指向性として扱う。
- 3) 坂口（2015）では、JPSCの対象について、参加理由に謝礼をあげていたかどうかの情報をういて補正ウエイトを作成し、有配偶女性所得の分布を効果的に補正できる可能性を示している。
- 4) コーホートEの初回応諾率は27.3%であるため、原サンプル自体が想定母集団を反映したものかという問題は当然ある。ただ残念ながら、この時点で調査を拒否した対象については、詳細な情報を捕捉していない。
- 5) なお、この項目の集計結果を謝礼額の決定や変更の資料として活用する予定は現段階ではない。

#### 文献

- 坂口尚文, 2015, 「消費生活に関するパネル調査」新規対象の回収状況と回答傾向『季刊 家計経済研究』104: 36-48.
- 土屋隆裕, 2005, 「調査不能者の特性に関する一考察——日本人の国民性第11次調査」への協力理由に関する事後調査から『統計数理』53（1）: 35-56.



- , 2006, 「『調査への指向性』変数を用いた調査不能バイアス補正の試み——『日本人の国民性調査』データへの適用」『日本統計学会誌』36: 1-23.
- 村上あかね, 2003, 「なぜ脱落したのか——『消費生活に関するパネル調査』における脱落分析」財団法人家計経済研究所編『家計・仕事・暮らしと女性の現在——消費生活に関するパネル調査 第10年度』国立印刷局, 115-122.
- Couper, M., 1997, "Survey Introductions and Data Quality," *Public Opinion Quarterly*, 61: 317-338.
- Goyder, J., 1985, "Face-to-Face Interviews and Mailed Questionnaires: The Net Difference in Response Rate," *Public Opinion Quarterly*, 49: 234-252.
- Heberlein, T. A. and R. Baumgartner, 1978, "Factors Affecting Response Rates to Mailed Questionnaires: A Quantitative Analysis of the Published Literature," *American Sociological Review*, 43: 447-462.
- Hox, J., de Leeuw, E., and Vorst, H., 1995, "Survey Participation as Reasoned Action: A Behavioral Paradigm for Survey Nonresponse?" *Bulleten de Methodologie Sociologique*, 48: 52-67.
- Rizzo, L., G. Kalton, and M. Brick, 1996, "A Comparison of Some Weighting Adjustment Methods for Panel Nonresponse," *Survey Methodology*, 22: 43-53.
- Rogelberg, S. G., G. G. Fisher, and D. C. Maynard, 2001, "Attitude toward Surveys: Development of a Measure and Its Relationship to Respondent Behavior," *Organizational Research Methods*, 4 (1) : 3-25.

さかぐち・なおふみ 公益財団法人 家計経済研究所  
次席研究員。主な論文に「『消費生活に関するパネル調査』新規対象の回収状況と回答傾向」(『季刊家計経済研究』108, 2015)。統計科学専攻。  
(sakaguchi@kakeiken.or.jp)



## 第Ⅱ部

### 第23回「消費生活に関するパネル調査」の概要





## 調査対象者について

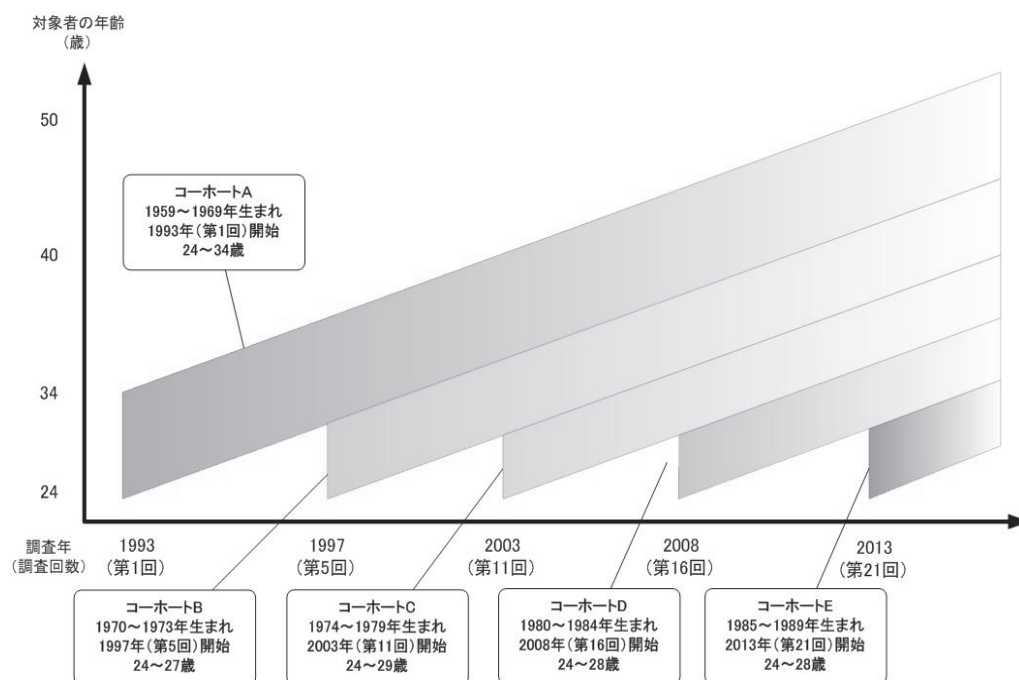
### 概要

「消費生活に関するパネル調査」は、1993年に24～34歳の女性1,500人を対象に開始した追跡調査である。その後、数年ごと（1997年、2003年、2008年、2013年）に新たな対象者を追加し、第23回調査時点で26～56歳までの幅広い年齢層の女性を対象となっている。20代～30代という比較的若い年齢層から調査を開始し、就職、結婚、出産などの大きなライフイベントや、前後の変化状況が把握できる。そして、長期間、調査を継続していることによって、20年近くにわたる家計や生活の状況を把握することができることが本調査の大きな特徴である。

### 対象

「消費生活に関するパネル調査」では、調査に加えた順番に、対象者をコーホートA、B、C、D、Eと呼んでいる。なお、本報告書では年齢層の広いコーホートAのみを、分析の内容に応じて、年長（コーホートA1）と年少（コーホートA2）の2つのサブグループに分けて結果を提示している。各コーホートの詳細は、図表-Iにまとめている。

図表- I 本調査の対象者の構成



## 調査の方法

本調査の対象者は、第 1 回（1993）調査の際に抽出した対象者（コーホート A）、第 5 回（1997）調査の際に抽出した対象者（コーホート B）と第 11 回（2003）調査の際に抽出した対象者（コーホート C）と第 16 回（2008）調査の際に抽出した対象者（コーホート D）と第 21 回（2013）調査の際に抽出した対象者（コーホート E）からなる。

### （１）調査の設計

#### コーホート A

- |         |                                                                                     |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 調査地域  | 全国                                                                                  |
| ② 調査対象  | 満 24～34 歳の女性                                                                        |
| ③ 初回完了数 | 1,500 票                                                                             |
| ④ 抽出方法  | 層化 2 段無作為抽出                                                                         |
| ⑤ 調査方法  | 留置法                                                                                 |
| ⑥ 調査時期  | [第 1 回] 1993 年 10 月 1 日～10 月 31 日<br>(第 1 回以降、毎年 10 月 1 日から 10 月 31 日の間に調査をおこなっている) |

#### コーホート B

- |         |                                                                                     |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 調査地域  | 全国                                                                                  |
| ② 調査対象  | 満 24～27 歳の女性                                                                        |
| ③ 初回完了数 | 500 票                                                                               |
| ④ 抽出方法  | 層化 2 段無作為抽出                                                                         |
| ⑤ 調査方法  | 留置法                                                                                 |
| ⑥ 調査時期  | [第 5 回] 1997 年 10 月 1 日～10 月 31 日<br>(第 5 回以降、毎年 10 月 1 日から 10 月 31 日の間に調査をおこなっている) |

### コーホート C

- ① 調査地域 全国
- ② 調査対象 満 24～29 歳の女性
- ③ 初回完了数 836 票
- ④ 抽出方法 層化 2 段無作為抽出
- ⑤ 調査方法 留置法
- ⑥ 調査時期 [第 11 回] 2003 年 10 月 1 日～10 月 31 日（補完調査 2004 年 2 月）（第 11 回以降、毎年 10 月 1 日から 10 月 31 日の間に調査をおこなっている）

### コーホート D

- ① 調査地域 全国
- ② 調査対象 満 24～28 歳の女性
- ③ 初回完了数 636 票
- ④ 抽出方法 層化 2 段無作為抽出
- ⑤ 調査方法 留置法
- ⑥ 調査時期 [第 16 回] 2008 年 10 月 1 日～10 月 31 日（補完調査 2009 年 2 月）（第 16 回以降、毎年 10 月 1 日から 10 月 31 日の間に調査をおこなっている）

### コーホート E

- ① 調査地域 全国
- ② 調査対象 満 24～28 歳の女性
- ③ 初回完了数 648 票
- ④ 抽出方法 層化 2 段無作為抽出
- ⑤ 調査方法 留置法
- ⑥ 調査時期 [第 21 回] 2013 年 10 月 1 日～10 月 31 日  
(補完調査 2013 年 12 月～2014 年 2 月)

## (2) サンプルデザイン

### コーホート A

#### 【層化】

ア. 全国の都道府県を 8 ブロックに分類した。

イ. 各ブロック内でさらに、都市規模によって次のように分類し、層化した。

- a. 13 大都市（札幌市、仙台市、千葉市、東京都区、横浜市、川崎市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市）
- b. その他の市
- c. 町村

（注）ここでのいう市とは、1993 年 4 月 1 日現在による市政施行の地域とした。

#### 【標本数の配分】

各都市規模別の層での推定母集団の大きさにより、年齢構成・配偶関係（1992 年 3 月 31 日現在で 24～34 歳の年齢別、配偶関係別人口数）を考慮して、1,500 の対象を比例配分した。

#### 【抽出】

ア. 第 1 次抽出単位となる調査地点として、平成 2 年国勢調査時に設定された調査区を使用した。

イ. 調査地点（国勢調査区）の抽出数については、1 調査地点あたりの標本数が 12 になるよう、各層に割り当てられた標本数から算出し決定した。

ウ. 調査地点（調査区）の抽出は、層内での抽出地点数が 2 地点以上割り当てられた層について、以下のように抽出間隔を算出し、等間隔法によって抽出した。

$$\frac{\text{層での調査区数（計）}}{\text{層での抽出調査地点数}} = \text{抽出間隔}$$

エ. 抽出に際しての各層内の市町村の配列順序は、平成 2 年国勢調査時の「都道



府県・市区町村コード表」の配列順序に従った。

オ．抽出調査地点での対象者の抽出は、調査地点の住所（町・丁目・街区・番地等を指定）により、住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出した。

カ．この調査は完了指定数調査としたため、上記の正規対象者 1 について予備対象者 3 を付した。

キ．以上の作業の結果得られた層別の標本数、調査地点数は図表-1 のとおりである。

図表- 1 コーホート A の層別推定母集団数、標本サイズ、調査地点数

|     | 13大都市                 | その他の市                 | 町 村                   | 計                        |
|-----|-----------------------|-----------------------|-----------------------|--------------------------|
| 北海道 | 272,755<br>24( 2)     | 328,511<br>36( 3)     | 177,644<br>12( 1)     | 778,910<br>72( 6)        |
| 東 北 | 143,956<br>12( 1)     | 710,759<br>60( 5)     | 439,852<br>36( 3)     | 1,294,567<br>108( 9)     |
| 関 東 | 2,261,067<br>192( 16) | 3,035,727<br>264( 22) | 612,586<br>60( 5)     | 5,909,380<br>516( 43)    |
| 中 部 | 330,121<br>36( 3)     | 1,982,543<br>168( 14) | 787,642<br>72( 6)     | 3,100,306<br>276( 23)    |
| 近 畿 | 791,651<br>72( 6)     | 1,684,208<br>144( 12) | 331,368<br>24( 2)     | 2,807,227<br>240( 20)    |
| 中 国 | 158,655<br>12( 1)     | 578,830<br>48( 4)     | 220,257<br>24( 2)     | 957,742<br>84( 7)        |
| 四 国 | －<br>-( - )           | 343,032<br>36( 3)     | 175,300<br>12( 1)     | 518,332<br>48( 4)        |
| 九 州 | 327,575<br>24( 5)     | 1,019,476<br>84( 7)   | 580,010<br>48( 4)     | 1,927,061<br>156( 13)    |
| 計   | 4,285,780<br>372( 31) | 9,683,086<br>840( 70) | 3,324,659<br>288( 24) | 17,293,525<br>1,500(125) |

注) 上段:推定母集団数

下段:標本サイズ(調査地点数)

## コーホート B

サンプルデザインは標本数の配分を除いてコーホート A と同じである。コーホート A の回答者は、ほぼ国勢調査と同様の分布となったが、無配偶単身者だけは若干国勢調査の比率を下回っていた。そこで、コーホート B は標本数の配分の際に無配偶単身者の比率に配慮している。

### 【標本数の配分】

各都市規模別の層での推定母集団の大きさにより、年齢構成・配偶関係（1996 年 3 月 31 日現在で 24～27 歳の年齢別、配偶関係別人口数、無配偶者の単身世帯数）を考慮して、500 の対象を比例配分した。層別の標本数、調査地点数は図表-2 のとおりである。

### 【抽出】

正規対象者 1 名に対し、配偶状況と世帯状況を考慮して、以下のように予備対象者を付した。有配偶者には 3 名、無配偶・非単身者には 3 名、無配偶・単身者には 5 名を付した。

図表- 2 コーホート B の層別推定母集団数、標本サイズ、調査地点数

|     | 13大都市                 | その他の市                  | 町 村                  | 計                      |
|-----|-----------------------|------------------------|----------------------|------------------------|
| 北海道 | 315,837<br>8( 2)      | 354,942<br>10( 3)      | 163,782<br>4( 1)     | 834,561<br>22( 6)      |
| 東 北 | 165,648<br>4( 1)      | 717,759<br>20( 5)      | 403,002<br>9( 3)     | 1,286,409<br>33( 9)    |
| 関 東 | 2,759,343<br>72( 16)  | 3,683,433<br>98( 22)   | 623,364<br>14( 5)    | 7,066,140<br>184( 43)  |
| 中 部 | 385,263<br>9( 3)      | 2,239,332<br>61( 14)   | 831,210<br>20( 6)    | 3,455,805<br>90( 23)   |
| 近 畿 | 942,807<br>25( 6)     | 1,994,082<br>55( 12)   | 345,852<br>5( 2)     | 3,282,741<br>85( 20)   |
| 中 国 | 180,561<br>4( 1)      | 607,938<br>15( 4)      | 209,568<br>4( 2)     | 998,067<br>23( 7)      |
| 四 国 | －<br>-( - )           | 359,337<br>10( 3)      | 168,459<br>4( 1)     | 527,796<br>14( 4)      |
| 九 州 | 363,696<br>10( 5)     | 1,041,798<br>26( 7)    | 557,448<br>13( 4)    | 1,962,942<br>49( 13)   |
| 計   | 5,113,155<br>132( 31) | 10,998,621<br>295( 70) | 3,302,685<br>73( 24) | 19,414,461<br>500(125) |

注) 上段:推定母集団数

下段:標本サイズ(調査地点数)

## コーホート C

### 【層化】

ア. 全国の都道府県を 8 ブロックに分類した。

イ. 各ブロック内でさらに、都市規模によって次のように分類し、層化した。

- a. 14 大都市（札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、東京都区、横浜市、川崎市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市）
- b. その他の市
- c. 町村

(注) ここでいう市とは、2003 年 4 月 1 日現在による市政施行の地域とした。

**【標本数の配分】**

各都市規模別の層での推定母集団の大きさにより、年齢構成・配偶関係（2003 年 3 月 31 日現在で 24～29 歳の年齢別、配偶関係別人口数）を考慮して、836 の標本を比例配分した。層別の対象数、調査地点数は図表-3 のとおりである。

**【抽出】**

調査地点毎の調査対象数は各都市規模層の年齢構成・配偶関係の配分数に応じて 4～9 対象を割り当てた。また、正規対象数 1 名につき、配偶状況と世帯状況を考慮して、以下のように予備対象者を付した。有配偶者には 3 名、無配偶・非単身者には 4 名、無配偶・単身者には 7 名を付した。

図表- 3 コーホート C の層別推定母集団数、標本サイズ、調査地点数

|     | 14大都市                 | その他の市                  | 町 村                   | 計                      |
|-----|-----------------------|------------------------|-----------------------|------------------------|
| 北海道 | 540,756<br>11( 2)     | 613,383<br>15( 3)      | 265,566<br>6( 1)      | 1,419,705<br>32( 6)    |
| 東北  | 317,436<br>6( 1)      | 1,244,232<br>29( 5)    | 665,448<br>17( 3)     | 2,227,116<br>52( 9)    |
| 関東  | 4,679,379<br>118( 17) | 6,137,133<br>158( 21)  | 1,135,146<br>29( 5)   | 11,951,658<br>305( 43) |
| 中部  | 614,394<br>19( 3)     | 4,021,920<br>97( 14)   | 1,447,863<br>35( 6)   | 6,084,177<br>151( 23)  |
| 近畿  | 1,565,124<br>40( 6)   | 3,533,046<br>87( 12)   | 628,206<br>14( 2)     | 5,726,376<br>141( 20)  |
| 中国  | 337,476<br>8( 1)      | 1,169,547<br>28( 4)    | 385,989<br>9( 2)      | 1,893,012<br>45( 7)    |
| 四国  | -<br>-( - )           | 681,645<br>18( 3)      | 299,001<br>6( 1)      | 980,646<br>24( 4)      |
| 九州  | 675,927<br>18( 2)     | 1,902,615<br>45( 7)    | 962,382<br>23( 4)     | 3,540,924<br>86( 13)   |
| 計   | 8,730,492<br>220( 32) | 19,303,521<br>477( 69) | 5,789,601<br>139( 24) | 33,823,614<br>836(125) |

注) 上段:推定母集団数  
下段:標本サイズ(調査地点数)

## コーホート D

### 【層化】

- ア. 全国の都道府県を 8 ブロックに分類した。
- イ. 各ブロック内でさらに、都市規模によって次のように分類し、層化した。
- a. 18 大都市（札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、東京都区、横浜市、川崎市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市）
  - b. その他の市
  - c. 町村

(注) ここでいう市とは、2008 年 4 月 1 日現在による市政施行の地域とした。



### 【標本数の配分】

各都市規模別の層での推定母集団の大きさにより、年齢構成・配偶関係（2008年3月31日現在で24～28歳の年齢別、配偶関係別人口数）を考慮して、636の標本を比例配分した。層別の対象数、調査地点数は図表-4のとおりである。

### 【抽出】

調査地点毎の調査対象数は各都市規模層の年齢構成・配偶関係の配分数に応じて4～9対象を割り当てた。また、正規対象数1名につき、配偶状況と世帯状況を考慮して、以下のように予備対象者を付した。有配偶者には3名、無配偶・非単身者には4名、無配偶・単身者には7名を付した。

図表-4 コーホートDの層別推定母集団数、標本サイズ、調査地点数

|     | 18大都市                 | その他の市                 | 町 村                | 計                      |
|-----|-----------------------|-----------------------|--------------------|------------------------|
| 北海道 | 66,227<br>11( 2)      | 69,550<br>11( 3)      | 24,681<br>4( 1)    | 160,458<br>26( 6)      |
| 東北  | 37,916<br>7( 1)       | 175,721<br>29( 7)     | 46,499<br>8( 2)    | 260,136<br>44( 10)     |
| 関東  | 539,215<br>89( 18)    | 709,813<br>118( 22)   | 64,797<br>10( 3)   | 1,313,825<br>217( 43)  |
| 中部  | 133,722<br>23( 5)     | 451,572<br>75( 17)    | 69,476<br>12( 3)   | 654,770<br>110( 25)    |
| 近畿  | 206,915<br>34( 7)     | 385,174<br>63( 11)    | 34,559<br>5( 2)    | 626,648<br>102( 20)    |
| 中国  | 37,244<br>6( 1)       | 155,344<br>26( 6)     | 15,805<br>3( 1)    | 208,393<br>35( 8)      |
| 四国  |                       | 92,753<br>15( 4)      | 15,981<br>3( 1)    | 108,734<br>18( 5)      |
| 九州  | 85,115<br>14( 2)      | 290,154<br>48( 9)     | 65,475<br>11( 2)   | 440,744<br>73( 13)     |
| 計   | 1,106,354<br>184( 36) | 2,330,081<br>385( 79) | 337,273<br>56( 15) | 3,773,708<br>625( 130) |

注) 上段:推定母集団数  
下段:標本サイズ(調査地点数)

## コーホートE

### 【層化】

- ア. 全国の都道府県を8ブロックに分類した。
- イ. 各ブロック内でさらに、都市規模によって次のように分類し、層化した。
  - a. 21大都市（札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、東京都区、横浜市、川崎市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市、熊本市）
  - b. その他の市
  - c. 町村

（注）ここでいう市とは、2013年4月1日現在による市政施行の地域とした。

### 【標本数の配分】

各都市規模別の層での推定母集団の大きさにより、年齢構成・配偶関係（2013年3月31日現在で24～28歳の年齢別、配偶関係別人口数）を考慮して、625の標本を比例配分した。層別の対象数、調査地点数は図表-5とおりである。

### 【抽出】

調査地点毎の調査対象数は各都市規模層の年齢構成・配偶関係の配分数に応じて4～9対象を割り当てた。また、正規対象数1名につき、配偶状況と世帯状況を考慮して、以下のように予備対象者を付した。有配偶者には3名、無配偶・非単身者には4名、無配偶・単身者には7名を付した。

図表- 5 コーホートEの層別推定母集団数、標本サイズ、調査地点数

|     | 21大都市                 | その他の市                 | 町 村               | 計                     |
|-----|-----------------------|-----------------------|-------------------|-----------------------|
| 北海道 | 60,858<br>11(11)      | 58,665<br>11(11)      | 20,731<br>4(4)    | 140,254<br>26(26)     |
| 東北  | 34,186<br>6(6)        | 151,987<br>28(28)     | 40,590<br>8(8)    | 226,763<br>42(42)     |
| 関東  | 529,768<br>96(96)     | 631,066<br>115(115)   | 47,369<br>8(8)    | 1,208,203<br>219(219) |
| 中部  | 125,493<br>23(23)     | 419,440<br>76(76)     | 50,945<br>10(10)  | 595,878<br>109(109)   |
| 近畿  | 194,725<br>35(35)     | 345,567<br>63(63)     | 29,450<br>5(5)    | 569,742<br>103(103)   |
| 中国  | 54,925<br>10(10)      | 122,797<br>23(23)     | 12,914<br>2(2)    | 190,636<br>35(35)     |
| 四国  |                       | 83,412<br>15(15)      | 13,903<br>3(3)    | 97,315<br>18(18)      |
| 九州  | 101,576<br>18(18)     | 248,224<br>45(45)     | 53,685<br>10(10)  | 403,485<br>73(73)     |
| 計   | 1,101,531<br>199(199) | 2,061,158<br>376(376) | 269,587<br>50(50) | 3,432,276<br>625(625) |

注) 上段:推定母集団数  
下段:標本サイズ(調査地点数)

### (3) 母集団との比較

コーホートごとに、初回調査時点での調査対象者を母集団（『国勢調査』）と比較したが、図表-6～10 である。いずれのコーホートにおいても、母集団より有配偶率が若干高い傾向にある。

図表- 6 コーホートAの配偶状態(初回調査 1993 年時点)

|                           |     | 24～26歳    | 27～29歳    | 30～32歳    | 33～34歳    | 計         |
|---------------------------|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 本調査<br>(パネル1<br>・1993年)   | 有配偶 | 179       | 261       | 324       | 238       | 1002      |
|                           | 横計% | 17.9      | 26.0      | 32.3      | 23.8      | 100.0     |
|                           | 縦計% | 39.6      | 66.6      | 82.0      | 91.2      | 66.8      |
|                           | 無配偶 | 273       | 131       | 71        | 23        | 498       |
|                           | 横計% | 54.8      | 26.3      | 14.3      | 4.6       | 100.0     |
|                           | 縦計% | 60.4      | 33.4      | 18.0      | 8.8       | 33.2      |
|                           | 計   | 452       | 392       | 395       | 261       | 1500      |
|                           | 横計% | 30.1      | 26.1      | 26.3      | 17.4      | 100.0     |
|                           | 縦計% | 100.0     | 100.0     | 100.0     | 100.0     | 100.0     |
| 『平成2年<br>国勢調査』<br>(1990年) | 有配偶 | 939,155   | 1,555,106 | 1,876,208 | 1,317,565 | 5,688,034 |
|                           | 横計% | 16.5      | 27.3      | 33.0      | 23.2      | 100.0     |
|                           | 縦計% | 39.6      | 67.1      | 80.8      | 85.5      | 66.5      |
|                           | 無配偶 | 1,414,995 | 751,522   | 437,672   | 220,033   | 2,824,222 |
|                           | 横計% | 50.1      | 26.6      | 15.5      | 7.8       | 100.0     |
|                           | 縦計% | 59.6      | 32.4      | 18.9      | 14.3      | 33.0      |
|                           | 不詳  | 19,091    | 11,306    | 7,089     | 3,765     | 41,251    |
|                           | 横計% | 46.3      | 27.4      | 17.2      | 9.1       | 100.0     |
|                           | 縦計% | 0.8       | 0.5       | 0.3       | 0.2       | 0.5       |
|                           | 計   | 2,373,241 | 2,317,934 | 2,320,969 | 1,541,363 | 8,553,507 |
|                           | 横計% | 27.7      | 27.1      | 27.1      | 18.0      | 100.0     |
|                           | 縦計% | 100.0     | 100.0     | 100.0     | 100.0     | 100.0     |

資料：総務省『平成2年 国勢調査』

図表- 7 コーホートBの配偶状態(初回調査 1997 年時点)

|                           |     | 24～27歳    |
|---------------------------|-----|-----------|
| 本調査<br>(パネル5<br>・1997年)   | 有配偶 | 201       |
|                           | 縦計% | 40.2      |
|                           | 無配偶 | 299       |
|                           | 縦計% | 59.8      |
|                           | 計   | 500       |
| 『平成7年<br>国勢調査』<br>(1995年) | 有配偶 | 1,396,324 |
|                           | 縦計% | 37.8      |
|                           | 無配偶 | 2,281,126 |
|                           | 縦計% | 61.7      |
|                           | 不詳  | 17,196    |
|                           | 縦計% | 0.5       |
|                           | 計   | 3,694,646 |
|                           | 縦計% | 100.0     |

資料：総務省『平成7年 国勢調査』

図表- 8 コーホートCの配偶状態(初回調査 2003 年時点)

|                            |     | 24～29歳    |
|----------------------------|-----|-----------|
| 本調査<br>(パネル11<br>・2003年)   | 有配偶 | 351       |
|                            | 縦計% | 42.0      |
|                            | 無配偶 | 485       |
|                            | 縦計% | 58.0      |
| 『平成12年<br>国勢調査』<br>(2000年) | 計   | 836       |
|                            | 縦計% | 100.0     |
|                            | 有配偶 | 2,277,655 |
|                            | 縦計% | 39.9      |
|                            | 無配偶 | 3,427,324 |
|                            | 縦計% | 60.0      |
|                            | 不 詳 | 3,989     |
|                            | 縦計% | 0.1       |
|                            | 計   | 5,708,968 |
|                            | 縦計% | 100.0     |

資料：総務省『平成 12 年 国勢調査』

図表- 9 コーホートDの配偶状態(初回調査 2008 年時点)

|                            |     | 24～28歳    |
|----------------------------|-----|-----------|
| 本調査<br>(パネル16<br>・2008年)   | 有配偶 | 218       |
|                            | 縦計% | 34.3      |
|                            | 無配偶 | 418       |
|                            | 縦計% | 65.7      |
| 『平成17年<br>国勢調査』<br>(2005年) | 計   | 636       |
|                            | 縦計% | 100.0     |
|                            | 有配偶 | 1,243,894 |
|                            | 縦計% | 31.7      |
|                            | 無配偶 | 2,682,123 |
|                            | 縦計% | 68.3      |
|                            | 不 詳 | 3,260     |
|                            | 縦計% | 0.1       |
|                            | 計   | 3,929,277 |
|                            | 縦計% | 100.0     |

資料：総務省『平成 17 年 国勢調査』



図表- 10 コーホート E の配偶状態(初回調査 2013 年時点)

|                            |     | 24～28歳    |
|----------------------------|-----|-----------|
| 本調査<br>(パネル21<br>・2013年)   | 有配偶 | 201       |
|                            | 縦計% | 31.0      |
|                            | 無配偶 | 447       |
|                            | 縦計% | 69.0      |
|                            | 計   | 648       |
| 『平成22年<br>国勢調査』<br>(2010年) | 有配偶 | 1,059,473 |
|                            | 縦計% | 30.1      |
|                            | 無配偶 | 2,379,572 |
|                            | 縦計% | 67.5      |
|                            | 不 詳 | 86,645    |
|                            | 計   | 3,525,690 |
|                            | 縦計% | 100.0     |

資料：総務省『平成 22 年 国勢調査』

#### (4) 調査の主体

公益財団法人 家計経済研究所

江崎芳雄 (公益財団法人 家計経済研究所 専務理事)

久木元真吾 (公益財団法人 家計経済研究所 次席研究員)

坂口尚文 (公益財団法人 家計経済研究所 次席研究員)

田中慶子 (公益財団法人 家計経済研究所 次席研究員)

水谷徳子 (公益財団法人 家計経済研究所 研究員)

消費生活に関するパネル調査研究会メンバー（2016 年度）

所属は 2016 年 10 月現在

|        |                |                       |
|--------|----------------|-----------------------|
| 主査     | 樋口美雄           | （慶應義塾大学商学部教授）         |
| 副査     | 岩田正美           | （日本女子大学名誉教授）          |
| （五十音順） | 阿部正浩           | （中央大学経済学部教授）          |
|        | 色川卓男           | （静岡大学教育学部教授）          |
|        | 小原美紀           | （大阪大学大学院国際公共政策研究科准教授） |
|        | 坂本和靖           | （群馬大学社会情報学部准教授）       |
|        | 重川純子           | （埼玉大学教育学部教授）          |
|        | 永井暁子           | （日本女子大学人間社会学部准教授）     |
|        | 野田正彰           | （評論家）                 |
|        | 馬場康彦           | （明星大学人文学部教授）          |
|        | 浜田浩児           | （元内閣府経済社会総合研究所研究官）    |
|        | 濱本知寿香          | （大東文化大学経済学部准教授）       |
|        | チャールズ＝ユウジ・ホリオカ |                       |
|        |                | （公益財団法人アジア成長研究所主席研究員） |
|        | 村上あかね          | （桃山学院大学社会学部准教授）       |
|        | 森本 聡           | （総務省統計局統計調査部）         |

## 第 23 回調査の回収状況

本調査のこれまでの回収状況ならびに、第 23 回調査の回収状況は次の通りである。図表-11 には、第 23 回調査の回収状況を含む各回調査の回収率、および第 23 回調査時点での残存率について、各コーホート別にまとめている。第 23 回調査の全体の回収率は 96.3%と、高い水準を維持している。なお、本調査の回収率とは、前回調査の完了数を分母とし、分子には、①前回から連続で回答した者、②以前の調査では回答していたが、前回は引越し、出産等の諸事情のため未回収（欠票）となり、今回調査では回答した者（復活票）も含めた完了数で算出している（そのため、今回以前の調査回での回収数についても、今回での復活票が加わるため増加する）。

残存率は、各コーホートの初回回収数に対する今回での回答完了数で算出している。第 20 回調査以降、コーホート A の残存率は 50%を下回っている。

図表-12～16 では、第 23 回調査における、地域ブロックおよび都市規模別の回収率を各コーホート別にまとめている。後生コーホートで、地域ブロックによって回収率にやや差が開いている傾向がみられる。

図表-11 各回調査の回収状況

|                | 調査年   | コーポレートA |        | コーポレートB |        | コーポレートC |        | コーポレートD |        | コーポレートE |        | 全体    |       |
|----------------|-------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|-------|-------|
|                |       | 完了数     | 回収率    | 完了数     | 回収率    | 完了数     | 回収率    | 完了数     | 回収率    | 完了数     | 回収率    | 完了数   | 回収率   |
| 第1回            | 1993年 | 1,500   | 41.4%* | —       | —      | —       | —      | —       | —      | —       | —      | 1,500 | —     |
| 第2回            | 1994年 | 1,422   | 94.8%  | —       | —      | —       | —      | —       | —      | —       | —      | 1,422 | 94.8% |
| 第3回            | 1995年 | 1,342   | 94.4%  | —       | —      | —       | —      | —       | —      | —       | —      | 1,342 | 94.4% |
| 第4回            | 1996年 | 1,298   | 96.7%  | —       | —      | —       | —      | —       | —      | —       | —      | 1,298 | 96.7% |
| 第5回            | 1997年 | 1,255   | 96.7%  | 500     | 34.3%* | —       | —      | —       | —      | —       | —      | 1,755 | 96.7% |
| 第6回            | 1998年 | 1,196   | 95.3%  | 442     | 88.4%  | —       | —      | —       | —      | —       | —      | 1,638 | 93.3% |
| 第7回            | 1999年 | 1,137   | 95.1%  | 412     | 93.2%  | —       | —      | —       | —      | —       | —      | 1,549 | 94.6% |
| 第8回            | 2000年 | 1,102   | 96.9%  | 386     | 93.7%  | —       | —      | —       | —      | —       | —      | 1,488 | 96.1% |
| 第9回            | 2001年 | 1,059   | 96.1%  | 366     | 94.8%  | —       | —      | —       | —      | —       | —      | 1,425 | 95.8% |
| 第10回           | 2002年 | 1,032   | 97.5%  | 344     | 94.0%  | —       | —      | —       | —      | —       | —      | 1,376 | 96.6% |
| 第11回           | 2003年 | 980     | 95.0%  | 323     | 93.9%  | 836     | 28.4%* | —       | —      | —       | —      | 2,139 | 94.7% |
| 第12回           | 2004年 | 944     | 96.3%  | 312     | 96.6%  | 724     | 86.6%  | —       | —      | —       | —      | 1,980 | 92.6% |
| 第13回           | 2005年 | 904     | 95.8%  | 292     | 93.6%  | 674     | 93.1%  | —       | —      | —       | —      | 1,870 | 94.4% |
| 第14回           | 2006年 | 875     | 96.8%  | 278     | 95.2%  | 621     | 92.1%  | —       | —      | —       | —      | 1,774 | 94.9% |
| 第15回           | 2007年 | 847     | 96.8%  | 271     | 97.5%  | 588     | 94.7%  | —       | —      | —       | —      | 1,706 | 96.2% |
| 第16回           | 2008年 | 828     | 97.8%  | 260     | 95.9%  | 560     | 95.2%  | 636     | 30.5%* | —       | —      | 2,284 | 96.6% |
| 第17回           | 2009年 | 799     | 96.5%  | 255     | 98.1%  | 541     | 96.6%  | 573     | 90.1%  | —       | —      | 2,168 | 94.9% |
| 第18回           | 2010年 | 778     | 97.4%  | 246     | 96.5%  | 522     | 96.5%  | 543     | 94.8%  | —       | —      | 2,089 | 96.4% |
| 第19回           | 2011年 | 765     | 98.3%  | 243     | 98.8%  | 507     | 97.1%  | 509     | 93.7%  | —       | —      | 2,024 | 96.9% |
| 第20回           | 2012年 | 750     | 98.0%  | 234     | 96.3%  | 496     | 97.8%  | 486     | 95.5%  | —       | —      | 1,966 | 97.1% |
| 第21回           | 2013年 | 735     | 98.0%  | 231     | 98.7%  | 480     | 96.8%  | 456     | 93.8%  | 648     | 27.3%* | 2,550 | 97.7% |
| 第22回           | 2014年 | 704     | 95.8%  | 222     | 96.1%  | 462     | 96.3%  | 436     | 95.6%  | 567     | 87.5%  | 2,391 | 93.4% |
| 第23回           | 2015年 | 676     | 96.0%  | 215     | 96.8%  | 446     | 96.5%  | 416     | 95.4%  | 509     | 89.8%  | 2,262 | 96.3% |
| 第23回での調査回数と残存率 |       | 23回     | 45.1%  | 19回     | 43.0%  | 13回     | 53.3%  | 8回      | 65.4%  | 3回      | 78.5%  |       |       |

\* 初回収収率：調査の応諾者数を依頼状況配布数で割ったもの

注：網掛け部は、既存コーポレートのみの回収率



図表- 12 コーホート A の回収状況(第 23 回)

|     | 21大都市                    | その他の市                    | 町村               | 外国             | 計                        |
|-----|--------------------------|--------------------------|------------------|----------------|--------------------------|
| 北海道 | 8<br>10(80.0)            | 18<br>21 (85.7)          | 6<br>6( 100.0)   |                | 32<br>37( 86.5)          |
| 東北  | 5<br>5( 100.0)           | 30<br>34(88.2)           | 5<br>5( 100.0)   |                | 40<br>44(90.9)           |
| 関東  | 94<br>95( 98.9)<br><2>   | 108<br>110( 98.1)<br><1> | 18<br>19( 94.7)  |                | 218<br>224( 97.3)<br><3> |
| 中部  | 19<br>21( 90.5)          | 102<br>104( 97.1)        | 10<br>10( 100.0) |                | 131<br>135( 96.3)<br><1> |
| 近畿  | 31<br>33( 93.9)          | 79<br>79(100.0)          | 6<br>6( 100.0)   |                | 116<br>118( 98.3)        |
| 中国  | 9<br>10( 90.0)           | 37<br>38( 97.4)          | 1<br>1( 100.0)   |                | 47<br>49( 95.9)          |
| 四国  | 0                        | 26<br>27( 96.3)          | 1<br>1( 100.0)   |                | 27<br>28( 96.4)          |
| 九州  | 14<br>15( 93.3)          | 41<br>41(97.6)<br><1>    | 8<br>9( 88.9)    |                | 63<br>65( 95.4)<br><1>   |
| 外国  |                          |                          |                  | 2<br>2( 100.0) | 2<br>2( 100.0)           |
| 計   | 178<br>187( 94.1)<br><2> | 441<br>453( 96.7)<br><3> | 55<br>57( 96.5)  | 2<br>2( 100.0) | 676<br>699( 96.0)<br><5> |

注：上段：完了数、下段：調査票配布数(回収率)

&lt;&gt;内の数字は第 21 年度回答者(第 22 年度欠票)からの復活票

図表- 13 コーホート B の回収状況(第 23 回)

|     | 21大都市                         | その他の市                                   | 町村                            | 外国                        | 計                                       |
|-----|-------------------------------|-----------------------------------------|-------------------------------|---------------------------|-----------------------------------------|
| 北海道 | 4 <sup>4</sup><br>4(100.0)    | 4 <sup>4</sup><br>4(100.0)              | 1 <sup>1</sup><br>1(100.0)    |                           | 9 <sup>9</sup><br>9(100.0)              |
| 東北  | 2 <sup>2</sup><br>2(100.0)    | 11 <sup>11</sup><br>11(100.0)           | 3 <sup>3</sup><br>3(100.0)    |                           | 16 <sup>16</sup><br>16(100.0)           |
| 関東  | 28 <sup>28</sup><br>29( 96.6) | 36 <sup>36</sup><br>36(100.0)<br><1>    | 2 <sup>2</sup><br>2(100.0)    |                           | 65 <sup>65</sup><br>67( 97.0)<br><1>    |
| 中部  | 5 <sup>5</sup><br>6( 83.3)    | 37 <sup>37</sup><br>39( 94.9)           | 1 <sup>1</sup><br>1(100.0)    |                           | 43 <sup>43</sup><br>46( 93.5)           |
| 近畿  | 17 <sup>17</sup><br>18( 94.4) | 22 <sup>22</sup><br>24( 91.7)           | 2 <sup>2</sup><br>2(100.0)    |                           | 41 <sup>41</sup><br>44( 93.2)           |
| 中国  | 1 <sup>1</sup><br>1(100.0)    | 7 <sup>7</sup><br>7(100.0)              | 1 <sup>1</sup><br>1(100.0)    |                           | 9 <sup>9</sup><br>9(100.0)              |
| 四国  |                               | 5 <sup>5</sup><br>5(100.0)              |                               |                           | 5 <sup>5</sup><br>5(100.0)              |
| 九州  | 8 <sup>8</sup><br>8(100.0)    | 14 <sup>14</sup><br>14(100.0)           | 4 <sup>4</sup><br>4(100.0)    |                           | 26 <sup>26</sup><br>26(100.0)           |
| 外国  |                               |                                         |                               |                           | 0 <sup>0</sup><br>0( 0.0)               |
| 計   | 65 <sup>65</sup><br>68 95.6)  | 136 <sup>136</sup><br>140( 97.1)<br><1> | 14 <sup>14</sup><br>14(100.0) | 0 <sup>0</sup><br>0( 0.0) | 215 <sup>215</sup><br>222( 96.8)<br><1> |

注：上段：完了数、下段：調査票配布数(回収率)

<>内の数字は第 21 年度回答者(第 22 年度欠票)からの復活票

図表- 14 コーホート C の回収状況(第 23 回)

|     | 21大都市                    | その他の市                    | 町村              | 外国          | 計                        |
|-----|--------------------------|--------------------------|-----------------|-------------|--------------------------|
| 北海道 | 9<br>9(100.0)            | 8<br>8(100.0)            | 3<br>3(100.0)   |             | 20<br>20(100.0)          |
| 東北  | 7<br>7(100.0)            | 14<br>15( 93.3)          | 3<br>3(100.0)   |             | 24<br>25( 96.0)          |
| 関東  | 49<br>53( 92.5)          | 84<br>87( 96.6)          | 8<br>8(100.0)   |             | 141<br>148( 95.3)        |
| 中部  | 16<br>16(100.0)          | 57<br>60( 95.0)          | 6<br>6(100.0)   |             | 79<br>82( 96.3)          |
| 近畿  | 44<br>44(100.0)<br><1>   | 52<br>53( 98.1)<br><2>   | 6<br>6(100.0)   |             | 102<br>103( 99.0)<br><3> |
| 中国  | 2<br>31( 66.7)           | 20<br>21( 95.2)          | 1<br>1(100.0)   |             | 23<br>25( 92.0)          |
| 四国  |                          | 13<br>13(100.0)          |                 |             | 13<br>13(100.0)          |
| 九州  | 9<br>10( 90.0)           | 31<br>32( 96.9)          | 4<br>4(100.0)   |             | 44<br>46( 95.7)          |
| 外国  |                          |                          |                 |             | 0<br>0(0.0)              |
| 計   | 136<br>142( 95.8)<br><1> | 279<br>289( 96.5)<br><2> | 31<br>31(100.0) | 0<br>0(0.0) | 446<br>462( 96.5)<br><3> |

注：上段：完了数、下段：調査票配布数(回収率)

<>内の数字は第 21 年度回答者(第 22 年度欠票)からの復活票

図表- 15 コーホートDの回収状況(第23回)

|     | 21大都市                    | その他の市                    | 町村              | 外国            | 計                        |
|-----|--------------------------|--------------------------|-----------------|---------------|--------------------------|
| 北海道 | 8<br>8(100.0)            | 9<br>10( 90.0)           | 4<br>4(100.0)   |               | 21<br>22( 95.5)          |
| 東北  | 3<br>3(100.0)            | 16<br>17( 94.1)          | 5<br>5(100.0)   |               | 24<br>25( 96.0)          |
| 関東  | 65<br>70( 92.9)          | 72<br>75( 96.0)<br><1>   | 8<br>8( 88.9)   |               | 145<br>154( 94.1)<br><1> |
| 中部  | 14<br>14(100.0)          | 47<br>49( 95.9)          | 6<br>7(100.0)   |               | 67<br>70( 95.7)          |
| 近畿  | 26<br>26(100.0)          | 46<br>50( 92.0)          | 2<br>2(100.0)   |               | 74<br>78( 94.9)          |
| 中国  | 6<br>6(100.0)            | 19<br>19(100.0)<br><1>   | 2<br>2(100.0)   |               | 27<br>27( 100.0)<br><1>  |
| 四国  |                          | 9<br>10(100.0)           | 2<br>2(100.0)   |               | 11<br>12( 91.7)          |
| 九州  | 12<br>13( 92.3)<br><1>   | 27<br>28( 96.4)          | 7<br>7(100.0)   |               | 46<br>48( 95.8)<br><1>   |
| 外国  |                          |                          |                 | 1<br>1(100.0) | 1<br>1(100.0)            |
| 計   | 134<br>140( 95.7)<br><1> | 245<br>257( 95.3)<br><1> | 36<br>38( 94.7) | 1<br>1(100.0) | 416<br>436( 95.4)<br><2> |

注：上段：完了数、下段：調査票配布数(回収率)

&lt;&gt;内の数字は第21年度回答者(第22年度欠票)からの復活票

図表- 16 コーホート E の回収状況(第 23 回)

|     | 21大都市                    | その他の市                    | 町村              | 外国           | 計                         |
|-----|--------------------------|--------------------------|-----------------|--------------|---------------------------|
| 北海道 | 11<br>11(100.0)<br><1>   | 10<br>10(100.0)          | 3<br>3(100.0)   |              | 24<br>24(100.0)<br><1>    |
| 東北  | 6<br>7( 85.7)            | 19<br>22( 86.4)          | 5<br>5(100.0)   |              | 30<br>34( 88.2)           |
| 関東  | 81<br>88( 92.0)          | 98<br>111( 88.2)<br><2>  | 4<br>5( 80.0)   |              | 183<br>204( 89.7)<br><2>  |
| 中部  | 24<br>25( 96.0)<br><1>   | 63<br>74( 85.1)          | 5<br>5(100.0)   |              | 92<br>104( 88.5)<br><1>   |
| 近畿  | 30<br>32( 93.7)<br><3>   | 52<br>55( 94.5)<br><3>   | 2<br>2(100.0)   |              | 84<br>89( 94.4)<br><6>    |
| 中国  | 11<br>11(100.0)          | 15<br>22( 68.2)          | 1<br>2( 50.0)   |              | 27<br>35( 77.1)           |
| 四国  |                          | 10<br>13( 76.9)          | 3<br>3(100.0)   |              | 13<br>16( 81.3)           |
| 九州  | 11<br>12( 91.7)          | 36<br>39( 92.3)          | 9<br>10( 90.0)  |              | 56<br>61( 91.8)           |
| 外国  |                          |                          |                 |              | 0<br>0(0.0)               |
| 計   | 174<br>186( 93.5)<br><5> | 303<br>346( 87.5)<br><5> | 32<br>35( 91.4) | 0<br>0( 0.0) | 509<br>567( 89.8)<br><10> |

注：上段：完了数、下段：調査票配布数(回収率)

&lt;&gt;内の数字は第 21 年度回答者(第 22 年度欠票)からの復活票



## 調査対象者の基本情報

ここで用いる用語については、以下の通りである。なお、第Ⅲ部の図表中の「無回答」には「不明」が含まれている。

### 有配偶

（調査時点で）配偶者がいる者

### 無配偶

（調査時点で）未婚、あるいは離婚、死別により配偶者がいない者

### 新婚

前回調査では無配偶であったが、今回調査では有配偶である者、  
もしくはこの1年の間に離婚と再婚があった者

### パネル t

第 t 回調査のこと

### 対象者のグループ

コーホート（A は 2 区分）ごとに 6 つのグループで集計を行っている。  
各グループの出生年、調査時の年齢および対象数（集計対象の人数）は、  
下記の通りである。

|    | 出生年        | 第23回調査<br>時点の年齢 | 有配偶  | 無配偶 | 合計   |
|----|------------|-----------------|------|-----|------|
| A1 | 1959～1962年 | 52～56歳          | 224  | 74  | 298  |
| A2 | 1963～1969年 | 46～51歳          | 280  | 98  | 378  |
| B  | 1970～1973年 | 42～45歳          | 163  | 52  | 215  |
| C  | 1974～1979年 | 36～41歳          | 326  | 120 | 446  |
| D  | 1980～1984年 | 31～35歳          | 260  | 156 | 416  |
| E  | 1985～1989年 | 26～30歳          | 218  | 291 | 509  |
| 全体 | 1959～1989年 | 26～56歳          | 1471 | 791 | 2262 |

以下では、対象者の基本属性やこの1年間での変化に関して、以下の各項目をコーホート別に集計している。

**1. 家族や世帯について…………… 90**

図表-17 配偶状態の変化

図表-18 家族人員数（同居）

図表-19 親との居住関係

図表-20 子どもの人数

**2. 就業について…………… 94**

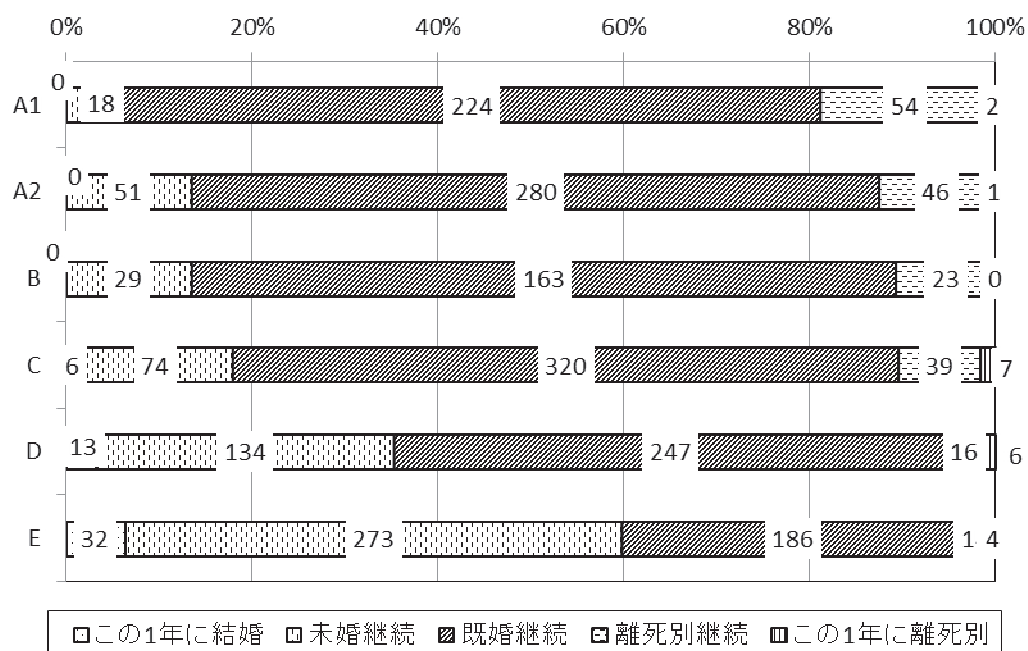
図表-21 本人 就業状況

図表-22 本人 就業上の地位

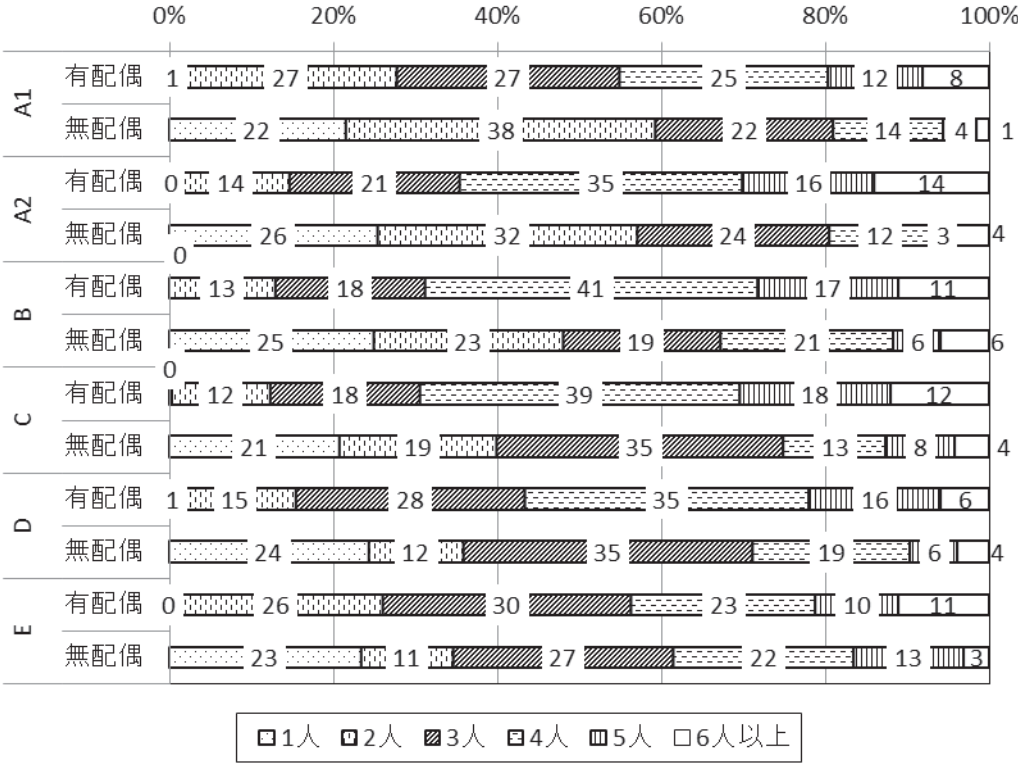
図表-23 夫 就業上の地位

## 1. 家族や世帯について

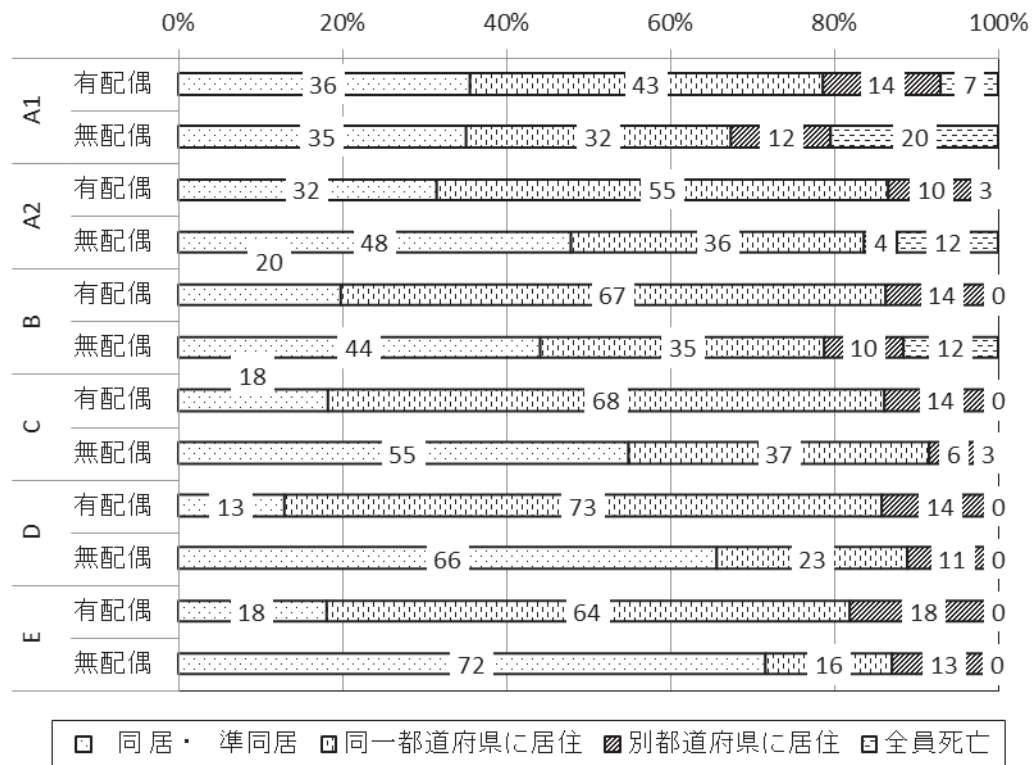
図表-17 配偶状態の変化(第23回調査時点)



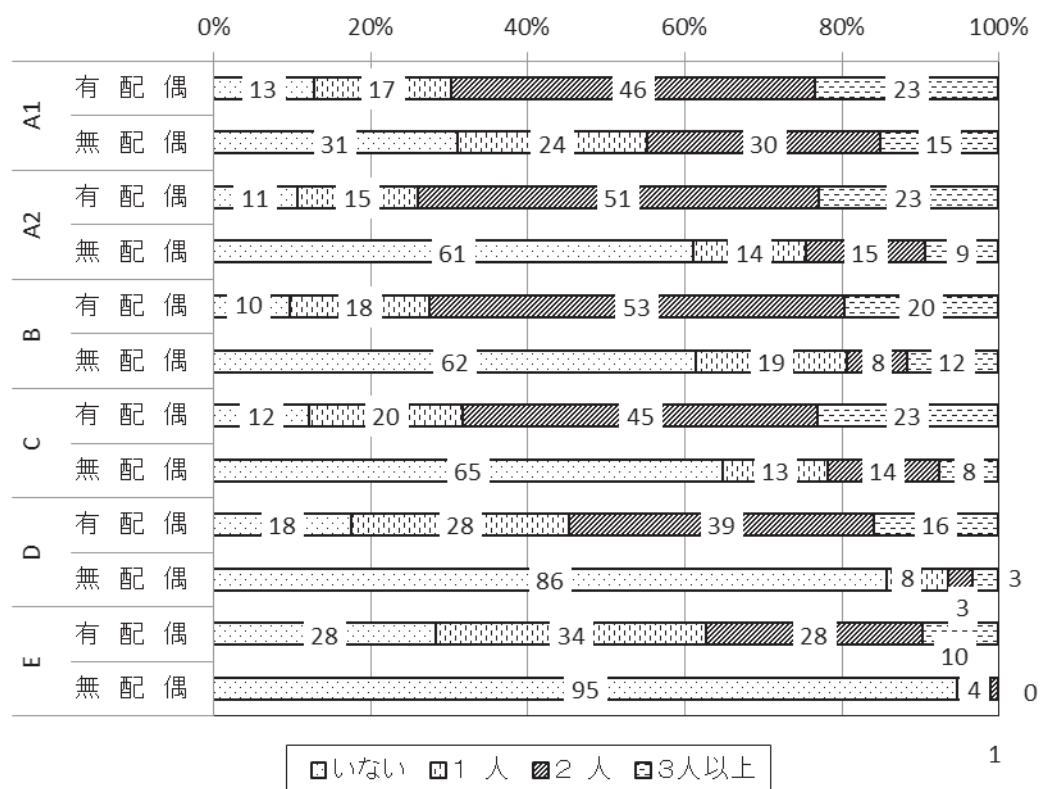
図表-18 家族人員数（同居）



図表-19 親との居住状況



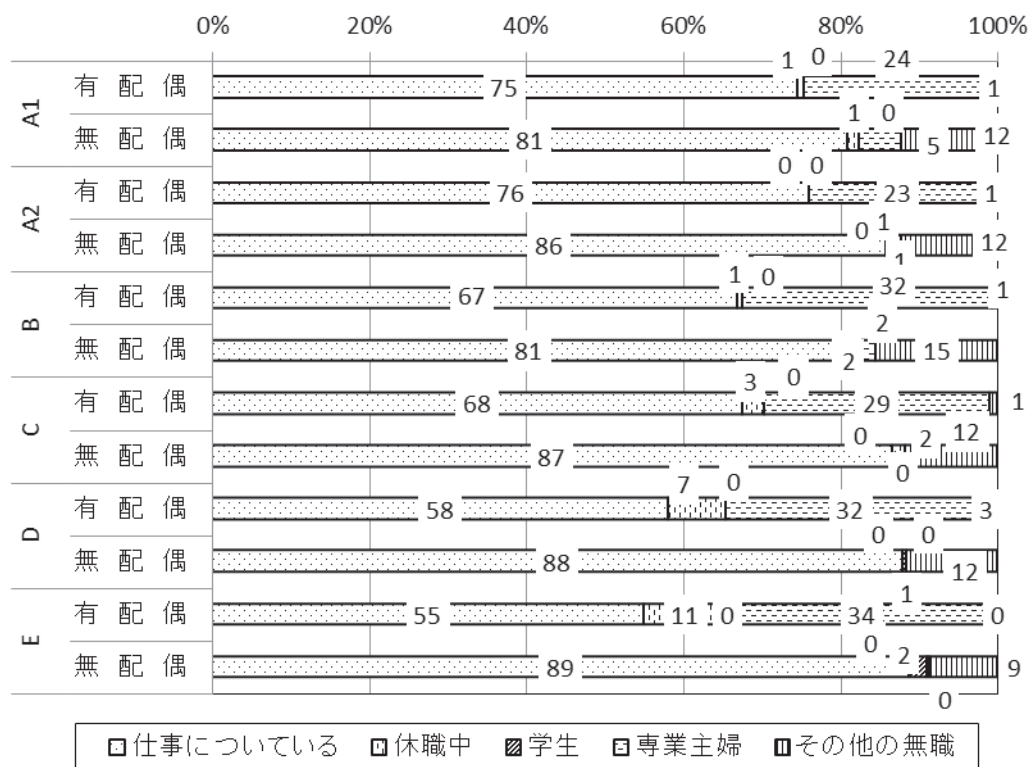
図表-20 子どもの人数



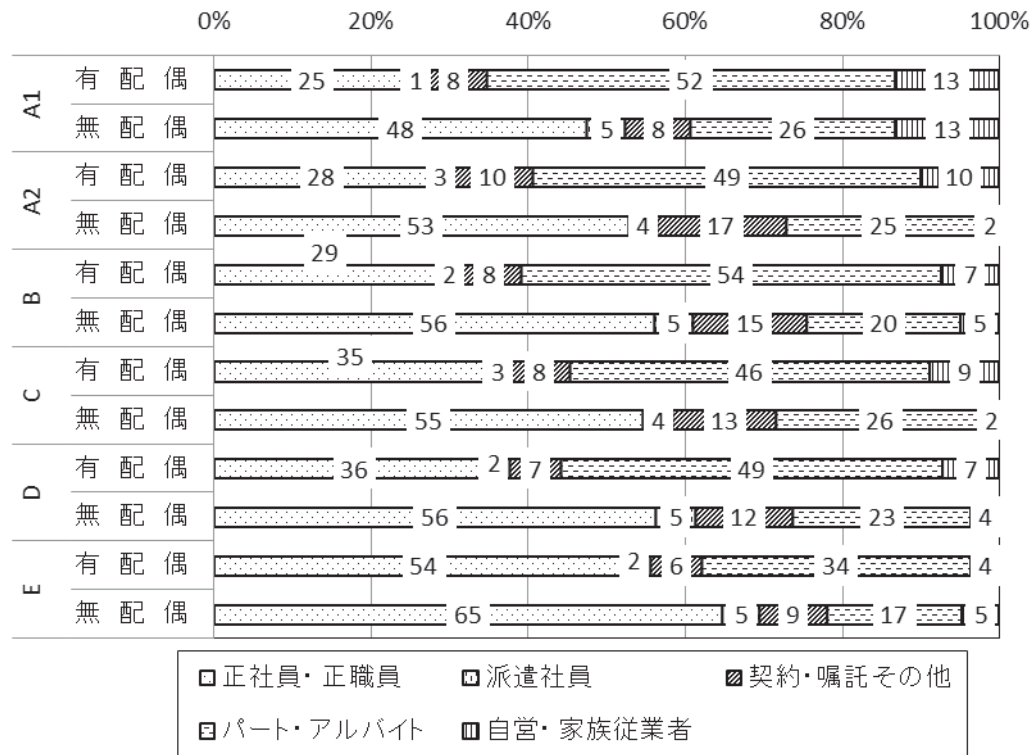


## 2. 就業について

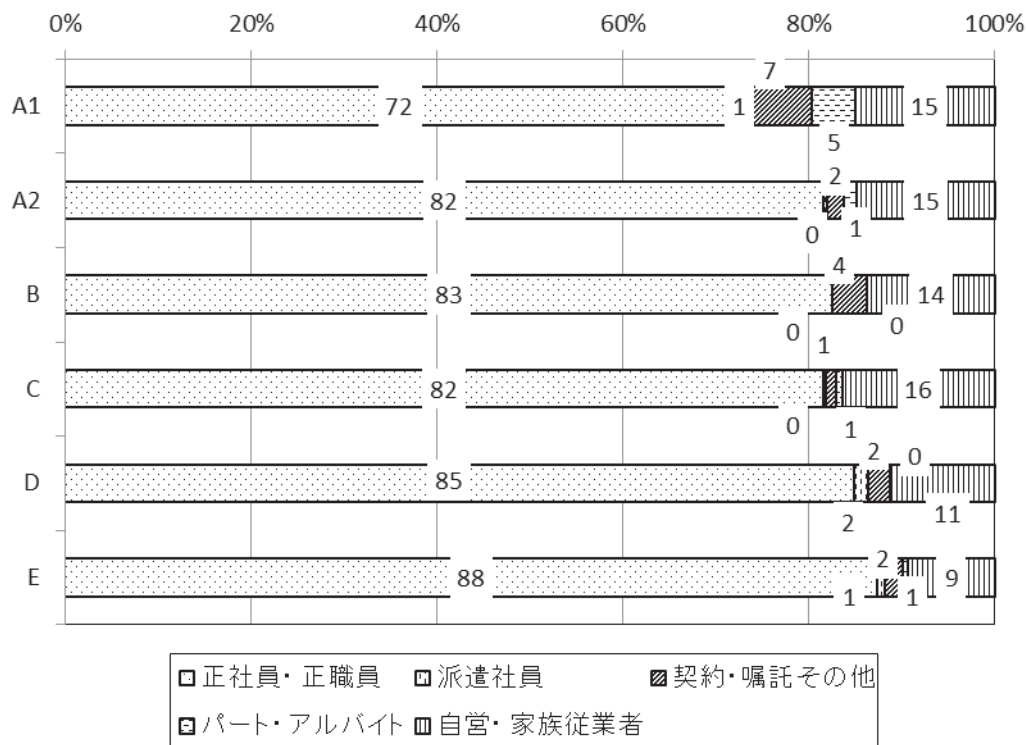
図表-21 本人 就業状況



図表-22 本人 就業上の地位



図表-23 夫 就業上の地位



## その他の結果

|     |     |
|-----|-----|
| 有配偶 | 99  |
| 無配偶 | 125 |

- ・金額と時間については平均値を記載している。値が上下に分かれている場合、上段は、集計に0円を含めた値、下段は0円を含めない値である。
- ・値が0としか記載されていないものは、小数点以下を切り捨てたものである。
- ・各コーホートの人数については、88ページを参照のこと。



## 有配偶

|                              |     |
|------------------------------|-----|
| 家計について……………                  | 101 |
| （生活費、貯蓄、生活費細目、世帯年収、夫婦の手取り収入） |     |
| 生活行動について……………                | 111 |
| お子さんについて……………                | 114 |
| 生活意識について……………                | 115 |





問1. お宅では、この9月にどのくらい支出、貯蓄（生命保険などの保険料の支払いを含む）、ローン返済をしましたか。 **0円の場合は、0と記入して下さい。**

《コーポートA1 有配偶》

生活費その他の支出

貯蓄

ローン返済

2

8

2

8

万

4

4

千円

9

9

万

0

9

千円

5

8

万

0

8

千円

(貯蓄、ローン返済を除く)

(生命保険料などを含む)

内訳

内訳

家族共通の支出

家族共通の貯蓄

家族共通の支出

家族共通の貯蓄

妻のための支出

妻のための貯蓄

妻のための支出

妻のための貯蓄

夫のための支出

夫のための貯蓄

夫のための支出

夫のための貯蓄

子どものための支出

子どものための貯蓄

子どものための支出

子どものための貯蓄

それ以外の方のための支出

それ以外の方のための貯蓄

それ以外の方のための支出

それ以外の方のための貯蓄

《コーポートA2 有配偶》

生活費その他の支出

貯蓄

ローン返済

2

7

2

7

万

9

9

千円

7

7

万

0

8

千円

5

8

万

9

8

千円

(貯蓄、ローン返済を除く)

(生命保険料などを含む)

内訳

内訳

家族共通の支出

家族共通の貯蓄

家族共通の支出

家族共通の貯蓄

妻のための支出

妻のための貯蓄

妻のための支出

妻のための貯蓄

夫のための支出

夫のための貯蓄

夫のための支出

夫のための貯蓄

子どものための支出

子どものための貯蓄

子どものための支出

子どものための貯蓄

それ以外の方のための支出

それ以外の方のための貯蓄

それ以外の方のための支出

それ以外の方のための貯蓄

【コーポートB 有配偶】

| 生活費その他の支出     |        | 貯 蓄          |        | ローン返済         |        |
|---------------|--------|--------------|--------|---------------|--------|
| (貯蓄、ローン返済を除く) |        | (生命保険料などを含む) |        | (貯蓄、ローン返済を除く) |        |
| 2<br>2        | 6<br>6 | 4<br>4       | 5<br>6 | 9<br>6        | 8<br>5 |
| 万             |        | 千円           |        | 万             |        |
| 千円            |        | 千円           |        | 千円            |        |
| 内訳            |        | 内訳           |        | 内訳            |        |
| 家族共通の支出       |        | 家族共通の貯蓄      |        | 家族共通の貯蓄       |        |
| 1<br>1        | 5<br>5 | 5<br>5       | 5<br>5 | 2<br>5        | 8<br>0 |
| 万             |        | 千円           |        | 万             |        |
| 千円            |        | 千円           |        | 千円            |        |
| 妻のための支出       |        | 妻のための貯蓄      |        | 妻のための貯蓄       |        |
| 1<br>2        | 9<br>2 | 9<br>2       | 9<br>2 | 1<br>1        | 8<br>6 |
| 万             |        | 千円           |        | 万             |        |
| 千円            |        | 千円           |        | 千円            |        |
| 夫のための支出       |        | 夫のための貯蓄      |        | 夫のための貯蓄       |        |
| 3<br>3        | 3<br>9 | 3<br>9       | 3<br>9 | 1<br>2        | 1<br>2 |
| 万             |        | 千円           |        | 万             |        |
| 千円            |        | 千円           |        | 千円            |        |
| 子どものための支出     |        | 子どものための貯蓄    |        | 子どものための貯蓄     |        |
| 5<br>5        | 0<br>9 | 0<br>9       | 0<br>9 | 1<br>2        | 3<br>4 |
| 万             |        | 千円           |        | 万             |        |
| 千円            |        | 千円           |        | 千円            |        |
| それ以外の方のための支出  |        | それ以外の方のための貯蓄 |        | それ以外の方のための貯蓄  |        |
| 1<br>3        | 2<br>9 | 2<br>9       | 2<br>9 | 1<br>1        | 2<br>8 |
| 万             |        | 千円           |        | 万             |        |
| 千円            |        | 千円           |        | 千円            |        |

【コーポートC 有配偶】

| 生活費その他の支出     |        | 貯 蓄          |        | ローン返済         |        |
|---------------|--------|--------------|--------|---------------|--------|
| (貯蓄、ローン返済を除く) |        | (生命保険料などを含む) |        | (貯蓄、ローン返済を除く) |        |
| 2<br>2        | 5<br>5 | 2<br>2       | 5<br>5 | 4<br>2        | 7<br>4 |
| 万             |        | 千円           |        | 万             |        |
| 千円            |        | 千円           |        | 千円            |        |
| 内訳            |        | 内訳           |        | 内訳            |        |
| 家族共通の支出       |        | 家族共通の貯蓄      |        | 家族共通の貯蓄       |        |
| 1<br>1        | 5<br>5 | 4<br>4       | 4<br>4 | 4<br>6        | 2<br>2 |
| 万             |        | 千円           |        | 万             |        |
| 千円            |        | 千円           |        | 千円            |        |
| 妻のための支出       |        | 妻のための貯蓄      |        | 妻のための貯蓄       |        |
| 1<br>2        | 6<br>1 | 6<br>1       | 6<br>1 | 1<br>1        | 7<br>8 |
| 万             |        | 千円           |        | 万             |        |
| 千円            |        | 千円           |        | 千円            |        |
| 夫のための支出       |        | 夫のための貯蓄      |        | 夫のための貯蓄       |        |
| 3<br>3        | 2<br>8 | 2<br>8       | 2<br>8 | 2<br>2        | 9<br>2 |
| 万             |        | 千円           |        | 万             |        |
| 千円            |        | 千円           |        | 千円            |        |
| 子どものための支出     |        | 子どものための貯蓄    |        | 子どものための貯蓄     |        |
| 3<br>4        | 9<br>6 | 9<br>6       | 9<br>6 | 1<br>2        | 2<br>3 |
| 万             |        | 千円           |        | 万             |        |
| 千円            |        | 千円           |        | 千円            |        |
| それ以外の方のための支出  |        | それ以外の方のための貯蓄 |        | それ以外の方のための貯蓄  |        |
| 1<br>3        | 4<br>8 | 4<br>8       | 4<br>8 | 2<br>2        | 2<br>3 |
| 万             |        | 千円           |        | 万             |        |
| 千円            |        | 千円           |        | 千円            |        |

【コーポレートD 有配偶】

| 生活費その他の支出     |         | 貯 蓄          |         | ローン返済 |   |
|---------------|---------|--------------|---------|-------|---|
| 2             | 2       | 0            | 5       | 5     | 1 |
| 2             | 2       | 0            | 6       | 7     | 9 |
| 千円            |         | 万円           |         | 万円    |   |
| (貯蓄、ローン返済を除く) |         | (生命保険料などを含む) |         |       |   |
| →             |         | →            |         |       |   |
| 内訳            |         | 内訳           |         |       |   |
| 家族共通の支出       | 1 4 6 7 | 家族共通の貯蓄      | 2 4 8 4 |       |   |
| 妻のための支出       | 1 2 6 1 | 妻のための貯蓄      | 1 1 6 6 |       |   |
| 夫のための支出       | 2 3 7 4 | 夫のための貯蓄      | 2 2 8 1 |       |   |
| 子どものための支出     | 2 3 5 3 | 子どものための貯蓄    | 1 2 1 2 |       |   |
| それ以外の方のための支出  | 3 8 2   | それ以外の方のための貯蓄 | 1 1 6   |       |   |

【コーポレートE 有配偶】

| 生活費その他の支出     |         | 貯 蓄          |         | ローン返済 |   |
|---------------|---------|--------------|---------|-------|---|
| 2             | 0       | 1            | 6       | 4     | 0 |
| 2             | 0       | 1            | 7       | 7     | 0 |
| 千円            |         | 万円           |         | 万円    |   |
| (貯蓄、ローン返済を除く) |         | (生命保険料などを含む) |         |       |   |
| →             |         | →            |         |       |   |
| 内訳            |         | 内訳           |         |       |   |
| 家族共通の支出       | 1 2 7 9 | 家族共通の貯蓄      | 4 6 5 9 |       |   |
| 妻のための支出       | 1 2 8 3 | 妻のための貯蓄      | 2 2 6 0 |       |   |
| 夫のための支出       | 2 3 7 5 | 夫のための貯蓄      | 2 2 6 2 |       |   |
| 子どものための支出     | 1 2 8 9 | 子どものための貯蓄    | 2 2 9 5 |       |   |
| それ以外の方のための支出  | 1 4 2 3 | それ以外の方のための貯蓄 | 2 2 1 0 |       |   |

|    |               |                           |
|----|---------------|---------------------------|
| 6  | 家計についてうかがいます。 | 継続...29ページ<br>新規...36 ページ |
| 10 |               |                           |

問2．お宅では、収入から一定の額を貯蓄するようにしていますか。(○は1つだけ)

- 1
定期的に貯蓄するようにしている
- 2
計画は立てていないが、余ったお金を貯蓄にまわしている
- 3
貯蓄にまわすことはほぼできていない
- 4
特に貯蓄しようと思わない

|               |       |         |         |
|---------------|-------|---------|---------|
| 《コーポートA1 有配偶》 |       |         |         |
| 1             | 50.9% | 2:24.1% | 3:20.5% |
|               |       | 4:2.2%  | NA:2.2% |
| 《コーポートA2 有配偶》 |       |         |         |
| 1             | 42.9% | 2:26.1% | 3:28.2% |
|               |       | 4:2.1%  | NA:0.7% |
| 《コーポートB 有配偶》  |       |         |         |
| 1             | 39.9% | 2:27.0% | 3:31.3% |
|               |       | 4:1.2%  | NA:0.6% |
| 《コーポートC 有配偶》  |       |         |         |
| 1             | 44.2% | 2:31.6% | 3:22.1% |
|               |       | 4:1.8%  | NA:0.3% |
| 《コーポートD 有配偶》  |       |         |         |
| 1             | 41.9% | 2:32.3% | 3:24.6% |
|               |       | 4:0.8%  | NA:0.4% |
| 《コーポートE 有配偶》  |       |         |         |
| 1             | 34.9% | 2:38.1% | 3:25.2% |
|               |       | 4:0.9%  | NA:0.9% |

|   |    |               |                         |
|---|----|---------------|-------------------------|
| 6 | 10 | 家計についてうかがいます。 | 継続...30 ページ/新規...37 ページ |
|---|----|---------------|-------------------------|

問3．次の各項目について、あなたのご家庭でこの9月1カ月間に支出した額を記入して下さい。

《コーポートA1 有配偶》

|                                         |   |   |   |   |    |
|-----------------------------------------|---|---|---|---|----|
| 食料（外食・給食代も含みます）                         | → | 7 | 7 | 7 | 千円 |
| 家賃・地代・住宅の修繕（住宅ローンは含みません）                | → | 2 | 6 | 0 | 千円 |
| 電気・ガス・水道（上・下）                           | → | 2 | 2 | 4 | 千円 |
| 家具・家事用品（寝具はこちらに含みます）                    | → | 1 |   | 5 | 千円 |
| 衣類・はき物                                  | → | 1 | 1 | 2 | 千円 |
| 保健医療（栄養ドリンク・健康食品も含みます）                  | → | 1 | 1 | 2 | 千円 |
| 交通（自動車購入費用・ガソリン代・定期代なども含みます）            | → | 2 | 2 | 5 | 千円 |
| 通信（郵便・電話代・インターネットなど）                    | → | 2 | 2 | 1 | 千円 |
| 教育（授業料・受験や補習用の塾・教科書・参考書など）              | → | 1 | 8 | 9 | 千円 |
| 教養・娯楽（受験・補習塾以外の習い事・教養・娯楽用の耐久財はこちらに含みます） | → | 2 |   | 9 | 千円 |
| 交際                                      | → | 1 | 1 | 1 | 千円 |
| 夫・妻・子どもへの小遣い、子どもへの仕送り                   | → | 4 | 6 | 9 | 千円 |
| 親への仕送り、小遣い                              | → | 2 |   | 3 | 千円 |
| その他の支出                                  | → | 2 | 5 | 7 | 千円 |

|       |   |   |   |    |
|-------|---|---|---|----|
|       | 6 | 1 | 4 | 千円 |
| 生活費合計 | 6 | 1 | 4 |    |

【コーポートA2 有配偶】

|                                         |   |
|-----------------------------------------|---|
| 食料（外食・給食代も含みます）                         | → |
| 家賃・地代・住宅の修繕（住宅ローンは含みません）                | → |
| 電気・ガス・水道（上・下）                           | → |
| 家具・家事用品（寝具はこちらに含みます）                    | → |
| 衣類・はき物                                  | → |
| 保健医療（栄養ドリンク・健康食品も含みます）                  | → |
| 交通（自動車購入費用・ガソリン代・定期代なども含みます）            | → |
| 通信（郵便・電話代・インターネットなど）                    | → |
| 教育（授業料・受験や補習用の塾・教科書・参考書など）              | → |
| 教養・娯楽（受験・補習塾以外の習い事・教養・娯楽用の耐久財はこちらに含みます） | → |
| 交際                                      | → |
| 夫・妻・子どもへの小遣い、子どもへの仕送り                   | → |
| 親への仕送り、小遣い                              | → |
| その他の支出                                  | → |

|       |   |   |    |
|-------|---|---|----|
| 生活費合計 | → |   |    |
| 4     | 6 | 3 | 千円 |
| 4     | 6 | 3 |    |

【コーポートB 有配偶】

|                                         |   |
|-----------------------------------------|---|
| 食料（外食・給食代も含みます）                         | → |
| 家賃・地代・住宅の修繕（住宅ローンは含みません）                | → |
| 電気・ガス・水道（上・下）                           | → |
| 家具・家事用品（寝具はこちらに含みます）                    | → |
| 衣類・はき物                                  | → |
| 保健医療（栄養ドリンク・健康食品も含みます）                  | → |
| 交通（自動車購入費用・ガソリン代・定期代なども含みます）            | → |
| 通信（郵便・電話代・インターネットなど）                    | → |
| 教育（授業料・受験や補習用の塾・教科書・参考書など）              | → |
| 教養・娯楽（受験・補習塾以外の習い事・教養・娯楽用の耐久財はこちらに含みます） | → |
| 交際                                      | → |
| 夫・妻・子どもへの小遣い、子どもへの仕送り                   | → |
| 親への仕送り、小遣い                              | → |
| その他の支出                                  | → |

|       |        |
|-------|--------|
| 生活費合計 | .....→ |
|-------|--------|



【コーポートC 有配偶】

|                                         |   |
|-----------------------------------------|---|
| 食料（外食・給食代も含みます）                         | → |
| 家賃・地代・住宅の修繕（住宅ローンは含みません）                | → |
| 電気・ガス・水道（上・下）                           | → |
| 家具・家事用品（寝具はこちらに含みます）                    | → |
| 衣類・はき物                                  | → |
| 保健医療（栄養ドリンク・健康食品も含みます）                  | → |
| 交通（自動車購入費用・ガソリン代・定期代なども含みます）            | → |
| 通信（郵便・電話代・インターネットなど）                    | → |
| 教育（授業料・受験や補習用の塾・教科書・参考書など）              | → |
| 教養・娯楽（受験・補習塾以外の習い事・教養・娯楽用の耐久財はこちらに含みます） | → |
| 交際                                      | → |
| 夫・妻・子どもへの小遣い、子どもへの仕送り                   | → |
| 親への仕送り、小遣い                              | → |
| その他の支出                                  | → |

|       |   |   |    |
|-------|---|---|----|
| 生活費合計 | → |   |    |
| 2     | 6 | 7 | 千円 |
| 2     | 6 | 7 |    |

【コーポートD 有配偶】

|                                         |   |
|-----------------------------------------|---|
| 食料（外食・給食代も含みます）                         | → |
| 家賃・地代・住宅の修繕（住宅ローンは含みません）                | → |
| 電気・ガス・水道（上・下）                           | → |
| 家具・家事用品（寝具はこちらに含みます）                    | → |
| 衣類・はき物                                  | → |
| 保健医療（栄養ドリンク・健康食品も含みます）                  | → |
| 交通（自動車購入費用・ガソリン代・定期代なども含みます）            | → |
| 通信（郵便・電話代・インターネットなど）                    | → |
| 教育（授業料・受験や補習用の塾・教科書・参考書など）              | → |
| 教養・娯楽（受験・補習塾以外の習い事・教養・娯楽用の耐久財はこちらに含みます） | → |
| 交際                                      | → |
| 夫・妻・子どもへの小遣い、子どもへの仕送り                   | → |
| 親への仕送り、小遣い                              | → |
| その他の支出                                  | → |

|       |   |   |    |
|-------|---|---|----|
| 生活費合計 | → |   |    |
| 3     | 9 | 8 | 千円 |
| 3     | 9 | 8 | 万  |

【コーポレートE 有配偶】

食料（外食、給食代も含みます）→

4

4

万

2

3

千円

家賃・地代・住宅の修繕（住宅ローンは含みません）→

3

6

万

8

0

千円

電気・ガス・水道（上・下）→

1

1

万

5

6

千円

家具・家事用品（寝具はこちらに含みます）→

1

万

5

2

千円

衣類・はき物→

1

1

万

0

4

千円

保健医療（栄養ドリンク・健康食品も含みます）→

1

万

6

2

千円

交通（自動車購入費用・ガソリン代・定期代なども含みます）→

1

1

万

6

8

千円

通信（郵便・電話代・インターネットなど）→

1

2

万

9

0

千円

教育（授業料・受験や補習用の塾・教科書・参考書など）→

1

3

万

2

0

千円

教養・娯楽（受験・補習塾以外の習い事・教養・娯楽用の耐久財ははこちらに含みます）→

1

2

万

1

4

千円

交際→

1

1

万

0

7

千円

夫・妻・子どもへの小遣い、子どもへの仕送り→

2

3

万

1

6

千円

親への仕送り、小遣い→

2

万

1

0

千円

その他の支出→

2

4

万

0

4

千円

生活費合計→

4

0

万

9

9

千円

6

10

家計についてうかがいます。

継続…31ページ  
新規…38ページ

問4．あなたの方ご夫婦、及びご夫婦以外の方が世帯員にいらっしゃればその方が昨年1年間（平成24年1月～平成24年12月）に得た収入は、社会保障給付、親からの仕送りなども含め、全体でいくらかでしたか。次の①～⑤の区分でお答え下さい。

【コーポレートM1 有配偶】

夫の年収

妻の年収

夫婦の共通の年収

夫婦以外の世帯員の年収

① 勤め先の収入

(勤め人の税込み年収)

5

0

3

5

8

3

万円

1

4

9

万円

2

1

1

\*

1

2

0

3

4

9

万円

② 事業収入

(営業者の税込み年収)

6

3

5

7

9

万円

1

3

0

万円

2

0

4

\*

1

0

0

3

4

0

万円

③ 財産収入(昨年1年分)

(「預貯金利子、株式配当、家賃、地代など」)

2

1

1

3

2

万円

3

4

2

万円

1

7

0

1

6

2

1

4

2

万円

④ 社会保障給付(昨年1年分)

(子ども手当、失業給付、年金など)

6

7

0

1

3

1

万円

1

0

7

万円

3

2

8

3

2

8

1

4

8

万円

⑤ その他の収入(昨年1年分)

(親からの仕送り・こづかい、養育費など)

0

6

1

4

4

万円

1

0

0

万円

2

0

0

1

0

1

2

0

0

万円

合 計

6

9

5

6

0

6

万円

1

6

9

万円

2

1

5

1

6

3

3

4

4

万円

- 107 -

《コーポレートA2 有配偶》

|                                                                                  | 夫の<br>年収      | 妻の<br>年収      | 夫婦の共<br>通の年収 | 夫婦以外<br>の世帯員<br>の方全員<br>の年収 |
|----------------------------------------------------------------------------------|---------------|---------------|--------------|-----------------------------|
| ① 勤め先の収入<br>(勤め人の税込み年収)                                                          | 513<br>592 万円 | 145<br>201 万円 | *            | 73<br>290 万円                |
| ② 事業収入<br>(自営者の税込み年収)                                                            | 64<br>478 万円  | 11<br>270 万円  | *            | 0<br>393 万円                 |
| ③ 財産収入(昨年1年分)<br>〔預貯金利子、株式配当、<br>家賃、地代など〕                                        | 8<br>113 万円   | 2<br>55 万円    | 0<br>32 万円   | 2<br>160 万円                 |
| ④ 社会保障給付<br>(昨年1年分)<br>〔子ども手当、失業給付、<br>年金など<br>(社会保障給付は振り込み口座<br>の名義人の収入として下さい)〕 | 5<br>20 万円    | 1<br>31 万円    | 0<br>0 万円    | 24<br>104 万円                |
| ⑤ その他の収入<br>(昨年1年分)<br>〔親からの仕送り・こづかい、養育費など〕                                      | 1<br>63 万円    | 1<br>49 万円    | 1<br>34 万円   | 1<br>36 万円                  |
| 合 計                                                                              | 592<br>592 万円 | 161<br>208 万円 | 1<br>33 万円   | 110<br>286 万円               |

《コーポレートB 有配偶》

|                                                                                  | 夫の<br>年収      | 妻の<br>年収      | 夫婦の共<br>通の年収 | 夫婦以外<br>の世帯員<br>の方全員<br>の年収 |
|----------------------------------------------------------------------------------|---------------|---------------|--------------|-----------------------------|
| ① 勤め先の収入<br>(勤め人の税込み年収)                                                          | 530<br>571 万円 | 129<br>194 万円 | *            | 19<br>233 万円                |
| ② 事業収入<br>(自営者の税込み年収)                                                            | 49<br>577 万円  | 3<br>152 万円   | *            | 17<br>636 万円                |
| ③ 財産収入(昨年1年分)<br>〔預貯金利子、株式配当、<br>家賃、地代など〕                                        | 4<br>83 万円    | 1<br>54 万円    | 0<br>36 万円   | 3<br>1890 万円                |
| ④ 社会保障給付<br>(昨年1年分)<br>〔子ども手当、失業給付、<br>年金など<br>(社会保障給付は振り込み口座<br>の名義人の収入として下さい)〕 | 13<br>22 万円   | 1<br>51 万円    | 0<br>12 万円   | 12<br>126 万円                |
| ⑤ その他の収入<br>(昨年1年分)<br>〔親からの仕送り・こづかい、養育費など〕                                      | 1<br>61 万円    | 1<br>24 万円    | 1<br>41 万円   | 0<br>40 万円                  |
| 合 計                                                                              | 683<br>587 万円 | 135<br>188 万円 | 1<br>37 万円   | 60<br>299 万円                |

《コーポレートC 有配偶》

|                                                                                   | 夫の<br>年収     | 妻の<br>年収     | 夫婦の共<br>通の年収 | 夫婦以外<br>の世帯員<br>の方全員<br>の年収 |
|-----------------------------------------------------------------------------------|--------------|--------------|--------------|-----------------------------|
| ① 勤め先の収入<br>(勤め人の税込み年収)                                                           | 458万円<br>527 | 145万円<br>223 | *            | 15万円<br>242                 |
| ② 事業収入<br>(自営者の税込み年収)                                                             | 80万円<br>628  | 4万円<br>90    | *            | 2万円<br>145                  |
| ③ 財産収入(昨年1年分)<br>(預貯金利子、株式配当、<br>家賃、地代など)                                         | 6万円<br>131   | 11万円<br>236  | 07万円         | 3万円<br>307                  |
| ④ 社会保障給付<br>(昨年1年分)<br>[子ども手当、失業給付、<br>年金など<br>(社会保障給付は振り込み口座<br>の名義人の収入として下さい。)] | 7万円<br>124   | 1万円<br>34    | 07万円         | 8万円<br>10                   |
| ⑤ その他の収入<br>(昨年1年分)<br>[親からの仕送り・こづかい、養育費など]                                       | 1万円<br>24    | 0万円<br>9     | 0万円<br>10    | 1万円<br>31                   |
| 合 計                                                                               | 566万円<br>568 | 162万円<br>224 | 11万円<br>29   | 30万円<br>194                 |

《コーポレートD 有配偶》

|                                                                                   | 夫の<br>年収     | 妻の<br>年収     | 夫婦の共<br>通の年収 | 夫婦以外<br>の世帯員<br>の方全員<br>の年収 |
|-----------------------------------------------------------------------------------|--------------|--------------|--------------|-----------------------------|
| ① 勤め先の収入<br>(勤め人の税込み年収)                                                           | 444万円<br>473 | 122万円<br>186 | *            | 18万円<br>405                 |
| ② 事業収入<br>(自営者の税込み年収)                                                             | 39万円<br>610  | 3万円<br>96    | *            | 5万円<br>000                  |
| ③ 財産収入(昨年1年分)<br>(預貯金利子、株式配当、<br>家賃、地代など)                                         | 1万円<br>20    | 0万円<br>14    | 00万円<br>10   | 0万円<br>21                   |
| ④ 社会保障給付<br>(昨年1年分)<br>[子ども手当、失業給付、<br>年金など<br>(社会保障給付は振り込み口座<br>の名義人の収入として下さい。)] | 5万円<br>124   | 3万円<br>51    | 0万円<br>35    | 3万円<br>76                   |
| ⑤ その他の収入<br>(昨年1年分)<br>[親からの仕送り・こづかい、養育費など]                                       | 4万円<br>80    | 2万円<br>30    | 0万円<br>11    | 0万円<br>6                    |
| 合 計                                                                               | 504万円<br>506 | 132万円<br>176 | 11万円<br>17   | 26万円<br>335                 |

《コーポートE 有配偶》

夫の  
年収

妻の  
年収

夫婦の共  
通の年収

夫婦以外  
の世帯員  
の方全員  
の年収

① 勤め先の収入  
(勤め人の税込み年収)

388  
415

136  
213

\*

21  
296

万円

③ 事業収入  
(自営者の税込み年収)

26  
355

0  
225

\*

15  
453

万円

③ 財産収入(昨年1年分)  
(預貯金利息、株式配当、  
家賃、地代など)

1  
28

0  
10

0  
7

1  
13

万円

⑥ 社会保険給付  
(昨年1年分)  
(子ども手当、失業給付、  
年金など)

13  
26

4  
58

0  
11

1  
04

万円

⑦ その他の収入  
(昨年1年分)  
(親からの仕送り・こづかい、養育費など)

2  
48

2  
27

1  
19

0  
10

万円

合 計

433  
433

143  
202

1  
16

33  
289

万円

6  
10

家計についてうかがいます。

継続…33ページ  
新規…40ページ

問7. この9月の手取り収入(収入総額から税金、社会保険料などを差し引いた額)はどのくらいですか。(ボーナス、臨時の給与は除きます)

《コーポートA1 有配偶》

① ご主人

9月の手取り収入

3  
3

0  
2

万円

② あなた

9月の手取り収入

1  
1

0  
4

万円

《コーポートA2 有配偶》

① ご主人

9月の手取り収入

3  
3

1  
2

万円

② あなた

9月の手取り収入

1  
1

0  
4

万円

《コーポートB 有配偶》

① ご主人

9月の手取り収入

3  
3

0  
2

万円

② あなた

9月の手取り収入

1  
1

8  
3

万円

《コーホートA1 有配偶》

本人

①通勤・通学

②仕事

③勉学

④家事・育児

⑤趣味・娯楽・交際など

⑥上記以外の睡眠、食事、入浴、身の回りの用事など

平日

時間

3 7 5 1

時間

3 7 1 2

時間

1 2 0 4

時間

4 9 5 8

時間

0 1 2 4

時間

4 1 4 1

休日

時間

1 2 0

時間

3 5 4

時間

1 6 2 9

時間

4 5 0 5

時間

5 9 1 1

時間

2 6 2 6

夫

①通勤・通学

②仕事

③勉学

④家事・育児

⑤趣味・娯楽・交際など

⑥上記以外の睡眠、食事、入浴、身の回りの用事など

平日

時間

1 5 2 4

時間

1 7 4 1

時間

1 8 3 6

時間

2 3 1 2

時間

3 4 5 8

時間

1 0 1 0

休日

時間

1 2 0 1

時間

3 0 1 4

時間

3 1 1 3

時間

2 2 1 9

時間

0 3 2 3

時間

2 9 2 9

《コーホートC 有配偶》

①ご主人

②あなた

9月の手取り収入

万円

3 0 3 1

9月の手取り収入

万円

9 4 1 4

《コーホートD 有配偶》

①ご主人

②あなた

9月の手取り収入

万円

2 7 2 8

9月の手取り収入

万円

8 3 1 3

《コーホートE 有配偶》

①ご主人

②あなた

9月の手取り収入

万円

2 6 2 6

9月の手取り収入

万円

8 3 1 3



《コーホートA2 有配偶》

本人

|                            |                    |                  |
|----------------------------|--------------------|------------------|
| (1)通勤・通学                   | 平日                 | 休日               |
|                            | 時間<br>3 1<br>4 5 分 | 時間<br>4 1<br>1 分 |
| (2)仕事                      | 5 7<br>7 6 分       | 3 8<br>0 9 分     |
| (3)勉学                      | 9<br>1 1 分         | 1 3<br>2 5 分     |
| (4)家事・育児                   | 4 6<br>4 4 分       | 5 3<br>5 1 分     |
| (5)趣味・娯楽・交際など              | 2 3<br>3 1 分       | 3 1<br>0 0 分     |
| (6)上記以外の睡眠、食事、入浴、身の回りの用事など | 1 0<br>1 0 分       | 1 2<br>1 2 分     |

《コーホートB 有配偶》

本人

|                            |                    |                    |
|----------------------------|--------------------|--------------------|
| (1)通勤・通学                   | 平日                 | 休日                 |
|                            | 時間<br>2 5<br>4 0 分 | 時間<br>1 3<br>0 2 分 |
| (2)仕事                      | 4 3<br>0 2 分       | 3 4<br>1 5 分       |
| (3)勉学                      | 8<br>0 5 分         | 5 5<br>8 分         |
| (4)家事・育児                   | 2 8<br>3 2 分       | 1 9<br>2 7 分       |
| (5)趣味・娯楽・交際など              | 2 8<br>2 1 分       | 5 7<br>3 6 分       |
| (6)上記以外の睡眠、食事、入浴、身の回りの用事など | 1 0<br>1 0 分       | 1 1<br>1 1 分       |

夫

|                            |                    |                  |
|----------------------------|--------------------|------------------|
| (1)通勤・通学                   | 平日                 | 休日               |
|                            | 時間<br>0 0<br>0 6 分 | 時間<br>2 2<br>0 分 |
| (2)仕事                      | 3 1<br>4 0 分       | 2 8<br>0 0 分     |
| (3)勉学                      | 1 0<br>1 1 分       | 1 4<br>4 7 分     |
| (4)家事・育児                   | 2 2<br>5 3 分       | 0 9<br>5 7 分     |
| (5)趣味・娯楽・交際など              | 1 2<br>4 4 分       | 5 8<br>1 8 分     |
| (6)上記以外の睡眠、食事、入浴、身の回りの用事など | 1 0<br>1 0 分       | 0 8<br>0 8 分     |

夫

|                            |                    |                    |
|----------------------------|--------------------|--------------------|
| (1)通勤・通学                   | 平日                 | 休日                 |
|                            | 時間<br>0 5<br>1 0 分 | 時間<br>2 4<br>0 4 分 |
| (2)仕事                      | 5 9<br>1 2 分       | 4 2<br>4 2 分       |
| (3)勉学                      | 7<br>5 9 分         | 1 8<br>0 0 分       |
| (4)家事・育児                   | 3 4<br>1 1 分       | 4 6<br>4 4 分       |
| (5)趣味・娯楽・交際など              | 1 7<br>4 7 分       | 1 8<br>3 5 分       |
| (6)上記以外の睡眠、食事、入浴、身の回りの用事など | 5 5<br>5 5 分       | 5 2<br>5 2 分       |

《コーホートC 有配偶》

本人

|                            | 平日          |              | 休日          |                    |
|----------------------------|-------------|--------------|-------------|--------------------|
| (1)通勤・通学                   | 時間<br>1 0   | 3 5 分<br>5 6 | 時間<br>1     | 時間<br>1 0 分        |
| (2)仕事                      | 時間<br>4 6   | 3 6 分<br>5 4 | 時間<br>2     | 時間<br>3 4 分        |
| (3)勉強                      | 時間<br>1     | 9 分<br>1 2   | 時間<br>1     | 時間<br>1 3 分<br>3 6 |
| (4)家事・育児                   | 時間<br>6 6   | 3 2 分<br>3 3 | 時間<br>8 8   | 時間<br>0 6 分<br>1 1 |
| (5)趣味・娯楽・交際など              | 時間<br>1 2   | 4 2 分<br>2 0 | 時間<br>3 4   | 時間<br>5 6 分<br>4 4 |
| (6)上記以外の睡眠、食事、入浴、身の回りの用事など | 時間<br>1 1 0 | 2 3 分<br>2 3 | 時間<br>1 1 1 | 時間<br>3 5 分<br>3 5 |

《コーホートD 有配偶》

本人

|                            | 平日          |              | 休日          |                    |
|----------------------------|-------------|--------------|-------------|--------------------|
| (1)通勤・通学                   | 時間<br>1 0   | 2 4 分<br>4 6 | 時間<br>1 1   | 時間<br>4 0 分<br>8   |
| (2)仕事                      | 時間<br>3 7   | 5 0 分<br>0 2 | 時間<br>4     | 時間<br>1 5 分<br>2 5 |
| (3)勉強                      | 時間<br>1     | 5 分<br>2 1   | 時間<br>1     | 時間<br>6 分<br>3 5   |
| (4)家事・育児                   | 時間<br>7 7   | 4 6 分<br>4 8 | 時間<br>8 8   | 時間<br>5 5 分<br>5 9 |
| (5)趣味・娯楽・交際など              | 時間<br>1 2   | 4 1 分<br>2 8 | 時間<br>3 4   | 時間<br>3 1 分<br>3 0 |
| (6)上記以外の睡眠、食事、入浴、身の回りの用事など | 時間<br>1 1 0 | 1 2 分<br>1 4 | 時間<br>1 1 1 | 時間<br>1 0 分<br>1 2 |

夫

|                            | 平日          |              | 休日            |                    |
|----------------------------|-------------|--------------|---------------|--------------------|
| (1)通勤・通学                   | 時間<br>1 1   | 1 6 分<br>2 1 | 時間<br>1       | 時間<br>1 分<br>3 0   |
| (2)仕事                      | 時間<br>9 1 0 | 5 8 分<br>0 6 | 時間<br>3       | 時間<br>2 4 分<br>2 5 |
| (3)勉強                      | 時間<br>1     | 1 1 分<br>1 9 | 時間<br>1       | 時間<br>1 9 分<br>4 8 |
| (4)家事・育児                   | 時間<br>1     | 5 0 分<br>2 5 | 時間<br>3 4     | 時間<br>2 6 分<br>0 9 |
| (5)趣味・娯楽・交際など              | 時間<br>1 2   | 5 5 分<br>2 6 | 時間<br>6 7     | 時間<br>3 8 分<br>0 1 |
| (6)上記以外の睡眠、食事、入浴、身の回りの用事など | 時間<br>9 9   | 4 7 分<br>4 9 | 時間<br>1 3 1 3 | 時間<br>0 9 分<br>0 9 |

夫

|                            | 平日          |              | 休日            |                    |
|----------------------------|-------------|--------------|---------------|--------------------|
| (1)通勤・通学                   | 時間<br>1 1   | 0 8 分<br>1 2 | 時間<br>1       | 時間<br>3 分<br>4 5   |
| (2)仕事                      | 時間<br>1 1 0 | 1 3 分<br>2 3 | 時間<br>3       | 時間<br>2 5 分<br>5 6 |
| (3)勉強                      | 時間<br>1     | 1 4 分<br>4 3 | 時間<br>1       | 時間<br>1 4 分<br>4 9 |
| (4)家事・育児                   | 時間<br>1     | 5 5 分<br>2 6 | 時間<br>4 5     | 時間<br>2 6 分<br>0 5 |
| (5)趣味・娯楽・交際など              | 時間<br>1 2   | 2 9 分<br>1 0 | 時間<br>5 6     | 時間<br>5 1 分<br>2 5 |
| (6)上記以外の睡眠、食事、入浴、身の回りの用事など | 時間<br>9 9   | 5 8 分<br>5 8 | 時間<br>1 2 1 2 | 時間<br>5 8 分<br>5 8 |

《コーホート E 有配偶》

本人

|                            |                     |                 |
|----------------------------|---------------------|-----------------|
| (1)通勤・通学                   | 平日                  | 休日              |
|                            | 時間 2 6<br>5 0 分     | 時間 4 1<br>1 分   |
| (2)仕事                      | 時間 4 0<br>7 5 分     | 時間 1 8<br>1 0 分 |
| (3)勉学                      | 時間 1 8<br>4 1 分     | 時間 2 9<br>5 分   |
| (4)家事・育児                   | 時間 7 7<br>2 6 分     | 時間 2 6<br>3 6 分 |
| (5)趣味・娯楽・交際など              | 時間 1 4<br>2 1 分     | 時間 5 3<br>5 6 分 |
| (6)上記以外の睡眠、食事、入浴、身の回りの用事など | 時間 1 3<br>1 0 1 3 分 | 時間 1 9<br>2 3 分 |

夫

|                            |                 |                 |
|----------------------------|-----------------|-----------------|
| (1)通勤・通学                   | 平日              | 休日              |
|                            | 時間 1 4<br>1 5 分 | 時間 3 3<br>5 9 分 |
| (2)仕事                      | 時間 2 2<br>3 2 分 | 時間 3 2<br>0 7 分 |
| (3)勉学                      | 時間 7 7<br>2 8 分 | 時間 1 1<br>5 2 分 |
| (4)家事・育児                   | 時間 5 6<br>2 2 分 | 時間 2 3<br>5 7 分 |
| (5)趣味・娯楽・交際など              | 時間 2 7<br>0 2 分 | 時間 3 6<br>1 6 分 |
| (6)上記以外の睡眠、食事、入浴、身の回りの用事など | 時間 9 2<br>5 2 分 | 時間 1 3<br>1 3 分 |

|    |                 |          |
|----|-----------------|----------|
| 16 | お子さんについてうかがいます。 | 継続…59ページ |
| 20 |                 | 新規…64ページ |

問3．高校卒業までの子どもの養育・教育費に対する責任について次の考え方のうち、あなたのお考えに最も近いものをお答えください。(○は1つだけ)

- 1 子どもの養育・教育の責任は親にあるので、親が私的に養育・教育費の責任をもつべきである
- 2 子どもはいずれ労働力となり生産に貢献するのだから、養育手当等の形で企業がかなり養育・教育費を負担すべきである
- 3 子どもは将来社会を支える、社会全体の子どもなので、子どもの養育・教育費は社会全体で、公的に責任を負うべきである
- 4 その他（具体的に）

《コーホート A1 有配偶》  
1:44.2% 2:0.9% 3:51.3% 4:2.7% NA:0.9%

《コーホート A2 有配偶》  
1:48.6% 2:2.5% 3:43.6% 4:3.9% NA:1.4%

《コーホート B 有配偶》  
1:46.6% 2:2.5% 3:49.1% 4:1.2% NA:0.6%

《コーホート C 有配偶》  
1:43.9% 2:5.2% 3:48.2% 4:2.1% NA:0.6%

《コーホート D 有配偶》  
1:48.5% 2:1.9% 3:47.3% 4:1.2% NA:1.2%

《コーホート E 有配偶》  
1:45.9% 2:4.1% 3:47.7% 4:1.4% NA:0.9%

|    |                 |             |
|----|-----------------|-------------|
| 18 | 生活意識についてうかがいます。 | 継続・・・61 ページ |
| 22 |                 | 新規・・・66 ページ |

以下の項目を集計しています

- 問 1. 生活満足度
- 問 2. 社会満足度
- 問 3. ふだんの健康状態
- 問 4. 同年齢の人と比べて若いと思うか
- 問 5. 生活程度の水準
- 問 6. 「自分が家族に理解されていない」と感じたか
- 問 7. 家事・育児・介護などでの負担
- 問 8. 収入満足度
- 問 9. 消費（生活費支出）額に満足しているか
- 問 10. 消費（生活費支出）の内容に満足しているか
- 問 11. 家計簿をつけているか
- 問 12. 今年の消費支出は昨年と比べてどのようになっているか
- 問 13. 来年の消費支出は今年と比べてどのようになるか
- 問 14. 家計の先行き不安を感じたか
- 問 15. 今年の所得は昨年と比べてどのようになっているか
- 問 16. 来年の所得は今年と比べてどのようになっているか
- 問 17. 今後の日本の景気は良くなるか
- 問 18. 夫婦関係満足度
- 問 19. 幸福度

問 1. あなたは生活全般に満足していますか。

| 1   | 2          | 3         | 4          | 5   |
|-----|------------|-----------|------------|-----|
| 満 足 | どちらかといえば満足 | どちらともいえない | どちらかといえば不満 | 不満足 |

《コ－ホ－ト A1 有配偶》

1:4.9% 2:46.0 % 3:32.1% 4:10.7% 5:5.4% NA:0.9%

《コ－ホ－ト A2 有配偶》

1:8.2% 2:44.6 % 3:28.6% 4:14.3% 5:3.9% NA:0.4%

《コ－ホ－ト B 有配偶》

1:4.9% 2:48.5 % 3:27.6% 4:16.0% 5:2.5% NA:0.6%

《コ－ホ－ト C 有配偶》

1:9.5% 2:49.1 % 3:25.2% 4:13.2% 5:3.1%

《コ－ホ－ト D 有配偶》

1:11.9% 2:52.7 % 3:21.9% 4:10.8% 5:2.3% NA:0.4%

《コ－ホ－ト E 有配偶》

1:19.3% 2:50.5 % 3:16.1% 4:10.1% 5:3.2% NA:0.9%

問2. あなたは今の社会に満足していますか。

| 1             | 2          | 3         | 4          | 5              |
|---------------|------------|-----------|------------|----------------|
| 満 足           | どちらかといえば満足 | どちらともいえない | どちらかといえば不満 | 不満             |
| 《コーホートA1 有配偶》 |            |           |            |                |
| 1:0.9%        | 2:16.1%    | 3:41.5%   | 4:33.5%    | 5:7.1% NA:0.9% |
| 《コーホートA2 有配偶》 |            |           |            |                |
| 1:0.4%        | 2:14.3%    | 3:48.9%   | 4:30.0%    | 5:6.1% NA:0.4% |
| 《コーホートB 有配偶》  |            |           |            |                |
| 1:0.0%        | 2:19.0%    | 3:44.2%   | 4:28.8%    | 5:7.4% NA:0.6% |
| 《コーホートC 有配偶》  |            |           |            |                |
| 1:2.1%        | 2:16.0%    | 3:48.2%   | 4:23.6%    | 5:9.8% NA:0.3% |
| 《コーホートD 有配偶》  |            |           |            |                |
| 1:1.9%        | 2:18.5%    | 3:43.5%   | 4:29.2%    | 5:6.2% NA:0.8% |
| 《コーホートE 有配偶》  |            |           |            |                |
| 1:3.2%        | 2:20.6%    | 3:46.3%   | 4:20.2%    | 5:9.2% NA:0.5% |

問3. ふだんのあなたの健康状態はどうか。

| 1             | 2       | 3       | 4         | 5              |
|---------------|---------|---------|-----------|----------------|
| とても健康         | まあ健康    | ふつう     | あまり健康ではない | まったく健康でない      |
| 《コーホートA1 有配偶》 |         |         |           |                |
| 1:4.0%        | 2:33.0% | 3:49.1% | 4:12.1%   | 5:0.9% NA:0.9% |
| 《コーホートA2 有配偶》 |         |         |           |                |
| 1:5.0%        | 2:36.8% | 3:38.9% | 4:17.9%   | 5:0.7% NA:0.7% |
| 《コーホートB 有配偶》  |         |         |           |                |
| 1:7.4%        | 2:33.1% | 3:46.6% | 4:12.3%   | 5:0.0% NA:0.6% |
| 《コーホートC 有配偶》  |         |         |           |                |
| 1:8.3%        | 2:40.8% | 3:35.6% | 4:14.4%   | 5:0.9%         |
| 《コーホートD 有配偶》  |         |         |           |                |
| 1:10.0%       | 2:40.4% | 3:38.5% | 4:10.8%   | 5:0.0% NA:0.4% |
| 《コーホートE 有配偶》  |         |         |           |                |
| 1:14.7%       | 2:47.2% | 3:28.9% | 4:8.7%    | 5:0.0% NA:0.5% |

問 4．あなたは自分の身体について、同年齢の人と比べて若い方だと思いますか。

|                |              |   |       |   |         |
|----------------|--------------|---|-------|---|---------|
| 1              | 若いほうだと思う     |   |       |   |         |
| 2              | やや若いほうだと思う   |   |       |   |         |
| 3              | ふつう          |   |       |   |         |
| 4              | やや老けている方だと思う |   |       |   |         |
| 5              | 老けている方だと思う   |   |       |   |         |
| 《コーポート A1 有配偶》 |              |   |       |   |         |
| 1              | 4.5%         | 2 | 18.8% | 3 | 66.5%   |
|                |              | 4 | 8.5%  | 5 | 0.9%    |
|                |              |   |       |   | NA:0.9% |
| 《コーポート A2 有配偶》 |              |   |       |   |         |
| 1              | 3.2%         | 2 | 20.0% | 3 | 60.0%   |
|                |              | 4 | 15.0% | 5 | 1.4%    |
|                |              |   |       |   | NA:0.4% |
| 《コーポート B 有配偶》  |              |   |       |   |         |
| 1              | 1.8%         | 2 | 19.0% | 3 | 61.3%   |
|                |              | 4 | 16.6% | 5 | 0.6%    |
|                |              |   |       |   | NA:0.6% |
| 《コーポート C 有配偶》  |              |   |       |   |         |
| 1              | 3.7%         | 2 | 20.9% | 3 | 55.8%   |
|                |              | 4 | 16.9% | 5 | 2.8%    |
| 《コーポート D 有配偶》  |              |   |       |   |         |
| 1              | 3.1%         | 2 | 16.2% | 3 | 57.3%   |
|                |              | 4 | 21.9% | 5 | 1.2%    |
|                |              |   |       |   | NA:0.4% |
| 《コーポート E 有配偶》  |              |   |       |   |         |
| 1              | 5.5%         | 2 | 9.2%  | 3 | 59.2%   |
|                |              | 4 | 21.1% | 5 | 4.6%    |
|                |              |   |       |   | NA:0.5% |

問 5．現在のあなたの生活程度は、世間一般からみて、次のどれにはいると思いますか。

|                |      |   |       |   |       |   |       |   |         |
|----------------|------|---|-------|---|-------|---|-------|---|---------|
| 1              | 上    | 2 | 中の上   | 3 | 中の中   | 4 | 中の下   | 5 | 下       |
| 《コーポート A1 有配偶》 |      |   |       |   |       |   |       |   |         |
| 1              | 0.4% | 2 | 14.3% | 3 | 50.9% | 4 | 30.4% | 5 | 3.1%    |
|                |      |   |       |   |       |   |       |   | NA:0.9% |
| 《コーポート A2 有配偶》 |      |   |       |   |       |   |       |   |         |
| 1              | 0.4% | 2 | 13.6% | 3 | 51.4% | 4 | 28.2% | 5 | 6.1%    |
|                |      |   |       |   |       |   |       |   | NA:0.4% |
| 《コーポート B 有配偶》  |      |   |       |   |       |   |       |   |         |
| 1              | 0.0% | 2 | 9.2%  | 3 | 60.1% | 4 | 27.0% | 5 | 2.5%    |
|                |      |   |       |   |       |   |       |   | NA:1.2% |
| 《コーポート C 有配偶》  |      |   |       |   |       |   |       |   |         |
| 1              | 0.9% | 2 | 18.1% | 3 | 56.7% | 4 | 21.5% | 5 | 2.8%    |
| 《コーポート D 有配偶》  |      |   |       |   |       |   |       |   |         |
| 1              | 0.4% | 2 | 12.7% | 3 | 58.8% | 4 | 25.8% | 5 | 1.9%    |
|                |      |   |       |   |       |   |       |   | NA:0.4% |
| 《コーポート E 有配偶》  |      |   |       |   |       |   |       |   |         |
| 1              | 0.5% | 2 | 17.4% | 3 | 52.8% | 4 | 25.2% | 5 | 3.7%    |
|                |      |   |       |   |       |   |       |   | NA:0.5% |

問6．あなたは、この1カ月ほどの間に「自分が家族に理解されていない」と感じたことはどのくらいありましたか。

1 2 3 4  
何度もあった ときどきあった ごくまれにあった まったくなかった

《コーホートA1 有配偶》

1:3.6% 2:17.4% 3:38.4% 4:39.7% NA:0.9%

《コーホートA2 有配偶》

1:5.0% 2:14.3% 3:39.6% 4:40.7% NA:0.4%

《コーホートB 有配偶》

1:8.6% 2:14.7% 3:34.4% 4:41.7% NA:0.6%

《コーホートC 有配偶》

1:6.4% 2:20.2% 3:31.6% 4:41.7%

《コーホートD 有配偶》

1:5.0% 2:18.1% 3:34.2% 4:42.3% NA:0.4%

《コーホートE 有配偶》

1:5.0% 2:18.3% 3:35.3% 4:40.8% NA:0.5%

問7．あなたはこの1カ月ほどの間に家事・育児・介護などで負担が大きすぎると感じたことはどのくらいありましたか。

1 2 3 4  
何度もあった ときどきあった ごくまれにあった まったくなかった

《コーホートA1 有配偶》

1:5.8% 2:21.9% 3:37.1% 4:34.4% NA:0.9%

《コーホートA2 有配偶》

1:9.3% 2:18.6% 3:38.6% 4:33.2% NA:0.4%

《コーホートB 有配偶》

1:12.9% 2:21.5% 3:30.7% 4:34.4% NA:0.6%

《コーホートC 有配偶》

1:12.0% 2:25.8% 3:33.1% 4:29.1%

《コーホートD 有配偶》

1:8.1% 2:28.8% 3:34.6% 4:28.1% NA:0.4%

《コーホートE 有配偶》

1:11.9% 2:25.2% 3:31.7% 4:30.7% NA:0.5%



問 8． ご家庭の現在の収入に満足していますか。

1 2 3 4  
とても満足 ほぼ満足 やや不満 とても不満

|                |         |         |                 |
|----------------|---------|---------|-----------------|
| 《コーホート A1 有配偶》 |         |         |                 |
| 1:2.2%         | 2:41.5% | 3:38.8% | 4:16.1% NA:1.3% |
| 《コーホート A2 有配偶》 |         |         |                 |
| 1:0.4%         | 2:37.9% | 3:42.5% | 4:18.9% NA:0.4% |
| 《コーホート B 有配偶》  |         |         |                 |
| 1:0.6%         | 2:33.1% | 3:51.5% | 4:14.1% NA:0.6% |
| 《コーホート C 有配偶》  |         |         |                 |
| 1:3.4%         | 2:38.0% | 3:47.5% | 4:11.0%         |
| 《コーホート D 有配偶》  |         |         |                 |
| 1:4.2%         | 2:36.5% | 3:43.5% | 4:15.4% NA:0.4% |
| 《コーホート E 有配偶》  |         |         |                 |
| 1:6.4%         | 2:39.4% | 3:43.1% | 4:10.6% NA:0.5% |

問 9． ご家庭の現在の消費（生活費支出）額に満足していますか。

1 2 3  
使いすぎていることに不満 ほぼ満足 少なすぎることに不満

|                |         |         |         |
|----------------|---------|---------|---------|
| 《コーホート A1 有配偶》 |         |         |         |
| 1:40.2%        | 2:49.6% | 3:9.4%  | NA:0.9% |
| 《コーホート A2 有配偶》 |         |         |         |
| 1:50.7%        | 2:37.9% | 3:10.7% | NA:0.7% |
| 《コーホート B 有配偶》  |         |         |         |
| 1:51.5%        | 2:39.9% | 3:8.0%  | NA:0.6% |
| 《コーホート C 有配偶》  |         |         |         |
| 1:54.9%        | 2:39.9% | 3:5.2%  |         |
| 《コーホート D 有配偶》  |         |         |         |
| 1:60.4%        | 2:32.3% | 3:6.9%  | NA:0.4% |
| 《コーホート E 有配偶》  |         |         |         |
| 1:48.2%        | 2:48.6% | 3:2.8%  | NA:0.5% |

問 10. ご家庭の現在の消費（生活費支出）の内容に満足していますか。

- |       |      |      |       |
|-------|------|------|-------|
| 1     | 2    | 3    | 4     |
| とても満足 | ほぼ満足 | やや不満 | とても不満 |

《コーホート A1 有配偶》

1:0.4% 2:41.1% 3:45.5% 4:12.1% NA:0.9%

《コーホート A2 有配偶》

1:0.7% 2:30.7% 3:54.3% 4:13.6% NA:0.7%

《コーホート B 有配偶》

1:0.0% 2:30.1% 3:60.7% 4:8.0% NA:1.2%

《コーホート C 有配偶》

1:0.6% 2:37.4% 3:51.2% 4:10.7%

《コーホート D 有配偶》

1:0.4% 2:35.4% 3:55.4% 4:8.1% NA:0.8%

《コーホート E 有配偶》

1:0.5% 2:45.4% 3:48.2% 4:5.5% NA:0.5%

問 11. あなたは家計簿をつけていますか。

- |   |                       |
|---|-----------------------|
| 1 | 定期的に（毎日、毎週など）つけている    |
| 2 | 時々つけている               |
| 3 | 以前つけたことがあるが、現在はつけていない |
| 4 | これまでにつけたことがない         |

《コーホート A1 有配偶》

1:26.3% 2:12.9% 3:40.6% 4:19.2% NA:0.9%

《コーホート A2 有配偶》

1:20.7% 2:11.4% 3:39.6% 4:27.5% NA:0.7%

《コーホート B 有配偶》

1:14.7% 2:15.3% 3:48.5% 4:20.2% NA:1.2%

《コーホート C 有配偶》

1:17.2% 2:13.8% 3:45.1% 4:23.9%

《コーホート D 有配偶》

1:22.3% 2:17.7% 3:40.8% 4:18.8% NA:0.4%

《コーホート E 有配偶》

1:24.8% 2:16.1% 3:35.8% 4:22.9% NA:0.5%

問 12. 今年のあなたのご家庭の消費支出は、昨年と比べてどのようなになっていますか。

| 1              | 2       | 3       | 4       | 5      |
|----------------|---------|---------|---------|--------|
| 大幅に増えた         | 若干増えた   | 変わらない   | 若干減った   | 大幅に減った |
| 《コーホート A1 有配偶》 |         |         |         |        |
| 1:10.3%        | 2:26.3% | 3:43.8% | 4:15.2% | 5:4.0% |
| NA:0.4%        |         |         |         |        |
| 《コーホート A2 有配偶》 |         |         |         |        |
| 1:10.7%        | 2:27.9% | 3:41.4% | 4:17.5% | 5:2.1% |
| NA:0.4%        |         |         |         |        |
| 《コーホート B 有配偶》  |         |         |         |        |
| 1:12.3%        | 2:41.7% | 3:33.7% | 4:9.8%  | 5:1.8% |
| NA:0.6%        |         |         |         |        |
| 《コーホート C 有配偶》  |         |         |         |        |
| 1:8.9%         | 2:51.5% | 3:32.2% | 4:6.1%  | 5:1.2% |
| 《コーホート D 有配偶》  |         |         |         |        |
| 1:8.8%         | 2:46.2% | 3:34.6% | 4:8.5%  | 5:1.5% |
| NA:0.4%        |         |         |         |        |
| 《コーホート E 有配偶》  |         |         |         |        |
| 1:12.4%        | 2:47.2% | 3:31.7% | 4:7.8%  | 5:0.5% |
| NA:0.5%        |         |         |         |        |

問 13. 来年のあなたのご家庭の消費支出は、今年と比べてどのようなになると思いますか。

| 1              | 2       | 3       | 4       | 5      |
|----------------|---------|---------|---------|--------|
| 大幅に増える         | 若干増える   | 変わらない   | 若干減る    | 大幅に減る  |
| 《コーホート A1 有配偶》 |         |         |         |        |
| 1:4.0%         | 2:22.8% | 3:56.7% | 4:13.4% | 5:2.7% |
| NA:0.4%        |         |         |         |        |
| 《コーホート A2 有配偶》 |         |         |         |        |
| 1:3.9%         | 2:25.7% | 3:52.1% | 4:13.9% | 5:3.9% |
| NA:0.4%        |         |         |         |        |
| 《コーホート B 有配偶》  |         |         |         |        |
| 1:6.7%         | 2:41.7% | 3:44.2% | 4:6.1%  | 5:0.6% |
| NA:0.6%        |         |         |         |        |
| 《コーホート C 有配偶》  |         |         |         |        |
| 1:9.8%         | 2:39.0% | 3:42.0% | 4:8.9%  | 5:0.3% |
| 《コーホート D 有配偶》  |         |         |         |        |
| 1:6.9%         | 2:39.6% | 3:43.1% | 4:10.0% | 5:0.0% |
| NA:0.4%        |         |         |         |        |
| 《コーホート E 有配偶》  |         |         |         |        |
| 1:11.5%        | 2:39.0% | 3:40.4% | 4:8.3%  | 5:0.5% |
| NA:0.5%        |         |         |         |        |

問 15. 今年のあなたのご家庭の所得は、昨年と比べてどのようになっていますか。

| 1                     | 2       | 3       | 4       | 5      |
|-----------------------|---------|---------|---------|--------|
| 大幅に増えた                | 若干増えた   | 変わらない   | 若干減った   | 大幅に減った |
| <b>《コーホート A1 有配偶》</b> |         |         |         |        |
| 1:1.3%                | 2:17.9% | 3:52.2% | 4:21.0% | 5:7.1% |
| <b>NA:0.4%</b>        |         |         |         |        |
| <b>《コーホート A2 有配偶》</b> |         |         |         |        |
| 1:0.7%                | 2:15.0% | 3:57.1% | 4:20.4% | 5:6.4% |
| <b>NA:0.4%</b>        |         |         |         |        |
| <b>《コーホート B 有配偶》</b>  |         |         |         |        |
| 1:0.0%                | 2:19.6% | 3:63.2% | 4:14.7% | 5:1.2% |
| <b>NA:1.2%</b>        |         |         |         |        |
| <b>《コーホート C 有配偶》</b>  |         |         |         |        |
| 1:1.2%                | 2:28.8% | 3:54.6% | 4:12.3% | 5:3.1% |
| <b>NA:0.4%</b>        |         |         |         |        |
| <b>《コーホート D 有配偶》</b>  |         |         |         |        |
| 1:0.8%                | 2:31.9% | 3:51.2% | 4:9.2%  | 5:6.5% |
| <b>NA:0.4%</b>        |         |         |         |        |
| <b>《コーホート E 有配偶》</b>  |         |         |         |        |
| 1:2.8%                | 2:43.6% | 3:35.3% | 4:13.8% | 5:4.1% |
| <b>NA:0.5%</b>        |         |         |         |        |

問 14. あなたは、この 1 カ月ほどの間に家計の先行きについて不安を感じたことはどのくらいありましたか。

| 1                     | 2       | 3        | 4        |
|-----------------------|---------|----------|----------|
| 何度もあった                | ときどきあった | ごくまれにあった | まったくなかった |
| <b>《コーホート A1 有配偶》</b> |         |          |          |
| 1:19.6%               | 2:24.1% | 3:36.2%  | 4:19.6%  |
| <b>NA:0.4%</b>        |         |          |          |
| <b>《コーホート A2 有配偶》</b> |         |          |          |
| 1:16.4%               | 2:19.6% | 3:44.6%  | 4:18.9%  |
| <b>NA:0.4%</b>        |         |          |          |
| <b>《コーホート B 有配偶》</b>  |         |          |          |
| 1:16.0%               | 2:25.8% | 3:42.9%  | 4:14.7%  |
| <b>NA:0.6%</b>        |         |          |          |
| <b>《コーホート C 有配偶》</b>  |         |          |          |
| 1:17.8%               | 2:27.6% | 3:29.1%  | 4:25.2%  |
| <b>NA:0.3%</b>        |         |          |          |
| <b>《コーホート D 有配偶》</b>  |         |          |          |
| 1:19.6%               | 2:25.0% | 3:36.2%  | 4:18.8%  |
| <b>NA:0.4%</b>        |         |          |          |
| <b>《コーホート E 有配偶》</b>  |         |          |          |
| 1:17.9%               | 2:28.4% | 3:28.0%  | 4:25.2%  |
| <b>NA:0.5%</b>        |         |          |          |

問 16. 来年のあなたのご家庭の所得は、今年の所得に比べてどのようなになると思いますか。

1 大幅に増える 2 若干増える 3 変わらない 4 若干減る 5 大幅に減る

《コーポート A1 有配偶》

1:0.0% 2:9.4% 3:67.9% 4:17.9% 5:4.5% NA:0.4%

《コーポート A2 有配偶》

1:0.7% 2:9.6% 3:64.6% 4:19.6% 5:5.0% NA:0.4%

《コーポート B 有配偶》

1:0.0% 2:19.0% 3:69.9% 4:9.8% 5:0.6% NA:0.6%

《コーポート C 有配偶》

1:0.3% 2:17.8% 3:67.8% 4:12.0% 5:1.8% NA:0.3%

《コーポート D 有配偶》

1:1.9% 2:22.7% 3:61.9% 4:10.0% 5:3.1% NA:0.4%

《コーポート E 有配偶》

1:2.3% 2:34.9% 3:50.5% 4:10.6% 5:1.4% NA:0.5%

問 17. 日本の景気は今後、良くなると思いますか。

1 大幅に良くなる 2 若干良くなる 3 変わらない 4 若干悪くなる 5 大幅に悪くなる

《コーポート A1 有配偶》

1:0.9% 2:8.0% 3:48.7% 4:33.9% 5:8.0% NA:0.4%

《コーポート A2 有配偶》

1:0.0% 2:7.9% 3:49.6% 4:35.0% 5:7.1% NA:0.4%

《コーポート B 有配偶》

1:0.0% 2:11.7% 3:57.7% 4:22.1% 5:6.7% NA:1.8%

《コーポート C 有配偶》

1:0.0% 2:12.0% 3:59.8% 4:23.3% 5:4.6% NA:0.3%

《コーポート D 有配偶》

1:1.2% 2:9.2% 3:60.4% 4:23.1% 5:5.8% NA:0.4%

《コーポート E 有配偶》

1:0.5% 2:14.2% 3:56.0% 4:22.9% 5:6.0% NA:0.5%

問18. あなたは現在の夫婦関係に満足していますか。

| 1<br>非常に<br>満足している | 2<br>まあまあ<br>満足している | 3<br>ふつう | 4<br>あまり<br>満足していない | 5<br>まったく<br>満足していない |
|--------------------|---------------------|----------|---------------------|----------------------|
| 《コーホートA1 有配偶》      |                     |          |                     |                      |
| 1:5.7%             | 2:29.3%             | 3:45.9%  | 4:11.5%             | 5:7.0% NA:0.6%       |
| 《コーホートA2 有配偶》      |                     |          |                     |                      |
| 1:10.3%            | 2:28.2%             | 3:41.8%  | 4:13.6%             | 5:5.6% NA:0.5%       |
| 《コーホートB 有配偶》       |                     |          |                     |                      |
| 1:6.1%             | 2:32.5%             | 3:44.2%  | 4:12.3%             | 5:4.3% NA:0.6%       |
| 《コーホートC 有配偶》       |                     |          |                     |                      |
| 1:12.3%            | 2:37.4%             | 3:33.7%  | 4:11.3%             | 5:5.2%               |
| 《コーホートD 有配偶》       |                     |          |                     |                      |
| 1:18.8%            | 2:35.8%             | 3:26.5%  | 4:15.0%             | 5:3.5% NA:0.4%       |
| 《コーホートE 有配偶》       |                     |          |                     |                      |
| 1:26.6%            | 2:43.1%             | 3:18.8%  | 4:8.3%              | 5:2.8% NA:0.5%       |

問19. あなたは幸せだと思っていますか。それとも、不幸だと思っていますか。

| 1<br>とても幸せ    | 2<br>まあまあ幸せ | 3<br>どちらでもない | 4<br>少し不幸 | 5<br>とても不幸     |
|---------------|-------------|--------------|-----------|----------------|
| 《コーホートA1 有配偶》 |             |              |           |                |
| 1:7.1%        | 2:61.2%     | 3:25.4%      | 4:4.0%    | 5:1.3% NA:0.9% |
| 《コーホートA2 有配偶》 |             |              |           |                |
| 1:8.9%        | 2:56.5%     | 3:25.0%      | 4:7.5%    | 5:1.4% NA:0.4% |
| 《コーホートB 有配偶》  |             |              |           |                |
| 1:11.0%       | 2:55.2%     | 3:27.0%      | 4:4.9%    | 5:1.2% NA:0.6% |
| 《コーホートC 有配偶》  |             |              |           |                |
| 1:18.1%       | 2:57.4%     | 3:18.7%      | 4:4.9%    | 5:0.9%         |
| 《コーホートD 有配偶》  |             |              |           |                |
| 1:28.5%       | 2:51.2%     | 3:16.2%      | 4:3.5%    | 5:0.4% NA:0.4% |
| 《コーホートE 有配偶》  |             |              |           |                |
| 1:42.7%       | 2:44.0%     | 3:9.6%       | 4:1.8%    | 5:1.4% NA:0.5% |

## 無配偶

|                       |     |
|-----------------------|-----|
| 家計について……………           | 127 |
| （世帯年収、手取り収入、貯蓄、生活費細目） |     |
| 生活行動について……………         | 134 |
| お子さんについて……………         | 137 |
| 生活意識について……………         | 139 |





問1. あなた、及びあなた以外の世帯員の方がいらっしゃる方が、**昨年1年間（平成24年1月～平成24年12月）**に得た収入は、財産収入、社会保険給付、親からの送りなども含め、全体でいくらかでしたか。次の①～⑤の区分でお答え下さい。

【コーポートA1 無配偶】

あなたの**年収**

あなた以外の世帯員の方全員の**年収**

① 勤め先の収入

(勤め人の税込み年収)

|   |   |   |    |
|---|---|---|----|
| 1 | 9 | 5 | 万円 |
| 2 | 5 | 5 |    |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 1 | 8 | 6 |
| 3 | 9 | 6 |

② 事業収入

(自営者の税込み年収)

|   |   |    |
|---|---|----|
| 2 | 5 | 万円 |
| 3 | 0 | 8  |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 2 | 7 | 0 |
|   |   |   |

③ 財産収入 (昨年1年分)

(預貯金利子、株式配当、  
家賃、地代など)

|   |   |    |
|---|---|----|
| 4 | 9 | 万円 |
| 7 |   |    |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 1 | 9 | 4 |
|   |   |   |

④ 社会保険給付 (昨年1年分)

(子ども手当、失業給付、年金など  
社会保険給付は振り込み口座  
の名義人の収入として下さい)

|   |   |    |
|---|---|----|
| 2 | 3 | 万円 |
| 1 | 1 | 2  |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 4 | 7 |   |
| 1 | 6 | 6 |

⑤ その他の収入 (昨年1年分)

(親からの仕送り・こづかい、養育費など)

|   |   |    |
|---|---|----|
| 6 | 3 | 万円 |
| 9 |   |    |

|   |   |  |
|---|---|--|
| 3 | 0 |  |
| 9 |   |  |

合 計

|   |   |   |    |
|---|---|---|----|
| 2 | 5 | 4 | 万円 |
| 2 | 7 | 3 |    |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 2 | 5 | 6 |
| 3 | 7 | 2 |

【コーポートA2 無配偶】

あなたの**年収**

あなた以外の世帯員の方全員の**年収**

① 勤め先の収入

(勤め人の税込み年収)

|   |   |   |    |
|---|---|---|----|
| 3 | 0 | 1 | 万円 |
| 3 | 3 | 6 |    |

|   |   |   |   |
|---|---|---|---|
| 千 | 百 | 十 | 一 |
|   | 2 | 6 | 4 |

② 事業収入

(自営者の税込み年収)

|   |   |    |
|---|---|----|
| 2 | 6 | 万円 |
| 8 | 3 | 4  |

|  |   |   |   |
|--|---|---|---|
|  | 2 | 6 | 9 |
|  |   |   | 7 |

③ 財産収入 (昨年1年分)

(預貯金利子、株式配当、  
家賃、地代など)

|   |   |    |
|---|---|----|
| 1 | 2 | 万円 |
| 1 | 2 | 1  |

|  |   |   |    |
|--|---|---|----|
|  | 4 | 3 | 万円 |
|  | 3 | 6 | 4  |

④ 社会保険給付 (昨年1年分)

(子ども手当、失業給付、年金など  
社会保険給付は振り込み口座  
の名義人の収入として下さい)

|   |   |    |
|---|---|----|
| 1 | 4 | 万円 |
| 6 | 3 |    |

|   |   |   |    |
|---|---|---|----|
|   | 8 | 0 | 万円 |
| 1 | 8 | 8 |    |

⑥ その他の収入 (昨年1年分)

(親からの仕送り・こづかい、養育費など)

|   |   |    |
|---|---|----|
| 4 | 0 | 万円 |
| 5 |   |    |

|  |  |   |    |
|--|--|---|----|
|  |  | 0 | 万円 |
|  |  |   |    |

合 計

|   |   |   |    |
|---|---|---|----|
| 3 | 5 | 6 | 万円 |
| 3 | 7 | 1 |    |

|   |   |   |    |
|---|---|---|----|
| 2 | 1 | 2 | 万円 |
| 3 | 5 | 4 |    |

《コーホートB 無配偶》

あなたの年収

あなた以外の世員  
の方全員の年収

① 勤め先の収入

|   |   |   |
|---|---|---|
| 2 | 4 | 8 |
| 3 | 0 | 0 |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 1 | 1 | 6 |
| 2 | 6 | 6 |

万円

(勤め人の税込み年収)

② 事業収入

|  |   |
|--|---|
|  | 0 |
|  | 0 |

万円

(自営者の税込み年収)

④ 財産収入 (昨年1年分)

|  |   |
|--|---|
|  | 6 |
|  | 7 |

万円

〔預貯金利子、株式配当、  
家賃、地代など〕

④ 社会保障給付 (昨年1年分)

|  |   |   |
|--|---|---|
|  | 2 | 0 |
|  | 7 | 4 |

万円

〔子ども手当、失業給付、  
年金など〕

(社会保障給付は振り込み口座  
の名義人の収入として下さい)

⑤ その他の収入 (昨年1年分)

|  |   |
|--|---|
|  | 0 |
|  | 0 |

万円

〔親からの仕送り・こづ  
かい、養育費など〕

合

計

|   |   |   |
|---|---|---|
| 2 | 7 | 4 |
| 2 | 8 | 5 |

万円

|   |   |   |
|---|---|---|
| 2 | 2 | 3 |
| 3 | 6 | 1 |

万円

《コーホートC 無配偶》

あなたの年収

あなた以外の世員  
の方全員の年収

① 勤め先の収入

|   |   |   |
|---|---|---|
| 2 | 5 | 9 |
| 2 | 8 | 6 |

万円

|   |   |   |
|---|---|---|
|   | 8 | 4 |
| 3 | 5 | 3 |

万円

(勤め人の税込み年収)

② 事業収入

|   |   |
|---|---|
|   | 3 |
| 1 | 9 |
|   | 1 |

万円

|  |   |   |
|--|---|---|
|  | 5 | 0 |
|  | 1 | 8 |

万円

(自営者の税込み年収)

⑤ 財産収入 (昨年1年分)

|  |   |
|--|---|
|  | 2 |
|  | 4 |
|  | 1 |

万円

|  |   |   |
|--|---|---|
|  | 4 | 6 |
|  | 3 | 8 |

万円

〔預貯金利子、株式配当、  
家賃、地代など〕

④ 社会保障給付 (昨年1年分)

|  |   |   |
|--|---|---|
|  | 1 | 5 |
|  | 4 | 7 |

万円

|  |   |   |
|--|---|---|
|  | 9 | 3 |
|  | 2 | 1 |

万円

〔子ども手当、失業給付、  
年金など〕

(社会保障給付は振り込み口座  
の名義人の収入として下さい)

⑤ その他の収入 (昨年1年分)

|  |   |
|--|---|
|  | 7 |
|  | 5 |
|  | 0 |

万円

|  |   |
|--|---|
|  | 1 |
|  | 3 |
|  | 2 |

万円

〔親からの仕送り・こづ  
かい、養育費など〕

合

計

|   |   |   |
|---|---|---|
| 2 | 8 | 6 |
| 2 | 9 | 6 |

万円

|  |   |   |   |
|--|---|---|---|
|  | 2 | 7 | 9 |
|  | 5 | 1 | 3 |

万円

《コーホートD 無配偶》

あなたの年収

あなた以外の世員  
の方全員の年収

① 勤め先の収入

|   |   |   |
|---|---|---|
| 2 | 4 | 4 |
| 2 | 7 | 5 |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 2 | 6 | 5 |
| 4 | 5 | 8 |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 2 | 4 | 3 |
| 2 | 6 | 4 |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 4 | 1 | 0 |
| 6 | 1 | 6 |

(勤め人の税込み年収)

② 事業収入

|     |
|-----|
| 0   |
| 3 0 |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 3 | 3 | 5 |
| 8 | 8 | 8 |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 2 | 3 | 7 |
| 4 | 4 | 4 |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 5 | 6 | 8 |
| 3 | 3 | 3 |

(自営者の税込み年収)

③ 財産収入 (昨年1年分)

|   |   |
|---|---|
| 1 | 1 |
| 6 | 6 |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 7 | 9 | 6 |
| 0 | 0 | 8 |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 1 | 3 | 1 |
| 0 | 0 | 0 |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 1 | 1 | 9 |
| 6 | 6 | 0 |

〔預貯金利子、株式配当、  
家賃、地代など〕

④ 社会保障給付 (昨年1年分)

|   |   |
|---|---|
| 1 | 0 |
| 6 | 8 |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 1 | 5 | 6 |
| 7 | 7 | 0 |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 3 | 3 | 7 |
| 4 | 7 | 7 |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 2 | 2 | 7 |
| 3 | 3 | 5 |

〔子ども手当、失業給付、  
年金など〕

(社会保障給付は振り込み口座  
の名義人の収入として下さい)

④ その他の収入 (昨年1年分)

|     |
|-----|
| 5   |
| 3 7 |

|   |
|---|
| 0 |
| 6 |

|   |   |
|---|---|
| 3 | 3 |
| 2 | 6 |

|   |   |
|---|---|
| 0 | 0 |
| 4 | 0 |

〔親からの仕送り・こづ  
かい、養育費など〕

合

|   |   |   |
|---|---|---|
| 2 | 6 | 2 |
| 2 | 7 | 3 |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 3 | 9 | 0 |
| 5 | 6 | 8 |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 2 | 5 | 5 |
| 2 | 6 | 3 |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 5 | 2 | 6 |
| 6 | 9 | 3 |

計

《コーホートE 無配偶》

あなたの年収

あなた以外の世員  
の方全員の年収

① 勤め先の収入

|   |   |   |
|---|---|---|
| 2 | 4 | 3 |
| 2 | 6 | 4 |

万円

|   |   |   |
|---|---|---|
| 4 | 1 | 0 |
| 6 | 1 | 6 |

(勤め人の税込み年収)

② 事業収入

|   |   |   |
|---|---|---|
| 2 | 3 | 7 |
| 4 | 4 | 4 |

万円

|   |   |   |
|---|---|---|
| 5 | 6 | 8 |
| 3 | 3 | 3 |

(自営者の税込み年収)

② 財産収入 (昨年1年分)

|   |   |   |
|---|---|---|
| 1 | 3 | 1 |
| 0 | 0 | 0 |

万円

|   |   |   |
|---|---|---|
| 1 | 1 | 9 |
| 6 | 6 | 0 |

〔預貯金利子、株式配当、  
家賃、地代など〕

④ 社会保障給付 (昨年1年分)

|   |   |   |
|---|---|---|
| 3 | 3 | 7 |
| 4 | 7 | 7 |

万円

|   |   |   |
|---|---|---|
| 2 | 2 | 7 |
| 3 | 3 | 5 |

〔子ども手当、失業給付、  
年金など〕

(社会保障給付は振り込み口座  
の名義人の収入として下さい)

⑤ その他の収入 (昨年1年分)

|   |   |
|---|---|
| 3 | 3 |
| 2 | 6 |

万円

|   |   |
|---|---|
| 0 | 0 |
| 4 | 0 |

〔親からの仕送り・こづ  
かい、養育費など〕

問4. この9月の手取り収入（収入総額から税金、社会保険料などを差し引いた額）はどれくらいですか。（ボーナス、臨時の給与は除きます）

《コーホートA1 無配偶》

9月の手取り収入

|  |   |   |
|--|---|---|
|  | 1 | 5 |
|  | 1 | 8 |

万円

《コーホートA2 無配偶》

9月の手取り収入

|  |   |   |
|--|---|---|
|  | 1 | 9 |
|  | 2 | 2 |

万円

《コーホートB 無配偶》

9月の手取り収入

|  |   |   |
|--|---|---|
|  | 1 | 4 |
|  | 1 | 7 |

万円

《コーホートC 無配偶》

9月の手取り収入

|  |   |   |
|--|---|---|
|  | 1 | 6 |
|  | 1 | 8 |

万円

《コーホートD 無配偶》

9月の手取り収入

|  |   |   |
|--|---|---|
|  | 1 | 5 |
|  | 1 | 7 |

万円

《コーホートE 無配偶》

9月の手取り収入

|  |   |   |
|--|---|---|
|  | 1 | 6 |
|  | 1 | 7 |

万円

問6. お宅では、収入から一定の額を貯蓄するようにしていますか。（○は1つだけ）

1

定期的に貯蓄するようにしている

2

計画は立てていないが、余ったお金を貯蓄にまわしている

3

貯蓄にまわすことはほぼできていない

4

特に貯蓄しようと思わない

|          | 1    | 2    | 3    | 4    | NA  |
|----------|------|------|------|------|-----|
| 無配偶      |      |      |      |      |     |
| コーホート A1 | 29.7 | 27.0 | 31.1 | 12.2 | 0.0 |
| コーホート A2 | 36.7 | 20.4 | 38.8 | 3.1  | 1.0 |
| コーホート B  | 32.7 | 26.9 | 36.5 | 3.8  | 0.0 |
| コーホート C  | 36.7 | 29.2 | 29.2 | 4.2  | 0.8 |
| コーホート D  | 37.8 | 32.7 | 26.3 | 3.2  | 0.0 |
| コーホート E  | 41.6 | 34.4 | 20.3 | 2.7  | 1.0 |

問8. この9月に、あなたの財布から（親に渡した分を除く）、どのように支出なさいましたか。

【コーホートA1 無配偶】

|                                         |   |        |   |        |    |
|-----------------------------------------|---|--------|---|--------|----|
| 食料（外食・給食代も含みます）                         | → | 3<br>3 | 万 | 8<br>8 | 千円 |
| 家賃・地代・住宅の修繕（住宅ローンは含みません）                | → | 1<br>4 | 万 | 7<br>3 | 千円 |
| 電気・ガス・水道（上・下）                           | → | 1<br>1 | 万 | 3<br>7 | 千円 |
| 家具・家事用品（寝具はこちらに含みます）                    | → |        | 万 | 3<br>9 | 千円 |
| 衣類・はき物                                  | → | 1<br>1 | 万 | 8<br>3 | 千円 |
| 保健医療（栄養ドリンク・健康食品も含みます）                  | → |        | 万 | 5<br>9 | 千円 |
| 交通（自動車購入費用・ガソリン代・定期代なども含みます）            | → | 1<br>1 | 万 | 1<br>3 | 千円 |
| 通信（郵便・電話代・インターネットなど）                    | → | 1<br>1 | 万 | 2<br>3 | 千円 |
| 教育（授業料・受験や補習用の塾・教科書・参考書など）              | → | 1<br>1 | 万 | 1<br>3 | 千円 |
| 教養・娯楽（受検・補習塾以外の習い事・教養・娯楽用の収収財はこちらに含みます） | → |        | 万 | 5<br>4 | 千円 |
| 交際                                      | → | 1<br>1 | 万 | 0<br>4 | 千円 |
| 家族への小遣い                                 | → | 2      | 万 | 3<br>6 | 千円 |
| その他の支出                                  | → | 1<br>2 | 万 | 5<br>5 | 千円 |

|                    |   |        |        |   |        |    |
|--------------------|---|--------|--------|---|--------|----|
| (1) 支 出（計）（a～mの合計） | → | 1<br>1 | 3<br>4 | 万 | 9<br>1 | 千円 |
| (2) 貯 蓄            | → |        | 2<br>5 | 万 | 5<br>1 | 千円 |
| (3) ローン返済          | → |        | 1<br>5 | 万 | 1<br>0 | 千円 |
| 総 額（(1)～(3)の合計）    | → | 1<br>1 | 7<br>7 | 万 | 3<br>6 | 千円 |

【コーホートA2 無配偶】

|                                         |   |  |        |   |        |    |
|-----------------------------------------|---|--|--------|---|--------|----|
| 食料（外食・給食代も含みます）                         | → |  | 3<br>3 | 万 | 3<br>4 | 千円 |
| 家賃・地代・住宅の修繕（住宅ローンは含みません）                | → |  | 1<br>4 | 万 | 8<br>5 | 千円 |
| 電気・ガス・水道（上・下）                           | → |  | 1<br>1 | 万 | 0<br>8 | 千円 |
| 家具・家事用品（寝具はこちらに含みます）                    | → |  |        | 万 | 2<br>8 | 千円 |
| 衣類・はき物                                  | → |  | 1<br>1 | 万 | 2<br>9 | 千円 |
| 保健医療（栄養ドリンク・健康食品も含みます）                  | → |  |        | 万 | 5<br>0 | 千円 |
| 交通（自動車購入費用・ガソリン代・定期代なども含みます）            | → |  | 1<br>1 | 万 | 1<br>3 | 千円 |
| 通信（郵便・電話代・インターネットなど）                    | → |  | 1<br>1 | 万 | 3<br>4 | 千円 |
| 教育（授業料・受験や補習用の塾・教科書・参考書など）              | → |  |        | 万 | 4<br>0 | 千円 |
| 教養・娯楽（受検・補習塾以外の習い事・教養・娯楽用の収収財はこちらに含みます） | → |  |        | 万 | 7<br>9 | 千円 |
| 交際                                      | → |  | 1<br>1 | 万 | 0<br>6 | 千円 |
| 家族への小遣い                                 | → |  |        | 万 | 4<br>0 | 千円 |
| その他の支出                                  | → |  | 2<br>3 | 万 | 2<br>6 | 千円 |

|                    |   |        |        |   |        |    |
|--------------------|---|--------|--------|---|--------|----|
| (1) 支 出（計）（a～mの合計） | → | 1<br>1 | 4<br>5 | 万 | 8<br>0 | 千円 |
| (2) 貯 蓄            | → |        | 2<br>5 | 万 | 6<br>3 | 千円 |
| (3) ローン返済          | → |        | 1<br>5 | 万 | 6<br>6 | 千円 |
| 総 額（(1)～(3)の合計）    | → | 1<br>1 | 8<br>8 | 万 | 1<br>1 | 千円 |

《コーポートB 無配偶》

|                                         |   |        |   |        |    |
|-----------------------------------------|---|--------|---|--------|----|
| 食料（外食・給食代も含みます）                         | → | 3<br>3 | 万 | 0<br>3 | 千円 |
| 家賃・地代・住宅の修繕（住宅ローンは含みません）                | → | 2<br>5 | 万 | 5<br>0 | 千円 |
| 電気・ガス・水道（上・下）                           | → |        | 万 | 9<br>4 | 千円 |
| 家具・家事用品（寝具はこちらに含みます）                    | → |        | 万 | 2<br>6 | 千円 |
| 衣類・はき物                                  | → |        | 万 | 6<br>0 | 千円 |
| 保健医療（栄養ドリンク・健康食品も含みます）                  | → |        | 万 | 5<br>0 | 千円 |
| 交通（自動車購入費用・ガソリン代・定期代なども含みます）            | → |        | 万 | 7<br>0 | 千円 |
| 通信（郵便・電話代・インターネットなど）                    | → | 1<br>1 | 万 | 1<br>2 | 千円 |
| 教育（授業料・受験や補習用の塾・教科書・参考書など）              | → |        | 万 | 5<br>6 | 千円 |
| 教養・娯楽（受験・補習塾以外の習い事、教養・娯楽用の耐久財はこちらに含みます） | → |        | 万 | 7<br>3 | 千円 |
| 交際                                      | → |        | 万 | 7<br>1 | 千円 |
| 家族への小遣い                                 | → |        | 万 | 5<br>1 | 千円 |
| その他の支出                                  | → | 1<br>2 | 万 | 7<br>7 | 千円 |

|                    |   |        |        |   |        |    |
|--------------------|---|--------|--------|---|--------|----|
| (1) 支 出（計）（a～mの合計） | → | 1<br>1 | 3<br>3 | 万 | 7<br>7 | 千円 |
| (2) 貯 蓄            | → |        | 2<br>4 | 万 | 1<br>0 | 千円 |
| (3) ローン返済          | → |        | 1<br>5 | 万 | 1<br>7 | 千円 |
| 総 額（(1)～(3)の合計）    | → | 1<br>1 | 6<br>6 | 万 | 7<br>7 | 千円 |

《コーポートC 無配偶》

|                                         |   |  |        |        |        |    |
|-----------------------------------------|---|--|--------|--------|--------|----|
| 食料（外食・給食代も含みます）                         | → |  | 2<br>2 | 万      | 7<br>8 | 千円 |
| 家賃・地代・住宅の修繕（住宅ローンは含みません）                | → |  | 2<br>4 | 万      | 1<br>8 | 千円 |
| 電気・ガス・水道（上・下）                           | → |  |        | 1<br>4 | 8<br>4 | 千円 |
| 家具・家事用品（寝具はこちらに含みます）                    | → |  |        | 1<br>5 | 5<br>5 | 千円 |
| 衣類・はき物                                  | → |  |        | 1<br>1 | 2<br>8 | 千円 |
| 保健医療（栄養ドリンク・健康食品も含みます）                  | → |  |        | 1<br>1 | 6<br>1 | 千円 |
| 交通（自動車購入費用・ガソリン代・定期代なども含みます）            | → |  |        | 1<br>1 | 1<br>4 | 千円 |
| 通信（郵便・電話代・インターネットなど）                    | → |  |        | 1<br>1 | 3<br>4 | 千円 |
| 教育（授業料・受験や補習用の塾・教科書・参考書など）              | → |  |        |        | 6<br>7 | 千円 |
| 教養・娯楽（受験・補習塾以外の習い事、教養・娯楽用の耐久財はこちらに含みます） | → |  |        |        | 6<br>4 | 千円 |
| 交際                                      | → |  |        | 1<br>1 | 0<br>5 | 千円 |
| 家族への小遣い                                 | → |  |        |        | 3<br>6 | 千円 |
| その他の支出                                  | → |  |        | 1<br>2 | 3<br>4 | 千円 |

|                               |   |        |        |   |        |    |
|-------------------------------|---|--------|--------|---|--------|----|
| (1) 支 出 (計) (a ～ m の合計) ..... | → | 1<br>1 | 3<br>4 | 万 | 9<br>1 | 千円 |
| (2) 貯 蓄 .....                 | → |        | 2<br>3 | 万 | 2<br>7 | 千円 |
| (3) ローン の返済 .....             | → |        |        | 万 | 8<br>4 | 千円 |
| <hr/>                         |   |        |        |   |        |    |
| 総 額 ((1) ～ (3) の合計) .....     | → | 1<br>1 | 6<br>6 | 万 | 6<br>7 | 千円 |



《コーポートD 無配偶》

|                                         |   |        |        |    |
|-----------------------------------------|---|--------|--------|----|
| 食料（外食・給食代も含みます）                         | → | 2<br>2 | 3<br>5 | 千円 |
| 家賃・地代・住宅の修繕（住宅ローンは含みません）                | → | 1<br>4 | 7<br>6 | 千円 |
| 電気・ガス・水道（上・下）                           | → | 1      | 4<br>1 | 千円 |
| 家具・家事用品（寝具はこちらに含みます）                    | → |        | 0<br>5 | 千円 |
| 衣類・はき物                                  | → | 1<br>2 | 4<br>0 | 千円 |
| 保健医療（栄養ドリンク・健康食品も含みます）                  | → | 1      | 5<br>1 | 千円 |
| 交通（自動車購入費用・ガソリン代・定期代なども含みます）            | → | 1<br>1 | 0<br>3 | 千円 |
| 通信（郵便・電話代・インターネットなど）                    | → | 1<br>1 | 2<br>4 | 千円 |
| 教育（授業料・受験や補習用の塾・教科書・参考書など）              | → | 1      | 2<br>2 | 千円 |
| 教養・娯楽（受験・補習塾以外の習い事、教養・娯楽用の耐久財はこちらに含みます） | → | 1      | 8<br>8 | 千円 |
| 交際                                      | → | 1<br>1 | 2<br>9 | 千円 |
| 家族への小遣い                                 | → | 1      | 1<br>1 | 千円 |
| その他の支出                                  | → | 1<br>3 | 6<br>0 | 千円 |

|                      |   |        |        |        |    |
|----------------------|---|--------|--------|--------|----|
| (1) 支 出（計）（a ～ mの合計） | → | 1<br>1 | 2<br>2 | 3<br>3 | 千円 |
| (2) 貯 蓄              | → | 2<br>3 | 4<br>9 | 千円     |    |
| (3) ローン返済            | → | 3      | 7<br>9 | 千円     |    |
| <hr/>                |   |        |        |        |    |
| 総 額（(1) ～ (3)の合計）    | → | 1<br>1 | 5<br>5 | 3<br>3 | 千円 |

《コーポートE 無配偶》

|                                         |   |        |        |    |
|-----------------------------------------|---|--------|--------|----|
| 食料（外食・給食代も含みます）                         | → | 2<br>2 | 2<br>3 | 千円 |
| 家賃・地代・住宅の修繕（住宅ローンは含みません）                | → | 1<br>4 | 5<br>6 | 千円 |
| 電気・ガス・水道（上・下）                           | → | 1      | 3<br>1 | 千円 |
| 家具・家事用品（寝具はこちらに含みます）                    | → |        | 1<br>8 | 千円 |
| 衣類・はき物                                  | → | 1<br>1 | 5<br>9 | 千円 |
| 保健医療（栄養ドリンク・健康食品も含みます）                  | → |        | 4<br>8 | 千円 |
| 交通（自動車購入費用・ガソリン代・定期代なども含みます）            | → | 1<br>1 | 2<br>5 | 千円 |
| 通信（郵便・電話代・インターネットなど）                    | → | 1<br>1 | 0<br>2 | 千円 |
| 教育（授業料・受験や補習用の塾・教科書・参考書など）              | → | 1      | 2<br>4 | 千円 |
| 教養・娯楽（受験・補習塾以外の習い事、教養・娯楽用の耐久財はこちらに含みます） | → | 1      | 8<br>9 | 千円 |
| 交際                                      | → | 1<br>2 | 6<br>0 | 千円 |
| 家族への小遣い                                 | → | 2      | 2<br>1 | 千円 |
| その他の支出                                  | → | 1<br>2 | 0<br>4 | 千円 |

|                     |   |                                                                           |   |   |                                                                          |   |                                                                           |   |   |    |   |    |
|---------------------|---|---------------------------------------------------------------------------|---|---|--------------------------------------------------------------------------|---|---------------------------------------------------------------------------|---|---|----|---|----|
| (1) 支 出（計）（a ～mの合計） | → | <table><tr><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>1</td><td>1</td></tr></table> | 1 | 1 | 1                                                                        | 1 | <table><tr><td>1</td><td>万</td></tr><tr><td>6</td><td>8</td></tr></table> | 1 | 万 | 6  | 8 | 千円 |
| 1                   | 1 |                                                                           |   |   |                                                                          |   |                                                                           |   |   |    |   |    |
| 1                   | 1 |                                                                           |   |   |                                                                          |   |                                                                           |   |   |    |   |    |
| 1                   | 万 |                                                                           |   |   |                                                                          |   |                                                                           |   |   |    |   |    |
| 6                   | 8 |                                                                           |   |   |                                                                          |   |                                                                           |   |   |    |   |    |
| (2) 貯 蓄             | → | <table><tr><td>3</td><td>4</td></tr></table>                              | 3 | 4 | <table><tr><td>1</td><td>万</td></tr><tr><td>8</td><td></td></tr></table> | 1 | 万                                                                         | 8 |   | 千円 |   |    |
| 3                   | 4 |                                                                           |   |   |                                                                          |   |                                                                           |   |   |    |   |    |
| 1                   | 万 |                                                                           |   |   |                                                                          |   |                                                                           |   |   |    |   |    |
| 8                   |   |                                                                           |   |   |                                                                          |   |                                                                           |   |   |    |   |    |
| (3) ローン返済           | → | <table><tr><td>3</td><td></td></tr></table>                               | 3 |   | <table><tr><td>7</td><td>万</td></tr><tr><td>8</td><td></td></tr></table> | 7 | 万                                                                         | 8 |   | 千円 |   |    |
| 3                   |   |                                                                           |   |   |                                                                          |   |                                                                           |   |   |    |   |    |
| 7                   | 万 |                                                                           |   |   |                                                                          |   |                                                                           |   |   |    |   |    |
| 8                   |   |                                                                           |   |   |                                                                          |   |                                                                           |   |   |    |   |    |
| <hr/>               |   |                                                                           |   |   |                                                                          |   |                                                                           |   |   |    |   |    |
| 総 額 ((1)～(3)の合計)    | → | <table><tr><td>1</td><td>5</td></tr><tr><td>1</td><td>5</td></tr></table> | 1 | 5 | 1                                                                        | 5 | <table><tr><td>3</td><td>万</td></tr><tr><td>6</td><td></td></tr></table>  | 3 | 万 | 6  |   | 千円 |
| 1                   | 5 |                                                                           |   |   |                                                                          |   |                                                                           |   |   |    |   |    |
| 1                   | 5 |                                                                           |   |   |                                                                          |   |                                                                           |   |   |    |   |    |
| 3                   | 万 |                                                                           |   |   |                                                                          |   |                                                                           |   |   |    |   |    |
| 6                   |   |                                                                           |   |   |                                                                          |   |                                                                           |   |   |    |   |    |

|    |                 |        |
|----|-----------------|--------|
| 11 | 生活行動についてうかがいます。 | 37 ページ |
|----|-----------------|--------|

《コーホートA1 無配偶》

|                             | 平 日    |              | 休 日    |              |
|-----------------------------|--------|--------------|--------|--------------|
| (1) 通勤・通学                   | 時<br>間 | 3 2 分<br>4 7 | 時<br>間 | 3 3 分<br>5 6 |
| (2) 仕 事                     | 時<br>間 | 2 6 分<br>1 4 | 時<br>間 | 4 2 分<br>1 2 |
| (3) 勉 学                     | 時<br>間 | 1 2 分<br>3 4 | 時<br>間 | 1 4 分<br>3 5 |
| (4) 家事・育児                   | 時<br>間 | 5 8 分<br>0 1 | 時<br>間 | 5 3 分<br>0 1 |
| (5) 趣味・娯楽・交際など              | 時<br>間 | 0 6 分<br>3 9 | 時<br>間 | 3 9 分<br>0 9 |
| (6) 上記以外の睡眠、食事、入浴、身の回りの用事など | 時<br>間 | 1 0 分<br>1 0 | 時<br>間 | 2 6 分<br>2 6 |

《コーホートA2 無配偶》

|                             | 平 日    |              | 休 日    |              |
|-----------------------------|--------|--------------|--------|--------------|
| (1) 通勤・通学                   | 時<br>間 | 3 8 分<br>4 6 | 時<br>間 | 2 2 分<br>0 2 |
| (2) 仕 事                     | 時<br>間 | 5 9 分<br>5 9 | 時<br>間 | 1 8 分<br>3 7 |
| (3) 勉 学                     | 時<br>間 | 1 0 分<br>0 6 | 時<br>間 | 1 6 分<br>3 1 |
| (4) 家事・育児                   | 時<br>間 | 3 8 分<br>5 3 | 時<br>間 | 5 0 分<br>0 3 |
| (5) 趣味・娯楽・交際など              | 時<br>間 | 4 7 分<br>1 0 | 時<br>間 | 4 9 分<br>1 4 |
| (6) 上記以外の睡眠、食事、入浴、身の回りの用事など | 時<br>間 | 4 5 分<br>4 5 | 時<br>間 | 4 1 分<br>4 1 |

《コーホートB 無配偶》

| 平日                          |     | 休日   |     |
|-----------------------------|-----|------|-----|
| 時間                          | 分   | 時間   | 分   |
| (1) 通勤・通学                   |     |      |     |
| 45                          | 25  | 1    | 30  |
| (2) 仕事                      |     |      |     |
| 68                          | 49  | 5    | 38  |
| (3) 勉強                      |     |      |     |
| 2                           | 00  | 1    | 11  |
| (4) 家事・育児                   |     |      |     |
| 22                          | 187 | 33   | 30  |
| (5) 趣味・娯楽・交際など              |     |      |     |
| 23                          | 375 | 66   | 23  |
| (6) 上記以外の睡眠、食事、入浴、身の回りの用事など |     |      |     |
| 111                         | 15  | 1313 | 366 |

《コーホートC 無配偶》

| 平日                          |     | 休日  |     |
|-----------------------------|-----|-----|-----|
| 時間                          | 分   | 時間  | 分   |
| (1) 通勤・通学                   |     |     |     |
|                             | 497 |     | 30  |
| (2) 仕事                      |     |     |     |
| 78                          | 289 | 4   | 73  |
| (3) 勉強                      |     |     |     |
| 1                           | 160 | 1   | 00  |
| (4) 家事・育児                   |     |     |     |
| 22                          | 161 | 44  | 49  |
| (5) 趣味・娯楽・交際など              |     |     |     |
| 23                          | 37  | 67  | 48  |
| (6) 上記以外の睡眠、食事、入浴、身の回りの用事など |     |     |     |
| 110                         | 355 | 122 | 411 |

《コーホートD 無配偶》

平日 休日

|                             |               |               |               |
|-----------------------------|---------------|---------------|---------------|
| (1) 通勤・通学                   | 時間<br>1       | 時間<br>5 0 4 5 | 時間<br>0 3 3   |
| (2) 仕事                      | 時間<br>7 8     | 時間<br>2 2 9 8 | 時間<br>3 8 0 1 |
| (3) 勉強                      | 時間<br>1       | 時間<br>1 1 5 1 | 時間<br>2 1 2 9 |
| (4) 家事・育児                   | 時間<br>1 2     | 時間<br>4 2 2 0 | 時間<br>4 4 2 5 |
| (5) 趣味・娯楽・交際など              | 時間<br>2 3     | 時間<br>4 3 0 7 | 時間<br>1 6 3 1 |
| (6) 上記以外の睡眠、食事、入浴、身の回りの用事など | 時間<br>1 0 1 0 | 時間<br>5 3 5 7 | 時間<br>5 5 0 0 |

《コーホートE 無配偶》

平日 休日

|                             |               |               |               |
|-----------------------------|---------------|---------------|---------------|
| (1) 通勤・通学                   | 時間<br>1       | 時間<br>5 0 7 5 | 時間<br>0 9 2   |
| (2) 仕事                      | 時間<br>7 8     | 時間<br>5 5 3 0 | 時間<br>5 9 5   |
| (3) 勉強                      | 時間<br>2       | 時間<br>3 1 7 9 | 時間<br>4 0 1 2 |
| (4) 家事・育児                   | 時間<br>1 1     | 時間<br>0 5 4 3 | 時間<br>4 5 3 4 |
| (5) 趣味・娯楽・交際など              | 時間<br>3 3     | 時間<br>0 3 2 7 | 時間<br>5 7 0 8 |
| (6) 上記以外の睡眠、食事、入浴、身の回りの用事など | 時間<br>1 0 1 0 | 時間<br>2 2 2 2 | 時間<br>2 9 2 9 |

|    |                 |       |
|----|-----------------|-------|
| 13 | お子さんについてうかがいます。 | 41ページ |
|----|-----------------|-------|

- 問 3．高校卒業までの子どもの養育・教育費に対する責任について次の考え方のうち、あなたのお考えに最も近いものをお答えください。（○は1つだけ）
- 1 子どもの養育・教育の責任は親にあるので、親が私的に養育・教育費の責任をもつべきである
  - 2 子どもはいずれ労働力となり生産に貢献するのだから、養育手当等の形で企業がかなり養育・教育費を負担すべきである
  - 3 子どもは将来社会を支える、社会全体の子どものもので、子どもの養育・教育費は社会全体で、公的に責任を負うべきである
  - 4 その他（具体的に ）

| 無配偶      | 1    | 2   | 3    | 4   | NA  |
|----------|------|-----|------|-----|-----|
| コーポート A1 | 43.2 | 1.4 | 51.4 | 2.7 | 1.4 |
| コーポート A2 | 46.9 | 3.1 | 44.9 | 3.1 | 2.0 |
| コーポート B  | 53.8 | 7.7 | 34.6 | 1.9 | 1.9 |
| コーポート C  | 45.0 | 1.7 | 47.5 | 5.0 | 0.8 |
| コーポート D  | 46.2 | 2.6 | 48.1 | 3.2 | 0.0 |
| コーポート E  | 51.5 | 4.8 | 41.2 | 1.4 | 1.0 |

|    |                 |        |
|----|-----------------|--------|
| 15 | 生活意識についてうかがいます。 | 43 ページ |
|----|-----------------|--------|

以下の項目を集計しています

- 問 1. 生活満足度
- 問 2. 社会満足度
- 問 3. ふだんの健康状態
- 問 4. 同年齢の人と比べて若いと思うか
- 問 5. 生活程度の水準
- 問 6. 「自分が家族に理解されていない」と感じたか
- 問 7. 家事・育児・介護などでの負担
- 問 8. 収入満足度
- 問 9. 消費（生活費支出）額に満足しているか
- 問 10. 消費（生活費支出）の内容に満足しているか
- 問 11. 家計簿をつけているか
- 問 12. 今年の消費支出は昨年と比べてどのようになっているか
- 問 13. 来年の消費支出は今年と比べてどのようになるか
- 問 14. 家計の先行き不安を感じたか
- 問 15. 今年の所得は昨年と比べてどのようになっているか
- 問 16. 来年の所得は今年と比べてどのようになるか
- 問 17. 今後の日本の景気は良くなるか
- 問 18. 幸福度

問 1. あなたは生活全般に満足していますか。

| 1       | 2              | 3             | 4              | 5    |
|---------|----------------|---------------|----------------|------|
| 満 足     | どちらかといえば<br>満足 | どちらとも<br>いえない | どちらかといえば<br>不満 | 不 満  |
| 無配偶     |                |               |                |      |
| コーホートA1 | 4.1            | 32.4          | 36.5           | 20.3 |
| コーホートA2 | 3.1            | 39.8          | 31.6           | 22.4 |
| コーホートB  | 0.0            | 34.6          | 21.2           | 40.4 |
| コーホートC  | 4.2            | 35.8          | 39.2           | 16.7 |
| コーホートD  | 5.8            | 44.9          | 31.4           | 14.1 |
| コーホートE  | 10.7           | 44.7          | 28.9           | 11.7 |
|         |                |               |                | 5.4  |
|         |                |               |                | 3.1  |
|         |                |               |                | 0.0  |
|         |                |               |                | 0.0  |
|         |                |               |                | 0.0  |
|         |                |               |                | 0.0  |
|         |                |               |                | 0.0  |
|         |                |               |                | 0.0  |

問 2. あなたは今の社会に満足していますか。

| 1       | 2              | 3             | 4              | 5    |
|---------|----------------|---------------|----------------|------|
| 満 足     | どちらかといえば<br>満足 | どちらとも<br>いえない | どちらかといえば<br>不満 | 不 満  |
| 無配偶     |                |               |                |      |
| コーホートA1 | 2.7            | 13.5          | 37.8           | 35.1 |
| コーホートA2 | 1.0            | 9.2           | 52.0           | 29.6 |
| コーホートB  | 0.0            | 11.5          | 46.2           | 23.1 |
| コーホートC  | 0.8            | 11.7          | 47.5           | 32.5 |
| コーホートD  | 0.6            | 23.7          | 46.8           | 16.7 |
| コーホートE  | 2.7            | 21.0          | 44.3           | 19.9 |
|         |                |               |                | 9.5  |
|         |                |               |                | 8.2  |
|         |                |               |                | 19.2 |
|         |                |               |                | 7.5  |
|         |                |               |                | 12.2 |
|         |                |               |                | 11.7 |
|         |                |               |                | 0.3  |

問 3. ふだんのあなたの健康状態はどうですか。

| 1       | 2    | 3    | 4             | 5             |
|---------|------|------|---------------|---------------|
| とても健康   | まあ健康 | ふつう  | あまり健康<br>ではない | まったく<br>健康でない |
| 無配偶     |      |      |               |               |
| コーホートA1 | 2.7  | 36.5 | 39.2          | 14.9          |
| コーホートA2 | 1.0  | 37.8 | 41.8          | 18.4          |
| コーホートB  | 1.9  | 26.9 | 38.5          | 28.8          |
| コーホートC  | 4.2  | 35.0 | 41.7          | 18.3          |
| コーホートD  | 6.4  | 32.7 | 41.7          | 16.7          |
| コーホートE  | 16.5 | 39.5 | 29.2          | 13.4          |
|         |      |      |               | 5.4           |
|         |      |      |               | 1.0           |
|         |      |      |               | 0.0           |
|         |      |      |               | 0.0           |
|         |      |      |               | 0.0           |
|         |      |      |               | 0.0           |
|         |      |      |               | 0.0           |
|         |      |      |               | 0.0           |

問 4. あなたは自分の身体について、同年齢の人と比べて若い方だと思いますか。

| 1        | 2          | 3    | 4            | 5          |
|----------|------------|------|--------------|------------|
| 若いほうだと思う | やや若いほうだと思う | ふつう  | やや老けている方だと思う | 老けている方だと思う |
| 無配偶      |            |      |              |            |
| コーホートA1  | 6.8        | 29.7 | 50.0         | 6.8        |
| コーホートA2  | 4.1        | 28.6 | 57.1         | 8.2        |
| コーホートB   | 5.8        | 21.2 | 57.7         | 5.8        |
| コーホートC   | 1.7        | 20.0 | 56.7         | 19.2       |
| コーホートD   | 5.1        | 19.9 | 53.8         | 18.6       |
| コーホートE   | 9.3        | 19.6 | 50.5         | 18.2       |
|          |            |      |              | 2.1        |
|          |            |      |              | 0.3        |

問 5. 現在のあなたの生活程度は、世間一般からみて、次のどれにはいると思いますか。

|          | 1   | 2    | 3    | 4    | 5    |
|----------|-----|------|------|------|------|
|          | 上   | 中の上  | 中の中  | 中の下  | 下    |
| 無配偶      |     |      |      |      |      |
| コーホート A1 | 0.0 | 13.5 | 44.6 | 35.1 | 1.4  |
| コーホート A2 | 1.0 | 10.2 | 49.0 | 32.7 | 7.1  |
| コーホート B  | 0.0 | 0.0  | 42.3 | 42.3 | 15.4 |
| コーホート C  | 0.0 | 7.5  | 46.7 | 39.2 | 6.7  |
| コーホート D  | 0.6 | 12.8 | 43.6 | 34.6 | 8.3  |
| コーホート E  | 2.1 | 17.2 | 51.9 | 22.7 | 6.2  |

問 6. あなたは、この 1 カ月ほどの間に「自分が家族に理解されていない」と感じたことはどのくらいありましたか。

1 何度もあった 2 ときどきあった 3 ごくまれにあった 4 まったくなかった

| 無配偶      | 1   | 2    | 3    | 4    | NA  |
|----------|-----|------|------|------|-----|
| コーホート A1 | 2.7 | 14.9 | 31.1 | 50.0 | 1.4 |
| コーホート A2 | 5.1 | 13.3 | 31.6 | 50.0 | 0.0 |
| コーホート B  | 3.8 | 21.2 | 34.6 | 40.4 | 0.0 |
| コーホート C  | 4.2 | 8.3  | 41.7 | 45.8 | 0.0 |
| コーホート D  | 5.8 | 19.2 | 35.3 | 39.1 | 0.6 |
| コーホート E  | 4.1 | 15.8 | 34.4 | 45.7 | 0.0 |

問 7. あなたはこの 1 カ月ほどの間に家事・育児・介護などで負担が大きすぎると感じたことはどのくらいありましたか。

1 何度もあった 2 ときどきあった 3 ごくまれにあった 4 まったくなかった

| 無配偶      | 1   | 2    | 3    | 4    | NA  |
|----------|-----|------|------|------|-----|
| コーホート A1 | 8.1 | 18.9 | 32.4 | 39.2 | 1.4 |
| コーホート A2 | 3.1 | 20.4 | 38.8 | 37.8 | 0.0 |
| コーホート B  | 7.7 | 19.2 | 21.2 | 51.9 | 0.0 |
| コーホート C  | 5.8 | 6.7  | 30.0 | 57.5 | 0.0 |
| コーホート D  | 5.1 | 8.3  | 23.7 | 62.8 | 0.0 |
| コーホート E  | 4.8 | 5.8  | 14.1 | 74.9 | 0.3 |

問 8. ご家庭の現在の収入に満足していますか。

1 とても満足 2 ほぼ満足 3 やや不満 4 とても不満

| 無配偶      | 1   | 2    | 3    | 4    | NA  |
|----------|-----|------|------|------|-----|
| コーホート A1 | 1.4 | 37.8 | 33.8 | 25.7 | 1.4 |
| コーホート A2 | 1.0 | 20.4 | 46.9 | 31.6 | 0.0 |
| コーホート B  | 0.0 | 23.1 | 48.1 | 28.8 | 0.0 |
| コーホート C  | 0.0 | 25.8 | 52.5 | 21.7 | 0.0 |
| コーホート D  | 1.3 | 35.3 | 45.5 | 17.3 | 0.6 |
| コーホート E  | 4.1 | 43.0 | 40.9 | 12.0 | 0.0 |



問 11. ところで、あなたは家計簿をつけていますか。

**1** 定期的に（毎日、毎週など）つけている  
**2** 時々つけている  
**3** 以前つけたことがあるが、現在はつけていない  
**4** これまでにつけたことがない

| 無配偶     | 1    | 2    | 3    | 4    | NA  |
|---------|------|------|------|------|-----|
| コーホートA1 | 23.0 | 8.1  | 43.2 | 24.3 | 1.4 |
| コーホートA2 | 22.4 | 5.1  | 41.8 | 30.6 | 0.0 |
| コーホートB  | 19.2 | 7.7  | 38.5 | 34.6 | 0.0 |
| コーホートC  | 10.8 | 13.3 | 44.2 | 31.7 | 0.0 |
| コーホートD  | 13.5 | 14.1 | 32.1 | 40.4 | 0.0 |
| コーホートE  | 17.2 | 11.7 | 34.7 | 36.4 | 0.0 |

問 12. 今年のあなたのご家庭の消費支出は、昨年と比べてどのようなになっていますか。

**1** 大幅に増えた  
**2** 若干増えた  
**3** 変わらない  
**4** 若干減った  
**5** 大幅に減った

| 無配偶     | 1    | 2    | 3    | 4    | 5   | NA  |
|---------|------|------|------|------|-----|-----|
| コーホートA1 | 6.8  | 24.3 | 54.1 | 13.5 | 0.0 | 1.4 |
| コーホートA2 | 10.2 | 27.6 | 46.9 | 12.2 | 3.1 | 0.0 |
| コーホートB  | 5.8  | 19.2 | 57.7 | 15.4 | 1.9 | 0.0 |
| コーホートC  | 3.3  | 25.0 | 56.7 | 12.5 | 2.5 | 0.0 |
| コーホートD  | 2.6  | 24.4 | 61.5 | 10.9 | 0.6 | 0.0 |
| コーホートE  | 4.5  | 25.4 | 57.4 | 10.7 | 1.7 | 0.3 |

問 9. ご家庭の現在の消費（生活費支出）額に満足していますか。

**1** 使いすぎていることに不満  
**2** ほぼ満足  
**3** 少なすぎることに不満

| 無配偶     | 1    | 2    | 3    | NA  |
|---------|------|------|------|-----|
| コーホートA1 | 33.8 | 47.3 | 17.6 | 1.4 |
| コーホートA2 | 33.7 | 44.9 | 21.4 | 0.0 |
| コーホートB  | 42.3 | 40.4 | 17.3 | 0.0 |
| コーホートC  | 43.3 | 50.8 | 5.0  | 0.8 |
| コーホートD  | 32.1 | 63.5 | 4.5  | 0.0 |
| コーホートE  | 32.3 | 61.5 | 5.8  | 0.3 |

問 10. ご家庭の現在の消費（生活費支出）の内容に満足していますか。

**1** とても満足  
**2** ほぼ満足  
**3** やや不満  
**4** とても不満

| 無配偶     | 1   | 2    | 3    | 4    | NA  |
|---------|-----|------|------|------|-----|
| コーホートA1 | 0.0 | 45.9 | 39.2 | 13.5 | 1.4 |
| コーホートA2 | 1.0 | 37.8 | 44.9 | 16.3 | 0.0 |
| コーホートB  | 0.0 | 30.8 | 59.6 | 9.6  | 0.0 |
| コーホートC  | 0.0 | 46.7 | 40.8 | 11.7 | 0.8 |
| コーホートD  | 1.3 | 51.9 | 39.1 | 7.1  | 0.6 |
| コーホートE  | 2.1 | 61.2 | 32.0 | 4.1  | 0.7 |

問 13. 来年のあなたのご家庭の消費支出は、今年と比べてどのようになると思いますか。

|          | 1      | 2     | 3     | 4    | 5     |
|----------|--------|-------|-------|------|-------|
|          | 大幅に増える | 若干増える | 変わらない | 若干減る | 大幅に減る |
| 無配偶      | 1      | 2     | 3     | 4    | 5     |
| コアポート A1 | 5.4    | 23.0  | 54.1  | 14.9 | 1.4   |
| コアポート A2 | 5.1    | 23.5  | 54.1  | 15.3 | 2.0   |
| コアポート B  | 3.8    | 13.5  | 63.5  | 13.5 | 5.8   |
| コアポート C  | 4.2    | 21.7  | 65.8  | 7.5  | 0.8   |
| コアポート D  | 1.9    | 19.9  | 64.7  | 11.5 | 1.9   |
| コアポート E  | 2.4    | 18.6  | 66.7  | 10.3 | 1.4   |

問 14. あなたは、この 1 カ月ほどの間に家計の先行きについて不安を感じたことはどのくらいありましたか。

|          | 1      | 2       | 3        | 4        |
|----------|--------|---------|----------|----------|
|          | 何度もあった | ときどきあった | ごくまれにあった | まったくなかった |
| 無配偶      | 1      | 2       | 3        | 4        |
| コアポート A1 | 14.9   | 20.3    | 40.5     | 23.0     |
| コアポート A2 | 23.5   | 28.6    | 30.6     | 17.3     |
| コアポート B  | 25.0   | 23.1    | 32.7     | 19.2     |
| コアポート C  | 17.5   | 22.5    | 35.8     | 24.2     |
| コアポート D  | 12.8   | 23.7    | 42.3     | 20.5     |
| コアポート E  | 12.7   | 24.1    | 27.5     | 35.1     |

問 15. 今年のあなたのご家庭の所得は、昨年と比べてどのようになっていますか。

|          | 1      | 2     | 3     | 4     | 5      |
|----------|--------|-------|-------|-------|--------|
|          | 大幅に増えた | 若干増えた | 変わらない | 若干減った | 大幅に減った |
| 無配偶      | 1      | 2     | 3     | 4     | 5      |
| コアポート A1 | 1.4    | 12.2  | 52.7  | 25.7  | 6.8    |
| コアポート A2 | 1.0    | 16.3  | 57.1  | 18.4  | 7.1    |
| コアポート B  | 1.9    | 15.4  | 53.8  | 15.4  | 13.5   |
| コアポート C  | 0.0    | 16.7  | 65.0  | 13.3  | 5.0    |
| コアポート D  | 0.0    | 19.2  | 57.1  | 16.0  | 7.7    |
| コアポート E  | 0.7    | 24.4  | 54.0  | 15.1  | 4.8    |

問 16. 来年のあなたのご家庭の所得は、今年の所得に比べてどのようになると思いますか。

|          | 1      | 2     | 3     | 4    | 5     |
|----------|--------|-------|-------|------|-------|
|          | 大幅に増える | 若干増える | 変わらない | 若干減る | 大幅に減る |
| 無配偶      | 1      | 2     | 3     | 4    | 5     |
| コアポート A1 | 0.0    | 5.4   | 63.5  | 23.0 | 6.8   |
| コアポート A2 | 0.0    | 10.2  | 64.3  | 19.4 | 6.1   |
| コアポート B  | 1.9    | 9.6   | 61.5  | 23.1 | 3.8   |
| コアポート C  | 0.0    | 14.2  | 71.7  | 12.5 | 1.7   |
| コアポート D  | 1.9    | 12.2  | 60.9  | 20.5 | 4.5   |
| コアポート E  | 2.1    | 15.8  | 61.5  | 17.5 | 2.1   |

問 17. 日本の景気は今後、良くなると思いますか。

**1** 大幅に良くなる   **2** 若干良くなる   **3** 変わらない   **4** 若干悪くなる   **5** 大幅に悪くなる

| 無配偶      | 1   | 2    | 3    | 4    | 5    | NA  |
|----------|-----|------|------|------|------|-----|
| コーホート A1 | 0.0 | 5.4  | 47.3 | 33.8 | 12.2 | 1.4 |
| コーホート A2 | 0.0 | 7.1  | 48.0 | 29.6 | 15.3 | 0.0 |
| コーホート B  | 0.0 | 11.5 | 44.2 | 26.9 | 17.3 | 0.0 |
| コーホート C  | 0.0 | 5.0  | 61.7 | 24.2 | 9.2  | 0.0 |
| コーホート D  | 0.0 | 15.4 | 48.1 | 27.6 | 9.0  | 0.0 |
| コーホート E  | 0.0 | 15.5 | 45.4 | 32.0 | 6.2  | 1.0 |

問 18. あなたは幸せだと思いますか。それとも、不幸だと思いますか。

**1** とても幸せ   **2** まあまあ幸せ   **3** どちらでもない   **4** 少し不幸   **5** とても不幸

| 無配偶      | 1    | 2    | 3    | 4    | 5   | NA  |
|----------|------|------|------|------|-----|-----|
| コーホート A1 | 2.7  | 52.7 | 28.4 | 10.8 | 5.4 | 0.0 |
| コーホート A2 | 3.1  | 53.1 | 32.7 | 9.2  | 2.0 | 0.0 |
| コーホート B  | 0.0  | 55.8 | 34.6 | 7.7  | 1.9 | 0.0 |
| コーホート C  | 4.2  | 50.8 | 37.5 | 7.5  | 0.0 | 0.0 |
| コーホート D  | 7.1  | 53.2 | 26.3 | 10.3 | 3.2 | 0.0 |
| コーホート E  | 13.4 | 56.0 | 21.0 | 6.9  | 2.1 | 0.7 |

## 執筆者紹介（五十音順）

### 笠原 良太（かさらは・りょうた 第Ⅱ部）

早稲田大学大学院 文学研究科 博士後期課程。ライフコース論、家族社会学専攻。

### 久木元 真吾（くきもと・しんご 第Ⅰ部 第1章）

公益財団法人 家計経済研究所 次席研究員。主な著書に『グローバル人材とは誰か』（加藤恵津子との共著，青弓社，2016）。社会学専攻。  
(kukimoto@kakeiken.or.jp)

### 坂口 尚文（さかぐち・なおふみ 第Ⅰ部 第6章）

公益財団法人 家計経済研究所 次席研究員。主な論文に「消費生活に関するパネル調査」新規対象の回収状況と回答傾向（『季刊家計経済研究』108, 2015）。統計科学専攻。(sakaguchi@kakeiken.or.jp)

### 田中 慶子（たなか・けいこ 第Ⅰ部 第5章・第Ⅱ部）

公益財団法人 家計経済研究所 次席研究員。主な論文に「友人力」と結婚（佐藤博樹・永井暁子・三輪哲編『結婚の壁——非婚・晩婚の構造』勁草書房，2010）。家族社会学専攻。(tanaka@kakeiken.or.jp)

### 戸田 淳仁（とだ・あきひと 第Ⅰ部 第3章）

リクルートワークス研究所 主任研究員、公益財団法人 家計経済研究所 嘱託研究員。主な論文に「有期労働契約の雇止め制限法理に関する実証分析」（『日本労働研究雑誌』631, 2013）。労働経済学、応用計量経済学専攻。

### 浜田 浩児（はまだ・こうじ 第Ⅰ部 第4章）

元 内閣府経済社会総合研究所 研究官。主な著書に『高齢者雇用の現状と課題』（共著，労働政策研究・研修機構，2012）。社会保障論・経済統計専攻。

水谷 徳子（みずたに・のりこ 第Ⅰ部 第2章）

公益財団法人 家計経済研究所研究員。主な論文に「自信過剰が男性を競争させる」（共著、『行動経済学』2(1), 2009）。応用経済学・応用計量経済学専攻。  
(mizutani@kakeiken.or.jp)

---

家計経済研究所パネル調査研究報告書 No.11

## 女性・労働・家計

消費生活に関するパネル調査（第 23 回調査）

発行年月      2016 年 10 月

編集・発行      公益財団法人 家計経済研究所  
〒102-0073 東京都千代田区九段北 2-3-7  
前川九段ビル 3 階

電話      (03) 3221-7291

FAX      (03) 3221-7255

印刷・製本      佐藤印刷株式会社

---

©2016



